

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第439集

たか ばたけ

高畠遺跡発掘調査報告書

は場整備事業(担い手育成区画整理型)八重畠関連調査

岩手県花巻地方振興局農林部農村整備室

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

たか ばたけ

高畠遺跡発掘調査報告書

ほ場整備事業(担い手育成区画整理型)八重畠関連調査



高畠遺跡 全景（西上空から）



A区 全景（左方が北）

巻頭カラー写真



A区 住居跡Ⅰ（東から）



A区 土坑1埋土上部の出土状況

巻頭カラー写真

序

岩手県には旧石器時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地があり、平成10年度の岩手県教育委員会のまとめでは10,500箇所を超えております。これら先人たちの創造してきた文化遺産を保存し後世に伝えていくことは、我々県民に課せられた重大な責務であります。

一方、広大な面積を有する県土の大半は山地であり、地域開発に伴う社会資本の充実もまた、県民の切実な願いであることは言うまでもありません。

このような埋蔵文化財の保護・保存と開発との調和は今日的課題であり、当岩手県文化振興事業団では、埋蔵文化財センターの創設以来、岩手県教育委員会の調整のもと、開発事業によって消滅する遺跡の発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は「ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）八重畠」に関するもので、平成14年度に発掘調査を実施した石鳥谷町高畠遺跡の調査成果をまとめたものです。このたびの調査では、縄文時代中期初頭を中心とする集落跡の一部が姿をあらわし、当時の暮らしをうかがい知ることのできる貴重な資料を得ることができました。そして、これらの資料の整理・分析をへて、このたび報告書を刊行する運びとなりました。この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、これまで発掘調査および報告書作成に多大なご援助・ご協力を賜りました岩手県花巻地方振興局農林部農村整備室、ならびに石鳥谷町教育委員会をはじめとする関係各位に対し、衷心より謝意を表します。

平成16年1月

財團法人岩手県文化振興事業団

理事長 合田 武

例　　言

- いわき　けんけいぬあぐらいしとせやちょうあざこ　せいどう　　いわき　じんじ　　いわきにげ
1. 本書は岩手県稗貫郡石鳥谷町字五人堂第16地割123番地ほかに所在する高畠遺跡の調査成果を収録したものである。
2. 岩手県遺跡台帳における本遺跡の登録番号はME 17-0178、調査略号はTB-02である。
3. 本遺跡の発掘調査は、県営ほ場整備事業八重畠に伴い、岩手県教育委員会の調整を経て、岩手県花巻地方振興局花巻農村整備事務所の委託を受けた財團法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。
4. 野外調査を実施した期間／調査面積／調査担当者は以下の通りである。
2002（平成14）年4月16日～11月22日／4800m²／村上 拓・裏地 剛
5. 室内整理の期間／担当者は以下の通りである。
2002（平成14）年11月1日～2003（平成15）年3月31日／村上 拓・裏地 剛
6. 本書の執筆・編集は村上 拓が担当した。
7. 本書中に示した平面座標値は平面直角座標第X系（日本測地系）を用いている。
8. 野外調査では、岩手県花巻地方振興局花巻農村整備事務所・石鳥谷町教育委員会ならびに遺跡周辺住民の方々より多大なるご協力を得た。
9. 各種分析・鑑定は以下の方々・機関に依頼した。
炭化穀実同定　　バリノ・サーヴェイ株式会社
石質鑑定　　花岡岩研究会（代表 矢内桂二）
10. 発掘調査及び報告書作成にあたり、以下の方々のご指導・ご協力をいただいた。（五〇音順・敬称略）
種野裕介（北上市教育委員会）、熊谷常正（盛岡大学）、酒井宗孝（花巻市教育委員会）、中村良幸（人追町教育委員会）、瀬川司男（東和町教育委員会）。
11. 本遺跡の出土遺物及び諸記録類は岩手県立埋蔵文化財センターが保管している。

目 次

巻頭カラー写真 i・ii

序

例 言

目 次

〔本 文〕

I. 調査に至る経過	1	③土 坑	31
II. 立地と環境	1	④陥し穴状遺構	50
1. 遺跡の位置	1	⑤土器埋設遺構	58
2. 周辺の地形	1	(2) 中・近世	59
3. 基本層序	3	①建物跡と柱穴群	59
4. 周辺の遺跡	4	(3) 時期不明	59
5. 過去の調査	5	②溝 跡	59
III. 野外調査と室内整理	6	(4) 出土遺物	85
1. 野外調査	6	①土 器	85
(1) 調査区	6	②土製品	86
(2) グリッド設定と基準点	6	③石器・石製品	86
(3) 試掘・表土除去	10	3. B 区	139
(4) 遺構の検出と精査	10	(1) 時期不明	139
(5) 遺構名	10	①建物跡	139
(6) 実 测	11	②溝 跡	139
(7) 上層断面の分層と注記	11	4. C 区	141
(8) 写真撮影	11	(1) 縄文時代	141
2. 室内整理	12	①竪穴住居跡	141
(1) 作業手順	12	②上 坑	141
(2) 遺 構	12	(2) 中 世	145
(3) 遺 物	12	①中世墓坑及び周溝状遺構	145
V. まとめ	148	(3) 沢 跡	145
IV. 検出遺構と出土遺物	13	1. A 区	148
1. 概 要	13	2. B・C区	148
2. A 区	14	3. おわりに	148
(1) 縄文時代	14	附編 高畠遺跡出土の炭化穀実同定	149
①大形竪穴住居跡	14	抄録	215
②柱跡と周辺の柱穴群	15		

〔表〕

表1	周辺遺跡一覧	4
表2	基準杭・区画割付杭一覧	6
表3	陥し穴状遺構一覧	51
表4	A区ピット一覧	67
表5	グリッド別出土土器重量	85
表6	A区出土土器一覧	89
表7	A区土製品	93
表8	石 砕	94
表9	石 道	95
表10	石 鑿	95
表11	石 瓢	95
表12	尖頭状石器	96
表13	削撚器	96
表14	両面調整の石器	96
表15	石 锤	97
表16	石 箸	97
表17	磨製石斧	97
表18	磨 石	97
表19	スリ石	98
表20	石製品	101
表21	B・C区出土土器一覧	147

〔図 版〕

第1図	調査遺跡周辺の地形と遺跡分布	2
第2図	高畠遺跡A区基本層序	3
第3図	東北新幹線関連調査の遺構配置図	5
第4図	調査区の位置とグリッド配置	7
第5図	各ゾーングリッド配置図	9
第6図	A区住居跡1 (1)	16
第7図	A区住居跡1 (2)	17
第8図	炉跡1周辺・歩道2周辺 (1)	24
第9図	炉跡2周辺 (2)	25
第10図	炉跡3・4周辺 (1)	26
第11図	炉跡3・4周辺 (2)	27
第12図	炉跡5・6周辺	28
第13図	炉跡7・8・9周辺	29
第14図	炉跡10・11・12周辺 (1)	30
第15図	炉跡10・11・12周辺 (2)	31
第16図	炉跡13・14・15・16周辺 (1)	32
第17図	歩道13・14・15・16周辺 (2)	
III E 1 f	グリッド周辺	33

第18~26図	土坑 (1)~(9)	42
第27~32図	陥し穴状遺構 (1)~(6)	52
第33図	土器埋設遺構	58
第34~40図	A区建物跡 (1)~(7)	60
第41~46図	A区住居跡1出土土器 (1)~(6)	102
第47~51図	A区炉跡周辺出土土器 (1)~(5)	108
第52~69図	A区土坑出土土器 (1)~(18)	113
第70図	A区陥し穴状遺構出土土器	131
第71~74図	A区土製品 (1)~(4)	132
第75図	石鍬	136
第76~77図	A区石製品 (1)・(2)	137
第78図	B区遺構配置図	139
第79図	B区建物跡1・溝跡1	140
第80図	C区遺構配置図	141
第81図	C区堅穴住居跡1	142
第82図	C区土坑	144
第83図	C区中世墓坑・周溝状遺構	146
第84図	C区出土土器	147

〔写真図版〕

写真図版1・2	空中写真 (1)・(2)	153
写真図版3	調査着手時の状況 (A区)	155
写真図版4~6	A区住居跡1 (1)~(3)	156
写真図版7~14	歩道とその周辺 (1)~(8)	159
写真図版15~21	A区土坑 (1)~(7)	167
写真図版22~26	A区陥し穴状遺構 (1)~(5)	174
写真図版27	A区土器埋設遺構・溝跡	179
写真図版28	A区中~近世建物跡	180
写真図版29~32	A区住居跡1出土土器 (1)~(4)	181
写真図版33~37	A区炉跡周辺出土土器 (1)~(5)	185
写真図版38~48	A区土坑出土土器 (1)~(11)	190
写真図版49	A区陥し穴状遺構出土土器	201
写真図版50~51	A区土製品 (1)・(2)	202
写真図版52~54	A区石器 (1)~(3)	204
写真図版55	A区石製品	207
写真図版56・57	B区 (1)・(2)	208
写真図版58~61	C区 (1)~(4)	210
写真図版62	B・C区出土土器	214

〔付 図〕

高畠遺跡A区遺構配置図

I. 調査に至る経過

高畠遺跡の緊急発掘調査は、は場整備事業（担い手育成区画整理型）八重畠地区の実施に伴い、事業区域内に所在する埋蔵文化財の一部が破壊あるいは消滅することとなったため、これらの記録保存を目的として実施されたものである。

本事業は、石鳥谷町南東部において平成9年より総面積369haの区画整理を進めているものである。大区画(1ha)のほ場造成を行って大型機械による低成本農業を目指すことはもとより、農地流動化を促進し、担い手農家を育成することによって、地域全体における高生産性農業と安定経営の確立を目的としている。

今回の調査に先立ち、岩手県教育委員会は本事業区域内に所在する遺跡の試掘調査を実施し、その結果、高畠遺跡については本発掘調査が必要と判断された。この調査を受託した財團法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターは、平成14年4月1日付の委託契約に基づき、同年4月16日より現地の調査に着手した。

(岩手県花巻地方振興局農林部農村整備室)

II. 立地と環境

1. 遺跡の位置 (第1図)

高畠遺跡が所在する稗貫郡石鳥谷町は岩手県の中央部に位置し、東に同郡大迫町・東和町、南に花巻市と接し、また北では紫波郡紫波町と接する。東西約49.5km・南北約17.5kmと東西に細長い区画を有し、面積は118.57km²、人口約16,500人の農業を中心とする町である。日本三大杜氏「南部杜氏」発祥の地で「酒の町」としても知られ、かつては南部藩主の御膳酒として盛岡まで毎日酒を運んだといわれる。

高畠遺跡は、石鳥谷町南東部の八重畠地区五大堂地内、北緯39°25'36"、東經141°10'45" (基1；III D17a グリッド杭) (世界測地系) 付近に位置する。

2. 周辺の地形 (第1・4図)

地形的にみると、遺跡の所在する石鳥谷町付近は東方の北上山地と西方の奥羽山脈に挟まれた北上平野のほぼ中央に位置し、町域の大半は北上川とその支流による沖積面及びこれらの河川によって形成された段丘面で構成されている。

町域中央のやや東寄りを緩やかに蛇行しながら南流する北上川は、花巻市二枚橋付近で急激に屈曲して東方に流れを変え、本遺跡の所在する石鳥谷町五大堂の添市川合流点付近に接した後、再び屈曲して南西へと向きを変える。二つの屈曲点の間を東流する北上川のラインは石鳥谷町と花巻市との境界をなしている。

急峻で起伏の大きな奥羽山脈から急勾配で下る河川が合流する北上川右岸においては、段丘は扇状地性の台地として発達している。少なくとも新旧の異なる3段以上に区分され、特に中位・低位の段丘が広面積によく残されている。

一方、北上川の左岸では、北上山地に源流を持つ数本の河川が山地・丘陵地からの出口付近にやや顕著な段丘を形成しており、特に稗貫川、添市川の両岸にその発達が認められる。こうしたやや大きな河川の出口付近に発達する段丘はそのほとんどが平坦な低位の段丘であり、小規模ながら比較的広範囲に分布する。本遺跡が立地するのも添市川によって形成された低位段丘上である。中位段丘はそのまま河岸段丘面として断



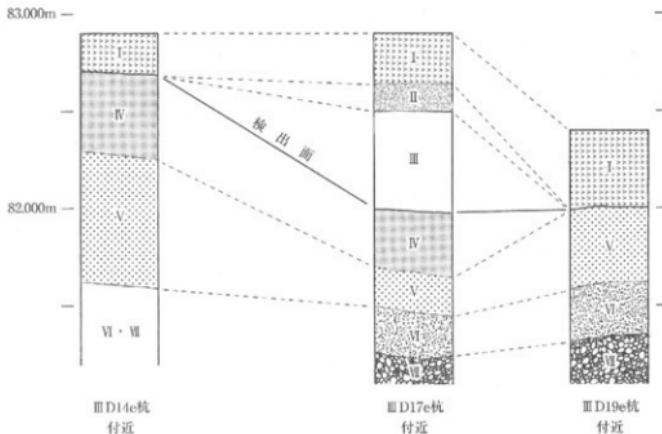
第1図 調査遺跡周辺の地形と遺跡分布

片的に分布し、山側では麓斜面などの緩傾斜地となっている場合がある。北上川左岸の段丘は小規模な河岸段丘面として残されたものであり、一般にその発達は不良である。北上川右岸に広く発達する段丘との対称性はあまり認められない。

3. 基本層序（第2図）

野外調査では、遺跡内に堆積する土層の新旧関係及び各層の時期を把握するようつとめた。下図は高畠遺跡（A区）の基本層序模式図である。大きくⅠ～Ⅶ層に分けることができる。

- Ⅰ 層 10YR4/2 灰褐色粘土質シルト 現表土・現耕作土
 - Ⅱ 層 10YR3/2 黑褐色～10YR3/3 暗褐色シルト 旧表土・旧耕作土
 - Ⅲ 層 10YR2/1 黒色～10YR2/2 黑褐色シルト 白色粒子を普遍なく含みやや砂質帯びる。縄文時代遺物包含層・遺構埋土主体上。
 - Ⅳ 層 10YR2/1 黒色～10YR2/2 黑褐色粘土質シルト 無遺物の黒ボク上層。下部で地山構成層へと漸移的に連続。
 - Ⅴ 層 10YR4/3 にぶい黄褐色～10YR4/4 黄褐色シルト層。地山構成層。A区西半部で粘土質、東半部で砂質帯びる。
 - Ⅵ 層 10YR4/3 にぶい黄褐色～10YR4/4 黄褐色砂層。地点により10YR2/3 黑褐色を呈する。地山砂層。
 - Ⅶ 層 地山砂礫層。砂層と小礫層の互層。
- A区全体は北西から南東に向かって下る緩やかな斜面となっているが、調査区中央にはほぼ南北方向に継続する沢跡が存在しその東西両脇に沿った高まりが認められる。調査区はほぼ全面的に後世の水田造成等による削平を受けており、縄文時代の遺物包含層であるⅢ層が残存するのは沢跡上に限定される。
- A区からは西方に離れた地点に位置するB区・C区の土層堆積状況もまた、A区の基本層序に對比して理解することができ、Ⅲ層相当の黒色～黒褐色土層が遺物包含層及び遺構埋土の主体上となっている。ただし、A区・C区より一段低い地形面となるB区では、V・VI層の堆積は観察されず、黒色土層の直下はほぼ全面にVII層以下の砂礫層が露出した状況を呈する。



第2図 高畠遺跡A区基本層序

4. 周辺の遺跡（表1、第1図）

遺跡の所在する石島谷町内には平成14年度現在186の遺跡が登録されている。高畠遺跡周辺を概観すると、縄文時代の遺跡は本遺跡と同様に北上川左岸に沿った段丘上や添市川両岸にせまる丘陵上にまとまった分布が認められる。

高畠遺跡の北東約400mに所在する安堵屋敷遺跡（表1、第1図：20）は、昭和55年度に添市川改修工事に伴う発掘調査が行われ、縄文時代晚期の竪穴住居跡2棟をはじめ土坑・埋設土器・焼土等の各種遺構が検出されたほか、遺物集中区からは縄文晩期の遺物が多量に出土している。

11は縄文時代と古代の遺跡として登録されている宿遺跡で、高畠遺跡の北西約1kmに位置する。高畠遺跡と同様平成14年度には場整備事業に伴う発掘調査が実施され、縄文時代の竪穴状造構のほか時期不明の掘立柱建物跡・溝跡・土坑・塚跡等が確認された。宿遺跡の西に隣接する宿館（八重櫓館）（12）は稗貫氏の執権であった八重櫓氏の居宅跡とされており、宿遺跡の調査で確認された塚跡はこれに関連する遺構である可能性が指摘されている。

表1 周辺遺跡一覧

番号	遺跡コード	市町村名	遺跡名	よみがな	種別	時代	遺構・遺物	所在地
1	MH06-2378	石島谷町	馬場田Ⅱ	ばばたⅡ	教育地	縄文	土器土器	字八重櫓
2	MH07-1068	石島谷町	間Ⅰ	せきぐら	教育地	古代	土器土器	字八重櫓
3	MH07-1125	石島谷町	前屋Ⅲ	いのわなⅢ	教育地	古代	円窓跡	字八重櫓
4	MH07-1128	石島谷町	前屋跡(広庭古墳)	いのわなだて	教育地・城跡跡	中世	井戸、交差、主郭	字猪骨
5	MH07-2024	石島谷町	馬場田	ばばた	教育地	縄文	土器土器	字八重櫓
6	MH07-2028	石島谷町	箱Ⅰ	はこ	教育地	縄文	土器土器	字八重櫓
7	MH07-3121	石島谷町	御田	ごんだ	教育地	縄文	土器土器	字八重櫓
8	MH07-2212	石島谷町	反町	そりまち	古跡群・祭祀跡	縄文・古墳	土器土器、六角、住居跡	字八重櫓
9	MH17-0007	石島谷町	大西森Ⅱ	おおにし森Ⅱ	教育地	縄文	土器土器	字八重櫓
10	MH17-0009	石島谷町	大西森	おおにし	教育地	縄文	土器土器	字八重櫓
11	MH17-0110	石島谷町	根	ねく	墓葬地	縄文	土器、古墳、土器	字八重櫓
12	MH17-0111	石島谷町	前原(八重櫓跡)	しょくばる	墓葬地	中世	土器、酒器	字八重櫓
13	MH17-0116	石島谷町	松原廻	じゅうばる	教育地	平安	土器土器	字五大家
14	MH17-0176	石島谷町	高畠	たかばたけ	教育地	縄文	土器土器	字五大家
15	MH17-0219	石島谷町	九郎寺本堂	こうじょうじほんどう	寺社跡	中世	塔	字五大家
16	MH17-0253	石島谷町			教育地	縄文	土器土器	字五大家
17	MH17-0277	石島谷町	元善寺跡	こうじょうじしきゅうじ	寺社跡	中世	土器土器	字五大家
18	MH17-0280	石島谷町	安堵屋敷Ⅱ	あんどやしきⅡ	教育地	縄文	土器土器	字五大家
19	MH17-0288	石島谷町	武蔵	むさし	教育地	縄文・古代	土器土器、土器浴	字五大家
20	MH17-0271	石島谷町	安堵屋敷	あんどやしき	教育地	縄文	土器土器、土器浴	字五大家
21	MH17-0284	石島谷町	水呑Ⅱ	みのぶⅡ	教育地	縄文	土器土器	字五大家
22	MH17-0294	石島谷町	英沢Ⅱ	えいざわⅡ	教育地	縄文	土器土器	字五大家
23	MH17-0301	石島谷町	小場大塚	ちばほづか	教育地	縄文	土器土器	字五大家
24	MH17-0313	石島谷町	廻切Ⅱ	まよせきⅡ	教育地	縄文	土器土器	字五大家
25	MH17-0317	石島谷町	廻切Ⅲ	まよせきⅢ	教育地	中世	瓶、土器	字五大家
26	MH17-1204	石島谷町	長良Ⅱ	ながらⅡ	教育地	縄文	土器土器	字五大家
27	MH17-1217	石島谷町	長良Ⅲ	ながらⅢ	教育地	縄文	土器土器	字五大家
28	MH17-0236	石島谷町	山形古墳群	やまがたこふんぐん	墓葬地	古墳	灰	字山形
29	MH06-1359	石島谷町	南向古墳	なんむかひ	教育地	中世	瓶	字南向
30	MH16-1393	花巻市	馬鹿Ⅱ	まばたⅡ	教育地	古代	土器土器	花巻市馬鹿堂Ⅰ地割
31	MH17-1075	花巻市	摩摩	まく	墓葬地	縄文・古代	土器土器、縄文土器、竪穴住居跡	花巻市摩摩Ⅰ地割
32	MH17-1109	花巻市	添吉古墳群	そいつこふんぐん	八幡宮	古墳	花巻市八幡宮Ⅰ地割	
33	MH17-1147	花巻市	高須	たかす	墓葬地	中世	瓶	花巻市高須Ⅰ地割
34	MH17-1162	花巻市	東野貯金	とうのくわき	教育地	古代	土器土器	花巻市東野Ⅰ地割
35	MH17-1182	花巻市	久沢古窯	くざわこがま	墓葬地	古代	土器土器、須恵器、熱刺製	花巻市久沢Ⅰ地割
36	MH17-1194	花巻市	上野ヶ	うのの	教育地	縄文	石斧、石器	花巻市上野ヶ
37	MH17-1276	花巻市	南ヶ森	みなみがもり	墓葬地	中世	瓶、土器	花巻市南ヶ森Ⅰ地割
38	MH17-2128	花巻市	下轔	しもくわ	墓葬地	縄文・古代	石器、绳文土器、竪穴住居、土器土器	花巻市下轔Ⅰ地割
39	MH17-2153	花巻市	下轔	しもくわ	墓葬地	古代	土器土器	花巻市下轔Ⅱ地割
40	MH27-0056	花巻市	羽根王山原	こしおうぎんぐん	城跡・集落跡	古代・中世	土器、須恵器、土器桶、石器	花巻市羽根王山原Ⅰ地割
41	MH27-0145	花巻市	灰沢(笠置・大沢)	やさわはしまん	集落跡・城跡	古代・近世	土器、須恵器、土器桶	花巻市灰沢Ⅰ地割
42	MH27-0168	花巻市	静原裏	しづはら	墓葬地	古代	土器土器、縄文以上	花巻市静原裏Ⅱ地割
43	MH27-0221	花巻市	小松原	こまつばら	教育地	古代	土器土器、須恵器	花巻市小松原Ⅱ地割
44	MH27-0016	花巻市	大沢Ⅰ	やさわば	墓葬地	中世	土器土器	花巻市大沢Ⅰ地割
45	MH27-0034	花巻市	矢沢	やさわ	墓葬地	中世	瓶	花巻市矢沢Ⅲ地割

5. 過去の調査（第3図）

高畠遺跡は、昭和34年度に実施された農地造成事業の際に若干の遺物出土が認められ、その後、東北新幹線建設事業に伴う路線敷内の遺跡分布調査により正式に確認・登録された。

東北新幹線建設事業に伴う緊急発掘調査は、東京基点462.444km付近の2,720m²を対象として昭和49年10月25日～12月20日に実施され、翌50年4月21日～26日には補足調査が行われた。

調査では堅穴住居跡8棟、炉跡4基、土坑9基、その他の小ピット等の遺構を検出、縄文時代中期葉（大木10式期）の集落跡であることが確認された。特に、いわゆる「複式炉」を伴う堅穴住居跡がまとまって検出されたことは、調査当時類例の乏しかった当地域における好資料として注目された。

この調査の成果は「岩手県文化財調査報告書第19集 東北新幹線関係埋文化財調査報告書V」として刊行（昭和55年）されている。



第3図 東北新幹線関連調査の遺構配置図

III. 野外調査と室内整理

1. 野外調査

(1) 調査区 (第4図)

登録されている高畠遺跡の範囲は、南北450m・東西550m、面積にして約14万m²に及ぶ広大なものである。

今回調査対象となったのは、ほ場整備事業によって削平を受ける範囲のうち、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課による試掘調査の結果から本調査を要すると判断された3地点である。国道456号線の東側の1地点(3,200m²)及びこれより西南西に約200m離れた新幹線西側に位置する2地点(北側1,000m²、南側600m²)の計3地点4,800m²がこれにあたる。いずれの地点も水田もしくは減反に伴う軒作が行われている旧水田であり、今回の調査区は現状の水田区画に沿った形状となっている。

調査では便宜上、国道456号の東側の調査区を「A区」、東北新幹線西側の2地点のうち北側を「B区」、南側を「C区」とした。なおC区は、昭和49年、東北新幹線建設に伴い岩手県教育委員会によって発掘調査が行われた地点と隣接している。

(2) グリッド設定と基準点 (第5図・表2)

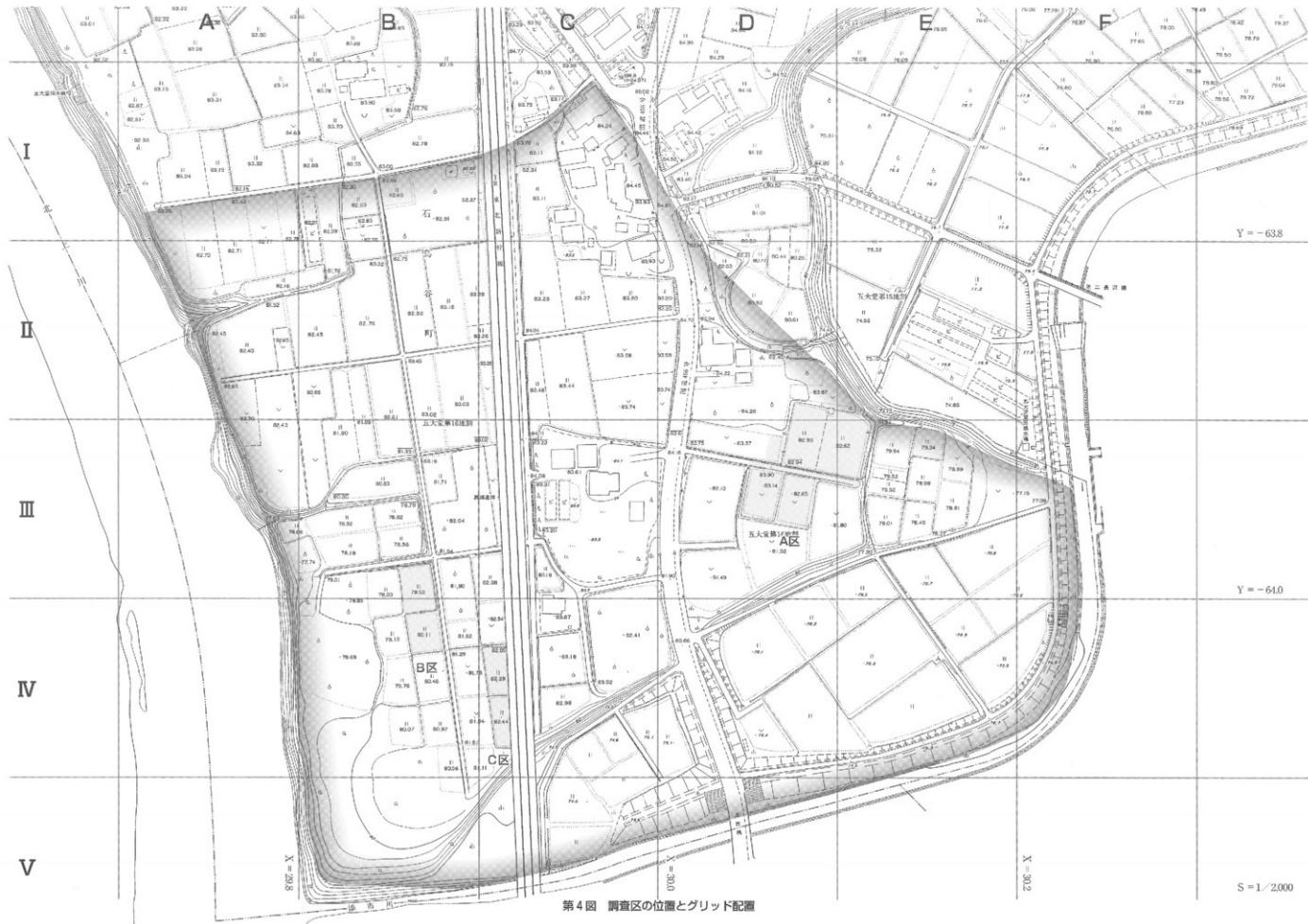
検出される各種遺構・遺物の詳細な座標値を記録するため、調査区を覆う基盤目状のグリッドを設定した。上述のように、今回の調査区は広大な遺跡範囲のなかに点在している。そのため各調査区の位置関係を明確に示し、また本追跡範囲において将来同様の調査が行われる際にそのまま用いることができるよう配慮して、遺跡範囲全体を網羅するグリッド配置とした。

まず、遺跡範囲の北西隅付近に原点(X=-63,800・Y=29,700; 平面直角座標第X系【日本測地系】)を設け、ここから南及び東にのびる軸線を等分して100×100mの大グリッドを設定した。さらに大グリッドの一辺を20等分して小グリッド(5×5 m)とした。

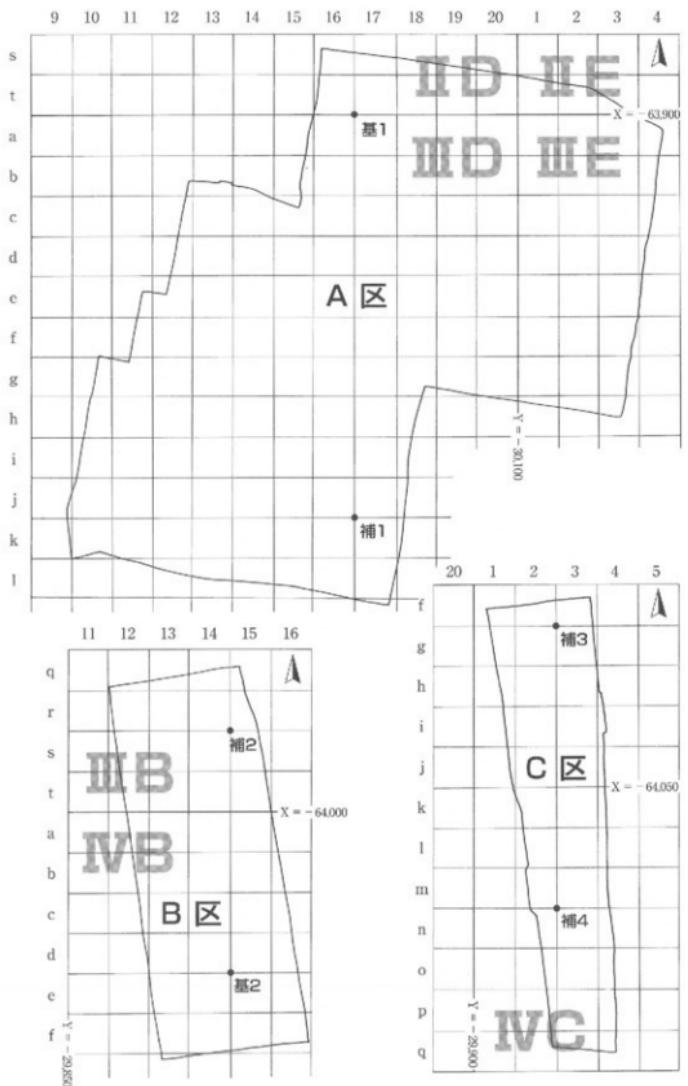
大グリッドは北から南に向かってローマ数字I～V、西から東に向かって英大文字A～Fとして「IA」または「IB」のように表し、さらに小グリッドも同様に北側から順に算用数字1～20、西側から順に英小文字a～tとして「1a」または「2b」のように表した。特定の小グリッドを指示するには、これらを組み合わせて「IA 1a」のように表記した。現地では各小グリッドの北西隅に位置する杭にその名称を表記して用いた。本書中の平面図でも同様に小グリッドの北西隅に位置する杭点にグリッド名を併記している。

表2 基準杭・区画割付杭一覧

	基 1	基 2	補 1	補 2	補 3	補 4
日	B 39° 25' 25" .7905	39° 25' 21" .9250	39° 25' 24" .1689	39° 25' 22" .8979	39° 25' 21" .5957	39° 25' 20" .4606
本	L 141° 10' 57" .8700	141° 10' 49" .0692	141° 10' 57" .8619	141° 10' 49" .0741	141° 10' 50" .7403	141° 10' 50" .7346
測	N -0° 13' 18" .8188	-0° 13' 13" .2116	-0° 13' 18" .8060	-0° 13' 13" .2192	-0° 13' 14" .2713	-0° 13' 14" .2624
地	X -63900.000 m	-64020.000 m	-63950.000 m	-63990.000 m	-64030.000 m	-64065.000 m
系	Y 30080.000 m	29870.000 m	30080.000 m	29870.000 m	29910.000 m	29910.000 m
	H 82,944 m	80,426 m	82,941 m	79,842 m	82,578 m	82,340 m
	B 39° 25' 35" .8168	39° 25' 31" .9512	39° 25' 34" .1952	39° 25' 32" .9241	39° 25' 31" .6219	39° 25' 30" .4868
世	L 141° 10' 45" .3765	141° 10' 36" .5758	141° 10' 45" .3685	141° 10' 36" .5802	141° 10' 38" .2466	141° 10' 38" .2410
界	N -0° 13' 10" .9314	-0° 13' 05" .3239	-0° 13' 10" .9187	-0° 13' 05" .3314	-0° 13' 06" .3837	-0° 13' 06" .3749
測	X -63592.006 m	-63712.000 m	-63642.005 m	-63682.001 m	-63722.001 m	-63757.000 m
地	Y 29780.051	29570.049 m	29780.050 m	29570.049 m	29610.049 m	29610.049 m
系	H 82,944 m	80,426 m	82,941 m	79,842 m	82,578 m	82,340 m
	杭 III D17 a (A区)	IV B15 c (B区)	III D17 k (A区)	III B15 s (B区)	IV C 3 g (C区)	IV C 3 n (C区)



第4図 調査区の位置とグリッド配置



第5図 各区グリッド配置図

上記のグリッドを実際に調査区に割り付けるため、現地には基準杭とこれを補う区画割付杭を打設した。基準点測量業務は株協進測量設計に委託した。基準杭及び区画割付杭の第X系座標値・標高値、及び対応するグリッド杭名は表2の通りである。

(3) 試掘・表土除去

調査では、まず対象区域に任意に試掘トレーナーを設定し、人力掘削によって上層の堆積状況と遺構の存否を把握した。試掘により遺構・遺物が存在しないことを確認した範囲はこれをもって調査終了とし、一方、遺物包含層および遺構が確認された場合は、その上面を面的に広げるように土層を除去した。この際、バッカホー・キャリアダンプ等の重機を積極的に用いたが、検出面までの土層が薄い場合や遺物が集中的に出土する場合など、重機の使用が適当でないと判断した区域では人力による掘削を行った。

(4) 遺構の検出と精査

表土除去の後、鏝兼（じょれん）・両刃草刈り・移植ベラを用いて遺構検出を行い、必要に応じてスプレー塗料による白線で遺構プランにマーキングを施した。

精査では遺構の規模に応じて2分法・4分法を使い分け、土層断面を観察しながら埋土を除去した。検出時に遺構の重複が認められた場合、なるべく平面観察で新旧関係を把握するように努め、原則として新規のものから順に埋土上の掘削を行った。この場合、両者を縦断する断面を設定し上層の堆積状況からも併せて新旧関係を検討した。また、平面プランの確定や埋土の解釈が困難な場合には、積極的にサブトレーナーを活用してこれらの確認に努めた。これにより完掘段階には平面プランの一部がサブトレーナーで壊された状態になつたものも多い。出土した遺物は、遺構名やグリッド名および出土層位を記録して取上げ、必要に応じて出土状況記録としての実測・撮影を行った。

(5) 遺構名

①野外調査での仮名称

遺構には検出時点に随時固有の仮名称を与えた。検出段階で竪穴住居跡の可能性があると判断したものは、区名とその区における位置を示す語句をえて「A区南西部南端住居跡」のように表した。当初この名称は一時的に用いるつもりだったが、その後調査期間を通してプランを認識できたのはこの住居跡のみであったため、野外調査段階ではあえて番号を付することはせず継続して用いることとなった。埋設土器や溝跡等、検出段階で種別の特定が可能なものについては、同様に「A区埋設土器1」・「B区溝跡1」などとした。

一方、円～楕円形プランをもつ遺構には遺構種別に関係なく全て「p」の略号を用い、区名と組み合わせて「A区p1」のように表した。検出直後の時点では性格の特定が難しい土坑類に対し便宜的に命名したものである。これらについては、精査が進み性格が把握された段階から種別を示す名前を付して「A区p201土坑」のように表記した。

以上の仮名称は、室内整理段階でも作業用遺構名としてそのまま用いた。

②本書中の掲載名称

遺構名は掲載にあたって仮名称を変更し、遺構種名を冠した1からの連番とした（「土坑1」・「炉跡2」・「陥落穴3」など）。ただし多数検出された柱穴状ビットについては改名に伴う混乱が懸念されたことから仮名称の番号をそのまま遺構名に残し「p○○」としている。従って、野外・室内作業において「p」を冠していた全ての遺構から、土坑など掲載時に改名したものを除いた番号が柱穴状ビットの掲載遺構名となり、連番とはなっていない点に留意されたい。このほか柱穴群のうち、縄文時代の建物跡（住居跡）を構成すると思われたものには「柱穴配置案①」、中～近世の建物跡には「建物跡1」のように命名し、柱穴配

置の復元案として掲載した。

(6) 実測

遺構や出土状況などの平面実測は、小グリッドを再細分した1m方眼を基準に実測・作図する「簡易遺り方測量」を行った。縮尺は1/20を基本とし、必要に応じて1/10図を作成した。このほか平板・光波トランシットを用いて、トレント位置図・遺構配置図・現況地形図等の作成を行った。

断面図は水平に設定した水系を基準にして実測・作図した。縮尺は1/20を基本とし、細部表現をする場合には1/10図も作成した。

(7) 土層断面の分層と注記

遺構やトレントなどの土層断面は慎重に観察し堆積状況を把握するよう努めた。分層は堆積過程を表現するのに必要と思われた場合は細部にも配慮したが、薄層が連續的に互層をなす部分や、偶然の結果と思われる混入物の偏りなどは徒らに細分せず、有意と思われるまとまりの境界を表現した。

この分層の根拠を示すため、各層の性状を記録した。土層は主体土と混入土（物）によって構成されるものと考え、色調・土性・混入物・粘性・締まりの程度等を記載した。また、解釈可能な場合は、その層の特性格を想定し付記した。

造構埋上や捨て場堆積層の「主体土」には、認識可能な場合、その層が堆積した時点で周辺の表土を形成していたと思われる土（埋没開始時点における最新期の土）をあてた。例えば地山土のブロックが大半を占める遺構の壁の崩落層であっても、当時の表土と思われる黒色土が僅かに含まれている場合は、後者を主体土とし、「地山土が大量に混入している状態」と解釈している。主体土と基本土層の対比から、その層の堆積時期を推定することが可能だと考えたからである。

土色の表記は新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議事務局）に準じたが、調査員が受ける層間の印象の差が土色名の違いとして反映されない場合も多くあった。このため、各層の記録には調査員個人の主觀による相対的な層全体的印象（明暗や色味の差）も併記した。例えば、「○層よりも明るい」・「焼土含み全体に赤味」・「炭化物多く黒味強」・「地山土含み黄味がかる」などの表現がこれにあたる。また混入物の量について「極微」・「やや多」等の表記を行っているが、調査員の主觀的基準を土色帖に示されているパーセント表記に置き換えれば、概ね、極微（1～2%）・微（3～5%）・少（5～10%）・やや多（15～20%）・多（30～50%）・大量（50%以上）となろうか。

(8) 写真撮影

野外調査では6×7cm判カメラ（モノクロ）、35mm判カメラ（カラーリバーサル）、デジタルカメラを用い、各種遺構の全景・土層断面・遺物出土状況等を撮影した。撮影に際しては、撮影状況を記したカードをその都度写し込み、現像後これを元に整理した。なお、一部の遺構ではいずれかのカットを省略した場合がある。また、不手際によって必要なカットを撮影できなかったものも含まれる。またこれらとは別に、セスナ機による遺跡の空中写真的撮影を行った。

2. 室内整理

(1) 作業手順

出土遺物の洗浄と地点別の仕分け作業、土器を除く各遺物の分類は、野外調査と並行して現地で行った。野外調査終了の後、室内において土器の接合・復元作業を開始し、隨時掲載資料の選別・登録を行った。その後、実測図作成・拓影作成・トレースの順に作業を進めた。調査員はこれらの作業の統括と並行して図面合成・遺物観察表作成・原稿執筆を行った。

(2) 遺構

各遺構は必要に応じて第2原図を作成し、これをもとにトレースのち図版を作成した。図中には縮尺を示すスケールを付し、また方位マークにより座標北を示した。

(3) 遺物

土器は出土地点・遺構別に分けた後、それぞれの集合の内容を代表させる資料を選抜し、実測等の作業対象資料とした。ところで、本来であればこれらを資料化する作業が淡々と進められるはずであったが、室内整理作業の中盤に、遺物管理（地点別仕分け）を担当していた調査員による重大な過ちが判明し、なおかつその後も同様の失態が繰り返し発生したため、すでに実測した土器の再接合・再実測や、掲載遺物選抜のやり直しなど、非生産的な作業が大量に発生してしまった。このことにより作業計画に大幅な狂いが生じ、他の作業の進行に大きく影響することとなった。作業全体の進行管理を担っていた筆者の責任は重く、些かならぬ躊躇を禁じ得ないものがあえてここに記す次第である。

石器は、いわゆる定形的な石器に加え細部加工剥離または微細な剥離をもつ剥片類に対しては全点に番号を付して登録を行った。しかし、上述の作業進行の混乱により石器実測に着手できぬまま作業期間の終了を迎える、結果、本書中に石器実測図を掲載できないという深刻な事態に至った。実測予定であった個体については写真掲載としご寛恕を請いたい。土製品・石製品は原則として全点実測掲載とした。

全ての遺物には掲載番号・出土地点・層位・計測値・その他観察事項等を記載した一覧表を作成した。本来であればあらゆる観察事項を網羅すべきではあるが、実測図から読みとれる属性については、時間的制約から記載を省略したものも多い。また、表中に項目を設けながらも未記入に終わってしまった部分もある。実測図には掲載縮尺を示すスケールを付した。

IV. 検出遺構と出土遺物

1. 概要

本遺跡はおよそ14万m²の広がりを持ち、岩手県遺跡台帳には縄文時代の遺構・遺物を包含する遺跡として登録されている。今回調査対象とした3地点（A～C区）は、広大な遺跡範囲のごく一部に過ぎない。地形的環境や、主体となる時期、遺構分布状況等は地点により異なった様相を呈している。

A区で検出された遺構および出土遺物の主体は、縄文時代前期末葉から中期初頭（大木6～7a式期）のものである。調査区南西部では一辺約12mの長方形（？）大型住居跡が1棟検出された【住居跡1】。このほかにも調査区内では炉跡16基が確認されており、周辺に分布する柱穴群とともに本来は竪穴住居跡を構成していたと推測される。このうち炉跡2の燃焼面からはオニグルミの核が炭化した状態でまとまって出土した。これらの住居跡・炉跡等とはほぼ同時期に属するものとしては円形～楕円形の土坑が21基検出された。沢跡の西縁に集中して分布しており、底面中央および壁際に小ビットを作り例が複数認められた。また埋没途上の凹地となった段階に内部で焼土が形成されている例も複数認められるのが特徴的である。

住居跡・土坑より古い段階の遺構としては、平面形が楕円形を呈し底面に小ビットを持つ陥落穴状遺構が31基検出された。沢跡の東西両縁に列状に配置されている。

以上に加え、A区南東部には中世～近世に属すると推定される掘立柱建物跡群が分布している。ごくわずかではあるが調査区内からは中国産磁器・国産陶磁器など中世～近世の遺物が出土している。

B区では北西部の段丘崖状の急激な落ち込みと南東部の沢跡に挟まれた中央部のみが遺構分布面となっている。しかし、この範囲も水田造成によってすでに削平を受け、遺存状況は良くない。

調査区の南端部では、時期不明の建物跡1棟が炉跡状の遺構1基を伴って検出された。このほか同じく時期不明の遺構としては溝跡1条がある。南東部の沢跡からは縄文時代晩期末葉～弥生時代初頭の遺物が出土している。

C区は東北新幹線建設時の調査区に隣接しており、これに連続するように遺構が検出されている。過去の調査区の主体時期である縄文時代中期末葉に属する遺構として、今回、複式炉を伴った竪穴住居跡1棟、土坑7基が検出された。

また、当区南端部では、永楽通寶・宣徳通寶が副葬された墓坑1基とこれを取り回む剖溝状遺構が検出されている。

B区と同様、水田造成によって全面的に削平を受けており、遺構の遺存状況は不良である。北部西縁から南部にかけては沢跡となっており、ここから縄文時代中期末葉～晩期の遺物が出土している。

次節以下では、各区の調査成果の詳細を記載する。

2. A 区

(1) 繩文時代

①大形竪穴住居跡

住居跡1（第6・7図、写真図版4～6）

【位置・検出状況】 調査区南西部、Ⅲ D11k～13k グリッド付近に位置する。Ⅳ層上面で遺物および礫の集中範囲が認められたため、竪穴住居跡の可能性が高いと判断し精査に着手した。

【規模・形状】 本住居跡は南壁側が削平されており本来の形状および規模は不明となっているが、残存形は長方形を呈し、唯一、全長の知れる北壁は11.8mの長さをもつ。北壁両端はほぼ直角なコーナーをなし東壁・西壁へと連続する。東壁・西壁の残存長はそれぞれ4.2m・4.6m、検出面から床面までの深さは20～40cmである。

【埋土と堆積状況】 埋土の土体はⅢ層相当の黒褐色土で大半はこれに覆われているが、壁際では本来壁面上面を構成していたと思われるⅣ層相当の黒色土の崩落層が観察される。Ⅲ層相当の黒褐色土層は2a・2b層（第7図：D-D'～G-G'）に分けることができ、2b層の上面に遺物と礫が集中している。

【壁・周溝・床面など】 上述の通り両端まで残存しているのは北壁のみで、東西壁は途中から、南壁はすべてが後世の削平によって失われている。壁面上部は埋没過程にⅣ層相当の黒色土層が崩落しているためやや外傾するが、V層以下を壁面とする下部ではほぼ垂直な立ち上がりが残存する。各壁の吉下には幅20cm前後（12～50cm）の削溝が巡り、底面に小ピットをもつ。周溝は北西溝では壁に沿って直角に屈曲して連続するが、北壁と東壁の間では途切れている。床面は炉周辺の硬化が顕著で全体的にも平坦で整っているが、北壁際東部に限っては壁に向かって緩やかに低くなり床面が不安定しない。この付近は陥し穴状造構との重複部であり、また、床・壁がVI層相当の砂層で構成されている部分でもあることから、周囲から連続して残存していた床面を認識できずに精査時に掘りすぎた可能性がある。

【柱穴】 北壁際には開口部径60～80cmの4つの柱穴が柱間 3.3mで並び、これらと4.3mの間をおいて対向する南側の柱穴列とともに1×3間の柱配置を構成している。墨土断面および柱穴底面で確認された柱痕跡から復元される柱材の径は20～35cm程度である。柱穴底面や掘方理土に拳大の礫を入れた例が多く、柱材の固定を意図したものと思われる。これら8基の大形柱穴（主柱穴）のほかにも、床面上および周溝底面には小ピットが確認されており、これらとともに上屋構造を構成していたものと思われる。p318～p322間・p319～p323間に位置する床面上の小ピットは、住居内部の空間を仕切る何らかの施設に伴う可能性もあるう。

【炉跡・焼土】 床面上には柱穴列と平行するように3基の炉がほぼ等間隔に並んで設けられている。両端の2基（炉a・炉c）は石圓炉、中央の1基（炉b）は地床炉（配石を失った石圓炉の可能性有）である。これらは南北の両主柱穴列の中央には位置しておらず、著しく南側柱穴列の方に偏っている。仮にこの住居跡の南壁が北壁側と同様に南側柱穴列に沿って立ち上がっていったとすれば、かは住居の中心線上には位置せず、著しく南壁側に偏った特異な状況を呈するものとなり、本住居跡の全体像の理解を困難にしている。

一方、北壁寄りの床面上では不整形な被熱範囲（焼土a～焼土d）が遠なるように認められた。被熱変化の度合いは弱く、痕跡燃焼部のような皿状の凹部も持たない。焼失住居跡の床面に時折認められる部分的な被熱痕跡によく似ており、住居内部に常設された燃焼施設とは考えにくいことから、上記の炉跡とは区別して扱っている。

【重複】 北壁際中央部付近で土坑18に切られ、北壁際東部付近で陥穴18・19を切る。

【出土遺物】 出土土器（1～72；第41～46図）の主体は深鉢で、平行沈線、鋸歯状沈線、半截竹管による刺突・押引文、円形貼付文などで構成された文様帶がII縁部下に凝縮し、胴部以下に縦位の綾格文（結束羽状繩文）の施文されたものが大半を占める。このうち1は住居跡東壁直下に正位に埋設されていたもので、頭部には沈線による区画文とボタン状貼付文が施されるなど、他の土器に比して古い要素を持つ。

このほか土偶・円盤状土製品・石鏃・石砲・石錐・石鏡・磨製石斧・石鏟・敲磨器類等の石器・垂飾具・石劍などの石製品が出土した。

か付近の床面上からは同一の母岩から剥取された剥片がまとめられた状態で出土しており、一部に石鏃や範状石器の未製品が含まれることや、石錐の出土が北壁際の一部に集中することなど、住居内部の利用状況を示唆する興味深い出土状況が認められた。

【遺構の時期】 墓土、出土遺物から縄文時代前期末葉～中期初頭に属するものと考えられる。

②炉跡と周辺の柱穴群

炉跡1周辺 - III D13 j 付近 - (第8図、写真図版7)

【炉跡・焼土】 炉跡1はIII D13 j グリッド中央付近のIV層上面で検出された。焼土生成範囲は長径約80cmほどの楕円形を呈するものと推測されるが、東側を現代の耕作によって断ち切られている。上面は鈍い赤褐色を呈し若干硬化が認められるが下部に向かうにつれ赤変が鈍りIV層へと自然に連続する。このことから原位置を保った焼土であると判断、炉跡とした。

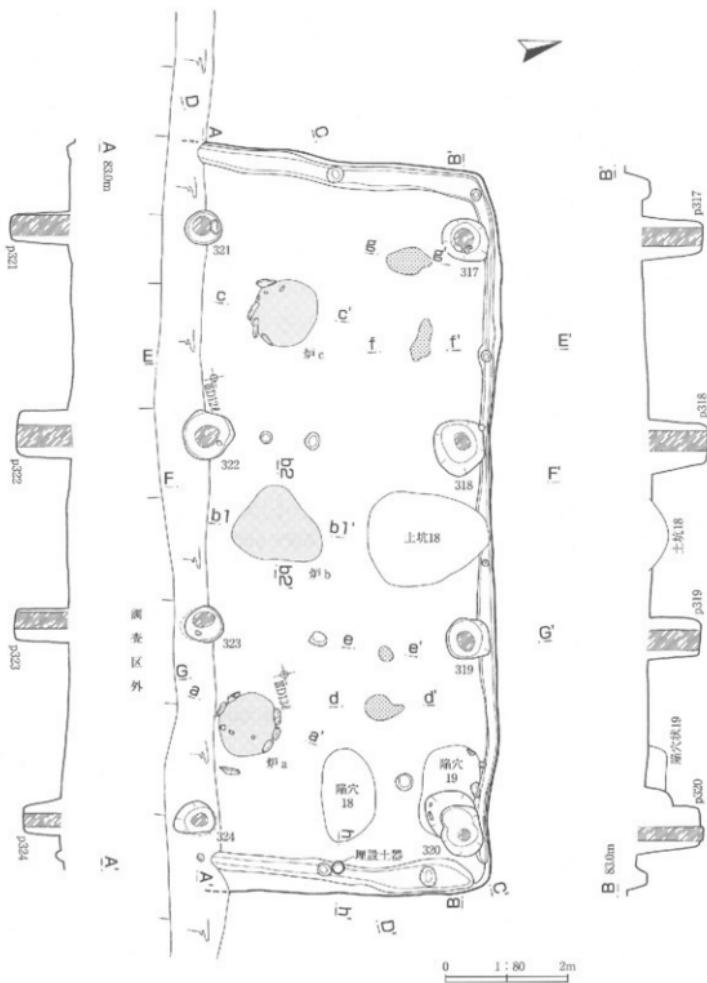
【土層堆積状況】 か跡1周辺は耕作により広く削平を受けていたため、Ⅲ層は残存せず現耕作土の直下にIV・V層が露出する状況となっていた。この付近は調査区を縦断する沢跡の東岸寄りに位置するためV層面は南東から北西に向かって緩やかに傾斜し、したがって残存するIV層は北西側ほど厚層を増す。

【柱穴の分布状況および配置】 か跡1が隣接する建物跡を構成する可能性を有する柱穴は、周辺で検出された16基である。これらはいずれもIV層面では確認できず、V層上面まで下けた段階で検出したものである。直径は15～35cm、深さは10～45cmである。このうち、炉跡1を中心として p 292・299・298 (A-A'ライン) 及び p 303・300・296 (b-b'ライン) の6基が平行3.5m・梁行2.5mの長方形プランを形成する（柱穴配置案①）。また、このプランの長軸両端からやや突出した位置には p 293・301があり、これらもまたか跡1隣接建物跡を構成する一部となる可能性がある。

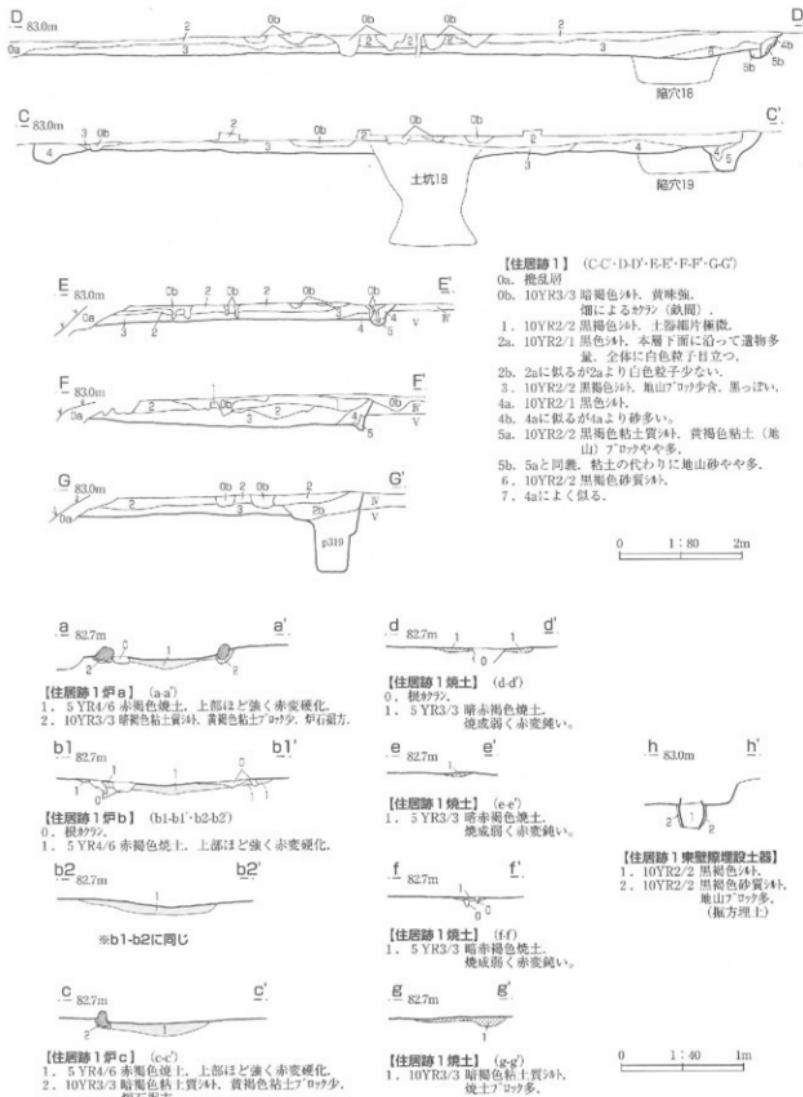
【周辺の出土遺物と分布状況】 か跡1内部から遺物の出土はなかった。また上述のように周辺には遺物を包含するⅢ層が残存せず、出土遺物は現耕作土中の僅かな上器片のみである。従って本遺構に伴うものとして示すことのできる遺物はない。

炉跡2周辺 - III D12 h 付近 - (第8・9図、写真図版8・9)

【炉跡・焼土】 炉跡2はIII D12 h グリッド中央のやや東よりに位置する。IV層上面で検出された。焼土生成範囲は70×65cmの楕円形を呈し、これを取り囲むように配された礫が部分的に残存する。赤変深度は8cm、焼成上面は硬化が認められる。また炉内の焼成面直上からは第8図に示した (f)・(g) の範囲でオニグアルミの核片が密に集積した状態で出土した。種実同定にともなう考察（→附編）では、食料残渣として生じたこれらを燃焼材として用いた可能性が指摘されている。だが、極めて密な出土状況に加え、同一個体とみられる上器片が炭化核片ブロックを上下から挟むような状態で出土していることなどから、オニグアルミを入



第6図 A区住居跡1 (1)



第7図 A区住居跡1 (2)

れた土器が焼けにかけられた際に破損し、その後、土器片の多くは取り除かれたのみが遺棄されたと考えることが可能である。この土器片は二次被熱が著しく文様等の判別も困難であったため図化は行わなかった。なお、当区か跡9においてもごく少量のオニグルミ核片が出土している。

か跡2の西側1.5mの位置からは焼土ブロックのまとまりが検出された。断面では西側から流入・堆積した状況が認められる。この焼土ブロック下面の高さは炉跡2上面とほぼ一致しており、か跡2が帰属する住居跡の廃棄床面に流入したものと考えられる。

【土層堆積状況】 周辺は現代の耕作によって上部を削平されており、調査区を縱断する沢跡上に位置するこの付近では中央部ほど堆積上の残りが良い。第9図A-A'・B-B'にみられるように、2層（IV層相当）下面（=地山上面）は北西方向及び南東方向から炉跡・柱穴群が分布する範囲に向かって緩やかに傾斜している。これに対し、Ⅲ層相当の1層は深さ約20cmで水平な下面を呈する範囲が認められることから、遺構（住居跡）埋土である可能性がある。しかし、平面・断面の観察からも住居跡としてのプランは確定できなかった。

【柱穴の分布状況および配置】 第9図には炉跡2周辺の柱穴群を図示した。これらの多くは2層（IV層）上面では検出できず、V層面まで掘り下げた段階で確認したものである。從って底面が2層中にとどまっていたものは確認面を下げる過程で失われた可能性がある。検出した柱穴群では北西-南東方向、及び北東-南西方向に列状に並ぶ箇所が看取されるが、積極的に建物跡として復元できる配置は認められない。

【周辺の出土遺物と分布状況】 Ⅲ層相当の1層が広がる範囲に土器片・礫の分布が認められたが、明らかに炉跡2に伴うと判断できる遺物の出土はなかった。第47図にはか跡2付近から出土した土器のうち復元できたものを図示した（73~76）。

炉跡3・4周辺-Ⅲ D14 f付近-（第10・11図、写真図版10）

【炉跡・焼土】 か跡3はⅢ D13 e グリッド東部に位置する。IV層上面で検出した。焼土生成範囲の平面形は65×42cmの楕円形を呈する。赤変深度は約5cmで下位の4層（IV層相当・第11図a-a'）に漸移的に連続する。上方からの草根によって擾乱を受けているものの、3層上面には硬化の痕跡が認められることから焼成上面は残存しているものと判断される。

炉跡4はⅢ D14 f グリッド中央部に位置する。V層上面で検出された。上方からの擾乱により焼土生成範囲の残存形は不整形となっているが概ね70×60cm程の楕円形を呈するものとみられる。赤変深度は8cmで下位の2層（V層相当：第11図b-b'）に漸移的に連続する。上面は擾乱が著しく硬化面は確認できない。

周辺ではか跡3・4のほか、削平を受けた炉跡の板跡と思われる部分が3箇所確認されている。いずれも耕作土直下に露出したV層面に極めて弱い赤変部が認められたもので、検出時にはか跡とは判断せず平面範囲のみ記録を行った。柱穴配置等の検討段階でか跡の可能性を持つものと考えるに至り、あわせて図示したものである。

【土層堆積状況】 周辺は北西から南東に向かって下る傾斜面となっているが、現代の耕作によって広範囲にわたって削平を受けており、Ⅲ層の残存は皆無に等しかった。したがって炉跡及び柱穴の検出面は耕作土直下のIV・V層面であり、これらが帰属する住居跡の壁等はすでに削平され残存しない状況であった。

【柱穴の分布状況および配置】 炉跡3・4周辺の柱穴群のうち、建物跡（住居跡）を構成すると思われる第10図に示した「柱穴配置案②～④」である。②はp52・2036・997・314・278の5基及びp901・953・222・917の4基からなるもので、p52に對応する柱穴は検出できていないが、桁行15.0m・梁行4.6mの長方形プラン（1×4間）を構成するものと思われる。

③は p 990・325・267及び p 938・222・264の計 6 基からなり、桁行5.8m・梁行4.6mの長方形プラン（1×2間）を構成するものと思われる。②の柱穴と部分的に重複しており底面標高は②よりも高い。

④は p 221・316及び p 710・311・231の5基からなり、桁行7.6m・梁行4.2mの長方形プランを構成する。p710に対向する柱穴は攪乱により残存せず、また、p710・311の間に位置する柱穴及びこれに対向する柱穴もまた確認できていないが、本来はこれら未検出の3基を含む8基からなる1×3間の配置をなすものと考えられる。

第11図には p 221・222の断面図（c-c'・d-d'）を示した。p221では径約30cmの柱痕跡が断面で確認された。また p 222ではクリとみられる炭化した柱材の一部が残存していた。

【周辺の出土遺物と分布状況】 上述のとおり遺物を包含するⅢ層が残存しないため、出土遺物は多くない。写真図版33には文様の判別が可能なものを一部掲載した（77～83）。図化は行っていない。

【特記事項】 柱穴と炉跡との配置関係をみると、炉跡3・4及びⅢ D14 g グリッド北東部の被熱痕はA-A'ラインの柱穴列側に偏っていることがわかる。逆例にしたがえば炉跡は住居の長軸上に位置すべきであるが、このように一方の壁側に偏る状況は当区住居跡1と共通する。

炉跡5・6周辺-Ⅲ D13 c 付近-（第12図、写真図版7）

【炉跡・焼土】 炉跡5はⅢ D13 b グリッド南東部、調査区境界に接する位置のIV層上面で検出された。焼土生成範囲の平面形は径約45cmの略円形を呈するものと思われる。赤変深度は8 cmで下位の5層（IV層相当：第12図a-a'）に漸移的に連続する。上面には被熱による硬化が認められることから燃焼面は残存していると考えられる。

炉跡6はⅢ D13 c グリッド南東部に位置する。IV～V層上面で検出された。焼土生成範囲は70×60cmの梢円形を呈するものとみられるが現代の耕作に伴う根擾乱により残存形は不整形となっている。断面に観察される赤変深度は2～5 cmであるが、上面は根擾乱によって乱され硬化面も認められないことから、上部はすでに削平を受け燃焼面が残存していないものと判断される。

【土層堆積状況】 周辺は炉跡6付近が最も高く、北西及び南東側へ向かって緩やかに下る地形となっている。現代の耕作によって削平を受けているため、炉跡6付近の高い部分ではV層、北西・南東側の斜面部ではIV層が現表土直下に露出した状況となっていた。ただし北西側斜面下方にあたるⅢ D13 c グリッド杭付近ではⅢ層が部分的に残存しており少量ではあるが土器等遺物の出土がみられた。炉跡及び柱穴の検出面は耕作土直下のIV・V層面であり、これらが帰属する住居跡の壁等はすでに削平され残存しない状況であった。

【柱穴の分布状況および配置】 周辺の柱穴群のうち建物跡（住居跡）を構成すると考えられるのは第12図に示した「柱穴配置案⑤」である。p 109・118・259、及び p 144・130・133・126の7基からなり、p 126に対向する柱穴は調査区外へと位置しているため検出できていないが、桁行7.6m・梁行4.6mの長方形プラン（1×3間）を構成するものと思われる。

【周辺の出土遺物と分布状況】 上述のとおりⅢ層が残存する範囲はⅢ D13 c グリッド杭付近に限定され、炉跡及び建物跡に明らかに帰属すると判断できる遺物はない。写真図版33には出土土器のうち文様の判別が可能なものを一部掲載した（84～87）。図化は行っていない。

炉跡 7・8 周辺 - II D19 t 付近 - (第13図、写真図版12・13)

【炉跡・焼土】 炉跡 7 は II D19 t グリッド杭付近に位置する。IV 層上面で検出された。焼土生成範囲の平面形は $80 \times 70\text{cm}$ の楕円形を呈する。赤変深度は 8 cm で下位の 2 層 (IV 層相当: 第13図上段a-a') に漸移的に連続する。上面には被熱による硬化が認められることから燃焼面は残存していると考えられる。

炉跡 8 は II D19 s グリッド南端部に位置する。IV 層上面で検出された。焼土生成範囲は $95 \times 70\text{cm}$ の不整楕円形を呈するものと思われる。赤変深度は 5 cm で、下位の 2 層 (IV 層相当: 第13図上段b-b') に漸移的に連続し、上面には被熱による硬化が認められることから燃焼面は残存していると判断される。

【土層堆積状況】 炉跡 7・8 は調査区を縦断する沢跡の西岸縁に位置しており、炉跡の南東側は沢筋へと向かってやや急激に落ち込んでいる。II D18 t・同19 t グリッド付近では沢跡に堆積したⅢ層 ($20\sim30\text{cm}$) が残存しており、土器等の遺物がやまとまって出土している。

【柱穴の分布状況および配置】 第13図上段に示した柱穴ビット群はいずれも沢跡に堆積したⅢ層の下面から検出されたものである。平面形・断面形が不整形を呈するものや極めて浅いものが多く、自然（木根跡等）によるものも多く含んでいる可能性が高い。これらから炉跡に関連する柱穴配置を抽出することはできなかった。

【周辺の出土遺物と分布状況】 II D18 t・II D19 t グリッド付近からは比較的まとまって土器が出土した。復元できたもの一部を第49・50図に図示している (96~106)。これらはいずれも沢跡に向かって傾斜する IV 層上面に沿って出土したものであり、高位面から投棄されたか自然に流入したと判断される出土状況を呈している。したがって明らかに炉跡に伴うと認められるものは含まれていない。この区域では土器のほか、土偶・石獣・鏡状石器・敲磨器類等も出土している。

炉跡 9 周辺 - III D17 e 付近 - (第13図、写真図版7)

【炉跡・焼土】 炉跡 9 は III D17 e グリッド南西部に位置する。IV～V 層上面で検出された。上方からの根摺乱が著しく、焼土生成範囲は $100 \times 70\text{cm}$ の不整楕円形を呈している。断面に観察される赤変深度は 10cm であるが上面は根摺乱に乱されており硬化面は認められない。焼土範囲の北京部及び南端部にはこれを取り囲むように配された櫛が部分的に残存しており、本来はこれらが全周する石圍炉であったと思われる。炉内からはごく少量ながら、炉跡 2 と同様、炭化したオニグルミ核片が出土している。

炉跡 9 の東側 3.4m の位置には焼土ブロックのまとまった箇所が検出された。炉跡 9 が帰属すべき住居跡に二次的に流入あるいは投棄されたものの可能性がある。

【土層堆積状況】 この付近は調査区を縦断する沢跡上に位置しており、Ⅲ層及びⅣ層はそれぞれ $20\sim30\text{cm}$ ほど堆積している。

【柱穴の分布状況および配置】 第13図下段に示した柱穴群は IV 層上面で検出されたものに加え、V 層面上で下げた段階で新たに検出されたものが含まれる。いずれの柱穴も埋土にⅢ層土を含むことから、本来の掘りこみ面は IV 層上面以上であることは明らかである。しかしこの付近は中～近世のものと思われる建物跡が分布する区域と重複しており、炉跡 9 に関連する柱穴配置を分離・抽出することはできなかった。

【周辺の出土遺物と分布状況】 遺物の分布がみられるのは III D17 e グリッドとその周辺のⅢ層中である。Ⅲ層から出土した土器のうち立体復元できた個体 (第51図118) を図示した。胴部下半が円筒形・上半が金魚鉢形を呈する深鉢の刷上部とみられる。文様・地文を持たず器表面は比較的丁寧なナデで仕上げられている。このほか、土偶・尖頭状石器・敲磨器類などが出土している。

か跡10・11・12周辺 - III D17 b 付近 - (第14・15図、写真図版11・12)

【炉跡・焼土】 炉跡10はIII D17 b グリッド中央部に位置する。IV層上面で検出された。焼土生成範囲の平面形は110×100cmほどの楕円形を呈するものと思われるが、中央部及び北西部を住居跡に伴う周溝状の溝に切られている。赤変深度は約10cmで下位の2層(IV層相当・第15図a-a')に漸移的に連続する。焼土上面には硬化が認められることから燃焼面上面は残存しているものと判断される。

炉跡11はか跡10から南側に40cmの地点、III D17 b グリッド南部に位置する。IV層上面で検出された。当初径1m強の焼土ブロックの抜がりとして検出されたが、この焼土ブロック層を取り除くと、動いていない焼土範囲が確認された。この付近の精査の初段階に設定したトレンチにより西半部を破壊してしまったため全体の形状は不明となったが、概ね90cmほどの円形～楕円形を呈するものと思われる。断面に認められる赤変深度は10cmで下位の2層(IV層相当・第15図b-b')に漸移的に連続する。上述の焼土ブロック層は、本炉跡に生成した焼土層上部が住居の改築等に伴って削られた際に生じ、新規住居の床面構成材としてその場に均されたものと考えられる。そのため焼土上面には硬化面は認められず本米の燃焼面は失われているようである。

炉跡12はIII D17 c グリッド中央部に位置する。IV層上面で検出された。焼土生成範囲は120×100cmの楕円形を呈する。赤変深度は13cmで下位の層に漸移的に連続する。焼土上面は浅皿状にくぼみ内面に硬化が認められることから、燃焼面は残存していると判断される。断面には住居床面あるいはがそのものの構築材に用いられたであろうV層土ブロック層(第15図c-c' 2層)が赤変範囲の境界付近に認められる。

か跡10~12ほか、III D17 a グリッド南端部では、削平を受けた炉跡の痕跡と思われる被然痕跡が1箇所確認されている。土坑11・13の間に位置しており、両者に切られているため残存する部分は極めて少ない。検出時には炉跡とは判断せず平面範囲のみ記録を行った。柱穴配置等の検討段階で炉跡の可能性を持つものと考えるに至り、あわせて図示したものである。

【土層堆積状況】 炉跡及び柱穴が分布する範囲は調査区を概する沢跡内部の西岸寄りに位置しており、土坑・陥穴群が分布する西側の高位面からは南に向かってやや急激に落ち込んだ地形となっている。精査手段から住居跡である可能性が高いと判断し平面プランの把握に力を入れたのだが、結果としてIV層面で確認することはできず、全体をV層上面まで掘り下げることになった。第14図の断面A-A'~D-D'には住居跡の壁と思われる立ち上がりとこれに連続する水平なラインが認められる(太線で表示)。立ち上がりは位置的に西側の柱穴列、及び炉跡10を切る周溝状の溝にも対応しており、新規の住居跡の壁と判断して差し支えないだろう。プランの内部の壁上はIII層相当の2・3層が主体となっている。

【柱穴の分布状況および配列】 炉跡10~12周辺の柱穴群のうち、建物跡(住居跡)を構成すると思われる第14図に示した「柱穴配置案⑥~⑧」である。⑥はp 949・980・985・2085・805、及びp 968・963・951・941の9基からなる。p 805に対向する柱穴は土坑12との重複部分にあたるため検出できていないが、桁行10.9m・梁行3.6mの長方形プラン(1×4間)を構成するものと思われる。

⑦はp 983・946・966・987・944、及びp 957・962・950・964・941の計10基からなり、桁行9.0m・梁行4.0mの長方形プラン(1×4間)を構成するものと思われる。

⑧はp 949・960・945及びp 2087・915・988の6基からなり、桁行7.3m・梁行4.0mの長方形プラン(1×2間)を構成するものと思われる。

【周辺の出土遺物と分布状況】 この付近は沢跡内部にあたりIII層の堆積が良好だったため比較的まとまった量の土器が出上している。第51図にはIII D17 b・III D17 c グリッドから出土した土器の一部を掲載した

(113~117)。しかしこれらは地形の傾斜に沿って堆積するⅢ層相当層の下面から出土したものであり、明らかに炉跡（住居跡）に伴うと判断される状況で出土したものはなかった。沢跡に重複する形で掘り込まれた住居が焼絶した後、そこに生じた凹地に投棄されたものや斜面上方から流入したものが大半を占めると思われる。同様の出土状態で土偶・石鏡・石匙・敲磨器類等も出土している。

【特記事項】 柱穴とか跡との配置関係に着目すると、土坑11・13間の被熱痕と炉跡10は、⑥を1間四方の区画に分割した場合、北側から二つの区画の中心にそれぞれ位置していることがわかる。また同様に、炉跡11・12は⑧の2つの区画の中心部からやや西に寄った位置にある。か跡が一方の壁側に偏る状況は当区住居跡1及びか跡3・4間連の建物跡でも観察されている。

炉跡13・14・15・16周辺 - Ⅲ D20 c 付近 - (第16・17図、写真図版14)

【炉跡・焼土】 炉跡13はⅢ D20 b グリッド中央部に位置する。V層上面で検出された。焼土生成範囲の平面形は径110cmの円形で、その周囲には取り囲むように礫が配されている。赤変深度は約8cmで下位のV層に漸移的に連続する。焼上上面は根拠乱によって乱されているが、浅墨状にくほんだ内面には部分的に硬化面が認められる。したがってか内の燃焼面は残存していると判断される。断面には礫を埋置した掘り方が観察される（第17図a-a' 3層）。

炉跡14は炉跡13から南側に約1.9mの地点、Ⅲ D20 b グリッド南端部に位置する。V層上面で検出された。焼土生成範囲の平面形は64×56cmの楕円形を呈する。赤変深度は12cmで下位のV層に漸移的に連続している。焼土上面は根拠乱によって乱され本来の燃焼面は失われている。炉跡14のような礫の配置はみられないが、焼土外周部には点々と小穴が認められる。これらを炉石埋置の掘り方とみることもできるが草根等の攪乱と区別ができる石團炉であったか否かについては不明である。

炉跡15はⅢ D20 c グリッド西端部に位置する。V層上面で検出された。焼土生成範囲は110×95cmの楕円形を呈し、その周囲には取り囲むように礫が配されている。赤変深度は12cmで下位のV層に漸移的に連続する。焼土上面は根拠乱によって著しく乱されており、燃焼面は残存しない。断面には礫を埋置した掘り方が観察される（第17図c-c'・d-d' 3層）。

か跡16はⅢ D20 c グリッド南西隅に位置する。V層上面で検出された。炉跡13・15と同様に環状に配された礫が検出されたことから炉跡としたが、その内部からは被熱痕跡は一切認められなかった。断面には礫を埋置した掘り方が観察される（第17図e-e' 2層）。他の石陣炉における赤変深度がか跡底面より下位に及んでいることと比較すれば、本か跡の焼土は搅乱等によって失われたのではなく、焼成を受ける機会が著しく少ないか、あるいは全くなかった可能性がある。つまり構築直後かその途上で放棄されたものと考えることができよう。

【土層堆積状況】 炉跡及び柱穴が分布する範囲は調査区を横断する沢跡の東岸に位置する。沢跡内部からは一段高い面となるのだが、現代の水田造成時に削平を受け現耕作土直下にはV層が露出した状況となっている。沢跡の東側ではV層は砂質を帯びており、遺構埋土の中にはこれが多量に混入するため検出面において遺構を識別する際の妨げとなつた。

【柱穴の分布状況および配置】 炉跡13~16周辺の柱穴群のうち、建物跡（住居跡）を構成すると思われるの第16図に示した「柱穴配置案⑨」である。p 742・2063・728、及び p 2076・811・806の6基からなり、桁行5.0m・乗行4.2mの長方形プラン（1×2間）を構成している。南東隅のp 742及び南西隅のp 2076からはさらに南側に周溝状の小溝が延びそれぞれp 2072・815と連結していることから住居跡本体のプランはさら

に拡大する可能性が高い。

このほかにも第16図A-A'の南半部に位置する柱穴列・同B-B'上の柱穴列などが認められるが、これらから建物跡を復元することはできなかった。

【周辺の出土遺物と分布状況】 上述のように炉跡付近は水田造成による削平を受けておりⅢ層が残存するのは沢跡に向かって緩やかに傾斜しているⅢ D19c・同20cグリッド付近に限定される。しかし残存していたⅢ層土からは比較的多くの土器が出土した。いずれも沢跡方向に流入あるいは投棄されたものと思われ、多量の砾とともに傾斜面に沿って面的に分布していた。第50・51図にはこれらのうち立体復元ができたものを掲載した(107~111)。このほか同様の出土状態で土偶・石錘・削器類・敲壘器類などが出土している。

【特記事項】 柱穴と炉跡との配置関係に着目すると、炉跡13・14は⑨の2つの区画の中心部からやや東に寄った位置に位置している。炉跡が一方の壁側に偏る状況は当区住居跡1はじめ炉跡3・4・10~12に觸れる建物跡で観察されている。

III E 1 f 付近 (第17図下段)

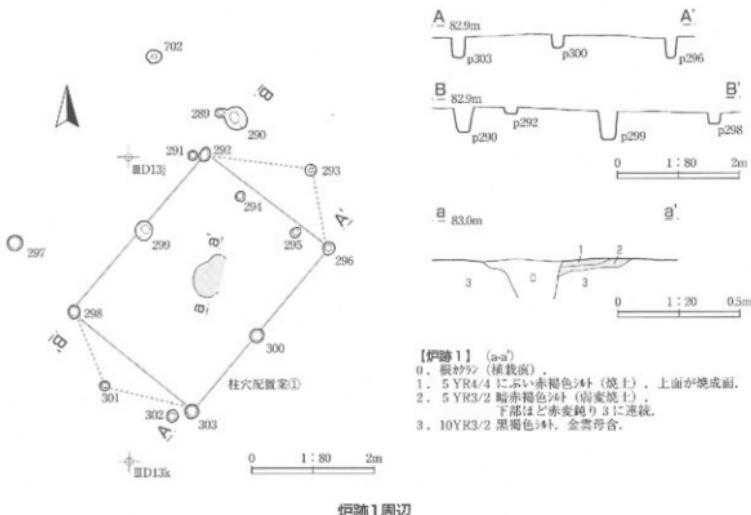
【炉跡・焼土】 炉跡は確認されていない。想定される建物跡の長軸上に新期の溝跡が重複しており、これによって本来存在した炉跡が失われている可能性がある。付近に分布する中~近世の建物跡群の柱穴とは埋土・規模・底面標高等が異なり、縄文時代に属する可能性が高いと判断されたためここに記載するものである。

【土層堆積状況】 後世の削平によりⅢ層の残存は限定的である。表上直下にはIV~V層が露出しており、柱穴の検出面はこれらの上面となる。

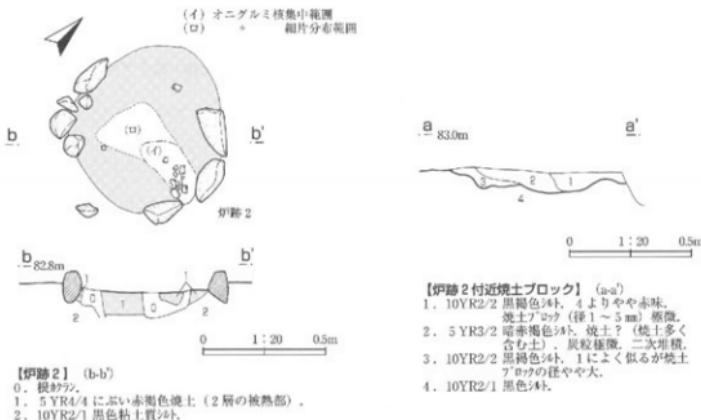
【柱穴の分布状況および配圖】 建物跡(住居跡)を構成するとみられるのは第17図下段に示した「柱穴配置案¹⁰」である。p 510・512・989・518及びp 594・531・467・629の8基からなり、桁行9.1m・梁行3.1mの長方形プラン(1×3間)を構成している。

【周辺の出土遺物と分布状況】 部分的に残存するⅢ層からは土器細片が少量出土しているが、本遺構に明らかに伴うと判断されるものはなかった。

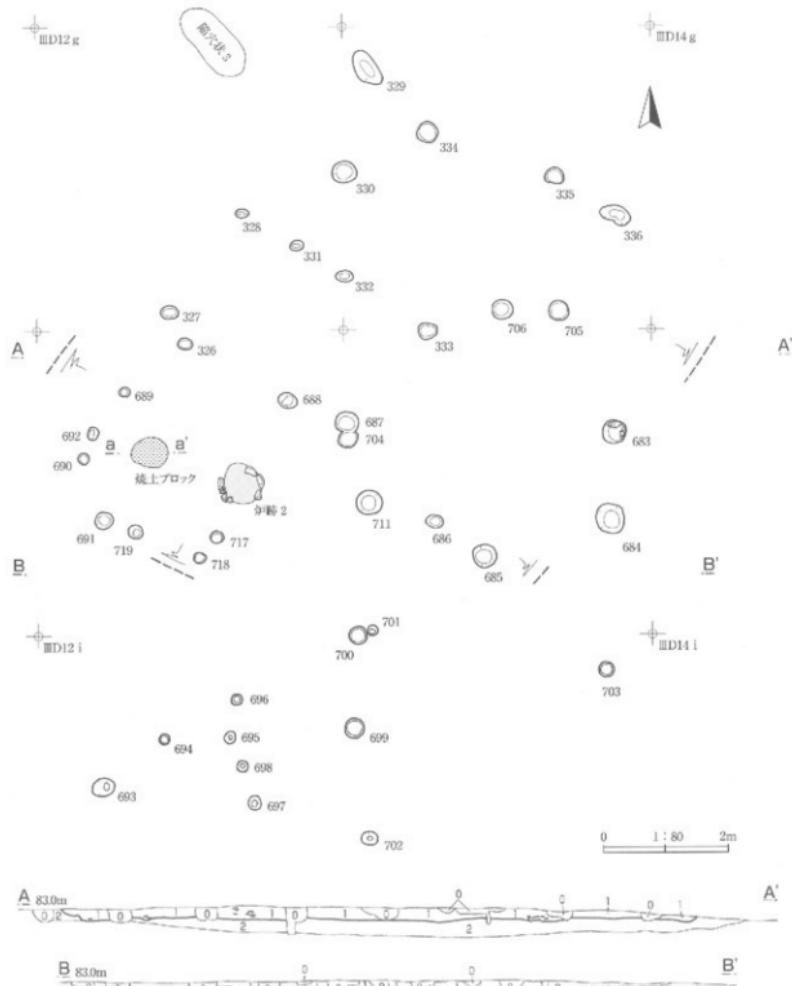
【特記事項】 長軸上に重複する新期溝跡の底面・壁面には、被熱した砾や焼土ブロックのまとまりが点在していた。溝を掘削した際に破壊した炉跡の残骸である可能性が高い。



炉跡1周辺



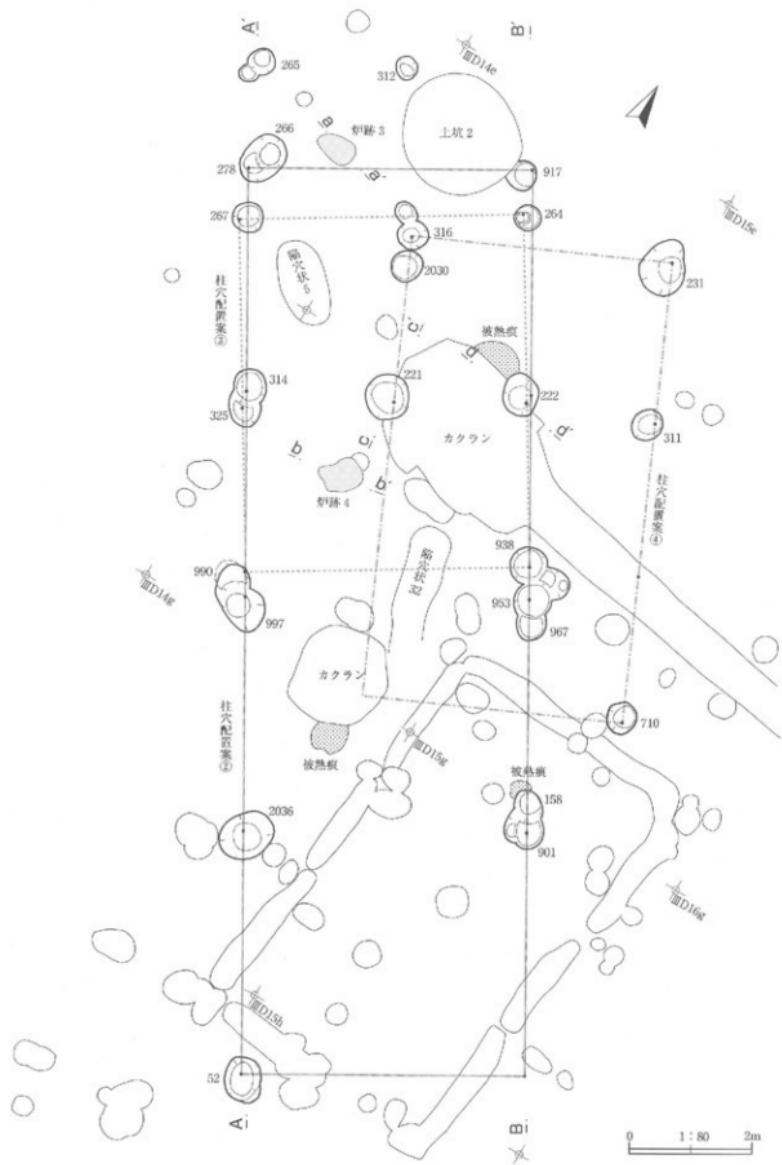
炉跡2周辺 (1)
第8図 炉跡1周辺・炉跡2周辺 (1)



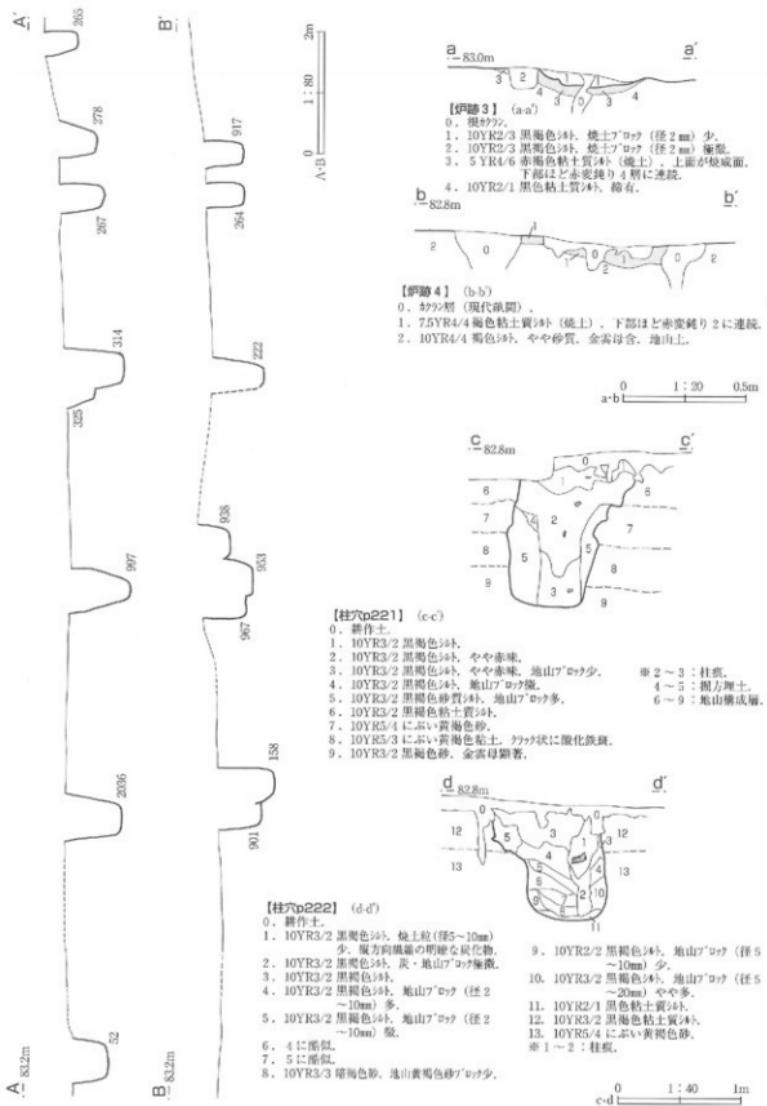
【炉跡2周辺土層堆積状況】(A-A'-B-B')

0. 黑耕土。
1. 10YR2/1 黒色沙土。土器片・雜合、アスパラガスの根が多く入り2層との境界不明瞭。
2. 10YR2/2 黒褐色粘土質沙土。1よりやや明るく雜まっている。根けきにより上部に上器細片・炭片混入。本来は無遺物層。
3. 10YR3/3 暗褐色粘土質沙土。2層と地山粘土層との漸移層。

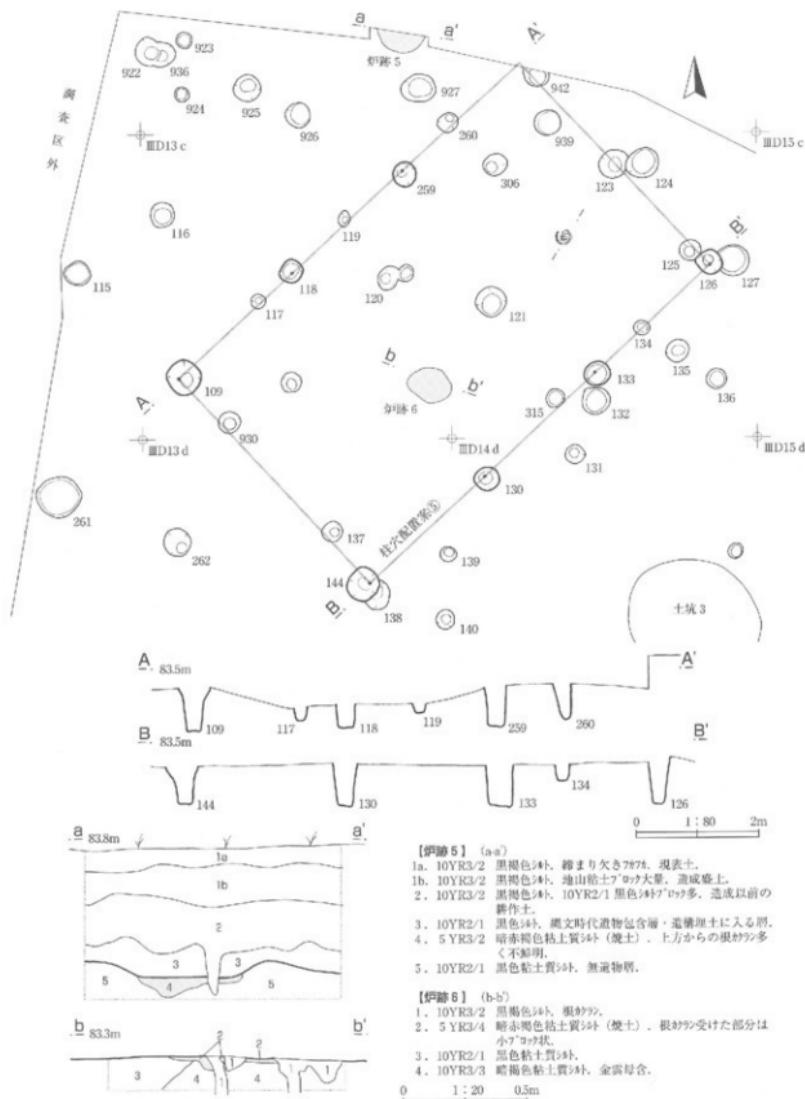
第9図 炉跡2周辺(2)



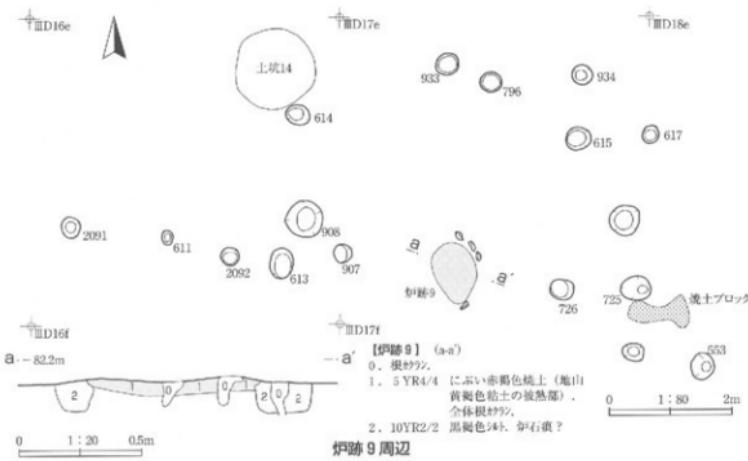
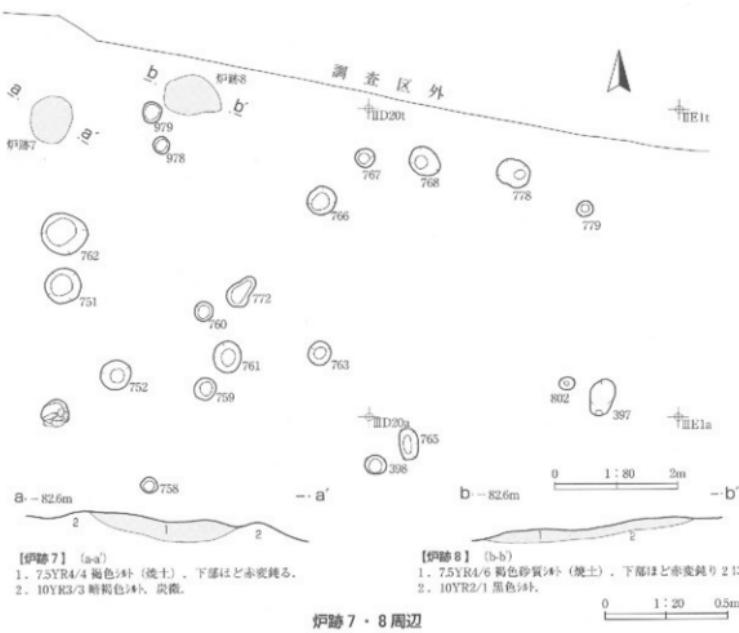
第10図 炉跡3・4周辺(1)



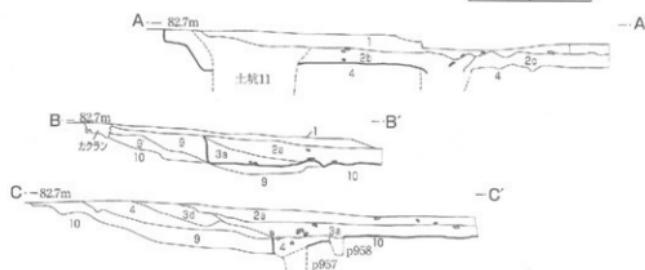
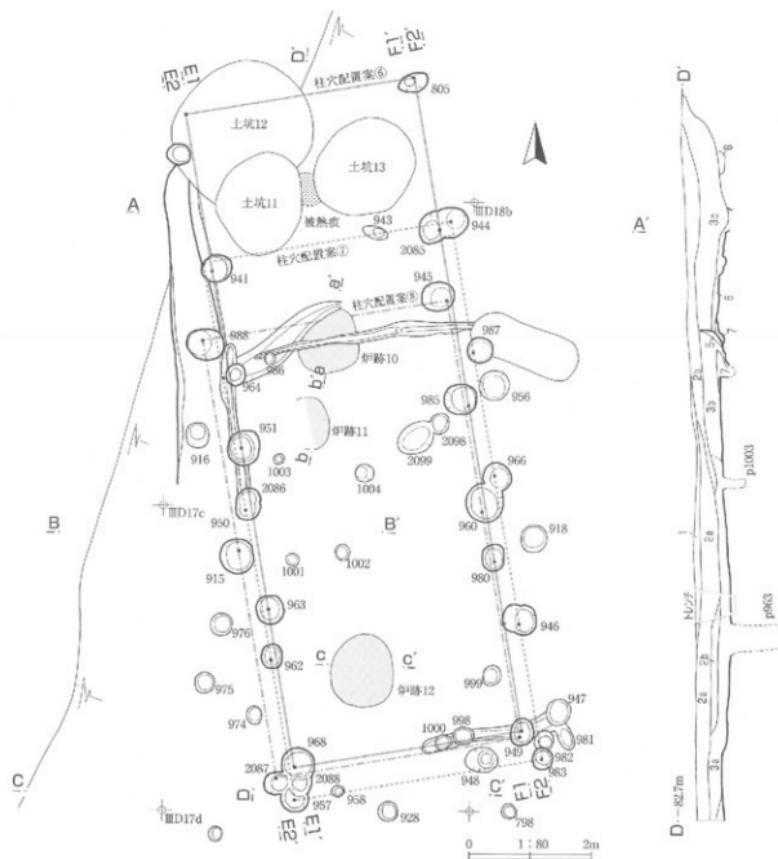
第11図 炉跡3・4周辺(2)



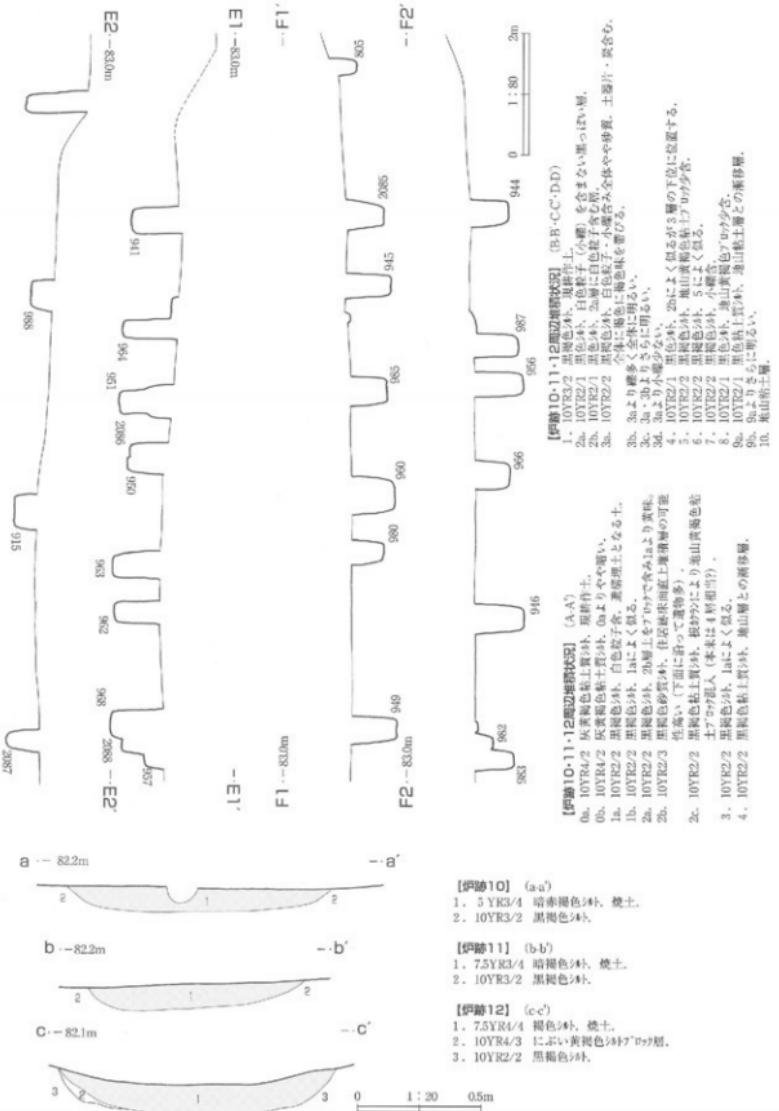
第12図 炉跡5・6周辺



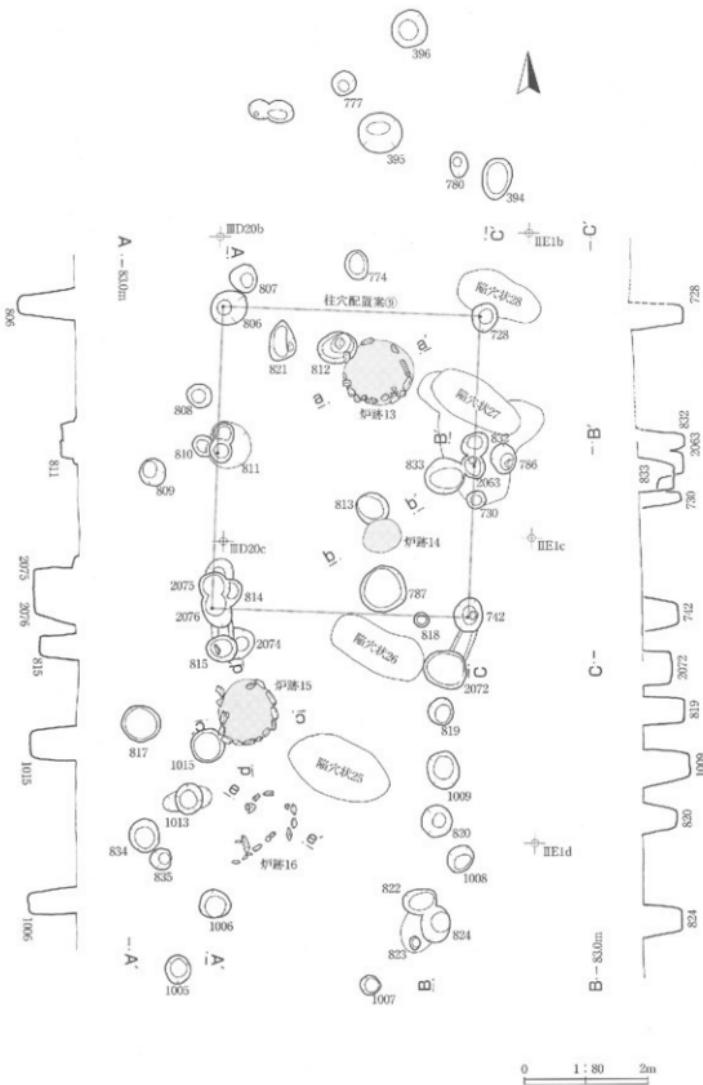
第13図 炉跡7・8・9周辺



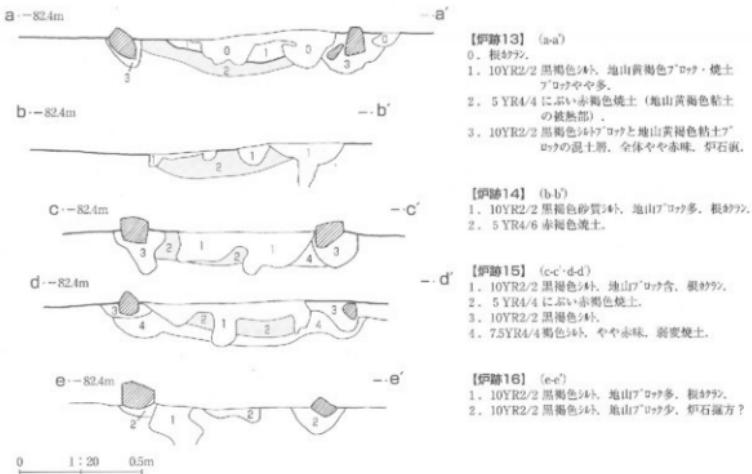
第14図 炉跡10・11・12周辺 (1)



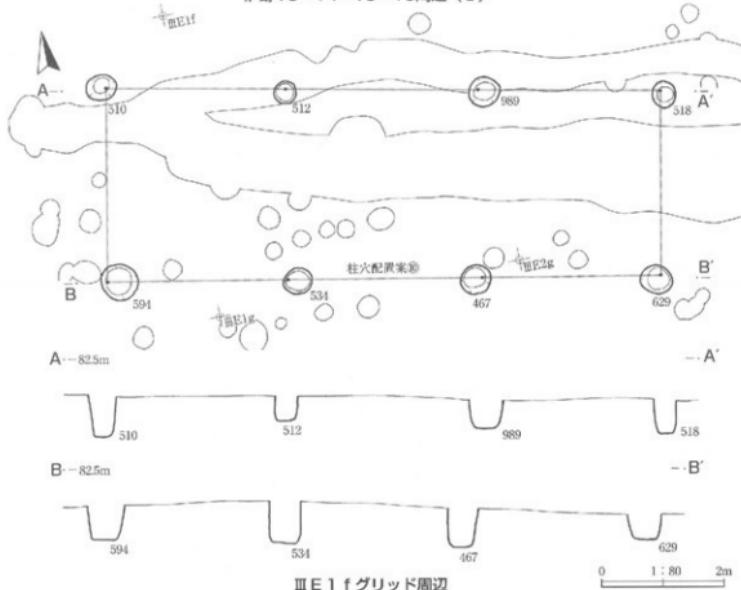
第15図 炉跡10・11・12周辺 (2)



第16図 炉跡13・14・15・16周辺(1)



炉跡13・14・15・16周辺(2)



第17図 炉跡13・14・15・16周辺(2)・III E 1 f グリッド周辺

③土 坑

土坑1 (第18図・写真図版15)

【位置・検出状況】 III D10 b グリッドに位置する。IV層上面で上器片・礫の集中する不整形な範囲として検出された。【規模・形状】 平面形は $3.3 \times 2.4\text{m}$ の梢円形で、開口部から底面までの深さは 65cm である。壁はほぼ直立するが、崩落により一部が外傾またはオーバーハングしている。底面は平坦に整っており、長軸両端と中央部に計3基の小ピットを持つ。長軸両端に位置するピットは径 25cm 、土坑底面からの深さが $45 \sim 60\text{cm}$ である。南西端の壁面ではピット内部から土坑開口部にまで連続する柱痕跡が、壁面に食い込んだような状態で観察された。中央部に位置するピットは径 25cm 、深さは 15cm で、両端に位置するピットよりも浅い。これらのピットは本土坑に伴う上部構築物を支持する柱材を設置した痕跡の可能性が高いと判断される。

【埋土と堆積状況】 埋土の下半分は開口部から流入したと思われる黒褐色シルト（4層）が堆積している。その上面は凹レンズ状を呈しており、自然堆積による埋没は一旦この面で安定したものと思われる。この段階で凹地となった半埋没の土坑内には、焼土ブロックと炭片、多量の上器片・礫を含んだ3層が堆積している。この上には再び自然に流入した1a層が堆積するが、土坑北部の1a層上面には $80 \times 50\text{cm}$ の焼土が生成しており、半埋没段階の土坑内部において火を使った何らかの行為が行われたことを示している。このように、廃絶された土坑跡の凹地で火が用いられた痕跡は土坑16でも観察されている。【重複遺構】 なし。

【遺構の時期】 出土遺物から縄文時代中期初頭のものと思われる。【出土遺物】 土器（第52～54図：121～146）、棒状土製品（第73図：431～432）、石鏃、石匙、敲磨器類、石製垂飾具（第76図：562）。

土坑2 (第19図・写真図版16)

【位置・検出状況】 III D14 e グリッドに位置する。IV層上面においてⅢ層相当土の不鮮明な円形プランとして検出された。【規模・形状】 平面形は $2.0 \times 1.8\text{m}$ の略円形で、開口部から底面までの深さは 150cm である。壁はやや外傾するがほぼ直立に近い。底面はほぼ平坦で地山砂礫層が露出している。【埋土と堆積状況】 底面上には潰れた状態の上器が広がり、その上はIV層およびV層相当の壁崩落土（3・4層）で一気に埋没したものと思われる。断面ではさらに上位の1・2層がこれらを切るような堆積状況が観察されるが、1・2層と3・4層の層界は不明瞭である。埋没後、再度掘り起こされたものか、あるいは壁面の構築材（？）等により土坑中央部が崩落土による埋没を一時的にまぬがれたためと推測される。埋土最上部の1層には上器片・小礫を比較的多く含んでいる。【重複遺構】 柱穴 p917と重複するが、新旧関係は不明である。【遺構の時期】 土坑底面からの出土遺物から縄文時代中期初頭に属すると思われる。【出土遺物】 土器（第54～56図：147～166）、敲磨器類。

土坑3 (第19図・写真図版16)

【位置・検出状況】 III D14 d グリッドに位置する。V層上面でⅢ層相当土の明瞭な円形プランとして検出された。【規模・形状】 平面形は $2.3 \times 1.9\text{m}$ の梢円形で、開口部から底面までの深さは 110cm である。壁は底面に近い部分でやや膨らみ開口部下では若干窄まっている。底面は平坦で、地山に挟在する黒褐色砂層が露出している。【埋土と堆積状況】 底面上の黒褐色砂層（12層）は本遺構構築時に底面付近に露出した地山構成層の一部が均されたもので、本層の上面が使田段階の底面と考えられる。北東部壁際の底面直上からは深鉢が転倒した状態で出土した。これより上位の埋土は廃絶後のものと思われ、壁の崩落（6・7a・8・11層）により凹地となった後、漸次上方からの流入土によって埋没したものと考えられる。なお、

5層および10層には纖維の明瞭な多量の炭化物片が面的に広がっており、埋没する過程において土坑内部あるいは付近で火を用いた行為が行われたことを示唆している。【重複遺構】なし。【遺構の時期】土坑底面の出土遺物から縄文時代中期初頭に属すると思われる。【出土遺物】土器（第56図：167～174）、青龍刀形土製品（第73図：427）。

土坑4（第20図）

【位置・検出状況】ⅢD14d グリッドに位置する。V層上面で土坑5のプランから張り出す不整形プランとして検出された。【規模・形状】平面形は0.9mの略円形で、開口部から底面までの深さは30cmである。壁はやや外傾して立ち上がる。底面は自然地形と同様に南東側にやや傾斜し、やや凹凸がある。【埋土と堆積状況】自然堆積による黒色粘土質シルトにより埋没している。【重複遺構】東端部で土坑5と重複し、これに切られている。【遺構の時期】縄文時代中期初頭に属すると思われる土坑5に切られるところから、これ以前のものと考えられるが出土遺物もなく帰属年代の詳細は不明である。【出土遺物】なし。

土坑5（第20図・写真図版17）

【位置・検出状況】ⅢD15c グリッドに位置する。V層上面でⅢ層相当土の不鮮明な梢円形プランとして検出された。【規模・形状】平面形は2.5×2.0mの梢円形で、開口部から底面までの深さは120cmである。壁は全体的には直立するが、東西の壁では底面付近でやや膨らみ、開口部に向かって若干内傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦に整っており、長軸両端と中央部に柱穴状ピットを持つ。長軸両端に位置する柱穴状ピットは径15～18cm、土坑底面からの深さが50cmである。中央部に位置するピットは径35cm、深さは18cmで、両端に位置するピットよりも浅い。これらのピットは本土坑に伴う上部構築物を支持する柱材を設置した痕跡の可能性が高い。【埋土と堆積状況】底面直上には黒色粘土質シルト（8層）が堆積し、その上位の7層上面からは纖維明瞭な多量の炭化物片と土器片が広がりを持って出土した。これらは壁際で壁面の崩落層である4・5層に覆われ、凹地となった土坑内はさらに3層以上の流入土によって漸次埋没した状況が観察される。【重複遺構】西端部で土坑4と重複しこれを切っている。【遺構の時期】出土遺物から縄文時代中期初頭のものと思われる。【出土遺物】土器（第57図：175～195）、土坑7との遺構間接合土器（第58図：196～197）、土偶（第71・73図：401・426）、円錐状土製品（第73図：434）、石器、石製重輪具（第76図：565）。

土坑6（第20図・写真図版17）

【位置・検出状況】ⅢD15a グリッドの調査区境界に重複して位置する。V層上面でⅢ層相当土の明瞭な円形プランとして検出された。【規模・形状】平面形は2.0×1.8mの梢円形で、開口部から底面までの深さは75cmである。壁はやや内傾するがほぼ直立に近い。底面は平坦で、中央部付近に梢円形のピット（64×50cm・深さ18cm）を持つ。壁際の底面からは同様のピットは検出できなかった。【埋土と堆積状況】壁上・下半部の4層以下は自然堆積によるものと思われる。その上位の3層は纖維明瞭な炭化物片を多く含む薄層で、図示できなかったが東壁ではこれに連続する焼土ブロックのまとまりが検出されている。壁際ではこれらを自然堆積の2層が覆い、中央部に残った凹地には炭化物片・土器片・礫（拳大）を含んだ1層が堆積している。【重複遺構】なし。【遺構の時期】出土遺物から縄文時代中期初頭に属すると思わ

れる。 【出土遺物】 土器（第58図：198～203）。

土坑7（第21図・写真図版17）

【位置・検出状況】 II D16 a グリッドと II D16 t グリッドの境界に位置する。V層上面においてⅢ層相当土の明瞭な略円形プランとして検出された。 【規模・形状】 平面形は $2.1 \times 1.9\text{m}$ の梢円形で、開口部から底面までの深さは95cmである。壁は開口部下から中部付近でやや窄まるが全体的にはほぼ直立に近い。底面は平坦で、中央部付近に梢円形のビット（ $46 \times 38\text{cm}$ ・深さ24cm）を持つ。壁際の底面からは同様のビットは検出できなかった。 【埋土と堆積状況】 墓土の主体はⅢ層相当の黒褐色シルトで、上方からの流入土および壁の崩落土により底面上から4層までは自然堆積の様相を呈している。南壁寄りの4層上面では原位置を保った焼土の生成範囲（3層：上面に炭化物広がるが断面には混入しない、上部ほど赤変強く4層との境界は漸移的）が認められ、埋没途上の土坑内部で火を用いた行為があったことを示唆している。なお、この焼土は土坑精査時に断面で確認されたものであり平面範囲を記録することができなかった。これを覆う1層の下面付近からは土器片および礫がやや多量に出土した。 【重複構造】 なし。 【構造の時期】 出土遺物から縄文時代中期初頭に属すると思われる。 【出土遺物】 土器（第59図：204～210）、土坑5との連携関接合土器（第58図：196～197）。

土坑8（第21図・写真図版18）

【位置・検出状況】 II D16 t グリッドに位置する。V層上面においてⅢ層相当土の鮮明な略円形プランとして検出された。 【規模・形状】 平面形は直径2.9mの略円形で、開口部から底面までの深さは55cmである。旧地形では本遺構付近が調査区内における最高位域であったと推測され、水田造成時の削平の度合いは著しい。したがって、本来の遺構の深さは残存するそれに倍するものとみてても差し支えないであろう。壁はやや外傾して立ち上がり、底面は平坦に整っている。壁際底面には四方に1つずつ計4つの柱穴状小ビットを持つ。これらは径18cm程度、土坑底面からの深さは35～40cmである。土坑開口部からの深さはいずれも90cmで底面レベルはほぼ一致している。このほか土坑底面中央部からやや南西にそれた位置にも小ビットが検出されたが深さもきわめて浅く本遺構に付属するものであるかは不確かである。 【埋土と堆積状況】 底面直上の壁際には壁崩落層である4・5層が堆積し、これをⅢ層相当の3層が覆う。この時点で門地状となつた内部（3層上面）には炭化物片と土器片・礫が広がっており、特に北壁際では多量の焼土ブロックが伴つて遺物の密度も増している。このことは、埋没途上の土坑内部または付近において火を用いた行為が行われ、あわせて土器等の遺物が投棄されたことを示唆するものと思われる。その後、漸次1・2層が流入・堆積し埋没したものと考えられる。 【重複構造】 なし。 【構造の時期】 出土遺物から縄文時代中期初頭に属すると思われる。 【出土遺物】 土器（第59図：211～217）、石鎧、石匙、石製垂飾具（第76図：559）。

土坑9（第22図・写真図版18）

【位置・検出状況】 III D15 d グリッドに位置する。V層上面においてⅢ層相当土を含む不整形なプランとして検出した。 【規模・形状】 平面形は $2.1 \times 1.5\text{m}$ の不整梢円形で、開口部から底面までの深さは116cmである。短軸方向の横断面形は中部でやや膨らみ開口部で若干窄まった袋状を呈する。長軸方向ではほぼ直立した壁を持つ。底面は壁際のやや内側で一段深くなり中央部は浅皿状を呈する。長軸両端の底面にはそれ

それ1つずつの小ピット（径20~28cm・深さ40cm）をもつ。これらのピットは本土坑に伴う上部構築物を支持する柱材を設置した痕跡の可能性が高い。【埋土と堆積状況】底面直上に沿う6層は地山ブロックを含み小ピットの埋土にも切られていることから、本造構築時に底面に均された貼床状のものと思われ。本層上面が使用段階の底面と考えられる。2・4層は壁面からの崩落土、1・3層は上方から流入したⅢ層相当の黒褐色土である。本遺構の壁面は、上部にわずかなV層（粘土層）がみられるほかは、ほとんどの部分でさらに下位の地山構成砂層Ⅶ層が露出しており、きわめて不安定な状態となっている。したがって、埋土の大半が壁崩落土で占められ、壁面中部が膨らみオーバーハングしていることもこれによるものと理解できる。

【重複遺構】なし。【遺構の時期】周辺の類似する土坑が縄文時代中期初頭に属すると考えられるところから、本遺構も同様の時期に属する可能性が高い。【出土遺物】土器（第59図：218~219）、土偶（第71・72図：402・412）、石鏃、敲磨器類。

土坑10（第22図・写真図版18）

【位置・検出状況】Ⅲ D16c グリッドに位置する。V層上面においてⅢ層相当土を含む不整形なプランとして検出した。【規模・形状】開口部の平面形は2.7×2.1mの楕円形であるが底面範囲は略円形を呈しており、埋没前は円形に近い形状であったと考えられる。開口部から底面までの深さは75cmである。壁はやや外傾するがほぼ直立に近い。壁面が地山砂層となる箇所は部分的に抉れ不安定な状況となる。底面は平坦に整っている。【埋土と堆積状況】1・3・5・6・8層は壁の崩落土、これらに挟まれる2・4・7層は上方から流入したⅢ層相当土である。土坑9と同様に壁面の多くの部分が不安定な地山砂層となっており、壁の崩落は激しかったものと推測される。遺物を含むのは4層に限定される。【重複遺構】なし。【遺構の時期】出土遺物から縄文時代中期初頭に属すると思われる。【出土遺物】土器（第60・61図：220~223・232）。

土坑11（第22図・写真図版19）

【位置・検出状況】Ⅲ D17b グリッドに位置する。か跡10・11・12関連の住居跡床面状の半坦面（V~Ⅵ層面）で明瞭なプランを確認した。【規模・形状】開口部の平面形は1.7×1.4mの不整形円形であるが、開口部のすぐ下からは比較的整った円筒形を呈する。底面までの深さは120cmを測る。壁は崩落によりやや外傾するが本来はほぼ直立に近かったものと思われる。底面は平坦に整っている。【埋土と堆積状況】壁面には地山砂層が露出しており、これの崩落によって埋土下部は短期間のうちに堆積したものと思われる（5~8層）。半埋没の凹地となった後、上方から流入したと思われる黒褐色シルト主体の層が漸次堆積している。埋土上部には土器片、炭化物等が含む。【重複遺構】土坑12と北側で重複し、これを切っている。【遺構の時期】出土遺物から縄文時代中期初頭に属すると思われる。【出土遺物】土器（第60・61図：224~231・233）、敲磨器類。

土坑12（第22図・写真図版19）

【位置・検出状況】Ⅲ D17a グリッドに位置する。土坑11の壁面、およびか跡10・11・12関連住居跡の壁と思われる面で埋土の一部が確認された。埋土と地山土との識別はきわめて困難であり、存在を確認したものの完掘するまでプランは判然としなかった。【規模・形状】平面形は直径約2.3mの略円形で、底面ま

での深さは90cmである。壁はやや外傾するがほぼ直立に近い。底面は平坦で地山砂層が露出している。

【埋土と堆積状況】 残存するのは底面付近及び西側壁際の墨土のみであり詳細は不明であるが、底面・壁際下部には壁崩落に伴う地山土主体のブロック層が堆積しており、他の土坑と同様の埋没状況であったと推測される。
【重複遺構】 土坑口と南側で重複しこれに切られている。また、炉跡10・11・12関連の住居跡床面状の平坦面（V～VI層面）で明瞭なプランを確認した。
【規模・形状】 平面形は1.7×1.5mの略円形で、開口部から底面までの深さは100cmである。壁は上端でやや広がるが、以下は底面からわずかに内傾して立ち上がる。ほぼ平坦に整った底面を有する。
【埋土と堆積状況】 壁際にはⅢ層相当黒褐色土（10層）がわずかに堆積した後、底面は底面から流出した地山砂（9層）に薄く覆われている。この上位には土器片・炭片を多く含む8層が堆積するが、その後壁はすり落ちるよう大きくなれて（7a～7f層）土坑は掘り鉢状の凹地となり、ここにⅢ層相当の黒褐色土が上方から流入し、埋没し終えたものと思われる。なお、埋土上部の2層は全体に焼土を含んで赤味を帯び、織維の明瞭な炭片の混入も顕著であることから、土坑付近において火を用いた何らかの行為がなされた後、半埋没段階の土坑内に投棄された土である可能性が高いと思われる。1層にも同様に織維の明瞭な炭片が多く含まれている。
【重複遺構】 西側に土坑11・12が近接するが直接の重複関係はない。また炉跡10・11・12関連の住居跡と重複する可能性があるが新旧関係は確認できなかった。

土坑13（第23図・写真図版19）

【位置・検出状況】 ⅢD17a グリッドに位置する。炉跡10・11・12関連の住居跡床面状の平坦面（V～VI層面）で明瞭なプランを確認した。
【規模・形状】 平面形は1.7×1.5mの略円形で、開口部から底面までの深さは100cmである。壁は上端でやや広がるが、以下は底面からわずかに内傾して立ち上がる。ほぼ平坦に整った底面を有する。
【埋土と堆積状況】 壁際にはⅢ層相当黒褐色土（10層）がわずかに堆積した後、底面は底面から流出した地山砂（9層）に薄く覆われている。この上位には土器片・炭片を多く含む8層が堆積するが、その後壁はすり落ちるよう大きくなれて（7a～7f層）土坑は掘り鉢状の凹地となり、ここにⅢ層相当の黒褐色土が上方から流入し、埋没し終えたものと思われる。なお、埋土上部の2層は全体に焼土を含んで赤味を帯び、織維の明瞭な炭片の混入も顕著であることから、土坑付近において火を用いた何らかの行為がなされた後、半埋没段階の土坑内に投棄された土である可能性が高いと思われる。1層にも同様に織維の明瞭な炭片が多く含まれている。
【重複遺構】 西側に土坑11・12が近接するが直接の重複関係はない。また炉跡10・11・12関連の住居跡と重複する可能性があるが新旧関係は確認できなかった。

【遺構の時期】 土坑底面付近の出土遺物から縄文時代中期初頭に属するとと思われる。
【出土遺物】 土器（第61図：234～236）。

土坑14（第23図・写真図版19）

【位置・検出状況】 ⅢD16e グリッドに位置する。IV層上面においてⅢ層相当上の不鮮明な円形プランとして検出された。
【規模・形状】 平面形は直径1.3mの略円形で、開口部から底面までの深さは90cmである。壁はやや外傾するがほぼ直立に近い。東壁側がやや内傾している。底面はほぼ平坦で地山砂礫層が露出している。
【埋土と堆積状況】 壁崩落土及び上方からの流入土によりレンズ状の堆積状況を呈する。埋土下部の6層及び9層は焼土ブロック層であり、土坑付近において火を用いた何らかの行為がなされた後、半埋没段階の土坑内に投棄された土である可能性が高い。
【重複遺構】 北東側に土坑15が近接するが直接の重複関係はない。
【遺構の時期】 埋土から縄文時代前期末葉～中期初頭に属するとと思われる。

【出土遺物】 縄文土器細片（不掲載）、石匙、斧形石製品（第76図：566）。

土坑15（第23図・写真図版19）

【位置・検出状況】 ⅢD17a グリッド杭付近に位置する。IV層上面においてⅢ層相当上の不鮮明な円形プランとして検出された。
【規模・形状】 平面形は直径1.1mの円形で、開口部から底面までの深さは80cmである。壁は底面から開口部下にかけてやや内傾して立ち上がり、上端で広がる。底面には地山砂礫層が露出し若干の凹凸がある。
【埋土と堆積状況】 底面直上に堆積する厚さ20～30cmの黒褐色粘土質シルトの

上位には、土坑外部から投げ込まれた可能性がある焼土ブロック層（5層）が堆積している。その後壁から流出したと思われる砂質シルト（4層；壁面8・9層の混上層）及び粘土質シルト（3層；壁面8層の崩落層）が壁際に堆積したことで掘り鉢状の凹地となり、漸次上方からの流入土によって埋没したものと思われる。【重複遺構】南西側に土坑14が近接するが直接の重複関係はない。【遺構の時期】埋土から縄文時代前期末葉～中期初頭に属すると思われる。【出土遺物】縄文土器細片、琥珀片。

土坑16（第24図・写真図版20）

【位置・検出状況】Ⅲ D15 j グリッドに位置する。V層上面でⅢ層相当土の鮮明な格円形プランとして検出された。【規模・形状】開口部の平面形は $2.8 \times 2.3\text{m}$ の楕円形で、開口部から底面までの深さは105cmである。壁は本来ほぼ直立に近かったと推測されるが、壁下部に露出するVI層相当の砂層が埋没過程において土坑内部に流出した結果、現状はオーバーハングした壁面となっている。底面は地山粗砂層が露出し、中央部は平坦であるが壁際に向かって徐々に高くなり全体が皿状を呈している。底面長軸両端と中央部には柱穴状の小ピット（径20~30cm）をもつ。底面からの深さは約55cmである。これらのピットは本土坑に伴う上部構築物を支持する柱材を設置した痕跡の可能性が高い。【埋土と堆積状況】底面直上から12層上面までは壁の崩落による堆積であり、廃絶後まもなく凹地状となったものと思われる。12層上面には多量の炭化物とともに土器片・剥片・礫が広がっている。これより上位には炭化物・焼土ブロックを含む層が幾重にも堆積している。断面にはかかっていないが、東南部壁際では6a層上面に被熱赤変した面を持つ人形の地山祐土ブロック（V層相当）が続成面を下にした状態で転落しているのが確認された。この地山ブロックは明らかに壁面からの崩落土であり、焼成を受けた壁面が内側に倒れ込むように崩れたものと推測される。このことは半埋没段階の土坑内部で壁面が被熱する行為、すなわち燃焼を伴う何らかの行為が行われたことを示している。また、東壁及び北壁面の上部に認められる黒褐色砂質シルトの層（16層）は堆積過程を復元する上で不自然な存在として注意される。壁面が直立している部分、すなわち埋没が終わるまで崩落をまぬがれた部分にのみ残存することを考慮すれば、壁面構築材（板材等）の痕跡である可能性が考えられる。

【重複遺構】なし。【遺構の時期】埋土の状況、出土遺物から縄文時代前期末葉～中期初頭のものと思われる。【出土遺物】土器（第62~64図：244~265・267~268）、土坑17との遺構間接合土器（第63図：266）、石器。

土坑17（第25図・写真図版21）

【位置・検出状況】Ⅲ D16 h グリッドに位置する。IV層上面においてⅢ層相当土の不鮮明な円形プランとして検出された。【規模・形状】平面形は $1.8 \times 1.5\text{m}$ の楕円形で、開口部から底面までの深さは75cmである。壁は下部で膨らみ開口部下で窄まった状態となっているが、下部の壁面は地山砂層でありオーバーハングの原因が廃絶後の壁面の流出によるものである可能性がある。底面はほぼ平坦に整っている。

【埋土と堆積状況】底面直上に上方からの流入土と思われる黒褐色シルト（10層）が堆積した後、壁面の崩落によって壁際が埋まり（7・9層）門地となっている。その後漸次上方からのⅢ層相当の黒褐色シルトが流入し埋没し終えたものと思われる。埋土中部の5層には灰片および焼土ブロックがやや多く混入している。【重複遺構】なし。【遺構の時期】埋土から縄文時代前期末葉～中期初頭に属すると思われる。

【出土遺物】上器（第61図：269~272）、土坑16との遺構間接合土器（第63図：266）、蔽庇器類、石製工具（第76図：563）。

土坑18（第25図・写真図版21）

【位置・検出状況】 III D 12 k グリッドに位置する。住居跡1の検出時に遺物・礫等が周囲よりやや密に分布する範囲として認識したものの、住居跡1の床面に至るまでプランは判然としなかった。住居跡1の床面積査によって黒褐色シルトが落ち込んでいる不整形な範囲として把握され、重複する土坑であることが確認された。

【規模・形状】 開口部の平面形は $2.0 \times 1.6\text{m}$ の不整格円形であるが、下方に向かって漏斗状に窄まり、検出面（住居跡1床面）から約50cmで最も窄まって直径約90cmの円形となる。これから下の壁面は再び広がってフ拉斯コ状を呈し、 $1.7 \times 1.4\text{m}$ の楕円形を呈する平坦な底面へと連続している。開口部から底面までの深さは150cmである。

【埋土と堆積状況】 底面中央部のやや北寄りでは径30~40cmの4つの礫がまとまって出土している。埋土下半部については作業に危険が伴うため断面記録を作成できなかったが、IV層相当の黒褐色粘土質シルト（断面図3層）主体の層であった。上記の礫以外に出土遺物はなく、おそらく壁上部のIV層相当層が崩落するなどして3層上面までは比較的短時間に埋没したものと推測される。2層は原位置を保った焼土で、半埋没段階の底面で燃焼を伴う行為が行われたことを示している。これを覆う1層には土器片・炭片・小砾が目立ち、断面に自然堆積であることを示す特徴（レンズ状堆積等）が認められないことから、人為的に一気に埋められたものである可能性が高い。

【重複遺構】 住居跡1中央部の北壁寄りに位置しており、遺物の出土状況等からこれを切っている可能性が高いと判断した。

【遺構の時期】 墓上からの出土遺物及び住居跡1との重複関係から縄文時代中期初頭に属すると思われる。

【出土遺物】 土器（第64~65図：273~289）、土偶（第72図：418）、石鎌、石匙。

土坑19（第25図・写真図版21）

【位置・検出状況】 II E 2 t グリッドに位置する。V層上面においてIII層相当上の不鮮明な円形プランとして検出された。

【規模・形状】 開口部の平面形は直径1.3mの略円形だが、10~20cmで径1.1mの円形に窄まり、これよりしたでは再び袋状に大きく広がって、径2.0mの円形を呈する底面へと連続する。開口部から底面までの深さは1.2mで、底面中央に径25cmの小ピット1基を持つ。

【埋土と堆積状況】 壁面を構成する地山は下半が粗粒の砂層、上半が砂質シルトで、底面は壁下部から流出した粗砂の再堆積層に覆われている。9~5層は土器片・焼土・炭片・小砾などを多く含んでおり、開口部直下の底面中央部に盛り上がるよう堆積していることから、土坑発掘後に上部から人為的に投棄されたものと判断される。墓上部の大半を占める4層は土器片と被熱した礫を多量に含むが、これを細分する層界は認められず、堆積が人為・自然のいずれによるものかは判別できなかった。3層は、4層の堆積が進む過程で、壁面上部の砂質シルト層が崩落したものである。その後1層が上方から流入することで埋没を終えたものと思われる。

【重複遺構】 なし。

【遺構の時期】 出土遺物から縄文時代中期初頭に属すると思われる。

【出土遺物】 土器（第65~69図：290~321）、石鎌、敲磨器類。

土坑20（第26図・写真図版21）

【位置・検出状況】 III E 2 e グリッドに位置する。VI層上面においてIII層に類似する黒色砂質土の比較的鮮明な円形プランとして検出された。

【規模・形状】 平面形は直径0.9mの略円形で、開口部から底面までの深さは10cmである。浅皿状の断面形を呈する。

【埋土と堆積状況】 埋土の主体は黒色砂質シルトで、底面付近に地山黄褐色砂のブロックを少量含む。自然堆積によるものと判断される。

【重複遺構】 南側で土坑21に近接するが直接の重複関係ではない。

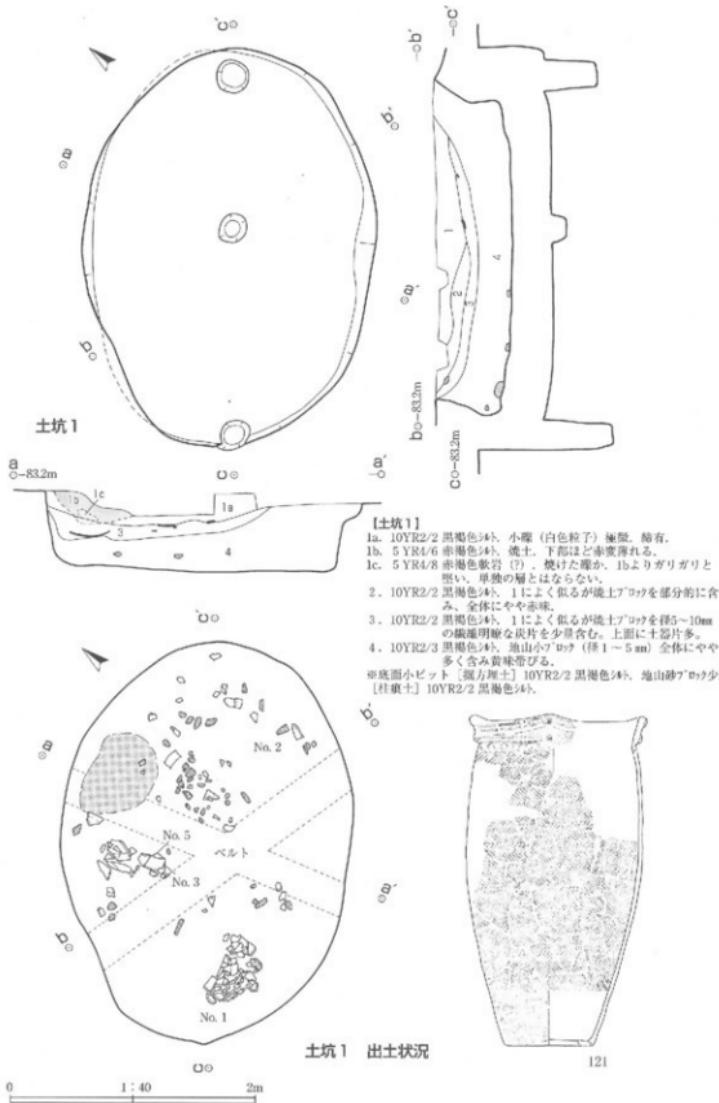
【遺構の時期】 埋土がIII層に類似するため縄文時代の

遺構である可能性があるが、規模・形狀等が他の土坑と異なり、出土遺物もないことから詳細な時期は不明とせざるを得ない。【出土遺物】なし。

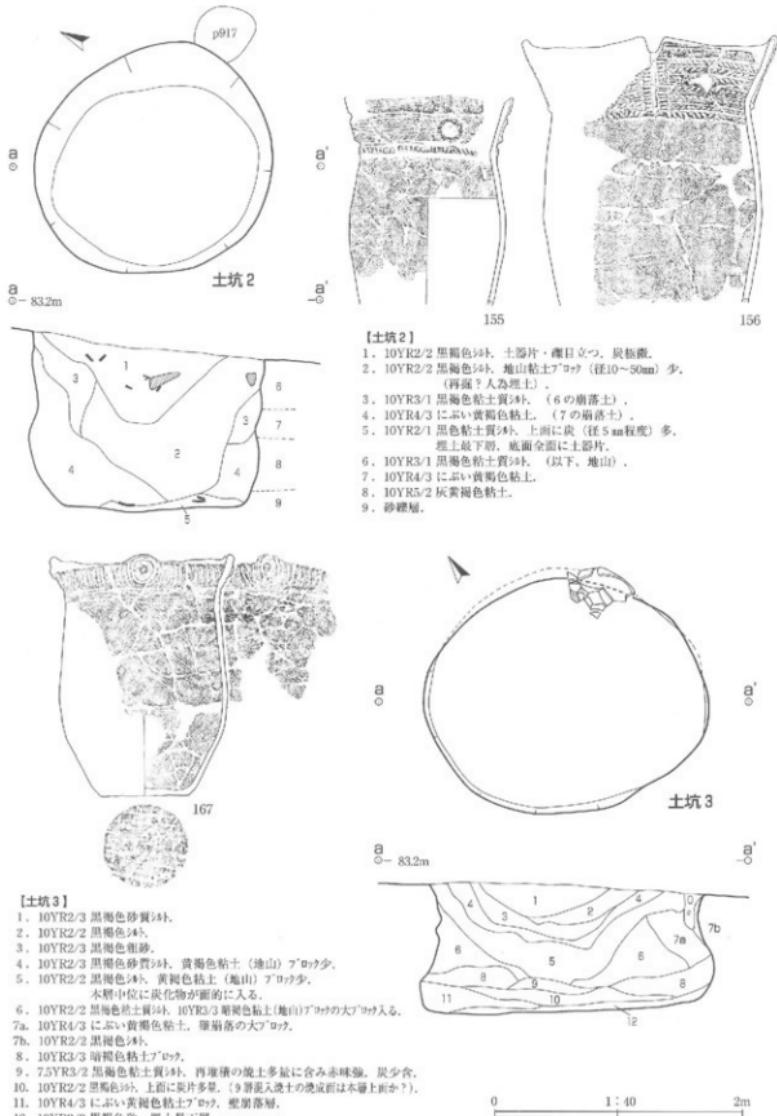
土坑21（第26図・写真図版21）

【位置・検出状況】Ⅲ E 2 e グリッドに位置する。VI層上面においてⅢ層に類似する黒色砂質土の比較的鮮明な円形プランとして検出された。【規模・形状】平面形は直径1.0mの略円形で、開口部から底面までの深さは15cmである。浅皿状の断面形を呈する。底面には小規模な凹凸がある。【埋土と堆積状況】

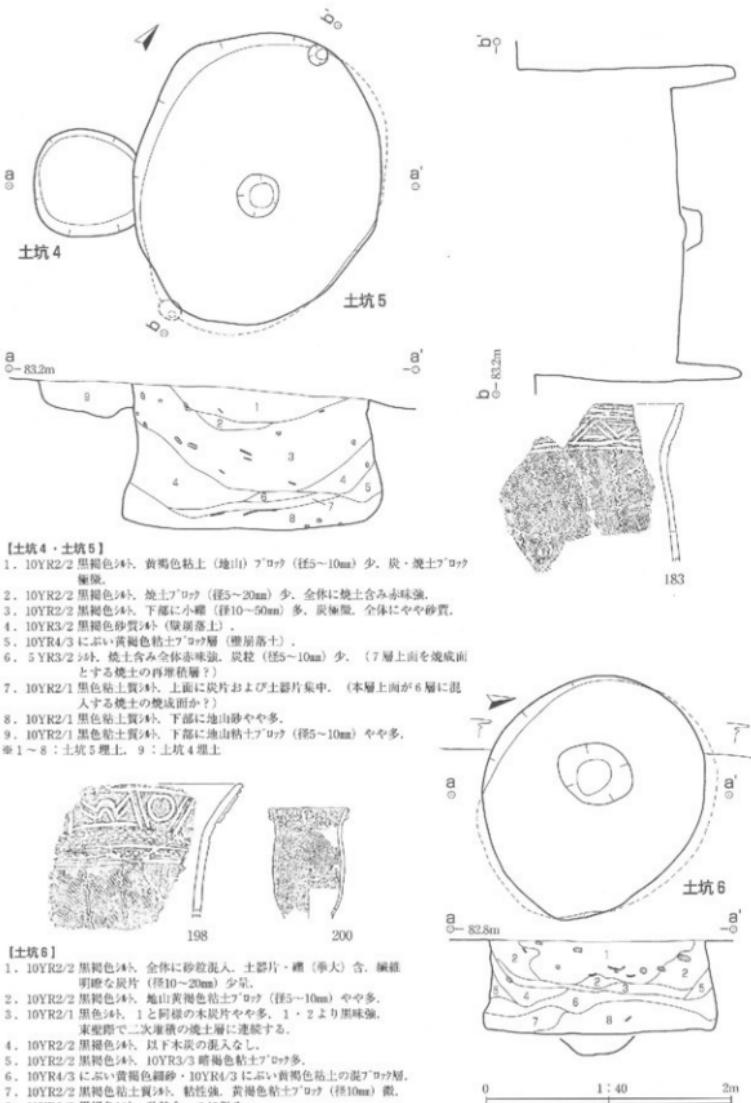
埋土の主体は黒色砂質シルトで、底面付近に地山黄褐色砂のブロックを少量含む。自然堆積によるものと判断される。【重複遺構】柱穴 p506と重複するが、新旧関係は不明である。【遺構の時期】埋土がⅢ層に類似するため縄文時代の遺構である可能性があるが、規模・形狀等が他の土坑と異なり、出土遺物もないことから詳細な時期は不明とせざるを得ない。【出土遺物】なし。



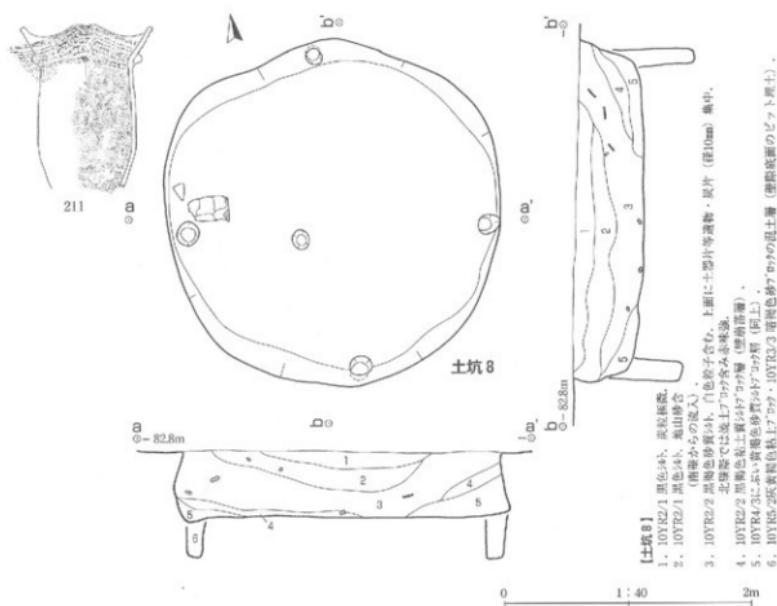
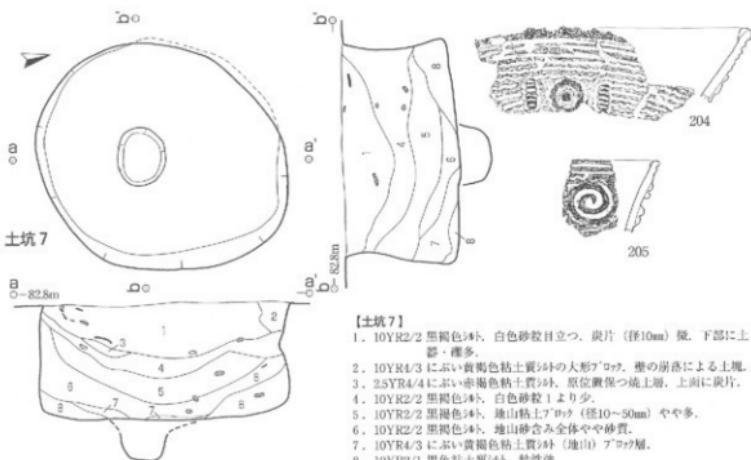
第18図 土坑(1)



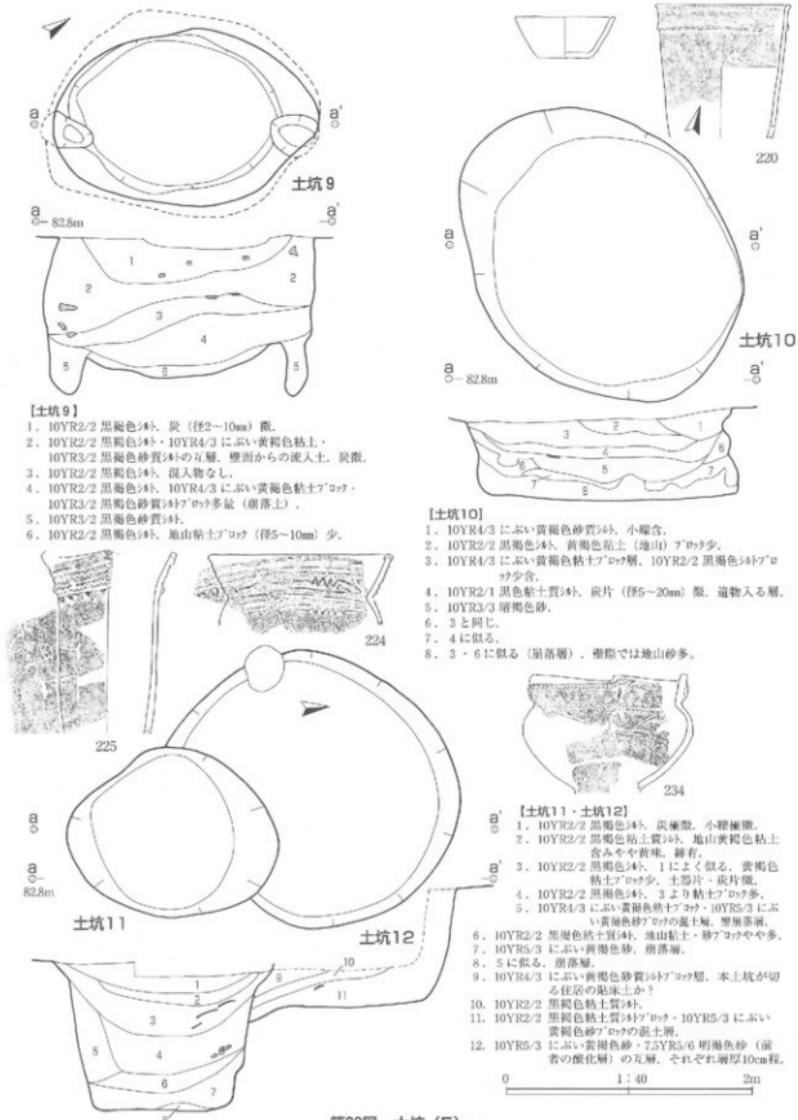
第19図 土坑(2)



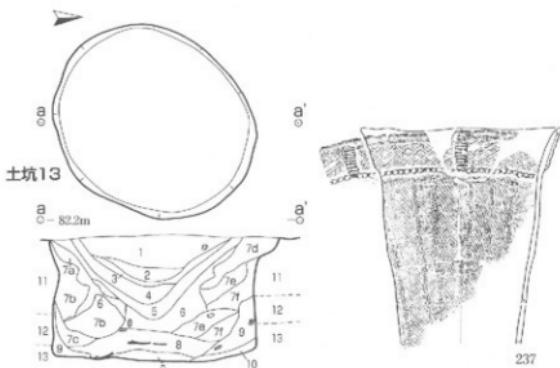
第20図 土坑（3）



第21図 土坑(4)

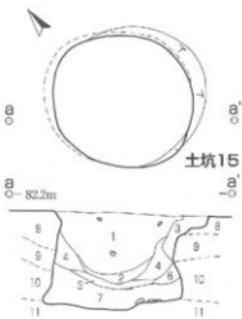


第22図 土坑(5)



[土坑13]

1. 10YR2/2 黒褐色砂質土。径5~10mmの炭片（鐵鋸削留）微量含。
2. 5 YR3/2 緩赤褐色砂土。径5~10mmの炭片（鐵鋸削留）微量含。
3. 10YR2/2 黒褐色砂土。1に似るが灰合はない。全体やや砂質。
4. 10YR2/2 黒褐色粘土質砂。粘性有。無有。地山粘土より灰状に含む。
5. 10YR3/2 黒褐色砂質土。池山賞褐色砂ブロック・10YR2/2黒褐色砂ブロックや多。全体黄味。
6. 10YR3/2 黒褐色砂質土。小塊点在。
- 7a. 10YR2/2 黑褐色粘土質砂。
- 7b. 10YR3/2 喀褐色粘土質砂。
- 7c. 10YR3/2 黑褐色粘土質砂。黄褐色粘土ブロック少。
- 7d. 10YR3/2 黑褐色粘土質砂。7aに酷似。
- 7e. 10YR2/1 黑褐色砂。
- 7f. 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土。
8. 10YR2/2 黑褐色粘土質砂。遺物、炭片多量に含む。
9. 10YR3/3 喀褐色砂。表面直下山砂層から流入。
10. 10YR2/2 黑褐色砂。
11. 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土以下地山。
12. 10YR4/2 灰黄褐色砂礫層。
13. 10YR7/3 にぶい黄褐色粘土。12との境界面は75YR5/8明褐色に変色。



[土坑15]

1. 10YR2/3 黑褐色砂質土。
2. 10YR2/1 黑褐色。
3. 10YR2/2 黑褐色粘土質砂土。地山粘土ブロック含。
4. 10YR2/3 黑褐色砂質土。1より黑味。
5. 5 YR3/4 灰土7.5%層。炭片少。
6. 10YR2/1 黑褐色砂。
7. 10YR2/1 黑褐色粘土質砂土。土壌片・炭片少。
8. 10YR2/2 黑褐色粘土質砂土。
9. 10YR4/4 黄褐色粘土。
10. 10YR2/3 黑褐色砂。
11. 硫酸 (径5~10mm)。

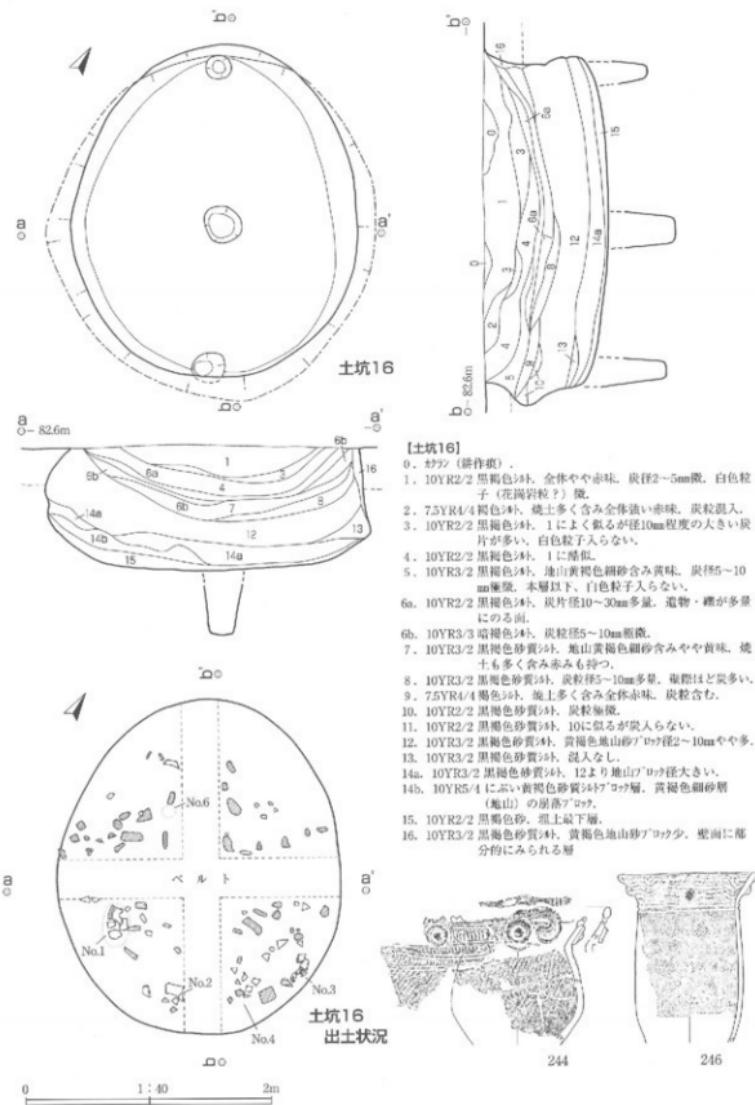
0 1 : 40 2m



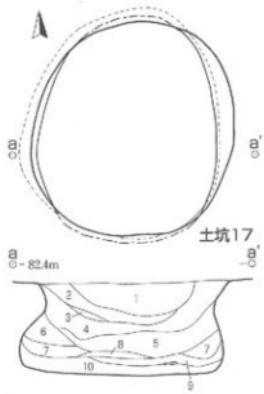
[土坑14]

1. 10YR2/3 黑褐色砂質土。小塊・黄褐色砂含。
2. 10YR2/1 黑褐色砂。10YR2/3 黑褐色砂質土。地山黄褐色砂の薄層挟む。1より黑味強。
3. 10YR2/1 黑褐色。
4. 10YR2/1 黑褐色砂。池山賞褐色砂ブロック多。
5. 10YR2/1 黑褐色粘土質砂。
6. 5 YR3/4 烧土ブロック (再堆積) 層。炭片やや多。
7. 10YR2/1 黑褐色砂。炭片少。
8. 5 YR3/4 烧土ブロック (再堆積) 层。炭片少。
9. 10YR2/1 黑褐色粘土質砂。

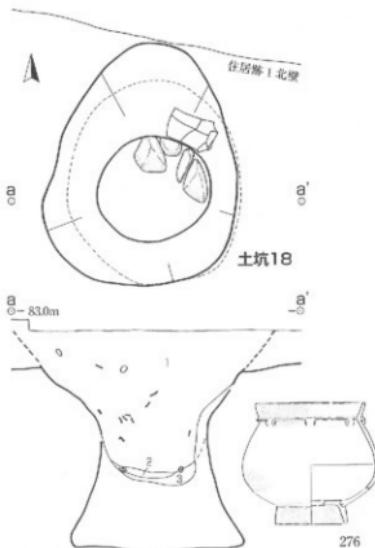
第23図 土坑(6)



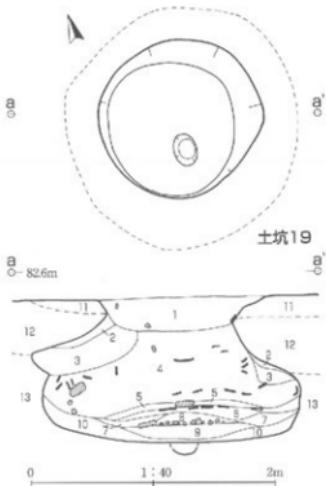
第24図 土坑(7)



- [土坑17]**
- 10YR2/3 黒褐色沙。
 - 10YR2/3 黒褐色沙。炭少。
 - 10YR2/3 黒褐色砂質沙。黄褐色地山粘土含み黄味。
 - 10YR2/2 黑褐色沙。地山砂少。
 - 10YR2/3 黑褐色砂質沙。炭・燒土粒や多。
 - 10YR2/3 黑褐色砂質沙。
 - 地山7.3層。
 - 10YR2/3 黑褐色沙。砂・小礫含。
 - 10YR2/2 黑褐色沙。地山砂少量含みやや黄味。
 - 10YR2/2 黑褐色沙。粘性有。

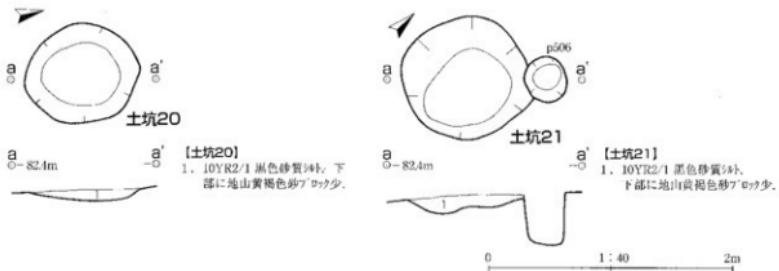


- [土坑18]**
- 10YR2/2 黒褐色沙。土器片少。小礫微。炭潤湿なく微。
 - 5 YR4/4 にい赤褐色土上。
 - 10YR2/2 黑褐色粘土質沙。
 - ※以下の縄土記録なし。



- [土坑19]**
- 10YR2/3 黒褐色沙。炭粒屢見。
 - 10YR2/2 黒褐色沙。黄褐色沙（地山）アロカ少。
 - 120cm 厚土上。
 - 10YR2/2 黒褐色沙。炭粒屢（1より多）。土器片・焼土量に含。
 - 10YR2/2 黑褐色沙。黄褐色沙（地山）アロカ多。
 - 10YR2/2 黒褐色沙。黄褐色沙（地山）アロカ少。上面に土器片多。
 - 12・13の崩落アロカ層。
 - 10YR2/3 黒褐色砂質沙。小礫多。
 - 7.5YR2/3 棕褐色砂質沙。全体に赤味強。炭片少。繩欠く。
 - 130cm 厚崩落。
 - 10YR2/2 黑褐色砂質沙。12の上部が汚れた層（12への崩落層）。
 - 10YR4/4 棕褐色砂質沙。以下地山。
 - 10YR4/3 ない赤橙色沙。六角状の堆積。薄層間が酸化し緑状に赤味。

第25図 土坑（8）



第26図 土坑(9)

④陥し穴状遺構

楕円形の陥し穴状遺構 (表3・第27~31図・写真図版22~26)

A区の北端中央部～南北隔壁部を貫く沢跡の両縁に沿って連なるように分布しており、計31基（陥穴1～31）が検出された。開口部の平面形は楕円形であるが、下部に向かって捕鉢状に狭まり、壇中部から下は長方形の箱形を呈する。長軸方向はいずれも沢跡に向かって下る傾斜方向と平行（等高線と直交）する。本米の検出面はIV層上面であるが、後世の造成等によりV層上面が検出面となった陥穴6～17は、上部を削平されたため開口部が長方形を呈する。表3には個別の「開口部の長さ・幅」、「底面の長さ・幅」、「検出面からの深度」を示した。削平の影響がない底面規模に着目すると、底面の長さが100～160cm、幅が30～60cmの範囲に大半が収まっている。

31基中22基では底面に小ビットが確認され、このうち18基は2個1対の小ビットを有する。底面には地山砂層が露出しているため底面ビットのプランを識別することは困難な場合も多かった。従って、底面ビットが1個のみ検出されたもの及び1つも確認されなかったもの、本米は2個1対の底面ビットを有していた可能性が高い。陥穴4の底面ビット内からは礫が詰められたような状態で出土した。陥穴4の底面は地山の砂礫層で不安定な状態であることから、おそらくビット内に設置された杭状材（逆茂木？）の固定を意図したものと推定される。

堆積状況もまた極めて共通性が高く、ほとんどの場合、底面直上にはまず上方からの流入土と思われる黒色～黒褐色シルト（IV層相当）の薄層がほぼ水平に堆積し、その上を数次の壁崩落層（地山ブロック層）が厚く覆っている。削平の度合いが少ないものでは坪土の上部が残存しており、皿状の凹地と化した開口部付近にⅢ層相当土が堆積している状況が観察された。遺物は埋土最上部にあたるこのⅢ層相当土から出土するのみであり、遺構が構築され機能していた時期を示す出土遺物はなかった。だが、土壤の流入・堆積量が豊富であったと推測される沢沿いに立地しながらも、縄文時代前期木葉～中期初頭の遺物を包含するⅢ層が堆積し始める段階に門地としてその痕跡が残存していたことを考慮すれば、Ⅲ層堆積開始時期より大きくなっているものとは考えにくいであろう。

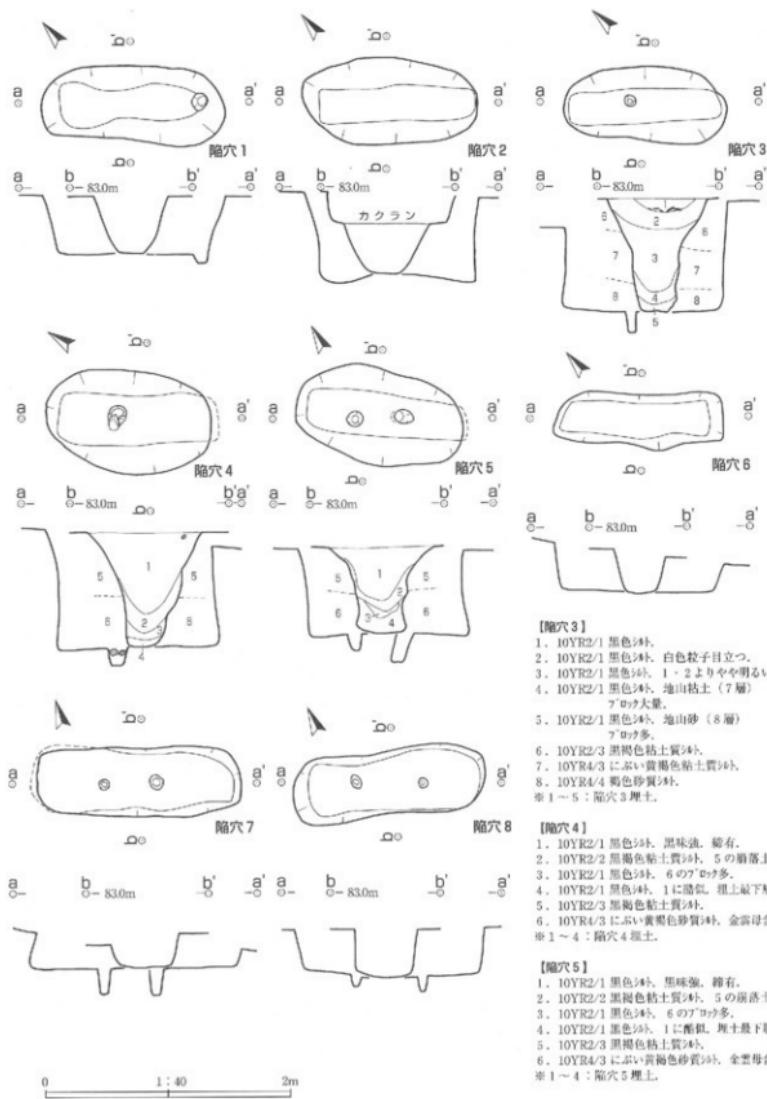
なお、これらの遺構を「陥し穴状遺構」として扱ったが、今回の調査ではその性格を裏付ける根拠は見いだせていない。いずれにせよ、同様の形状と規模を有し、同一線上に一定の間隔をおいて整然と配列されたものと判断されることから、集合体として機能することを期待され同時に構築されたものと考えられる。

溝状の陥し穴状遺構（表3・第32図・写真図版26）

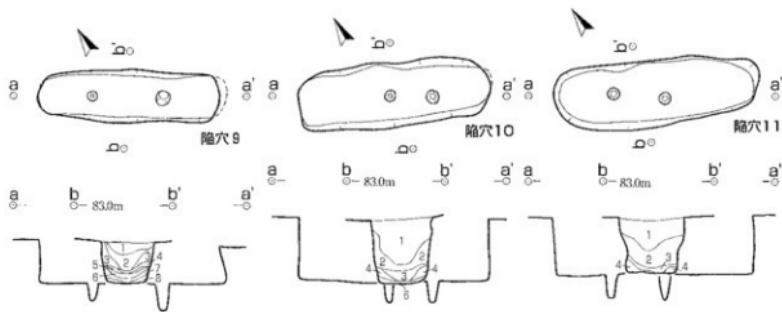
計4基（陥穴32～35）が検出されている。上の楕円形陥し穴状遺構と同様A区中央部沢跡の縁に分布し、長軸方向もほぼ傾斜方向に沿っているが、互いの配置には規則性や連続性などの相関関係は認められない。検出面はIV層中位以下、埋土の主体は上方から流入したIV層相当の黒色土で、数次の堆積の間に壁崩落土が挟在する。陥穴35の埋土上面からは土器片（第70回：328）が出土しているが、上方から混入したものである可能性が高く、遺構の時期を示すものとは言い難い。具体的な構築時期は不明であるが、検出面や埋土から楕円形の陥し穴状遺構よりも古い存在であると判断される。

表3 陥し穴状遺構一覧

遺構名	形態	位 置	開口部長 (cm)	開口部幅 (cm)	底面長 (cm)	底面幅 (cm)	底面幅 (cm)	深さ (cm)	底面ピット (個数)	備 考	復元断面図
陥穴1	楕円	■D11 g	150	62	114	30	48	1			
陥穴2	楕円	■D11 g	144	72	128	30	70	—			
陥穴3	楕円	■D12 g	134	63	126	39	94	1	出土土器（第70回：322）	有	
陥穴4	楕円	■D13 f	136	86	130	42	102	1	底面ピット内に疊存有り	有	
陥穴5	楕円	■D13 e	138	80	132	36	72	2		有	
陥穴6	楕円	■D15 d	136	47	120	30	38	—			
陥穴7	楕円	■D16 c	166	60	164	46	28	2			
陥穴8	楕円	■D16 c	157	57	140	49	38	2			
陥穴9	楕円	■D16 b	148	44	153	34	35	2			
陥穴10	楕円	■D16 b	157	56	158	55	53	2		有	
陥穴11	楕円	■D16 b	167	56	158	47	46	2		有	
陥穴12	楕円	■D16 a	142	50	160	44	49	2		有	
陥穴13	楕円	■D16 a	148	52	141	41	50	2		有	
陥穴14	楕円	■D17 t	126	58	111	46	27	—			
陥穴15	楕円	■D17 t	121	43	101	25	8				
陥穴16	楕円	■D17 t	91	34	70	14	27	—			
陥穴17	楕円	■D17 s	101	39	75	22	50	—			
陥穴18	楕円	■D13 k	148	99	124	67	59	2			
陥穴19	楕円	■D13 k	157	93	—	80	73	2			
陥穴20	楕円	■D14 i	123	56	115	42	43	—			
陥穴21	楕円	■D15 i	150	77	132	46	53				
陥穴22	楕円	■D15 h	140	69	141	55	37	2			
陥穴23	楕円	■D18 e	173	110	125	44	101	2	出土土器（第70回：323）		
陥穴24	楕円	■D19 d	169	109	108	36	95	2	出土土器（第70回：324）	有	
陥穴25	楕円	■D20 c	168	99	98	29	90	2			
陥穴26	楕円	■D20 c	160	73	127	38	91	2			
陥穴27	楕円	■D20 b	157	74	125	35	84	2	出土土器（第70回：325・326）		
陥穴28	楕円	■D20 b	141	70	108	26	74	1		右	
陥穴29	楕円	■E 1 a	180	86	145	39	83	2			
陥穴30	楕円	■E 1 t	164	63	148	27	74	—			
陥穴31	楕円	■E 1 t	184	96	154	42	76	2	出土土器（第70回：327）		
陥穴32	椭状	■D14 f	302	58	274	32	46	—			
陥穴33	椭状	■D18 g	338	52	330	26	48	2			
陥穴34	椭状	■D17 f	202	41	188	15	100	—		有	
陥穴35	椭状	■E 3 a	254	47	230	12	66	—	出土土器（第70回：328）	有	



第27図 陷穴状造構 (1)



【隠穴9】

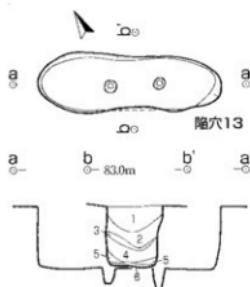
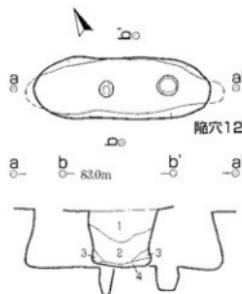
1. 10YR2/2 黒褐色粘土質シット、地山粘土
ブロッケや多。
2. 10YR2/2 黒褐色粘土質シットブロッケ。
3. 10YR4/6 深色粘土質シットの混土層。
4. 10YR2/2 黒褐色粘土質シット。
5. 10YR2/1 黒色シット、地山ブロッケ多。
6. 10YR2/2 黒褐色粘土質シットブロッケ。
7. 10YR4/6 深色粘土質シット。
8. 10YR2/1 黒色シット、地山粘土上ブロッケ。

【隠穴10】

1. 10YR2/2 黒褐色粘土質シットブロッケ。
10YR2/1 黒色シットシット・10YR4/6 深
色粘土質シットの混土層。
2. 10YR4/6 深色粘土。
3. 10YR2/1 黑色シット、地山粘土ブロッケ
(深10cm) 少。
4. 10YR4/6 深色粘土上ブロッケ層。
5. 10YR2/1 黑色粘土質シット。

【隠穴11】

1. 10YR2/1 黑色シット、10YR4/6 深色粘土
ブロッケ・10YR2/2 黒褐色粘土
質シットブロッケや多。
2. 10YR4/6 深色粘土(地山) ブロッケ層。
3. 10YR2/1 黑色シット。
4. 10YR2/1 黑色シット、10YR4/6 深色粘土
(地山) ブロッケ多。



【隠穴12】

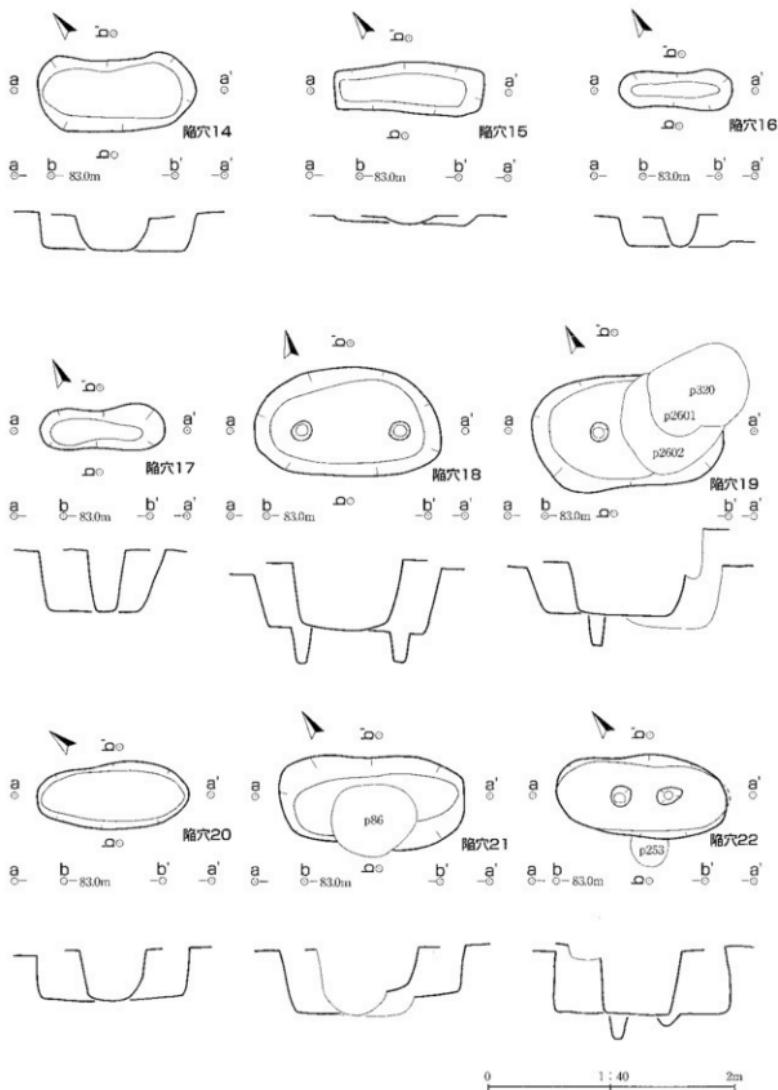
1. 10YR2/1 黑色シット、10YR4/6 深色粘土ブロッケ。
2. 10YR2/2 黒褐色粘土質シットブロッケや多。
3. 10YR4/6 深色粘土(地山) ブロッケ層。
3. 10YR4/4 深色砂(地山崩落層)。
4. 10YR2/1 黑色シット。

【隠穴13】

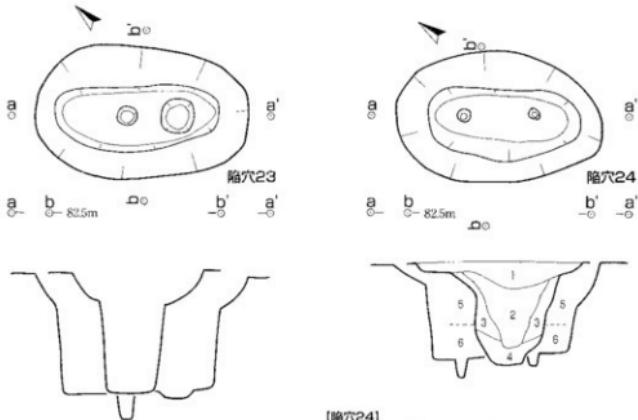
1. 10YR2/1 黑色シット、10YR4/6 深色粘土ブロッケ・10YR2/2 黑
色粘土質シットブロッケや多。
2. 10YR4/6 深色粘土(地山) ブロッケや多。
3. 10YR2/1 黑色シット、10YR4/6 深色粘土(地山) ブロッケや多。
4. 10YR4/6 深色粘土(地山) ブロッケ層。
5. 10YR2/1 黑色シット、10YR4/6 深色粘土(地山) ブロッケ層。
6. 10YR2/1 黑色シット。

0 1:40 2m

第28図 隠し穴状遺構(2)

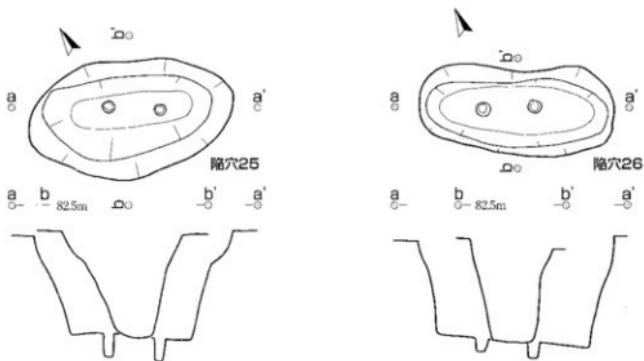


第29図 陥し穴状造構 (3)



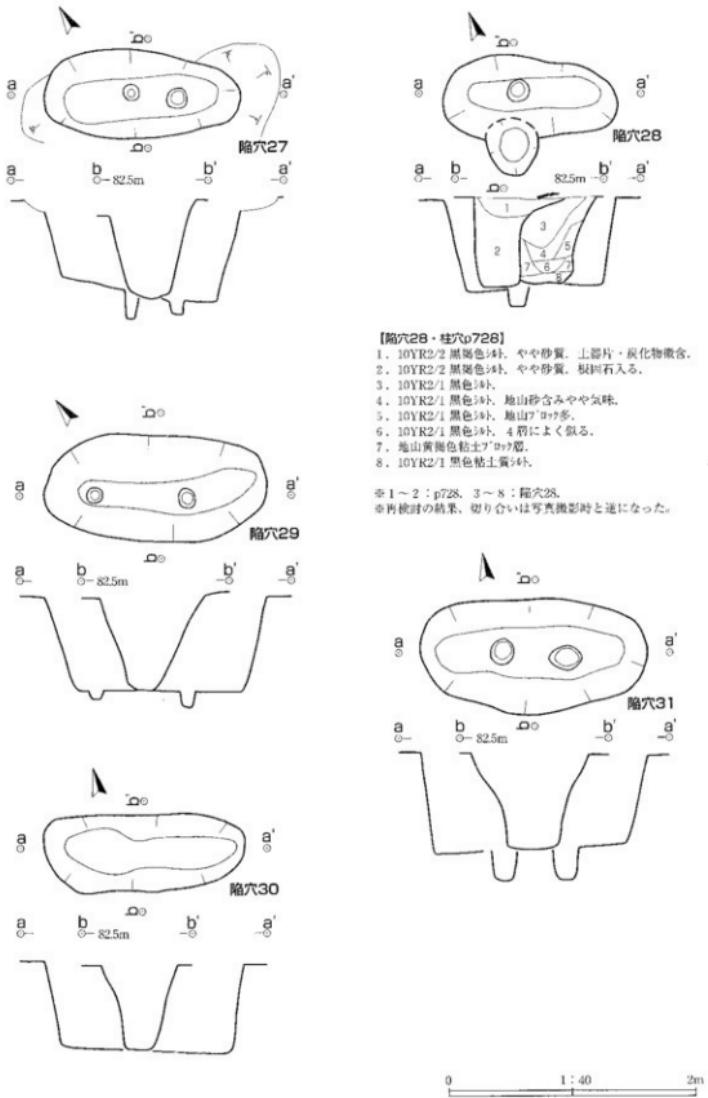
[陷穴24]

1. 10YR2/2 黒褐色シト。土器粒・炭粒微。2 より明るい。
2. 10YR2/1 黒色シト。黒っぽい。
3. 10YR2/1 黑色シト。地山黄褐色粘土"ワッカ"層。崩落土。
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色シト"ワッカ"層。5 (地山層) の崩落層。
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シト。以下地山。
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色シト。

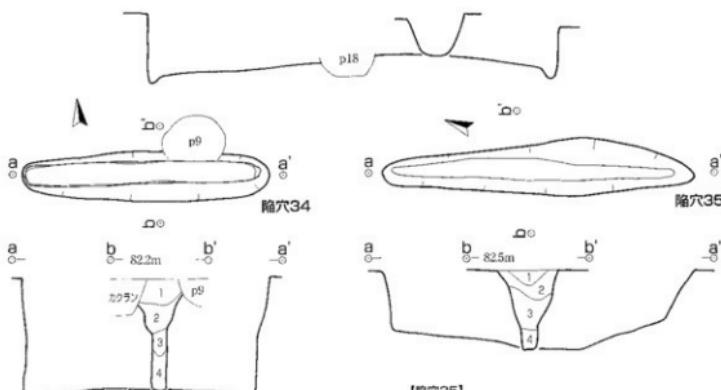
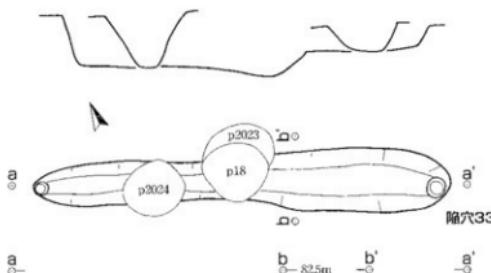
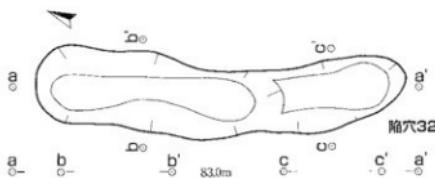


0 1 : 40 2m

第30図 陷穴状構造 (4)



第31図 隠し穴状遺構(5)



【陷穴35】

1. 10YR2/2 黑褐色砂質沙土。
2. 10YR2/2 黑褐色砂質沙土、地山黃褐色沙。
3. 10YR5/6 黄褐色沙。
4. 10YR3/2 黑褐色砂質沙土。

0 1:40 2m

第32図 陥し穴状遺構 (6)

⑥土器埋設遺構（第33図・写真図版27）

土器埋設遺構1

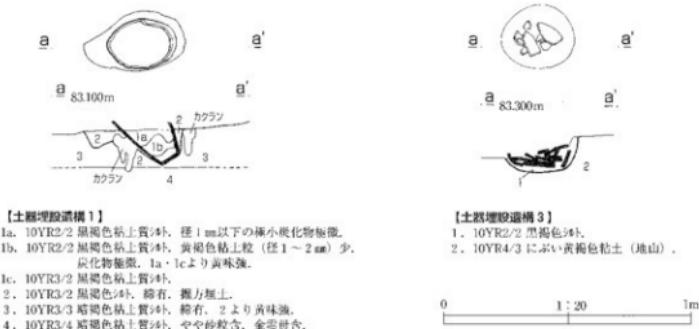
III D14 d グリッドに位置し、土坑3の北部に近接している。V層上面で検出された。口縁部側を北西に向け、深鉢形土器を斜位に埋設したものである。上部は大きく削平を受け、検出面では土器の輪郭が梢円形を呈している。埋設のための掘り方は、底部側で垂直に、口縁部側では器底の傾斜に沿っている。土器内部の埋土は1a~1cに細分され、中位の1b層には黄褐色粘土粒が目立つ。土器及びその周囲には被熱痕跡は認められなかった。埋設された土器は脆弱で復元できず文様も地文のみが認められる程度であったが、おおむね縄文時代中期に位置づけられるものと思われる。

土器埋設遺構2

III D15 h グリッドに位置する。中~近世の建物跡4の南部に近接し、また縄文時代の柱穴配置復元案②を構成するp52に重複して検出された。検出面はV層上面である。上器を正位に埋設したものであるが、上部は大きく削平を受け、底部付近がわずかに残存する状態であった。土器及びその周囲には被熱痕跡は認められない。なお、精査時に半数した直後、雨水によって水没し遺構全体が崩壊したため、写真以外の諸記録を作成できなかった。埋設土器は残存部位が限定されかつ脆弱であったため復元できず、帰属時期の詳細は不明である。

土器埋設遺構3

III D14 c グリッド、縄文時代の柱穴配置案⑤のプラン内部北東部に位置する。V層上面で検出された。土器を正位に埋設したものであるが、上部は大きく削平を受け、底部付近がわずかに残存する。掘り方は直径23cmの円形で底面までの深さは14センチである。土器及びその周囲には被熱痕跡は認められない。内部には胴下部の破片が崩れ込んだ状態となっていた。掘り方埋土と内部の堆積土は黒褐色シルトであり両者の境界は判然としなかった。埋設土器は胴部下半のみの残存であったため帰属時期の詳細は不明であるが概ね縄文時代中期に位置づけられる。



第33図 土器埋設遺構

(2) 中・近世

①建物跡と柱穴群（第34～40図・付図）

A区南東部には建物跡を構成すると思われる柱穴群が密集して分布する。これらの柱穴配置に検討を加え、復元案として建物跡1～18を示した。

Ⅲ D17 f 及び I7 h グリッド付近では概ね東西に長軸を持つやや大形の建物跡が重複して復元された。またこれらの西側には長軸を南北方向に持つ建物跡が位置している。このうち建物跡4（第35図・写真図版28）は柱穴配置の外周を7.0×4.2mの長方形に巡る溝状の掘り込みをもつ。溝状掘り込み部の断面を観察した結果、底面から立ち上がる幅5cm程度の痕跡が確認された。これは掘り込み内に板状の材を並べ、おそらく壁材としたものの痕跡であると推測される。

これらの柱穴の埋土は、Ⅲ層の一部が表土化してやや明るみを帯びたものと思われる黒褐色～暗褐色シルト（Ⅱ層相当？）を主体とし、Ⅳ層上面で検出されるプランも明瞭であることから、縄文時代に属する柱穴状ピットとは区別される。ただし、埋土からは帰属年代を示す遺物は出土せず、元々Ⅲ層に包含されていた縄文土器片が混入している場合が多かった。このことは、むしろこれらの柱穴群から縄文時代に属する柱穴を抽出することを困難にした。前述があれば一定量の出土が見込まれる古代の土器や近世陶磁器が調査区内から出土しないことや、復元した建物跡の形態等を考慮すれば、概ね中世末～近世初頭の年代に帰属する可能性が高いものと思われる。

(3) 時期不明

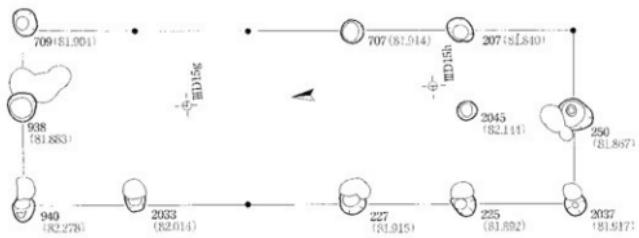
①溝 跡（付図・写真図版27）

A区東縁部は添市川に向かって急激に落ちこむ段丘崖となっている。これに沿って南北方向に走行する溝跡が検出された（溝跡1・2）。この2条の溝跡は調査区北東隅部からⅢ E 3 f グリッド付近まで直線的に走行しており、北半部で一部分岐するものの、ほぼ同位置に重複して構築されているものである。断面の観察から溝跡1が新しく溝跡2が古いことが確認された。この溝跡は南端部（Ⅲ E 3 f グリッド付近）で東西方向に走行する別の溝跡に接している。

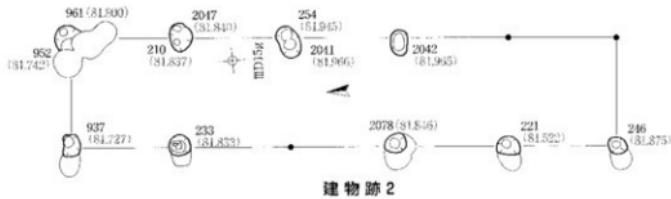
Ⅲ E 1 f ～ 2 f グリッド付近を東西方向に走行する溝跡は、Ⅲ E 3 g グリッド付近でL字状に南側に屈曲し調査区外南側へと連続している。屈曲部付近は一段深く掘り下げられているが、東端に向かうほどプランクは不明瞭となる。

調査区東縁部に位置するこれらの溝跡はいずれも暗褐色砂質シルトを埋土の主体としており、自然の流水に伴う堆積で埋没している。断面形は浅皿形を呈し、埋土からは磨滅した縄文土器細片が散発的に出土したが、構造時期を特定できる資料は確認されなかった。

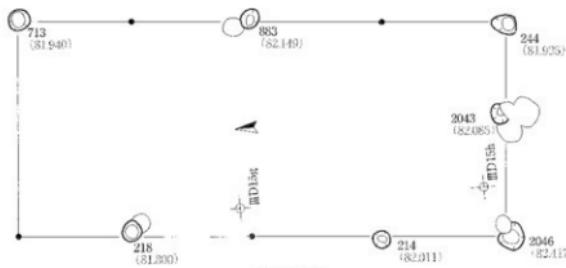
帰属年代は不明とせざるを得ないが、中～近世のものと推測したA区南東部柱穴群の一部がこれらの溝跡に切られていることや、走行方向が建物跡の軸線と平行または直交していることから、A区南東部柱穴群と一期併存したか、これらより新しいものと判断できる。区割り・地境・排水等の機能が想定される。



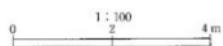
建物跡 1



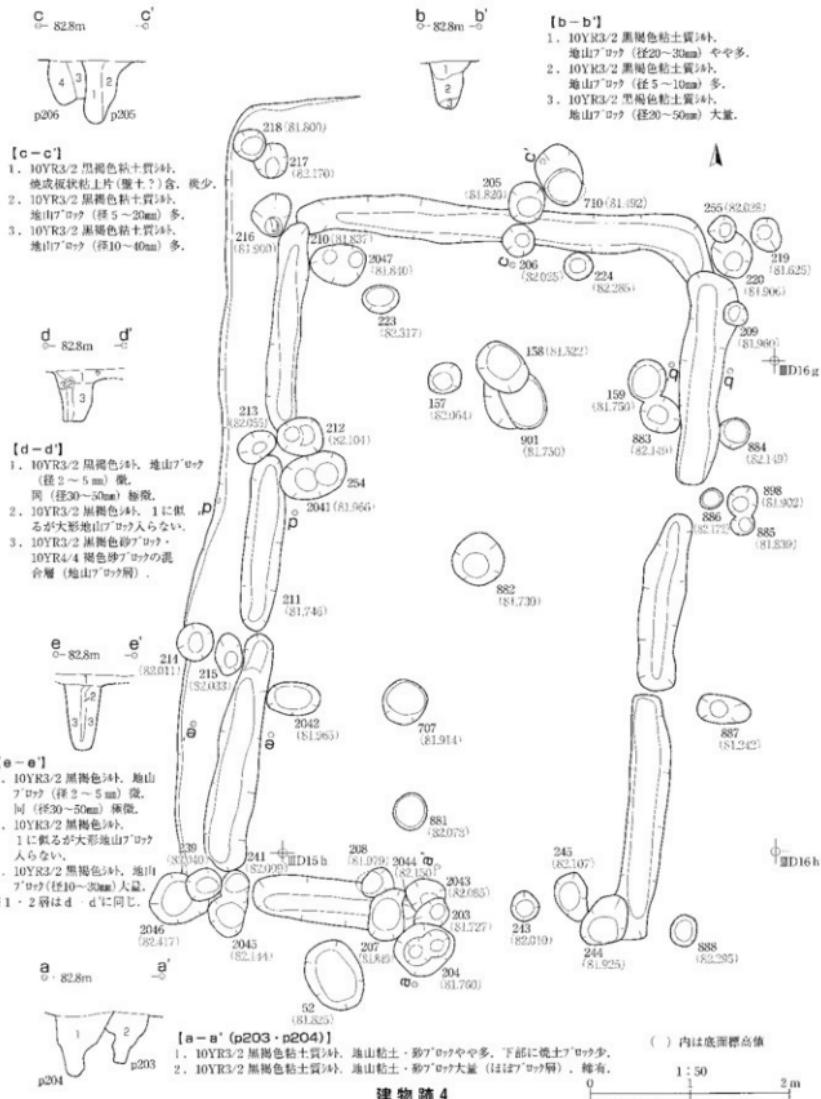
建物跡 2



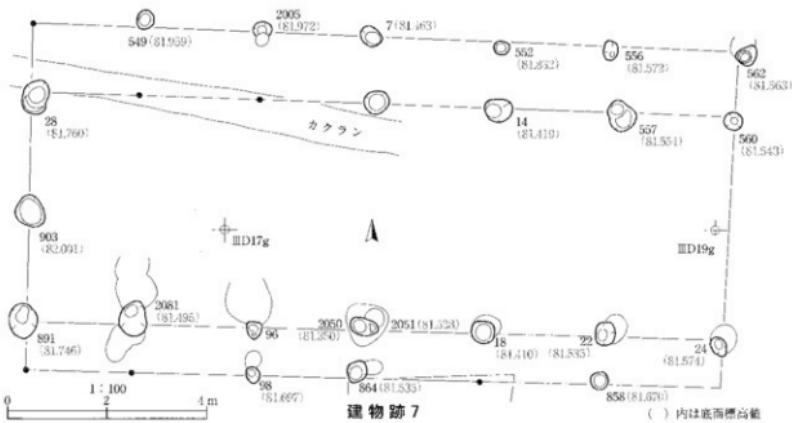
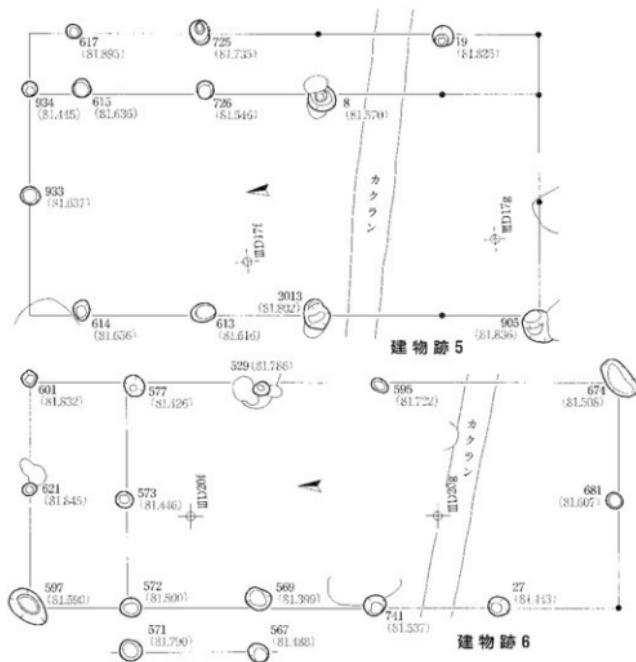
() 内は底面標高値



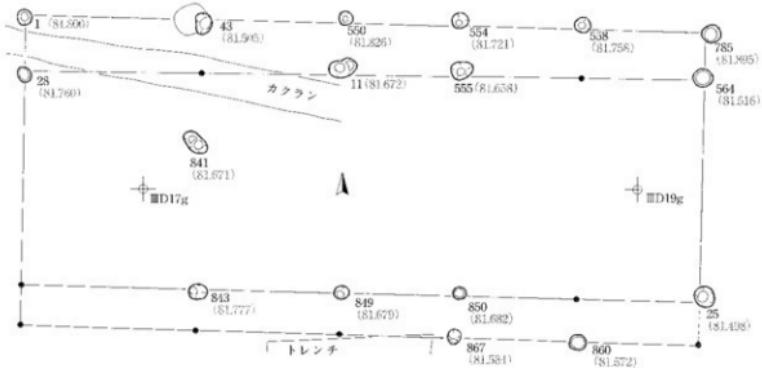
第34図 A区建物跡 (1)



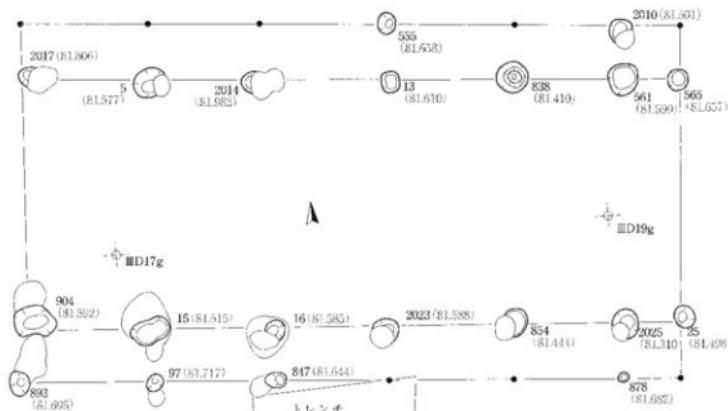
第35図 A区建物跡 (2)



第36図 A区建物跡(3)



建物跡 8

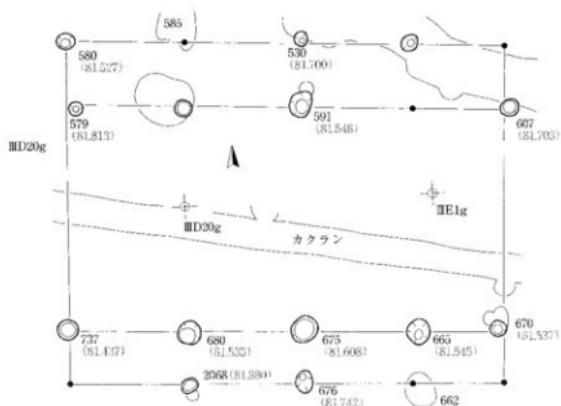
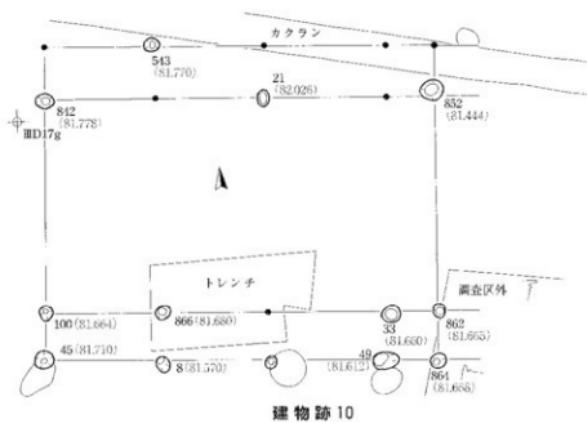


建物跡 9

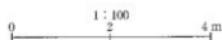
() 内は此面標高値

1 : 100
0 4 m

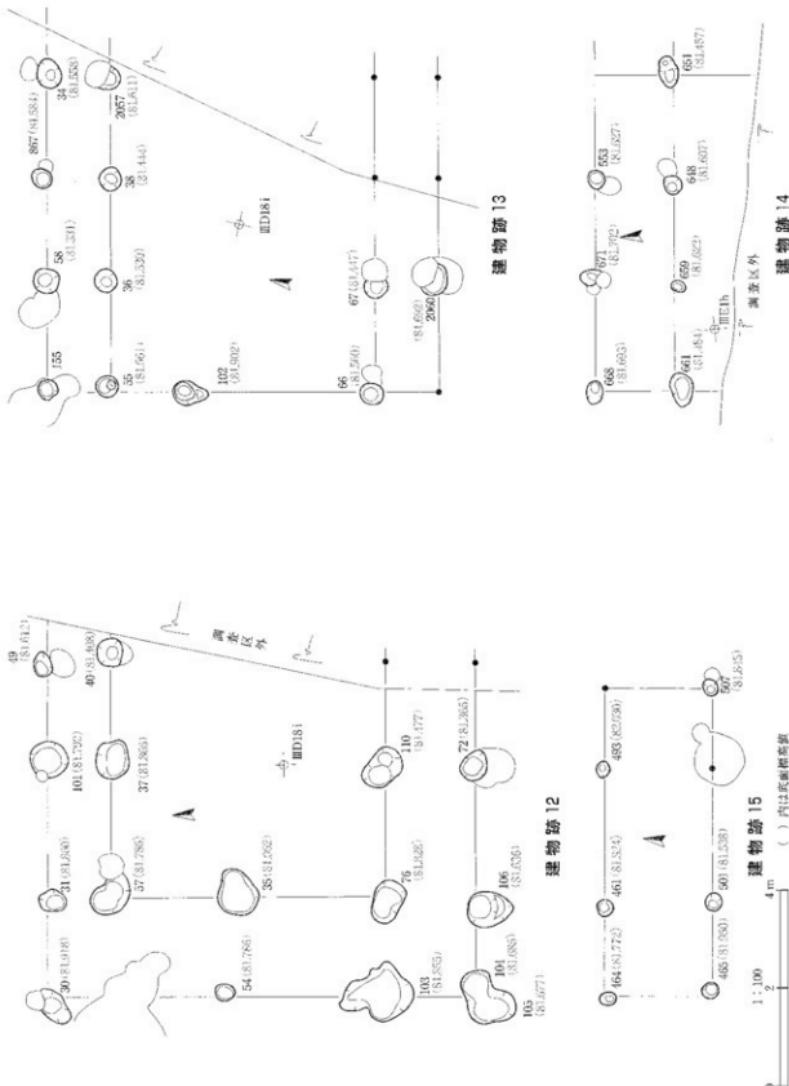
第37図 A区建物跡 (4)



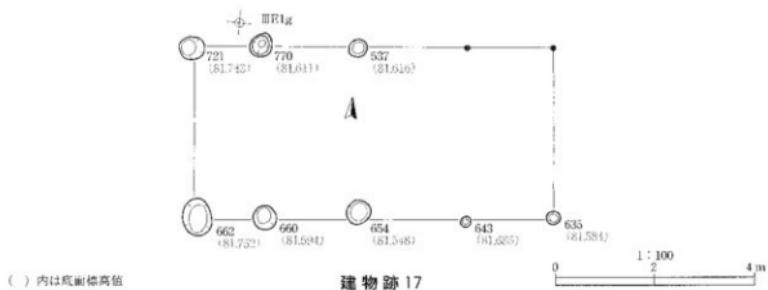
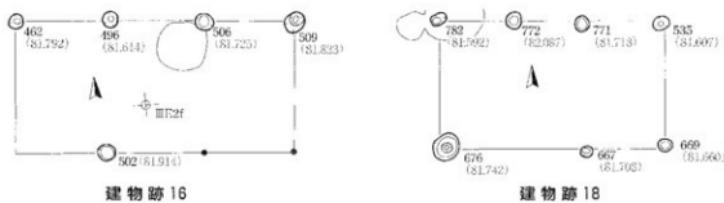
() 内は底面標高値



第38図 A区建物跡 (5)



第39図 A区建物跡 (6)



第40図 A区建物跡 (7)

表4 A区ピット一覧

区 No.	種 別	時期	位 置	掘り方 土 壁	調 土質	混 入 物	底面背景	重複 番号	備 考
A 1	建物06		III D16 f	10YR2-2 黒褐色	シ 少		81.800		
A 2			III D16 f	10YR2-2 黒褐色	シ 少		81.995		
A 3			III D16 f	10YR2-1 黒色	シ 少		81.497		
A 4			III D17 f	10YR2-2 黒褐色	シ 少		81.694		
A 5	建物09		III D17 f	10YR2-1 黒色	シ 稍多		81.577 >43		
A 6			III D17 f	10YR2-2 黒褐色	シ 稍多		81.944		
A 7	建物07		III D17 f	10YR2-1 黒褐色	シ 稍多		81.463		
A 8	建物06, 建物10		III D17 f	10YR2-2 黒褐色	シ 稍多		81.570 >44		
A 9	建物07		III D17 f	10YR2-1 黒色	シ 稍多		81.635		
A 10			III D17 f	10YR2-1 黒色	シ 稍多		81.410		
A 11	建物08		III D17 f	10YR3-1 黒褐色	シ 稍多		81.672		
A 12			III D17 f	10YR2-1 黒色	シ 稍多		81.410		
A 13	建物09		III D17 f	10YR2-2 黒褐色	シ 稍多		81.610		
A 14	建物07		III D17 f	10YR2-3 黒褐色	シ 稍多		81.419		
A 15	建物09		III D17 g	10YR2-1 黒色	シ 稍多		81.515		
A 16	建物09		III D17 g	10YR2-2 黒褐色	シ 稍多		81.585		
A 17			III D17 g	10YR2-2 黒褐色	シ 稍多		81.828		
A 18	建物07		III D18 g	10YR2-1 黒色	シ 稍多		81.410 >872		
A 19	建物05		III D17 f	10YR3-1 黒褐色	シ 稍多		81.825		
A 20			III D17 f	10YR2-2 黒褐色	シ 稍多		82.922		
A 21	建物10		III D17 f	10YR2-2 黒褐色	シ 稍多		82.026		
A 22	建物07		III D18 g	10YR2-2 黒褐色	シ 稍多		81.335		
A 23			III D18 g	10YR2-2 黒褐色	シ 微		81.530		
A 24	建物07		III D18 g	10YR2-1 黒色	シ 微		81.574		
A 25	建物08, 建物09		III D19 g	10YR2-2 黒褐色	シ 稍多		81.938		
A 26			III D19 g	10YR2-2 黒褐色	シ 稍多		81.701		
A 27	建物06		III D19 g	10YR2-3 黒褐色	シ 稍多		○ 81.443		
A 28	建物07, 建物08		III D16 f	10YR2-3 黒褐色	シ 少		81.760		
A 29			III D16 f	10YR2-2 黒褐色	シ 少		82.107 >42		
A 30	建物12		III D17 h	10YR2-2 黒褐色	シ 少		81.918 >45		
A 31	建物12		III D17 h	10YR2-2 黒褐色	シ 微		81.860 >46		
A 32	建物10		III D18 h	10YR2-1 黒色	シ 稍多		81.648		
A 33	建物10		III D18 g	10YR2-1 黒色	シ 微		81.660		
A 34	建物13		III D18 h	10YR2-1 黑色	シ 微微		○ 81.558 >49		
A 35	建物12		III D17 h	10YR2-2 黒褐色	シ 多		82.062		
A 36	建物13		III D17 h	10YR2-2 黒褐色	シ 多		81.530		
A 37	建物12		III D18 h	10YR2-2 黒褐色	シ 稍多		81.866		
A 38	建物13		III D18 h	10YR2-2 黒褐色	シ 少		○ 81.444		
A 39			III D18 h	10YR2-2 黒褐色	シ 少		81.712		
A 40	建物12		III D18 h	10YR2-1 黑色	シ 少		81.408		
A 41			III D18 h	10YR2-1 黑色	シ 少		81.495		
A 42			III D16 f	10YR2-2 黒褐色	シ 少		82.225 >29		
A 43	建物08		III D17 f	10YR2-1 黑色	シ 稍多		81.305 <5		
A 44			III D17 f	10YR2-2 黒褐色	シ 稍多		81.335 >8		
A 45	建物10		III D17 h	10YR2-2 黒褐色	シ 少		81.710 <30		
A 46			III D17 h	10YR2-2 黒褐色	シ 少		81.995 >31		
A 47			III D16 f	10YR2-2 黒褐色	シ 少		82.100		
A 48			III D16 f	10YR2-2 黒褐色	シ 少		82.025		
A 49	建物10, 建物12		III D18 h	10YR2-2 黒褐色	シ 微		81.612 <34		
A 50			III D19 g	10YR2-2 黒褐色	シ		81.645		
A 51			III D20 g	10YR2-3 黒褐色	シ		81.772		
A 52	柱穴配置案2, 建物04	純文	III D15 h	10YR2-1 黑色	シ 少		81.825		純文柱穴?
A 53			III D17 h	10YR2-2 黒褐色	シ 少		81.944		
A 54	建物12		III D17 h	10YR2-3 黒褐色	シ 稍多		81.914		
A 55	建物13		III D17 h	10YR2-3 黒褐色	シ 稍多		○ 81.661		
A 56			III D17 h	10YR2-3 黒褐色	シ 多		81.368		
A 57	建物12		III D17 h	10YR2-2 黒褐色	シ 稍多		81.786		
A 58	建物13		III D17 h	10YR2-2 黒褐色	シ 多		○ 81.331		

区 区 No.	種別	時期	位 置	掘り方理土生土色		混 入 物	底面標高 ±m	警報 値>11	備 考
				溝	土質 土質				
A 59			■ D 17 h	10YR2/1 黒色	シ 多		82.131		
A 60			■ D 18 h	10YR2/1 黒色	シ 多		81.992		
A 61			■ D 18 h	10YR2/1 黒色	シ 少		81.806		
A 62			■ D 15 i	10YR2/2 黒褐色	シ 稍多		82.115		
A 63			■ D 15 i	10YR2/2 黒褐色	シ 多		82.247		
A 64			■ D 17 i	10YR2/2 黒褐色	シ 稍多	○	81.990		
A 65 建物12			■ D 17 i	10YR2/1 黒色	シ 少	○	81.737		
A 66 建物13			■ D 17 i	10YR2/3 黑褐色	シ 稍多	●	81.560 <69		
A 67 建物13			■ D 17 i	10YR2/2 黑褐色	シ 少		81.477 <68		
A 68			■ D 17 i	10YR2/3 黑褐色	シ 多	●	81.425 >67		
A 69			■ D 17 i	10YR2/3 黑褐色	シ 少	●	81.568 >66		
A 70			■ D 17 i	10YR2/3 黑褐色	シ 少		82.006		
A 71			■ D 17 i	10YR2/3 黑褐色	シ 稍多	●	81.552		
A 72 建物12			■ D 17 i	10YR2/2 黑褐色	シ 稍多	●	81.365 <73		
A 73			■ D 17 i	10YR2/1 黒色	シ 多		81.811 >72		
A 74			■ D 17 i	10YR2/3 黑褐色	シ 稍少	●	81.687		
A 75			■ D 17 i	10YR3/4 黑褐色	シ 稍少	●	81.570		
A 76 建物12			■ D 17 i	10YR2/2 黑褐色	シ 稍多		81.828		
A 77			■ D 18 h	10YR1/1 黒色	シ 稍少		82.007		
A 78			■ D 17 i	10YR2/2 黑褐色	シ 多		81.675		
A 79~85 欠番							-		
A 86			■ D 15 i	10YR2/2 黑褐色	シ 多		81.886 >256		
A 87				10YR2/1 黒色	シ 微微		-		
A 88				10YR2/3 黑褐色	シ 微		-		
A 89				10YR2/3 黑褐色	シ 微微		-		
A 90				10YR3/2 黑褐色	シ 多		-		
A 91				10YR2/1 黒色	シ 大		-		
A 92				10YR3/2 黑褐色	シ 少		-		
A 93				10YR2/1 黒色	シ 稍多		-		
A 94				10YR2/2 黑褐色	シ 微		-		
A 95			■ D 17 g	10YR2/2 黑褐色	シ 微		81.862		
A 96 建物07			■ D 17 g	10YR2/2 黑褐色	シ 少		81.720		
A 97 建物09			■ D 17 g	10YR2/2 黑褐色	シ 微微		81.717		
A 98 警物07			■ D 17 g	10YR2/1 黒色	シ 微		81.697		
A 99			■ D 17 g	10YR2/1 黒色	シ 多		81.540		
A 100 建物10			■ D 17 g	10YR2/2 黑褐色	シ 微微		81.664		
A 101 建物12			■ D 18 h	10YR2/2 黑褐色	シ 多		81.792		
A 102 送物13			■ D 17 h	10YR2/3 黑褐色	シ 稍少		81.902		
A 103 建物12			■ D 17 i	10YR2/3 黑褐色	シ 稍多		81.855		
A 104 警物12			■ D 17 i	10YR2/3 黑褐色	シ 稍少		81.685		
A 105 建物12			■ D 17 i	10YR2/3 黑褐色	シ 稍多		81.677		
A 106 建物12			■ D 17 i	10YR2/3 黑褐色	シ 稍多		81.636		
A 107			■ D 15 i	10YR2/3 黑褐色	シ 稍多		81.952		
A 108			■ D 16 i	10YR3/3 黑褐色	シ 少		81.718		
A 109 桁穴配置案⑤、建物19			■ D 13 c	10YR2/2 黑褐色	シ 稍多		82.485		
A 110 建物12			■ D 17 i	10YR2/3 黑褐色	シ 微微	○	81.477		
A 111			■ D 12 d	10YR2/1 黑色	シ 少		83.050		
A 112			■ D 13 d	10YR2/2 黑褐色	シ 稍多		82.835		
A 113			■ D 13 d	10YR2/2 黑褐色	シ 稍多		82.856		
A 114			■ D 13 e	10YR2/2 黑褐色	シ 少		82.672		
A 115			■ D 13 c				82.564		
A 116			■ D 13 c	10YR2/2 黑褐色	シ 微微		82.375		
A 117			■ D 13 c	10YR1/1 黑色	シ 微微		82.648		
A 118 桁穴配置案⑤、建物19			■ D 13 c	10YR1/1 黑色	シ 少		82.551		
A 119			■ D 13 c	10YR2/1 黑色	シ 微微		82.725		
A 120			■ D 13 c	10YR2/2 黑褐色	シ 微微		82.615		
A 121			■ D 14 c	10YR2/3 黑褐色	シ 微微		82.777		
A 122 欠番							-		
A 123			■ D 14 c	10YR2/1 黑色	シ 稍多		82.928 <124		
A 124			■ D 14 c	10YR2/2 黑褐色	シ 微微		82.762 >123		

区	No.	種別	時期	位 置	掘り方	埋土	土質	性状	混人物	底面標高 (新>古)	参考
A	125		縄文	■ D14 c	10YR2/2 黒褐色	シ	粘多			82.748	
A	126	柱穴配置案⑤ 建物19		■ D14 c	10YR2/2 黑褐色	シ	粘多			82.460	?127
A	127		縄文	■ D14 c	10YR2/2 黑褐色	シ	粘微			82.962	?126
A	128			■ D15 c	10YR2/3 黑褐色	シ				82.474	
A	129			■ D15 c	10YR2/2 黑褐色	シ	少			82.673	
A	130	柱穴配置案⑤ 建物19		■ D14 d	10YR2/2 黑褐色	シ	粘多			82.435	
A	131			■ D14 d	10YR2/3 黑褐色	シ	粘微			82.637	
A	132		縄文	■ D14 c	10YR2/3 黑褐色	シ	粘微			82.880	
A	133	柱穴配置案⑤ 建物19		■ D14 c	10YR2/3 黑褐色	シ	粘多			82.444	
A	134		縄文	■ D14 c	10YR2/2 黑褐色	シ	粘微			82.840	
A	135			■ D14 c	10YR2/2 黑褐色	シ	粘多			82.480	
A	136		縄文	■ D14 c	10YR2/2 黑褐色	シ	粘微			82.825	
A	137			■ D13 d	10YR2/2 黑褐色	シ	少			82.532	
A	138		縄文	■ D13 d	10YR1/1 黑色	シ	少			82.580	<144
A	139			■ D14 d	10YR2/1 黑色	シ	粘微			82.945	
A	140			■ D14 d	10YR2/2 黑褐色	シ	粘多			82.565	
A	141				10YR2/3 黑褐色	シ	粘微			-	
A	142				10YR2/3 黑褐色	シ	多			-	
A	143				10YR2/2 黑褐色	シ	多			-	
A	144	柱穴配置案⑤ 建物19		■ D13 d	10YR2/2 黑褐色	シ	多			82.520	>1.38
A	145				10YR3/2 黑褐色	シ	少			-	
A	146				10YR2/2 黑褐色	シ	粘多			-	
A	147				10YR2/3 黑褐色	シ	少			-	
A	148				10YR2/1 黑色	シ	粘微			-	
A	149				10YR2/3 黑褐色	シ	多			-	
A	150				10YR2/3 黑褐色	シ	少			-	
A	151				10YR2/1 黑色	シ	粘微			-	
A	152				10YR2/1 黑色	シ	少			-	?153
A	153				10YR2/1 黑色	シ	少			-	?152
A	154				10YR2/2 黑褐色	シ	多			-	
A	155	建物13		■ D17 h	10YR2/2 黑褐色	シ	少		○	81.638	
A	156				10YR2/3 黑褐色	シ	少			-	
A	157	建物01		■ D15 g	10YR2/1 黑色	シ				82.064	
A	158	建物04		■ D15 g	10YR2/2 黑褐色	シ	多			81.522	
A	159	建物01	縄文	■ D15 g	10YR3/2 黑褐色	シ	少		粘微	81.750	縄文柱穴?
A	160			■ D15 g	10YR2/3 黑褐色	シ	粘微			82.018	
A	161~ 200	欠番			欠番					-	
A	201	土坑16	縄文	■ D15 j						81.304	大形土坑
A	202	土坑17	縄文	■ D16 h						81.460	大形土坑
A	203	建物04		■ D15 h						81.727	
A	204	建物04		■ D15 h						81.760	>203
A	205	建物04		■ D15 f						81.820	>布施建物跡溝 >206
A	206	建物04		■ D15 f						82.023	<布施建物跡溝 <205
A	207	建物01, 建物04	縄文	■ D15 h	10YR3/1 黑褐色	粘シ	微	微		81.840	<布施建物跡溝 縄文柱穴?
A	208	建物04		■ D15 h	10YR3/2 黑褐色	シ	多	少	少	81.979	
A	209	建物04		■ D15 h	10YR3/2 黑褐色	シ	粘多			81.960	
A	210	建物02, 建物01		■ D15 f	10YR3/2 黑褐色	シ	粘多			81.837	
A	211	建物04		■ D15 g						81.746	
A	212	建物04		■ D15 g	10YR3/2 黑褐色	シ	粘多			82.104	
A	213	建物01		■ D15 g	10YR3/2 黑褐色	シ	多		微	82.055	
A	214	建物03, 建物04		■ D15 g	10YR3/2 黑褐色	シ	少		微	82.011	
A	215	建物01		■ D15 g	10YR3/2 黑褐色	シ	少		微	82.033	
A	216	建物04		■ D15 f	10YR3/2 黑褐色	シ	粘多		微	81.900	
A	217	建物04		■ D14 f	10YR3/2 黑褐色	シ	少		微	82.170	>218
A	218	建物03, 建物04		■ D14 f	10YR3/2 黑褐色	シ	粘多		微	81.800	<217
A	219	建物04		■ D15 f	10YR3/2 黑褐色	シ	少			81.625	
A	220	建物04		■ D15 f	10YR3/2 黑褐色	シ	粘多		微	81.906	

区	No.	種別	時期	位置	掘り方埋土土色調	混人物	底面深高	重複 新>既	備考
A	221	柱穴配置案④ 建物02	縦文	Ⅲ D14 f			81.522		大型柱穴(縦文)
A	222	柱穴配置案④ 建物配置案③	縦文	Ⅲ D14 e			81.744		大型柱穴(縦文)
A	223	建物04		Ⅲ D15 f	10YR3-2 黒褐色	シ 多	82.317		
A	224	建物04		Ⅲ D15 f	10YR3-2 黒褐色	シ 多	82.285		
A	225	建物03, 建物02		Ⅲ D14 h	10YR2-2 黒褐色	シ 極微	81.892	<226	
A	226			Ⅲ D14 h	10YR2-2 黒褐色	シ 多	81.776	>225	
A	227	建物01		Ⅲ D14 g	10YR2-2 黒褐色	シ 稍多	81.915	<228	
A	228			Ⅲ D14 g	10YR2-2 黒褐色	シ 多	82.065	>227	
A	229		縦文		10YR2-2 黒褐色	シ 稍多	-		大型柱穴(縦文)
A	230		縦文		10YR3-2 黒褐色	シ 稍多	微		大型柱穴(縦文)
A	231	柱穴配置案④	縦文	Ⅲ D14 e	10YR2-1 黒色	シ 極微	81.767		
A	232			Ⅲ D14 f			82.182		
A	233	建物02		Ⅲ D14 f	10YR3-2 黑褐色	シ 多	81.833		
A	234	竪穴01(横円)	縦文	Ⅲ D11 g			82.454		
A	235						-		
A	236	竪穴02(横円)	縦文	Ⅲ D11 g			82.298		
A	237	竪穴03(横円)	縦文	Ⅲ D12 g			81.803		
A	238	竪穴04(横円)	縦文	Ⅲ D13 i			81.750		
A	239	建物04		Ⅲ D14 h	10YR3-2 黑褐色	珍シ 少	82.040		
A	240				10YR3-2 黑褐色	珍シ 少	-		
A	241	建物04		Ⅲ D14 h			82.099		
A	242				10YR3-3 暗褐色	珍シ	-		
A	243	建物04		Ⅲ D15 h			82.010		
A	244	建物03, 建物04		Ⅲ D15 h			81.925		
A	245	建物04		Ⅲ D15 h			82.107		
A	246	建物02		Ⅲ D14 h	10YR3-2 黑褐色	珍シ 少	81.875		
A	247			Ⅲ D14 h	10YR3-2 黑褐色	珍シ 少	82.425		
A	248			Ⅲ D14 h	10YR2-2 黑褐色	シ 少	81.860		
A	249			Ⅲ D14 h	10YR2-2 黑褐色	シ 少	81.980	>250	
A	250	建物01		Ⅲ D14 h	10YR3-3 細胞色	珍シ 稍多	81.867	<249	
A	251			Ⅲ D14 h	10YR3-3 暗褐色	珍シ 多	82.397		
A	252			Ⅲ D14 h	10YR3-3 細胞色	珍シ 多	82.150		
A	253			Ⅲ D15 i	10YR3-2 黑褐色	シ 多	82.368	>257	
A	254	建物02, 建物04		Ⅲ D15 g			81.945		
A	255	建物04		Ⅲ D15 f			82.028		
A	256	竪穴21(横円)	縦文	Ⅲ D15 i			82.042	<86	
A	257	竪穴22(横円)	縦文	Ⅲ D15 i			81.908	<253	
A	258	土坑02	縦文	Ⅲ D14 e			81.418		
A	259	柱穴配置案③, 建物19		Ⅲ D13 c	10YR3-1 黑褐色	シ 多	82.555		
A	260			Ⅲ D14 c	10YR3-1 暗褐色	シ 多	82.665		
A	261			Ⅲ D12 d			83.137		
A	262			Ⅲ D13 d	10YR2-1 黑色	シ 極微	83.137		
A	263						-		
A	264	柱穴配置案③		Ⅲ D14 e			82.104		
A	265		縦文	Ⅲ D13 e	10YR2-1 黑色	シ 極微	82.406		
A	266		縦文	Ⅲ D13 e	10YR2-1 黑色	シ 人	82.057	<278	
A	267	柱穴配置案③	縦文	Ⅲ D13 e	10YR2-1 黑色	シ	極微 極微	81.986	
A	268	竪穴05(横円)	縦文	Ⅲ D13 e			81.924		
A	269	土坑08	縦文	Ⅲ D16 t			82.128		
A	270	土壤07	縦文	Ⅲ D16 a			81.748		
A	271	土坑06	縦文	Ⅲ D16 a			81.925		
A	272			珍シ Ⅲ D16 t			-		
A	273	竪穴13(横円)	縦文	Ⅲ D16 a			82.174		
A	274	竪穴11(横円)	縦文	Ⅲ D16 a			82.225		
A	275	竪穴10(横円)	縦文	Ⅲ D16 b			-		
A	276	竪穴09(横円)	縦文	Ⅲ D16 b			82.354		
A	277			Ⅲ D16 a	10YR2-1 黑色	シ 稍多	-		
A	278	柱穴配置案③		Ⅲ D13 e			82.118	>266	
A	279	竪穴12(横円)	縦文	Ⅲ D16 a			82.130		
A	280	竪穴17(横円)	縦文	Ⅲ D17 s			-		

区	No.	種別	時期	位 置	掘り方埋土主体土		混 入 物	底面標高 前>沼	重複 番>沼	備 考
					色	調	土質	毛細管水	泥炭	
A	281	船穴16(橋円)	縄文	II D17 t						-
A	282	船穴15(橋円)	縄文	II D17 t						-
A	283	船穴14(橋円)	縄文	II D17 t						-
A	284	船穴08(橋円)	縄文	III D16 c						82.299
A	285	船穴07(橋円)	縄文	III D16 c						-
A	286	土坑03	縄文	III D14 d						81.912
A	287	土坑05	縄文	III D15 c						81.713
A	288	土坑04	縄文	III D15 c						82.731
A	289			III D13 i						82.590
A	290		縄文	III D13 i	10YR2/1 黒色	シ	極微	82.575		埋土に白色粒子含む
A	291		縄文	III D13 j	10YR2/1 黒色	シ	極微	82.645		埋土に白色粒子含む
A	292	柱穴配置案①	縄文	III D13 j	10YR2/1 黒色	シ	極微	82.663		埋土に白色粒子含む
A	293		縄文	III D13 j	10YR2/1 黒色	シ	極微	82.677		埋土に白色粒子含む
A	294		縄文	III D13 j	10YR2/1 黒色	シ	極微	82.563		埋土に白色粒子含む
A	295		縄文	III D13 j	10YR2/1 黒色	シ	極微	82.625		埋土に白色粒子含む
A	296	柱穴配置案①	縄文	III D13 j	10YR2/1 黑色	シ	極微	82.568		埋土に白色粒子含む
A	297		縄文	III D12 j	10YR2/1 黑色	シ	極微	81.985		埋土に白色粒子含む
A	298	柱穴配置案①	縄文	III D12 j	10YR2/1 黑色	シ	極微	82.500		埋土に白色粒子含む
A	299	柱穴配置案①	縄文	III D13 j	10YR2/1 黑色	シ	極微	82.230		埋土に白色粒子含む
A	300	柱穴配置案①	縄文	III D13 j	10YR2/1 黑色	シ	極微	82.537		埋土に白色粒子含む
A	301		縄文	III D12 j	10YR2/1 黑色	シ	極微	82.507		
A	302		縄文	III D15 j	10YR2/1 黑色	シ	極微	82.600		
A	303	柱穴配置案①	縄文	III D13 j	10YR2/2 黒褐色	シ	極微	82.390		
A	304	七坑09	縄文	III D15 d						81.533
A	305									
A	306			III D14 c	10YR2/2 黒褐色	シ		82.631		
A	307			III D14 d	10YR3/2 黒褐色	シ 多		82.719		
A	308	上坑10	縄文	III D16 c				81.762		
A	309	船穴06(橋円)	縄文	III D15 d				82.472		
A	310			III D15 d				-		
A	311	柱穴配置案①	縄文	III D15 e	10YR2/1 黑色	シ		81.678		
A	312			III D13 e				82.471		
A	313			III D14 e	10YR2/1 黑色	シ 少		82.457		
A	314	柱穴配置案①	縄文	III D14 f	10YR2/3 黑褐色	シ 稍多		81.635		
A	315		縄文	III D14 c	10YR2/1 黑色	シ		82.780		
A	316	柱穴配置案④	縄文	III D14 e	10YR2/2 黑褐色	シ 多		81.497		
A	317			III D11 k	10YR2/1 黑色	シ		81.570		
A	318			III D12 k	10YR2/1 黑色	シ 略 上部に剥離部分		81.475		
A	319		縄文	III D13 k	10YR2/1 黑色	シ 極微 上部に剥離部分		81.645		
A	320		縄文	III D13 k	10YR2/1 黑色	シ		81.594		
A	321		縄文	III D11 k	10YR2/1 黑色	シ 少 微		81.562		
A	322		縄文	III D12 i	10YR2/1 黑色	シ 極微		81.660		
A	323		縄文	III D12 l	10YR2/1 黑色	シ 極微		81.576		
A	324		縄文	III D13 i	10YR2/1 黑色	シ 極微		81.710		
A	325	柱穴配置案③		III D14 f				82.698		
A	326			III D12 h	10YR2/1 黑色	シ		82.455		
A	327			III D12 g	10YR2/1 黑色	シ		82.490		
A	328			III D12 g	10YR2/1 黑色	シ		82.528		
A	329			III D13 g	10YR2/1 黑色	シ		82.454		
A	330			III D13 g	10YR2/1 黑色	シ		82.452		
A	331			III D12 g	10YR2/1 黑色	シ		82.374		
A	332			III D13 g	10YR2/1 黑色	シ		82.278		
A	333			III D13 g	10YR2/1 黑色	シ		82.275		
A	334			III D13 g	10YR2/1 黑色	シ		82.335		
A	335			III D13 g	10YR2/1 黑色	シ		82.476		
A	336			III D13 g	10YR2/1 黑色	シ		82.400		
A	337	上坑01	縄文	III D11 h				-		
A	338	船穴31(橋円)	縄文	II E01 t	10YR2/1 黑色	シ 下半に有		81.902		
A	339	船穴30(橋円)	縄文	II E01 t	10YR2/1 黑色	シ 下半に有		81.525		
A	340			II E02 t	10YR2/2 黑褐色	砂シ 蔊		82.468		

区	No.	種別	時期	位置	掘り方理土体上		混人物	気温標高	重複 番>田	備考
					色	調	土質	度±0.5	度±1.5	
A	311	鰐穴29 (横丁)	縦文	Ⅲ E 01 a	10YR2/1 黒褐色	シ	下に多		81.610	
A	342			Ⅲ E 01 b	10YR2/2 黒褐色	シ			81.818	
A	343			Ⅲ E 01 c	10YR2/2 黒褐色	シ			82.002	
A	344	上坑19	縦文	Ⅲ E 02 a					81.172	プラスコ状土壤
A	345			Ⅲ E 02 b	10YR2/2 黒褐色	砂シ	微		82.227	
A	346			Ⅲ E 02 c	10YR3/2 黒褐色	砂シ	微		82.240	
A	347			Ⅲ E 02 d	10YR3/2 黒褐色	砂シ	微		82.149	
A	348			Ⅲ E 02 e	10YR3/2 黒褐色	砂シ	微		82.221	
A	349			Ⅲ E 02 f	10YR3/2 黒褐色	砂シ	微		81.699	
A	350	カカラ?		Ⅲ E 02 g	10YR2/1 黒褐色	シ	少		82.250	
A	351			Ⅲ E 02 h	10YR3/2 黒褐色	砂シ	微		82.076	
A	352			Ⅲ E 02 i	10YR2/2 黒褐色	砂シ	微		81.640	
A	353			Ⅲ E 02 j	10YR2/2 黒褐色	砂シ	微		81.645	
A	354	自然?		Ⅲ E 02 k	10YR3/2 黒褐色	砂シ			82.164	
A	355	自然?		Ⅲ E 02 l	10YR3/2 黒褐色	砂シ			82.294	
A	356			Ⅲ E 02 m	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.189	
A	357			Ⅲ E 02 n	10YR2/2 黑褐色	砂シ			81.775	
A	358			Ⅲ E 02 o	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.110	
A	359			Ⅲ E 02 p	久				82.357	
A	360			Ⅲ E 02 q					82.282	
A	361			Ⅲ E 01 a	10YR2/2 黑褐色	シ			81.957	
A	362			Ⅲ E 01 b	10YR2/2 黑褐色	シ			82.258	
A	363			Ⅲ E 02 a	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.256	
A	364			Ⅲ E 01 a	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.252	
A	365			Ⅲ E 01 b	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.296	
A	366			Ⅲ E 01 a	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.260	
A	367			Ⅲ E 01 b	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.260	
A	368			Ⅲ E 02 b	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.330	
A	369			Ⅲ E 02 b	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.233	
A	370			Ⅲ E 02 b	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.182	
A	371			Ⅲ E 02 b	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.267	
A	372			Ⅲ E 02 b	10YR3/2 黑褐色	砂シ			82.305	
A	373			Ⅲ E 02 b	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.217	
A	374	自然?		Ⅲ E 02 b	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.350	
A	375			Ⅲ E 02 b	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.330	
A	376			Ⅲ E 02 b	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.208	
A	377			Ⅲ E 02 b	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.234	
A	378			Ⅲ E 03 b	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.258	
A	379			Ⅲ E 02 a	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.268	
A	380	自然?		Ⅲ E 02 a	10YR3/2 黑褐色	砂シ			82.267	
A	381			Ⅲ E 03 a	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.272	
A	382			Ⅲ E 03 a	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.286	
A	383			Ⅲ E 03 a	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.308	
A	384			Ⅲ E 03 b	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.285	
A	385			Ⅲ E 03 b	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.110	
A	386			Ⅲ E 03 b	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.105 <重複	
A	387			Ⅲ E 03 b	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.335	
A	388			Ⅲ E 03 c	10YR2/2 黑褐色	砂シ	微		81.975	
A	389			Ⅲ E 03 c	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.145	
A	390			Ⅲ E 03 c	10YR3/2 黑褐色	砂シ			82.205	
A	391			Ⅲ E 03 c	10YR3/2 黑褐色	砂シ			82.215	
A	392			Ⅲ E 03 c	10YR3/2 黑褐色	砂シ			82.107	
A	393			Ⅲ E 03 c	10YR3/2 黑褐色	砂シ			82.202	
A	394	カカラ?		Ⅲ D 20 a	10YR2/2 黑褐色	シ	少多		82.138	
A	395	自然?		Ⅲ D 20 a	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.105	
A	396	カカラ?		Ⅲ D 20 a	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.215	
A	397	自然?		Ⅲ D 20 a	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.036	
A	398			Ⅲ E 03 a	10YR2/2 黑褐色	シ			82.092	樹根石・礫石あり。
A	399			Ⅲ E 03 a	10YR2/2 黑褐色	シ			82.195	
A	400			Ⅲ E 03 a					82.302	

区	No.	種 別	時期	位 置	掘り方理上主体十 色 調		入 物	底面積高 3679± 挖土板 底	重複 率>5%	備考
					上質	底質				
A	401			III E 03 a	10YR2/2 黒褐色	砂シ			82.287	
A	402			III E 02 b	10YR2/2 黒褐色	砂シ			82.202	
A	403			III E 02 b	10YR2/2 黒褐色	砂シ			82.272	
A	404			III E 02 b	10YR2/2 黒褐色	シ			82.310	
A	405			III E 02 b	10YR2/2 黒褐色	砂シ			82.254	
A	406								-	
A	407			III E 02 a	10YR2/2 黒褐色	砂シ			82.305	
A	408			III E 02 b	10YR2/2 黒褐色	砂シ			82.315	
A	409			III E 02 b	10YR2/2 黒褐色	砂シ			82.290	
A	410			III E 02 a	10YR2/2 黒褐色	砂シ			82.230	
A	411			III E 02 b	10YR2/2 黒褐色	砂シ			82.184	
A	412			III E 02 a	10YR2/2 黒褐色	砂シ			82.098	
A	413			III E 02 b	10YR2/2 黒褐色	シ			82.220	
A	414			III E 02 b	10YR2/2 黒褐色	シ			82.344	
A	415			III E 02 b	10YR2/2 黒褐色	砂シ			82.350	
A	416			III E 02 b	10YR2/2 黒褐色	砂シ			82.238	
A	417			III E 02 b	10YR2/2 黒褐色	砂シ			82.257	
A	418			III E 01 b	10YR2/2 黒褐色	砂シ			82.310	
A	419			III E 01 b	10YR2/2 黒褐色	砂シ			82.348	
A	420			III E 01 b	10YR2/2 黒褐色	砂シ			82.324	
A	421			III E 04 a	10YR2/2 黒褐色	シ			82.288	
A	422			III E 02 b	10YR2/2 黒褐色	シ			82.282	
A	423			III E 02 b	10YR2/2 黒褐色	シ			82.280	
A	424			III E 03 c	10YR2/2 黒褐色	シ			82.180	
A	425			III E 03 c	10YR2/2 黑褐色	砂シ			81.948	
A	426			III E 03 c	10YR2/2 黑褐色	シ			82.116	
A	427			III E 03 c	10YR2/2 黑褐色	シ			81.983	
A	428			III E 03 c	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.164	
A	429			III E 02 c	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.162	
A	430			III E 02 c	10YR2/2 黑褐色	シ			82.248	
A	431			III E 02 c	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.298	
A	432			III E 02 c	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.274	
A	433			III E 02 c	10YR2/2 黑褐色	シ			81.970	
A	434			III E 02 c	10YR2/2 黑褐色	シ			81.985	
A	435	自然?		III E 02 c	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.237	
A	436			III E 02 c	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.237	
A	437			III E 02 c	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.227	
A	438	自然?		III E 02 c	10YR3/2 黑褐色	砂シ			82.222	
A	439			III E 02 c	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.257	
A	440			III E 02 c	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.328	
A	441			III E 02 c	10YR2/2 黑褐色	シ			82.276	
A	442			III E 02 c	10YR3/2 黑褐色	砂シ			82.422	
A	443			III E 02 c	10YR3/2 黑褐色	砂シ			82.422	
A	444			III E 02 c	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.303	
A	445			III E 02 c	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.484	
A	446			III E 02 c	10YR2/2 黑褐色	シ			82.305	
A	447	自然?		III E 02 c	10YR3/2 黑褐色	砂シ			82.282	
A	448				10YR2/2 黑褐色	シ			-	
A	449			III E 01 c	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.340	
A	450			III E 04 c	10YR2/2 黑褐色	砂シ			82.247	
A	451			III E 01 c	10YR3/2 黑褐色	砂シ	多		82.344	
A	452			III E 01 b	10YR2/2 黑褐色	シ			82.164	
A	453			III E 01 b	10YR2/2 黑褐色	シ			82.226	
A	454			III E 01 b	10YR2/2 黑褐色	シ			82.260	
A	455			III E 03 a	10YR2/2 黑褐色	シ			82.280	
A	456			III E 03 a	10YR2/2 黑褐色	シ			81.749	
A	457			III E 03 a	10YR2/2 黑褐色	シ			82.280	
A	458	自然?		III E 02 e	10YR2/2 黑褐色	シ			82.178	
A	459			III E 02 e	10YR2/2 黑褐色	シ	微		81.959	
A	460			III E 02 e	10YR2/2 黑褐色	シ	微		81.968	

区	No.	種別	時期	位 置	掘り方埋土主体上 色 調	土質	混 入 物	底面標高 標高>日	鉄板 標高	備考
A	461	建物15		III E01 e	10YR2-2 黒褐色	シ	鐵		81.824	
A	462	建物16		III E01 e	10YR2-2 黑褐色	シ	鐵		81.792	
A	463			III E01 e	10YR2-2 黑褐色	シ	鐵		81.982	
A	464	建物15		III E01 e	10YR2-2 黑褐色	シ	少		81.772	
A	465	建物15		III E01 e	10YR2-2 黑褐色	シ			81.950	
A	466			III E01 f	10YR2-2 黑褐色	シ	少		81.679	
A	467	柱穴配置案跡		III E01 g	10YR2-1 黑色	シ			81.237	
A	468			III E01 f	10YR2-1 黑色	シ			81.614	
A	469			III E02 e	10YR2-2 黑褐色	シ			81.355	
A	470			III E02 c	10YR2-2 黑褐色	シ	少		81.595	
A	471			III E03 d	10YR2-2 黑褐色	シ	少		81.906	
A	472			III E02 d	10YR2-2 黑褐色	シ	少		81.744	
A	473			III E02 d	10YR2-2 黑褐色	シ	少		82.168	
A	474			III E02 d	10YR2-2 黑褐色	シ	少		82.140	
A	475			III E03 d	10YR2-2 黑褐色	シ	少		82.065	
A	476			III E03 d	10YR2-2 黑褐色	シ	少		82.162	
A	477			III E03 d	10YR2-2 黑褐色	シ	少		82.100	
A	478			III E03 d	10YR2-2 黑褐色	シ	少		82.145	
A	479			III E02 f	10YR2-2 黑褐色	シ	少		81.633	
A	480	自然?		III E02 f	10YR2-3 黑褐色	シ	稍多		81.606	
A	481			III E01 d	10YR2-2 黑褐色	シ	少		81.860	
A	482			III E01 d	10YR2-2 黑褐色	シ	少		81.955	
A	483			III E02 d	10YR2-2 黑褐色	シ	鐵		81.933	
A	484			III E02 e	10YR2-2 黑褐色	シ	微		81.799	
A	485			III E02 d	10YR2-2 黑褐色	シ	微		82.112	
A	486			III E02 d	10YR2-2 黑褐色	シ	微		82.217	
A	487			III E02 d	10YR2-2 黑褐色	シ	鐵		82.205	
A	488			III E02 d	10YR2-2 黑褐色	シ	微		81.980	
A	489			III E02 c	10YR2-2 黑褐色	シ	微		81.869	
A	490			III E01 e	10YR2-2 黑褐色	シ	少		81.963	
A	491			III E01 e	10YR2-2 黑褐色	シ	鐵		81.920	
A	492	自然?		III E01 e	10YR2-2 黑褐色	シ	鐵		82.119	
A	493	建物15		III E02 c	10YR2-2 黑褐色	シ	鐵		82.030	
A	494			III E02 e	10YR2-2 黑褐色	シ	鐵		82.010	
A	495	土壤30	不明	III E02 e					82.111	
A	496	建物16		III E01 e	10YR2-2 黑褐色	シ	少		81.611	
A	497			III E02 e	10YR2-2 黑褐色	シ	少		81.824	
A	498			III E01 e	10YR2-2 黑褐色	シ			81.921	
A	499			III E01 e	10YR2-2 黑褐色	シ			81.947	
A	500			III E01 c	10YR2-2 黑褐色	シ	少		81.707	
A	501	建物15		III E02 c	10YR2-2 黑褐色	シ	鐵		81.538	
A	502	建物16		III E01 f	10YR2-2 黑褐色	シ	鐵		81.914	
A	503			III E02 e	10YR2-2 黑褐色	シ	少		81.888	
A	504			III E02 f	10YR2-2 黑褐色	シ	少		81.998	
A	505	土壤21	不明	III E02 e					82.056 ≈ 506	
A	506	建物16		III E02 e	10YR2-2 黑褐色	シ			81.725 ≈ 505	
A	507	建物15		III E02 c	10YR2-2 黑褐色	シ	少		81.845 > 508	
A	508			III E02 e	10YR2-2 黑褐色	シ	少		81.630 < 507	
A	509	建物16		III E02 c	10YR2-2 黑褐色	シ	少		81.823	
A	510	柱穴配置案跡		III D20 f	10YR2-2 黑褐色	シ	鐵		81.242	
A	511			III D20 f	10YR2-2 黑褐色	シ	稍多		81.525	
A	512	柱穴配置案跡		III E01 f	10YR2-2 黑褐色	シ	鐵		81.502	
A	513			III E01 f	10YR2-2 黑褐色	シ	鐵		81.656	
A	514			III E01 f	10YR2-2 黑褐色	シ	少		81.518	
A	515			III E02 f	10YR2-2 黑褐色	シ	少		81.473	
A	516			III E02 f	10YR2-2 黑褐色	シ	少		81.638	
A	517			III E02 f	10YR2-2 黑褐色	シ			81.880	
A	518	柱穴配置案跡		III E02 f	10YR2-2 黑褐色	シ	鐵		81.287	
A	519			III E02 f	10YR2-2 黑褐色	シ			81.768	
A	520			III E02 f	10YR2-2 黑褐色	シ			81.637	

区	No.	種 別	時期	位 置	掘り方埋土主体上 色 調	混 入 物	底面標高 表>計	底面 高>計	備 考
A	521			III E 02 f			81.621		
A	522			III E 03 f			81.562		
A	523			III E 03 f			81.520		
A	524			III E 03 f			81.366		
A	525			III E 01 d	10YR2/2 黒褐色	シ 微	81.790		
A	526			III E 03 d	10YR3/2 黒褐色	シ 少	82.090		
A	527			III D 20 f	10YR2/2 黒褐色	シ 前多	81.811		溝底面の鋸削痕?
A	528			III D 20 f	10YR2/2 黒褐色	シ 前多	81.817		溝底面の鋸削板?
A	529 建物06			III D 20 f	10YR2/2 黒褐色	シ 前多	81.786		溝底面の鋸削板?
A	530 建物11			III D 20 f	10YR2/2 黒褐色	シ 少	81.700		
A	531 建物11			III E 01 f	10YR2/2 黒褐色	シ 少	81.355		
A	532			III E 01 f	10YR2/2 黒褐色	シ 前多	81.551		
A	533			III E 01 f	10YR2/2 黒褐色	シ 前多	81.541		
A	534 柱穴配盤案②			III E 01 f	10YR2/2 黒褐色	シ	81.287		
A	535 建物18			III E 01 g	10YR2/2 黒褐色	シ 動微	81.607		
A	536			III E 01 f	10YR2/2 黒褐色	シ 少	81.501		
A	537 建物17			III E 01 g	10YR2/2 黒褐色	シ 撫	81.616		
A	538			III E 01 g	10YR2/2 黒褐色	シ 動微	81.527		
A	539			III E 01 g	10YR2/2 黒褐色	シ	81.725		
A	540			III E 02 g	10YR2/2 黒褐色	シ	81.637		
A	541				10YR2/2 黒褐色	シ 少	—		
A	542			III D 20 f	10YR2/2 黒褐色	シ 前多	81.415		
A	543 建物10	圖文		III D 17 f	10YR2/1 黒色	シ 少	81.770		
A	544			III E 02 f	10YR2/2 黒褐色	シ 少	81.390		
A	545				10YR2/2 黒褐色	シ 動微	81.832		
A	546				10YR2/2 黒褐色	シ 動微	—		
A	547				10YR2/2 黒褐色	シ 動微	—		
A	548			III D 16 f	10YR2/2 黒褐色	シ 少	81.925		
A	549 建物07	圖文		III D 16 f	10YR2/2 黒褐色	シ	81.959		
A	550 建物08			III D 17 f	10YR2/2 黒褐色	シ 動微	81.826		
A	551			III D 17 f	10YR2/2 黒褐色	シ 動微	81.843		
A	552 建物07			III D 18 f	10YR2/2 黒褐色	シ 動微	81.832		
A	553 建物14			III D 18 f	10YR2/2 黒褐色	シ 少	81.627		
A	554 建物08			III D 18 f	10YR2/2 黒褐色	シ 前多	81.721		
A	555 建物08, 建物09			III D 18 f	10YR2/2 黑褐色	シ 少	81.658		
A	556 建物07			III D 18 f	10YR2/2 黑褐色	シ 前多	81.572 >619		
A	557 建物07			III D 18 f	10YR2/2 黑褐色	シ 前多	81.551 ?620		
A	558 建物08			III D 18 f	10YR2/2 黑褐色	シ 前多	81.758		
A	559			III D 18 f	10YR2/2 黑褐色	シ 前多	81.407		
A	560 建物07			III D 19 f	10YR2/2 黑褐色	シ 前多	81.543		
A	561 建物09			III D 19 f	10YR2/2 黑褐色	シ 少	81.599		
A	562 建物07			III D 19 f	10YR2/2 黑褐色	シ 少	81.563		
A	563			III D 19 f	10YR2/2 黑褐色	シ 少	81.685		
A	564 建物08			III D 19 f	10YR2/2 黑褐色	シ 動微	81.516		
A	565 建物09			III D 19 f	10YR2/2 黑褐色	シ 動微	81.637		
A	566			III D 19 f	10YR2/2 黑褐色	シ 動微	81.637		
A	567 建物06			III D 19 f	10YR2/2 黑褐色	シ 動微	81.488		
A	568			III D 19 f	10YR2/2 黑褐色	シ 少	81.852		
A	569 建物06			III D 19 f	10YR2/2 黑褐色	シ 少	81.399		
A	570			III D 19 f	10YR2/1 黑色	シ 動微	81.621		
A	571 建物05			III D 19 e	10YR2/2 黑褐色	シ 少	81.790		
A	572 建物06			III D 19 e	10YR2/2 黑褐色	シ 動微	81.500		
A	573 建物06			III D 20 e	10YR2/2 黑褐色	シ 前多	81.446		
A	574			III D 20 c	10YR2/2 黑褐色	シ 動微	81.786 ?624		
A	575			III D 20 f	10YR2/2 黑褐色	シ 前多	81.702		
A	576			III D 20 f	10YR2/2 黑褐色	シ 前多	81.711		
A	577 建物06			III D 20 e	10YR2/2 黑褐色	シ 少	81.426		
A	578			III D 20 e	10YR2/2 黑褐色	シ 少	81.580		
A	579 建物11			III D 19 f	10YR2/2 黑褐色	シ 動微	81.813		
A	580 建物11			III D 19 f	10YR2/2 黑褐色	シ 動微	81.527		

区	No.	種別	時期	位置	掘り方	埋土体十 色調	土質 種別	混入物 種類	底面高 度	重複 度	備考
A	581			III D19 f	10YR2/2 黒褐色	シ	少		81.670		
A	582	柱ラジ		III D19 f					81.821		
A	583	建物11		III D19 f	10YR2/2 黒褐色	シ	多		81.817		
A	584			III D20 f	10YR2/2 黒褐色	シ	少		81.732		
A	585			III D20 f					—		
A	586			III D20 f	10YR2/2 黒褐色	シ	少		81.424		
A	587			III D20 f	10YR2/2 黒褐色	シ			81.789		
A	588			III D20 f	10YR2/2 黒褐色	シ			81.746		
A	589			III D20 f	10YR2/2 黒褐色	シ	少		81.275		
A	590			III D20 f	10YR2/2 黒褐色	シ			81.23 <591		
A	591	建物11		III D20 f	10YR2/2 黒褐色	シ	稍多		81.548 >590		
A	592			III D20 f	10YR2/2 黒褐色	シ			81.667		
A	593			III D20 f	10YR2/2 黒褐色	シ	少		81.745		
A	594	柱穴配置案		III D20 f	10YR2/1 黒色	シ	稍多		81.366		
A	595	建物06		III D20 f	10YR2/3 黒褐色	シ	多		81.722		
A	596			III D20 f	10YR2/2 黑褐色	シ	極微		81.618		
A	597	建物05		III D19 e	10YR2/2 黑褐色	シ	少		81.590		
A	598			III D20 e	10YR2/2 黑褐色	シ	少		81.960		
A	599			III D20 e	10YR2/2 黑褐色	シ	微		81.822		
A	600			III D20 e	10YR2/2 黑褐色	シ	微		81.926		
A	601	建物06		III D20 c	10YR2/2 黑褐色	シ	稍多		81.832		
A	602			III D20 e	10YR2/2 黑褐色	シ	極微		81.942		
A	603			III D20 c	10YR2/2 黑褐色	シ	少		81.854		
A	604			III D20 e	10YR2/2 黑褐色	シ	微		82.016		
A	605			III E01 c	10YR2/2 黑褐色	シ	少		81.790 >606		
A	606			III E01 e	10YR2/2 黑褐色	シ	少		81.732 <605		
A	607	建物11		III E01 f	10YR2/2 黑褐色	シ	極微		81.703		
A	608			III E01 f	10YR2/2 黑褐色	シ	微		81.687		
A	609			III E01 f	10YR2/2 黑褐色	シ	極微		81.610		根固石あり。
A	610				10YR2/2 黑褐色	シ	微		—		
A	611			III D16 e	10YR2/2 黑褐色	シ	微		—		
A	612				10YR2/2 黑褐色	シ	稍多		—		
A	613	建物05		III D16 e	10YR2/2 黑褐色	シ	稍多		81.616		
A	614	建物03		III D16 e	10YR2/2 黑褐色	シ	少		81.656		
A	615	建物05		III D17 e	10YR2/1 黑色	シ	極微		81.636		
A	616			III D17 e	10YR2/1 黑色	シ	極微		81.761		
A	617	建物05		III D18 e	10YR2/2 黑褐色	シ	施微		81.895		
A	618			III E02 g	10YR2/1 黑色	シ	少		81.644		
A	619			III D18 f	10YR2/2 黑褐色	シ	少		81.881 <566		
A	620			III D18 f					81.467 >557		
A	621	建物06		III D20 c	10YR2/2 黑褐色	シ	極微		81.815 <622		
A	622			III D20 e	10YR2/2 黑褐色	シ	少		81.580 >621, >623		
A	623			III D20 c	10YR2/2 黑褐色	シ	稍多		81.524 >622		
A	624			III D20 e	10YR2/2 黑褐色	シ	微		81.847 >574		
A	625			III D19 f	10YR2/2 黑褐色	シ	少		81.751		
A	626			III D20 f					—		
A	627			III D19 f	10YR2/2 黑褐色	シ	微		81.817		
A	628				10YR2/2 黑褐色	シ			—		
A	629	柱穴配置案		III E02 g	10YR2/2 黑褐色	シ			81.341		
A	630			III E02 g	10YR2/2 黑褐色	シ	微		81.258 >631		
A	631			III E02 g	10YR2/2 黑褐色	シ	微		81.422 >630		
A	632			III E02 g	10YR2/2 黑褐色	シ			81.551		
A	633			III E02 g	10YR2/2 黑褐色	シ	少		81.329		
A	634			III E02 g	10YR2/2 黑褐色	シ	少		81.692		
A	635	建物17		III E02 g	10YR2/2 黑褐色	シ			81.584		
A	636			III E02 g	10YR2/2 黑褐色	シ			81.530		
A	637			III E02 g	10YR2/2 黑褐色	シ			81.488		
A	638			III E02 g	10YR2/2 黑褐色	シ			81.574		
A	639			III E02 g	10YR2/2 黑褐色	シ	少		81.635		
A	640			III E01 g	10YR2/2 黑褐色	シ			81.610		根固石あり。

区	No.	種 別	時期	位 置	掘り方埋土主体上		混 入 物	成層標高 基>田	重複 基>田	備 考
					色	調				
A	641			III E 02 g	10YR2/2	黒褐色	シ	微	81.354	
A	642			III E 01 g	10YR2/2	黒褐色	シ	少	81.688	
A	643	建物17		III E 01 g	10YR2/2	黒褐色	シ	少	81.685	
A	644			III E 01 g	10YR2/2	黒褐色	シ		81.500	
A	645			III E 01 g	10YR2/2	黒褐色	シ		81.400	
A	646			III E 01 g	10YR2/2	黒褐色	シ		81.774	
A	647			III E 01 g	10YR2/2	黒褐色	シ	稍多	81.697	7648
A	648	建物14		III E 01 g	10YR2/2	黒褐色	シ	稍多	81.607	7647
A	649			III E 01 g	10YR2/2	黒褐色	シ		81.680	
A	650			III E 01 g	10YR2/2	黒褐色	シ		81.614	
A	651	建物14		III E 02 g	10YR2/2	黒褐色	シ	少	81.457	
A	652			III E 01 g	10YR2/2	黒褐色	シ		81.772	7653
A	653			III E 04 g	10YR2/2	黒褐色	シ		81.670	7652
A	654	建物17		III E 01 g	10YR2/2	黒褐色	シ	少	81.548	
A	655			III E 01 g	10YR2/2	黒褐色	シ		81.604	
A	656			III E 01 g	10YR2/2	黒褐色	シ	少	81.712	
A	657			III E 01 g	10YR2/2	黒褐色	シ	微	81.697	
A	658			III E 01 g	10YR2/2	黒褐色	シ	微	81.673	
A	659	建物14		III E 01 g	10YR2/2	黒褐色	シ	微	81.622	
A	660	建物17		III E 01 g	10YR2/2	黒褐色	シ	微	81.594	
A	661	建物14		III D 20 g	10YR2/2	黒褐色	シ	微	81.684	
A	662	建物17		III D 20 g	10YR2/2	黒褐色	シ	微微	81.752	
A	663			III D 20 g	10YR2/2	黒褐色	シ		81.715	>664
A	664			III D 20 g	10YR2/2	黒褐色	シ	微	81.640	<663
A	665	建物11		III D 20 g	10YR2/2	黒褐色	シ	微	81.545	
A	666			III E 01 g	10YR2/2	黒褐色	シ	少	81.605	
A	667	建物18		III D 01 g	10YR2/2	黒褐色	シ	微	81.708	
A	668	建物14		III D 20 g	10YR2/2	黒褐色	シ	少	81.693	
A	669	建物18		III D 01 g	10YR2/2	黒褐色	シ	微微	81.660	
A	670	建物11		III E 01 g	10YR2/2	黒褐色	シ	微	81.537	
A	671	建物14		III E 01 g	10YR2/2	黒褐色	シ		81.702	
A	672	自然?		III E 01 g	10YR2/2	黒褐色	シ	少	81.697	
A	673	自然?		III E 01 g	10YR2/2	黒褐色	シ	微	81.782	
A	674	建物06		III D 20 g	10YR2/2	黒褐色	シ	少	81.508	
A	675	建物11		III D 20 g	10YR2/2	黒褐色	シ	多	81.608	
A	676	建物11, 建物18		III D 20 g	10YR2/2	黒褐色	シ	微	81.742	
A	677			III D 20 g	10YR2/2	黒褐色	シ	微	81.542	
A	678			III D 20 g	10YR2/2	黒褐色	シ	微	81.663	
A	679			III D 20 g	10YR2/2	黒褐色	シ	微	81.437	
A	680	建物11		III D 19 g	10YR2/2	黒褐色	シ	微	81.533	
A	681	建物06		III D 20 g	10YR2/2	黒褐色	シ	少	81.607	
A	682	鰐文		III D 19 g	10YR2/2	黒褐色	シ		81.607	
A	683			III D 13 h	10YR2/2	黒褐色	シ		82.188	
A	684			III D 13 h	10YR2/2	黒褐色	シ		82.477	
A	685			III D 13 h	10YR2/2	黒褐色	シ	微微	82.252	
A	686			III D 13 h	10YR2/2	黒褐色	シ	微微	82.360	
A	687			III D 13 h	10YR2/2	黒褐色	シ	微微	82.232	
A	688			III D 12 h	10YR2/2	黒褐色	シ		82.365	
A	689			III D 12 h	10YR2/2	黒褐色	シ		82.335	
A	690			III D 12 h	10YR2/2	黒褐色	シ		82.557	
A	691			III D 12 h	10YR2/2	黒褐色	シ		82.382	
A	692			III D 12 h	10YR2/2	黒褐色	シ		82.612	
A	693			III D 12 i	10YR2/2	黒褐色	シ		82.195	
A	694			III D 12 i	10YR2/2	黒褐色	シ		82.505	
A	695			III D 12 i	10YR2/2	黒褐色	シ		82.488	
A	696			III D 12 i	10YR2/2	黒褐色	シ		82.412	
A	697			III D 12 i	10YR2/2	黒褐色	シ		82.500	
A	698			III D 12 i	10YR2/2	黒褐色	シ		82.487	
A	699			III D 13 i	10YR2/2	黒褐色	シ		82.537	
A	700			III D 13 h	10YR2/2	黒褐色	シ		82.503	

区	No.	種別	時期	位位置	掘り方埋土体十		混人物	底面標品	重複 基>旧	備考
					色調	土質				
A	701			Ⅲ D13 h	10YR2/2 黒褐色	シ			82495	
A	702			Ⅲ D13 i	10YR2/2 黑褐色	シ			82594	
A	703			Ⅲ D13 i	10YR2/2 黑褐色	シ	極微		82575	
A	704			Ⅲ D13 h	10YR2/2 黑褐色	シ			82257	
A	705			Ⅲ D13 g	10YR2/2 黑褐色	シ			82348	
A	706			Ⅲ D13 g	10YR2/2 黑褐色	シ			82204	
A	707	建物01, 建物04		Ⅲ D15 g	10YR2/2 黑褐色	シ	稍多		81914	
A	708			Ⅲ D15 g	10YR2/2 黑褐色	シ			-	
A	709	建物01		Ⅲ D15 f	10YR2/2 黑褐色	シ	稍多		81904	
A	710	柱穴配置案④, 建物04	縦文	Ⅲ D15 f	10YR2/2 黑褐色	シ	極微		81492	
A	711			Ⅲ D15 f	10YR2/2 黑褐色	シ			82248	
A	712			Ⅲ D15 f	10YR2/2 黑褐色	シ	少	極微	81904	
A	713	建物03		Ⅲ D15 f	10YR2/2 黑褐色	シ	少	極微	81940	
A	714			Ⅲ D15 c	10YR2/2 黑褐色	シ	稍多	極微	82091	
A	715			Ⅲ D15 e	10YR2/2 黑褐色	シ			82193	
A	716			Ⅲ D13 h	10YR2/2 黑褐色	シ			82332	
A	717	自然?		Ⅲ D12 h	10YR2/2 黑褐色	シ			82474	
A	718			Ⅲ D12 h	10YR2/2 黑褐色	シ			82324	
A	719			Ⅲ D12 h	10YR2/2 黑褐色	シ			82488	
A	720	竪穴34 (構状)	縦文	Ⅲ D17 f					-	
A	721	建物17		Ⅲ D20 g	10YR2/2 黑褐色	シ	稍多		81743	
A	722		近世	Ⅲ D20 g	10YR2/2 黑褐色	シ	稍多		81692	
A	723			Ⅲ D20 g	10YR2/2 黑褐色	シ	微		81617	
A	724		近世	Ⅲ D20 g	10YR2/2 黑褐色	シ	多		81447	
A	725	建物05		Ⅲ D18 e	10YR2/2 黑褐色	シ	少		81735	
A	726	建物05		Ⅲ D17 e	10YR2/2 黑褐色	シ	少		81546	
A	727	竪穴28 (梅円)	縦文	Ⅲ D20 b	10YR2/2 黑褐色	シ	稍多		81563	
A	728	柱穴配置案⑨		Ⅲ D20 b					81578	
A	729	竪穴27 (梅円)	縦文	Ⅲ D20 b					81520	
A	730			Ⅲ D20 b					81515	
A	731	竪穴26 (梅円)	縦文	Ⅲ D20 c					81380	
A	732	竪穴25 (梅円)	縦文	Ⅲ D20 c					81345	
A	733	竪穴24 (梅円)	縦文	Ⅲ D19 d					81346	
A	734	竪穴23 (梅円)	縦文	Ⅲ D18 e					81024	
A	735			Ⅲ D19 g	10YR2/2 黑褐色	シ	微		81540 <736	
A	736			Ⅲ D19 g	10YR2/2 黑褐色	シ	微		81650 >735	
A	737	建物11		Ⅲ D19 g	10YR2/2 黑褐色	シ	微		81437	
A	738		縦文	Ⅲ D19 g	10YR2/2 黑褐色	シ			81781	
A	739		縦文	Ⅲ D19 f	10YR2/2 黑褐色	シ			81427	
A	740		縦文	Ⅲ D19 f	10YR2/2 黑褐色	シ			81843	
A	741	建物06		Ⅲ D19 f	10YR2/2 黑褐色	シ	多		81537	
A	742	柱穴配置案⑨	縦文	Ⅲ D20 c	10YR2/2 黑褐色	シ	稍多	極微	81658	根芯山あり、縦文住居に伴う?
A	743			Ⅲ D18 a	10YR2/2 黑褐色	シ	極微		82003	
A	744			Ⅲ D18 a	10YR2/2 黑褐色	シ	微		81730	
A	745			Ⅲ D18 a	10YR2/2 黑褐色	シ	微		81953	
A	746			Ⅲ D18 a	10YR2/2 黑褐色	シ	極微		81930	
A	747			Ⅲ D18 a	10YR2/2 黑褐色	シ	微		81907	
A	748			Ⅲ D18 a	10YR2/2 黑褐色	シ			81947	
A	749			Ⅲ D18 a	10YR2/2 黑褐色	シ			81953	
A	750			Ⅲ D18 a					82045	
A	751		縦文	Ⅲ D19 t	10YR2/2 黑褐色	シ	極微	極微	81796	
A	752		縦文	Ⅲ D19 t	10YR2/2 黑褐色	シ	極微	極微	81746	
A	753		縦文	Ⅲ D19 a	10YR2/2 黑褐色	シ	極微		82017	
A	754		縦文	Ⅲ D19 b	10YR2/2 黑褐色	シ	極微		82091	
A	755			Ⅲ D19 a					82064	
A	756		縦文	Ⅲ D19 a	10YR2/2 黑褐色	シ	少	極微	82047	
A	757		縦文	Ⅲ D19 a	10YR2/2 黑褐色	シ	微	極微	82054	
A	758		縦文	Ⅲ D19 a	10YR2/2 黑褐色	シ	微		82045	
A	759		縦文	Ⅲ D19 t	10YR2/2 黑褐色	シ	少	極微	81948	
A	760		縦文	Ⅲ D19 t	10YR2/2 黑褐色	シ	少	極微	82103	

区	No.	種 別	時期	位 置	掘り方地主土体寸		説 入 物	正面標点 新規	電 指	備 考
					色	調	上質	缺か 脱工数	底	
A	761	縄文	II D19 t	10YR2/2 黒褐色	シ	微			81.646	
A	762		II D19 t	10YR2/2 黒褐色	シ	稍多			81.932	
A	763		II D19 t	10YR2/2 黒褐色	シ	少			82.116	
A	764		III D19 a	10YR2/2 黒褐色	シ	多			82.193	
A	765		III D20 a	10YR2/2 黒褐色	シ	少			82.185	
A	766		II D19 t	10YR2/2 黒褐色	シ	少			81.995	
A	767		II D19 t	10YR2/2 黒褐色	シ	微			82.016	
A	768		II D20 t							81.950
A	769		III E01 g	10YR2/3 黒褐色	シ	多			81.797	
A	770	建物17	III E01 g	10YR2/2 黒褐色	シ	多			81.611	
A	771	建物18	III R01 g							81.718
A	772	建物18	II D19 t	10YR2/2 黒褐色	シ	多			82.087	
A	773		III D19 b	10YR2/2 黒褐色	シ	稍多			82.102	
A	774		III D20 b	10YR2/2 黒褐色	シ	極微			82.190	
A	775		III D20 a	10YR2/2 黒褐色	シ	少			82.199	
A	776		III D20 a	10YR2/2 黒褐色	シ	少			82.189	
A	777		III D20 a	10YR2/2 黒褐色	シ	少			82.165	
A	778		II D20 t							81.842
A	779		II D20 t	10YR2/3 黒褐色	シ	微			82.247	
A	780		III D20 a	10YR2/2 黒褐色	シ	微			82.065	
A	781		III D20 g	10YR2/1 黒色	シ	稍多			81.643	
A	782	植物18	III D20 g	10YR2/2 黒褐色	シ	微			81.692	
A	783			10YR2/1 黒色	シ	微			-	
A	784		III D19 f	10YR2/3 黒褐色	シ	稍多			81.510	
A	785	建物08	III D19 f	10YR2/3 黒褐色	シ	少			81.895	
A	786		III D20 b	10YR2/2 黒褐色	シ	微			81.975	
A	787		III D20 c	10YR2/2 黒褐色	シ	少			81.996	
A	788		III D20 g	10YR2/1 黒色	シ	少			81.710	
A	789		III D20 f	10YR2/2 黒褐色	シ	物多	少		81.677	
A	790		III E01 a	10YR2/2 黒褐色	シ	多			81.800	
A	791	上块13	縄文	III D17 a					81.658	
A	792		III E03 c	10YR2/2 黒褐色	シ	少			81.992	
A	793		III D19 d	10YR2/2 黒褐色	シ	稍多			82.024	
A	794		III D19 d	10YR2/2 黒褐色	シ	多			81.985	
A	795		III D19 d	10YR2/3 黒褐色	シ	多			82.062	
A	796		III D17 e	10YR2/1 黒色	シ	微			81.651	
A	797		III D19 f	10YR2/1 黒色	シ	少			81.818	
A	798		III D18 d	10YR2/2 黒褐色	シ	微			81.720	
A	799	竹子		E02 d					82.154	
A	800				10YR2/2 黒褐色	シ	少			
A	801	箱穴20(横門)	縄文	III D14 i	10YR2/2 黒褐色	シ	少		82.008	
A	802			II D20 t					82.265	
A	803			III E03 c	10YR2/2 黒褐色	シ	少		82.015	
A	804			III E03 c	10YR2/2 黒褐色	シ	稍多		82.032	
A	805	柱穴配置案⑥		III D17 a	10YR2/2 黒褐色	シ	微		81.807	
A	806	柱穴配置案⑨		III D20 b	10YR2/2 黒褐色	シ	少		81.318	
A	807			III D20 b	10YR2/2 黒褐色	シ	少		81.700	
A	808			III D19 b	10YR2/3 黒褐色	シ	微		82.035	
A	809			III D19 b	10YR2/3 黒褐色	シ	稍多		82.084	
A	810			III D19 b	10YR2/1 黒色	シ	微		82.040	
A	811	柱穴配置案②		III D19 b	10YR2/2 黒褐色	シ	稍多		82.006	
A	812			III D20 b	10YR2/3 黒褐色	シ	稍多		82.095	
A	813			III D20 b	10YR2/2 黒褐色	シ	稍多		82.087	
A	814			III D20 c	10YR2/2 黒褐色	シ	少		81.773	
A	815			III D20 c	10YR2/2 黒褐色	シ	少		81.598	
A	816			III D19 c	10YR2/2 黒褐色	シ	少		81.956	
A	817			III D19 c	10YR2/3 黒褐色	シ	稍多		82.167	
A	818			III D20 c	10YR2/1 黒色	シ	多		82.143	
A	819			III D20 c	10YR2/3 黒褐色	シ	稍多		81.562	
A	820			III D20 c	10YR2/2 黒褐色	シ	微		81.700	

区 No.	種 別	時期	粒 穀	泥り方理上生体上		混 入 物	底面標高 (m>仙)	重 量	備 考
				色	調				
A 821			■ D 20 b	10YR2/3 黒褐色	シ	多	82.014		
A 822			■ D 20 d	10YR2/2 黒褐色	シ	少	81.949		
A 823			■ D 20 d	10YR2/3 黒褐色	シ	少	81.920		
A 824			■ D 20 d	10YR2/2 黒褐色	シ	少	81.617		
A 825			■ D 20 d	10YR2/2 黒褐色	シ	微	81.890		
A 826			■ E 01 c	10YR2/2 黒褐色	シ	無微	82.182		
A 827			■ E 01 b	10YR2/3 黒褐色	シ	微	82.187		
A 828			■ E 01 b	10YR2/2 黒褐色	シ	稍多	82.253		
A 829			■ E 01 b	10YR3/2 黒褐色	シ	少	82.175		
A 830			■ E 01 c	10YR2/2 黒褐色	砂シ	少	81.958		
A 831			■ E 01 c	10YR2/3 黒褐色	砂シ	微	82.177		
A 832			■ D 20 b	10YR2/2 黑褐色	シ	極微	81.524		
A 833			■ D 20 b	10YR2/3 黑褐色	シ	微	81.702		
A 834			■ D 19 c	10YR2/2 黑褐色	シ	微	81.666		
A 835			■ D 19 d	10YR2/2 黑褐色	シ	微	81.425		
A 836			■ D 18 b	10YR2/2 黑褐色	シ	少	81.901		
A 837			■ D 18 b	10YR2/1 黑色	シ	少	81.865		
A 838	建物09		■ D 18 f	10YR2/1 黑色	シ	多	81.410		
A 839	築穴35 (溝状)	縦文	■ E 05 a	10YR2/2 黑褐色	シ	多	81.740		
A 840			■ D 18 c			-			
A 841	建物08		■ D 17 f	10YR2/1 黑色	シ	稍多	81.671		
A 842	建物10		■ D 17 g	10YR2/2 黑褐色	シ	少	81.778		
A 843	建物08		■ D 17 g	10YR2/2 黑褐色	シ	微	81.777		
A 844			■ D 17 g	10YR2/3 黑褐色	シ	少	81.709		
A 845			■ D 17 g	10YR2/1 黑色	シ	多	81.691		
A 846	建物07		■ D 17 g	10YR2/3 黑褐色	シ	多	81.535		
A 847	建物09		■ D 17 g	10YR2/3 黑褐色	シ	少	81.641		
A 848			■ D 17 g	10YR2/2 黑褐色	シ	極微	81.804		
A 849	建物08		■ D 17 g	10YR2/2 黑褐色	シ	微	81.679		
A 850	建物08		■ D 18 g	10YR2/3 黑褐色	シ	少	81.682		
A 851			■ D 18 g	10YR2/2 黑褐色	シ	少	81.889		
A 852	建物10		■ D 18 g	10YR2/3 黑褐色	シ	少	81.444		
A 853			■ D 18 g	10YR2/2 黑褐色	シ	少	81.277		
A 834	建物09		■ D 18 g	10YR2/1 黑色	シ	稍多	81.444		
A 855			■ D 18 g	10YR2/2 黑褐色	シ	少	81.476 >877		
A 856			■ D 18 g	10YR2/3 黑褐色	シ	多	81.302		
A 857			■ D 18 g	10YR2/2 黑褐色	シ	稍多	81.344		
A 858	建物07		■ D 18 g	10YR2/2 黑褐色	シ	多	81.670		
A 859			■ D 18 g	10YR2/2 黑褐色	シ	極微	81.530		
A 860	建物08		■ D 18 g	10YR2/1 黑色	シ	少	81.572		
A 861			■ D 18 g	10YR2/2 黑褐色	シ	微	81.360		
A 862	建物10		■ D 18 g	10YR2/1 黑色	シ	稍多	81.665		
A 863			■ D 18 g	10YR2/2 黑褐色	シ	稍多	81.680		
A 864	建物10		■ D 18 g	10YR2/1 黑色	シ	少	81.658		
A 865			■ D 17 h	10YR2/2 黑褐色	シ	少	81.950		
A 866	建物10		■ D 17 g	10YR2/2 黑褐色	シ	少	81.680		
A 867	建物08, 建物13		■ D 18 h	10YR2/2 黑褐色	シ	微	81.584 >868		
A 868			■ D 18 h	10YR2/3 黑褐色	シ	極微	81.566 <867		
A 869			■ D 17 h	10YR2/3 黑褐色	シ	微	81.881		
A 870			■ D 17 h	10YR2/2 黑褐色	シ	少	81.578		
A 871			■ D 17 i	10YR2/2 黑褐色	シ	微	81.132		
A 872	築穴35 (溝状)	縦文	■ D 17 g			-	81.442 <18		
A 873			■ D 18 g	10YR2/1 黑色	シ	少	- >872		
A 874			■ D 18 g	10YR2/1 黑色	シ	少	81.601		
A 875			■ E 03 b			-	82.300 >872		
A 876				10YR2/3 黑褐色	シ	微	- >872		
A 877			■ D 18 g	10YR2/1 黑色	シ	少	81.437 >865		
A 878	建物09		■ D 18 g			-	81.682		
A 879	土坑18	縦文	■ D 12 k			-	81.628		
A 880			■ D 11 k			-	82.254		

区	No.	種別	時期	位 置	鉛り方埋土土体土色		混人物	底面標高	重複 数>11	備考	
					上質	下質					
A	881	建物04		Ⅲ D15 g	10YR3-2	黒褐色	シ 多	82.078			
A	882	建物04		Ⅲ D15 g	10YR3-2	黒褐色	シ 少	81.730			
A	883	建物03, 建物04		Ⅲ D15 g	10YR3-1	黒褐色	シ 少	82.149			
A	884	建物04		Ⅲ D15 g	10YR2-1	黒褐色	シ 少	82.149			
A	885	建物04		Ⅲ D15 g	10YR3-2	黒褐色	シ 微	81.839	<898		
A	886	建物04		Ⅲ D15 g	10YR3-2	黒褐色	シ 少	82.172			
A	887	建物04		Ⅲ D15 g	10YR2-2	黒褐色	シ 微	81.242			
A	888	建物04		Ⅲ D15 h	10YR2-3	黒褐色	シ 少	82.295			
A	889			Ⅲ D16 h	10YR3-2	黒褐色	珍シ 少	82.176			
A	890			Ⅲ D16 h	10YR2-1	黒色	シ 稍多	81.850			
A	891	建物07		Ⅲ D16 g	10YR2-1	黒色	シ 多	81.746			
A	892			Ⅲ D16 g	10YR3-2	黒褐色	シ 少	81.586	<899		
A	893	建物09		Ⅲ D16 g	10YR3-2	黒褐色	シ 少	81.695			
A	894			Ⅲ D16 h	10YR2-2	黒褐色	シ 稍多	82.150			
A	895			Ⅲ D16 h	10YR2-2	黒褐色	シ 稍多	82.128			
A	896			Ⅲ D15 i	10YR2-2	黒褐色	シ 多	82.077			
A	897			Ⅲ D16 i	10YR2-3	黒褐色	シ 多	81.896			
A	898	建物01		Ⅲ D15 g	10YR3-2	黒褐色	シ 少	81.902	>885		
A	899			Ⅲ D16 g	10YR3-2	黒褐色	シ 稍多	82.030	>892		
A	900	建物01		Ⅲ D15 i	10YR2-2	黒褐色	シ 稀		>901		
A	901	柱穴配直案②, 建物04		Ⅲ D15 g	10YR3-2	黒褐色	シ 少	81.750	<900		
A	902			Ⅲ D16 i	10YR3-2	黒褐色	シ 稍多	81.817			
A	903	建物07		Ⅲ D16 f	10YR2-1	黒色	シ 多	82.001			
A	904	建物09		Ⅲ D16 g	10YR2-1	黒色	シ 稍多	81.502			
A	905	建物05		Ⅲ D16 g	10YR2-3	黒褐色	シ 少	81.836			
A	906				10YR3-2	黒褐色	シ 少		-		
A	907			調文	Ⅲ D17 e	10YR2-1	黒色	シ 稀	81.623		
A	908			調文	Ⅲ D16 e	10YR2-1	黒色	シ 少	81.852		
A	909			調文		10YR2-1	黒色	シ 少			
A	910	上坊14		調文	Ⅲ D16 e				81.223		
A	911	土坊13		調文	Ⅲ D17 d						
A	912			調文	Ⅲ D17 d	10YR2-1	黒色	シ 稀			
A	913			調文	Ⅲ D17 d	10YR2-1	黒色	シ 稀	-		
A	914			調文	Ⅲ D17 d	10YR2-2	黒褐色	シ 稀	-		
A	915	柱穴配直案③		調文	Ⅲ D17 c	10YR2-2	黒褐色	シ 稀	81.446		
A	916			調文	Ⅲ D17 b	10YR2-3	黒褐色	シ 稀	81.471		
A	917	柱穴配直案②		調文	Ⅲ D14 e	10YR2-3	黒褐色	シ 稍多	82.100		
A	918			調文	Ⅲ D18 c	10YR3-2	黒褐色	シ 稀	81.110		
A	919			調文	Ⅲ D14 f	10YR2-2	黒褐色	シ 稀	81.969		
A	920			調文	Ⅲ D13 i	10YR2-1	黒色	シ 稀	82.435		
A	921			Ⅲ D14 f	10YR2-2	黒褐色	シ 少	82.068			
A	922			Ⅲ D13 b	10YR2-2	黒褐色	シ 稍多	82.480	>936		
A	923			Ⅲ D13 b	10YR2-2	黒褐色	シ 少	82.825			
A	924			Ⅲ D13 b	10YR2-2	黒褐色	シ 稀	82.755			
A	925			Ⅲ D13 b	10YR2-2	黒褐色	シ 少	82.530			
A	926			Ⅲ D13 b	10YR2-2	黒褐色	シ 稀	82.568			
A	927			Ⅲ D13 b	10YR2-2	黒褐色	シ 多	82.364			
A	928			Ⅲ D17 d	10YR2-2	黒褐色	シ 稀	81.612			
A	929			Ⅲ D13 e	10YR2-2	黒褐色	シ 稀	82.545			
A	930			Ⅲ D13 c	10YR2-2	黒褐色	シ 稍多	82.824			
A	931			Ⅲ D13 c	10YR2-2	黒褐色	シ 少	82.925			
A	932			Ⅲ D13 e	10YR2-1	黒色	シ 稀	-			
A	933	建物05		調文	Ⅲ D17 e	10YR2-3	黒褐色	シ 稀	81.637		
A	934	建物03		調文	Ⅲ D17 c	10YR2-3	黒褐色	シ 稀	81.445		
A	935			調文	Ⅲ D17 d	10YR2-2	黒褐色	シ 稀	-		
A	936			Ⅲ D13 b	10YR2-2	黒褐色	シ 少	82.612	<922		
A	937	建物02		調文	Ⅲ D14 f	10YR2-1	黒色	シ 多	81.727		
A	938	柱穴配直案③, 建物01		調文	Ⅲ D15 f	10YR2-3	黒褐色	シ 稍多	81.883	<961	
A	939			Ⅲ D14 c	10YR2-1	黒色	シ 稀	82.598			
A	940	建物01		Ⅲ D14 f	10YR2-2	黒褐色	シ 少	82.278			

区	No.	種 別	時期	儀 黄	掘り方埋土十体十		混 入 物	底面標高 基>低	重複 率>低	備 考
					色	調				
A	941	柱穴配置案⑤		III D17 b	10YR2/3 黒褐色	シ 少		81.354		
A	942			III D11 b	10YR2/2 黒褐色	シ 微		82.660		
A	943			III D17 b	10YR2/3 黒褐色	シ 少		81.753		
A	944	柱穴配置案⑦		III D17 b	10YR2/2 黒褐色	シ 微		81.355		
A	945	柱穴配置案⑧		III D17 b	10YR2/3 黒褐色	シ 少		81.264		
A	946	柱穴配置案⑦		III D18 c	10YR2/3 黒褐色	シ 微		81.114		
A	947	縄文		III D18 c	10YR2/3 黒褐色	シ 稕微		81.190		
A	948			III D18 c	10YR2/2 黒褐色	シ 少		81.472		
A	949	柱穴配置案⑤ 柱穴配置案⑥		III D18 c	10YR2/2 黒褐色	シ 少		81.170		
A	950	柱穴配置案⑦		III D17 c	10YR2/3 黒褐色	シ 少		81.270		
A	951	柱穴配置案⑥		III D17 b	10YR2/2 黒褐色	シ 稕微		81.174		
A	952	建物#2	縄文	III D15 f	10YR2/2 黒褐色	シ 稕多		81.742 >961		
A	953	柱穴配置案②	縄文	III D15 f	10YR2/2 黒褐色	シ 薄	微	81.300		
A	954			III D13 c	10YR2/2 黒褐色	シ 微		-		
A	955			III D13 c	10YR2/3 黒褐色	シ 少		82.712		
A	956			III D18 b	10YR2/2 黒褐色	シ 微		81.133		
A	957	柱穴配置案⑦		III D17 c				81.538		
A	958			III D17 c	10YR2/2 黒褐色	シ 稕多		81.691		
A	959				10YR2/3 黒褐色	シ 稕		-		
A	960	柱穴配置案⑤		III D18 b	10YR2/2 黒褐色	シ 薄		81.186 <966		
A	961	建物#2		III D15 f	10YR2/1 黒色	シ 少		81.800 >938		
A	962	柱穴配置案⑦		III D17 c				81.064		
A	963	柱穴配置案⑥		III D17 c	10YR2/3 黒褐色	シ 稕		81.038		
A	964	柱穴配置案⑦		III D17 b	10YR2/3 黒褐色	シ 微		81.213		
A	965			III D18 b				81.461		
A	966	柱穴配置案⑦		III D18 b	10YR2/3 黒褐色	シ 稕微		81.345 >960		
A	967			III D15 f	10YR3/2 黒褐色	シ 多		81.615		
A	968	柱穴配置案⑥	縄文	III D17 c	10YR2/2 黒褐色	シ 少		80.999		
A	969				10YR2/2 黒褐色	シ 稕多		-		
A	970				10YR2/2 黒褐色	シ 少		-		
A	971				10YR2/3 黒褐色	シ 少		-		
A	972			III D17 d	10YR2/2 黒褐色	シ 稕多		-		
A	973			III D17 d	10YR2/2 黒褐色	シ 稕微		81.588		
A	974			III D17 c	10YR2/1 黒色	シ 少		81.676		
A	975			III D17 c	10YR2/2 黒褐色	シ 少		81.658		
A	976			III D17 c	10YR2/2 黒褐色	シ 少		81.382		
A	977			III D16 d	10YR2/1 黒色	シ 稕		81.862		
A	978			II D19 i	10YR2/2 黒褐色	シ 少		81.996		
A	979			II D19 i	10YR2/2 黒褐色	シ 微		82.947		
A	980	柱穴配置案⑤		III D18 c	10YR3/2 黒褐色	シ 稕多		81.883		
A	981			III D18 c	10YR2/2 黒褐色	シ 稕		81.710		
A	982			III D18 c	10YR2/2 黒褐色	シ 稕		81.622 <983		
A	983	柱穴配置案⑦		III D18 c	10YR2/3 黒褐色	シ 少		81.293 >962		
A	984	土塁#1	縄文	III D17 b				80.876		
A	985	柱穴配置案⑥		III D17 b	10YR2/3 黒褐色	シ 稕		81.294		
A	986			III D17 b				81.478		
A	987	柱穴配置案⑦		III D18 b				81.206		
A	988	柱穴配置案⑧		III D17 b	10YR2/3 黒褐色	シ 稕		81.787		
A	989	柱穴配置案⑨	縄文	III E02 f	10YR3/2 黒褐色	砂シ		81.348		
A	990	柱穴配置案③		III D14 f	10YR2/3 黒褐色	シ 少		81.782 <997		
A	991			III D13 k				82.450		
A	992			III D12 k	10YR2/3 黒褐色	シ 稕		82.362		
A	993			III D12 k	10YR2/1 黒色	シ 稕		82.434		
A	994			III D12 k	10YR2/3 黒褐色	シ 少		82.403		
A	995				10YR2/3 黒褐色	シ 少		-		
A	996	馬穴18 (縄円)	縄文	III D13 k				82.060		
A	997	柱穴配置案⑤		III D14 f	10YR2/3 黒褐色	砂シ	少	81.492 >990		
A	998			III D18 c	10YR2/3 黒褐色	シ 少		81.642		
A	999			III D18 c	10YR2/3 黒褐色	シ 稕多		81.785		
A	1000			III D17 c	10YR3/2 黒褐色	シ 少		81.532		

区	No.	種 別	時期	位 置	掘り方 壁土主体上		混 入 物		底面標高 新>旧	重複 数	備 考
					色	調	土質	117m ² 地土粒	灰		
A	1001			III D17 c	10YR2/3 黒褐色	シ	砂			81745	
A	1002			III D17 c	10YR2/2 黒褐色	シ	少			81571	
A	1003			III D17 b	10YR2/3 黒褐色	シ	微			81685	
A	1004			III D17 b	10YR2/2 黒褐色	シ	微			81545	
A	1005			III D20 d	10YR3/2 黒褐色	シ	稍多			81805	
A	1006			III D20 d	10YR2/2 黒褐色	シ	少			81390	
A	1007			III D20 d	10YR2/2 黒褐色	シ	少			81914	
A	1008			III D20 d	10YR2/3 黒褐色	砂シ	少			81870	
A	1009			III D20 e	10YR2/3 黒褐色	シ	少			81475	
A	1010									-	
A	1011	竪穴19 (構内)		縦文 III D13 k						82197	
A	1012				10YR2/3 黒褐色	シ	稍多			-	
A	1013			III D19 c	10YR3/2 黒褐色	シ	少			81210	
A	1014									-	
A	1015			III D19 c	10YR2/3 黒褐色	シ	稍多			81445	
A	1016	土坑12		縦文 III D17 a						81701	
A	1017~ 2000	欠番									
A	2001			III D20 f						81585	
A	2002			III D20 f						81490	
A	2003			III E01 f						81512	
A	2004			III E02 f						81217	
A	2005	建物07		III D17 f						81972	
A	2006			III D16 f						82180	
A	2007			III E03 c						82473	
A	2008			III E01 g						-	
A	2009			III E02 g						81600	
A	2010	建物09		III E01 f						81501	
A	2011			III D17 f						81780	
A	2012			III D17 f						81654	
A	2013	建物03		III D17 f						81802	
A	2014	建物09		III D17 f						81982	
A	2015			III D17 f						81838	
A	2016			III D17 f						81334	
A	2017	建物09		III D16 f						81806	
A	2018			III E02 a						81570	
A	2019			III E02 a						82270	
A	2020			III E02 c						82318	
A	2021			III E03 c						82224	
A	2022			III E02 b						82186	
A	2023	建物09		III D18 g						81388	
A	2024			III D17 g						81472	
A	2025	建物09		III D18 g						81310	
A	2026			III D18 g						81516	
A	2027			III D13 c						82685	
A	2028			III D13 e						82805	
A	2029			III D14 c						82304	
A	2030			III D14 e						82330	
A	2031			III D14 f						81987	
A	2032			III D14 f						82139	
A	2033	建物01		III D14 f						82014	
A	2034	竪穴32 (構状)		縦文 III D14 f						81967	
A	2035			III D15 k						82215	
A	2036	柱穴配石堂主		III D14 g						81640	
A	2037	建物01		III D14 h						81917	
A	2038			III D14 h						81902	
A	2039			III D14 h						81746	
A	2040	建物04		III D15 g						82615	
A	2041	建物02, 建物04		III D15 g						81966	
A	2042	建物02, 建物04		III D15 g						81965	

区 No.	種別	時期	位 標	掘り方理土主体土		混 入 物	表面標高 (m)>田	堆積 量(t)	備 考	
				色	調	土質	細砂	風上粒	炭	
A 2043	建物03, 建物04		Ⅲ D15 h							82.085
A 2044	建物04		Ⅲ D15 h							82.190
A 2045	建物01, 建物04		Ⅲ D14 h							82.144
A 2046	建物03, 建物04		Ⅲ D14 h							82.417
A 2047	建物02, 建物04		Ⅲ D15 f							81.840
A 2048			Ⅲ D17 g							81.865
A 2049			Ⅲ D17 g							81.495
A 2050	建物07		Ⅲ D17 g							81.350
A 2051	建物07		Ⅲ D17 g							81.538
A 2052			Ⅲ D17 g							81.800
A 2053			Ⅲ D17 h							81.770
A 2054			Ⅲ D17 h							81.816
A 2055			Ⅲ D17 h							82.067
A 2056			Ⅲ D18 h							81.486
A 2057	建物13		Ⅲ D18 h							81.611
A 2058			Ⅲ D17 i							81.624
A 2059			Ⅲ D17 i							81.864
A 2060	建物13		Ⅲ D17 i							81.602
A 2061			Ⅲ D13 k							81.665
A 2062			Ⅲ D13 k							82.095
A 2063	柱穴配置案⑨		Ⅲ D20 b							81.525
A 2064			Ⅲ D20 a							82.085
A 2065			Ⅲ D19 b							82.032
A 2066			Ⅲ D19 b							82.082
A 2067			Ⅲ D19 c							82.105
A 2068	建物11		Ⅲ D19 g							81.880
A 2069			Ⅲ D19 g							81.728
A 2070			Ⅲ D19 f							81.777
A 2071			Ⅲ D20 c							81.997
A 2072			Ⅲ D20 c							81.784
A 2073			Ⅲ D20 c							82.160
A 2074			Ⅲ D20 c							82.083
A 2075			Ⅲ D20 c							81.587
A 2076	柱穴配置案⑩		Ⅲ D20 c							81.525
A 2077			Ⅲ E01 c							82.207
A 2078	建物02		Ⅲ D14 g							81.846
A 2079			Ⅲ D16 f							81.776
A 2080			Ⅲ D16 g							82.037
A 2081	建物07		Ⅲ D16 g							81.493
A 2082			Ⅲ D16 g							81.593
A 2083			Ⅲ D19 t							-
A 2084			Ⅲ D18 a							82.034
A 2085	柱穴配置案⑪		Ⅲ D17 b							81.338
A 2086			Ⅲ D17 c							81.290
A 2087	柱穴配置案⑫		Ⅲ D17 c							81.330
A 2088			Ⅲ D17 c							81.185
A 2089			Ⅲ D18 c							81.817
A 2090			Ⅲ D18 c							81.626
A 2091			Ⅲ D16 e							82.236
A 2092			Ⅲ D16 e							81.803
A 2093			Ⅲ D16 f							81.868
A 2094			Ⅲ D16 f							82.002
A 2095			Ⅲ D16 f							81.934
A 2096			Ⅲ D18 g							81.575
A 2097			Ⅲ E01 c							82.346
A 2098			Ⅲ D17 b							81.773
A 2099			Ⅲ D17 b							81.788

(4) 出土遺物

① 土 器

出土した土器の総量は大コンテナ30箱分である。遺構内出土土器は主に堅穴住居跡及び土坑から、遺構外としたものは調査区内を縱断する沢跡上部に堆積していたⅢ層から出土したもののが大半を占めている。遺構外としてグリッド別に取り上げたものには、炉跡や柱穴等が検出されている付近から出土したものが多く含まれており、本来これらの遺構に伴う遺物であった可能性もある。

出土土器の主体は縄文時代中期初頭に位置づけられるもので、大半を占める深鉢に加え、浅鉢や小型の土器が見られる。深鉢には、胴部で膨らみ頸部でくびれ口縁部が外傾するもののほか、胴部が直線的に立ち上がり頸部で「く」の字に屈曲するもの、胴上部が球状で胴下部が円筒状を呈するものなどがある。これらの口縁部には平縁と波状縁があり、文様は4単位かこれを再区画した8単位に割り付けられることが多い。文様は口縁部～頸部に集中しており、貼付文や沈線による大型の文様が単位文として口縁部波頂点や頸部に配され、さらに半裁竹管を工具とした平行沈線や押引文、連続刺突文などで加飾される。地文には擬子の綾絞文が多用されており、まれに横位のものが見られる。鉢・浅鉢には地文を持たないものや全体に無文のものが多い。

195・304は底部内の中央部に乳頭上の突起をもつ。120は底部が梢円形を呈するもの、305は口縁部の上面観が梢円形を呈するものである。267・268は底部が多角形状を呈している。276は胴部以上と底部を図上復元した固体である。全体が無文で器面はナデにより整えられている。口縁部～胴上部の外面には赤彩の痕跡があり、胴下端部外面及び台部外面には漆状の黒色塗膜が認められる。

表5 グリッド別出土土器重量

		D												E				
		9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	1	2	3	4	
II	s										1250	5530						
	t										500	7578	14530					
a											5450	14798	5248	14530				
b			1180	2130							5530	2260	1800	7710		80	180	
c				60	3350	40					3650	2920	2930	2230			380	
d					580				420	2450	2350	1100	1270			60		
e					840	2030			520	630	420	140				100		
f					40	260	500	30	50	620	410	290	770					
g					600	810	220			250	350	980	310	130				
h		60	710	6530	11710		40	410	30	190	100							
I			30	490	600			50		290	190							
j				800	1080					5								
k			1040	17600	10300					30								
l				310	220													

□100g未満 □100g以上500g未満 □500g以上1000g未満 □1000g以上5000g未満 □5000g以上10000g未満 □10000g以上

②土製品（第71～74図、写真図版50・51）

土偶（第71～73図、写真図版50・51）

26点出土し全点実測掲載した（401～426）。いずれも板状の土偶で、上半身は十字形を呈し顔面部と腕部に数個の小孔を持ち、下半身は分脚形でO脚状の短い脚が表現されている。表裏及び側面は竹管・半截竹管による刺突・沈線で加飾されている。

青龍刀形土製品（第73図、写真図版51）

1点（427）のみ出土した。平面形は三日月形を呈し、一端に摘み状の突起を持つ。突起と本体の境界は2本の沈線で区画され、また本体の一側面にも2条の平行する沈線が刻まれている。表裏面は無文で全体的に丁寧なナデで仕上げられている。

不明土製品（第73図、写真図版51）

不明としたのは428～432の5点である。428は表面が弧状の太い多重沈線で加飾された板状の個体であるが、裏面に網代痕が認められる。裏面は表面に比して仕上げが雑であることから調落した土器の加飾体の一部である可能性がある。429は平面形がT字状を呈し各先端部が錐状に整形されたものである。指先でひねるように雑に作られており、表面には焼成前のヒビが目立つ。430～432は細い棒状を呈しており、430は両端からの貫通孔を持つ。

円盤状土製品（第73図、写真図版51）

433・434の2点出土した。上器片を素材として周縁を打ち欠き、一部を研磨して整形されている。

焼成粘土塊（第74図、写真図版51）

435・436の2点を掲載した。表面には指先によるナデの痕跡が観察される。これらのほかにも遺跡内からは焼成を受けた粘土塊がやや多く出土している。

③石器・石製品（表8～20、写真図版52～55）

石鐵（表8、写真図版52）

45点出土し、このうち住居跡1出土の完形個体11点を写真掲載した（501～511）。茎の有無及び基部形状で分類すると、「石鐵？」としたものを除く39点はいずれも茎部を持たず、うち36点は基部に抉りを有しその両端が脚状に突出する四葉鉄に分類される。全点中33点が完形（完形？含む）で欠損したものの割合は低い。欠損個体の大半は脚部または基部付近を失ったものが大半を占め、先端部欠損の個体は1点のみである。

石匙（表9、写真図版52）

縁辺の一端に摘み状の突出部を作り出されているものをまとめた。24点出土し、うち7点を写真掲載した（512～518）。摘み部を除いた石器本体の長軸線と、摘み部の設けられる部位との位置関係から、以下の【a】～【c】に細分した。

a（512～514ほか）は概ね木葉形を呈する本体の一側縁の中央付近に、本体長軸とは直交する方向に摘み部を作り出しているものである。摘み部を上にすると横長の形状を呈する。摘み部を有する側の縁辺には摘

み部作出に伴う細部加工剥離が表裏に施されているのに対し、刃部と思われる反対縁では裏面を打面とした連続的な細部加工剥離が裏面にのみ認められる。

b (515・516ほか) は本体形状が範状または撥状を呈し、本体長軸上の一端に摘み部を作出したものである。摘み部を上にすると縱長の形狀となる。本体の両側縁には裏面を打面とした連続的な細部加工剥離により刃部が形成されている。裏面に認められる細部加工剥離は摘み部作出を意図したものに限定される。

c (517・518ほか) は a・b の中間的な存在で、本体長軸線と摘み部の軸が斜交するものである。a・b と同様に片面の連続的細部加工剥離によって刃部が形成されており、裏面に観察される細部加工剥離は摘み部作出に伴うものに限定される。

a～c のいずれにおいても、素材剥片として石核から剥取された時点の打面が摘み部の上面に残されている個体が多く認められる。言い換えると、摘み部を作出する部位として素材剥片の打面付近が選択される傾向が看取できる。このことから、a～c の形態差は素材剥片そのものの形状差に由来するものと理解され、a は横長剥片、b は縱長剥片、c はその他の不整形剥片を素材として採用したものと考えられる。

石 鋸 (表10、写真図版52)

4 点出土し、うち 2 点を写真掲載した (519)・(520)。基部が幅広の摘み状を呈し刃部との区別が明瞭なもの【a】と、これを持たず基部から刃部へと細長く連続するもの【b】に細分される。前者に帰属する 2 点はいずれも刃部を欠損している。4 点中 3 点は住居跡 1 からの出土である。

範状石器 (表11、写真図版52)

全体が縱長で範状の形狀を呈するものである。8 点を登録し、うち 4 点を写真掲載した (521～524)。表裏両面にはほぼ全周する連続的な細部加工剥離が施され、これらに取り囲まれるように、表面には先行する整形加工剥離面、裏面には素材剥片の主要剥離面が残されている。断面形は凸レンズ状を呈し表裏で対称的である。裏面に観察される整形加工剥離は長軸と直交するように側縁から中心に向かって行われており、素材剥片の原形から大きく変形させ縱長に整形しようとする意図が見て取れる。

尖頭状石器 (表12、写真図版52)

槍先部の尖頭部を有するもの 4 点を登録し、うち 2 点を写真掲載した (525)・(526)。範状石器、両面加工石器などの一部にはこれに類似したものが含まれているが、本類には尖頭部付近の細部加工剥離が表裏両面に集中的に施されるなど、尖頭部作出の意図が明らかなものを分類し、これらと区別している。

挿器・削器類 (表13、写真図版53)

素材剥片の縁辺の一部に連続的な細部加工剥離が施されているもの 22 点を登録し、うち 4 点を写真掲載した (527～530)。このうち 527～529 などは一縁縁を直線的に、これと反対縁を弧状に整形しているのが特徴的である。石匙と同様、刃部作出とは別に整形を意図した細部加工剥離が行われていることが窺え、素材剥片がすでに一部に直線的な縁辺を持っている場合、逆にその部分は無加工のまま刃部として用いている個体も認められた。

両面調整の石器（表14、写真図版53）

継長の素材の両側縁からやや粗い剥離が両面に施されているものである。刃部作出を意図したと思われる細部加工剥離は認められない。5点を登録し、うち2点を写真掲載した（531・532）。同一素材の環状や片とともに出土したものが多く、笠状石器・尖頭状石器等の未成品である可能性がある。

石 錐（表15、第75図、写真図版53）

平面形が梢円形で扁平な輝の両端を打ち欠いて抉りを作出したものである。6点出土し全て写真掲載した（533～538）。うち5点は住居跡1の壁際床面付近から出土したものである。

石 鋸（表16、写真図版53）

板状の素材の縁辺を打ち割って分鋸形に整形したものである。2点出土し、全て写真掲載した（539・540）。

磨製石斧（表17、写真図版53）

2点出土し全て写真掲載した（541・542）。いずれも欠損した刃部付近の破片である。

蔽磨器類

磨 石（表18、写真図版53・54）

平面が円形一梢円形の自然砾を素材とし、片面または両面に砥面状の使用済みが認められるものである。20点出土し、うち4点を写真掲載した（543～546）。

スリ石（表19、写真図版54）

主に平面長梢円形の砾を素材とし、長軸と平行する縁辺に研磨面・剥離による稜や、蔽打によるツブレ面等の作用面が細長く形成されているものをまとめた。特殊磨石または半円状扁平打製石器などとされるものである。121点出土し、うち9点を写真掲載した（547～555）。

石製品（表20、第76～77図、写真図版55）

出土した石製品は次のとおりである。全点を実測、掲載した。

块状耳飾（556・557）、垂飾具（558～565）、斧形石製品（566）、石棒（567・568）、石劍・石刀（569～572）、不明石製品（573）、円盤状石製品（574）、有孔石製品（575）、有孔砾（576・577）、砥石（578）。

垂飾具には、棒状（558～560）・菱形（561～563）・円形（564）・三角形（565）の各形態があり、多くが一面に小孔を有する。不明石製品（573）は打ち欠きの後部分的な研磨によって整形されており、摘み状の頭部と錐状の下端部を持つ。567の石棒は攪乱層からの出土であり遺跡の主体時期より新しいものである可能性が高い。

表6 A区出土器一覧

器種 番号	組No	区	出土地点・遺構名	層位	規範事項等	同番号	参考図 版番号	備 考
1	780	A	住居跡 I 東側寄煙草巻(ⅢD13k)			41	29	a・b有、
2	783	A	住居跡 I 西側寄煙草巻(ⅢD13k)			41	29	a・b有、
3	466	A	住居跡 I (ⅢD11k)	床面直上		41	29	
4	401	A	住居跡 I (ⅢD11k)	床面直上・横位		41	29	
5	424	A	住居跡 I (ⅢD12k)	床面直上		42	30	
6	423	A	住居跡 I (ⅢD12k)	床面直上・埋土中位		42	30	
7	484	A	住居跡 I (ⅢD13k) 銅鑄落ちこみ	埋土		42	30	
8	425	A	住居跡 I (ⅢD12k)	床面直上・埋土中位		42	30	
9	482	A	住居跡 I (ⅢD13k)	埋土中位		42	30	
10	402	A	住居跡 I (ⅢD11k)			43	31	
11	406	A	住居跡 I (ⅢD11k)	床面直上		43	31	
12	405	A	住居跡 I (ⅢD11k)・ⅢD12k)	床面直上		43	31	
13	426	A	住居跡 I (ⅢD12k)	床面直上		43	31	
14	483	A	住居跡 I (ⅢD13k)	床面直上		43	31	a・b有上合成、
15	430	A	住居跡 I (ⅢD12k)	床面直上		44	32	
16	463	A	住居跡 I (ⅢD12k)	埋土		44	32	
17	485	A	住居跡 I (ⅢD13k)	埋土		44	32	
18	486	A	住居跡 I (ⅢD13k)	埋土		44	32	
19	412	A	住居跡 I (ⅢD12k)	埋土中位		44	32	
20	403	A	住居跡 I (ⅢD11k)	床・10cm		44	32	
21	487	A	住居跡 I (ⅢD15k)	床面直上		44	32	
22	428	A	住居跡 I (ⅢD12k)	床面直上		44	32	
23	431	A	住居跡 I (ⅢD12k)	床面直上		44	32	
24	432	A	住居跡 I (ⅢD12k)	床面直上		44	32	
25	429	A	住居跡 I (ⅢD12k)	床面直上		44	32	
26	409	A	住居跡 I (ⅢD11k)	埋土		44	32	
27	410	A	住居跡 I (ⅢD11k)	埋土		45	-	
28	411	A	住居跡 I (ⅢD11k)	埋土		45	-	
29	413	A	住居跡 I (ⅢD11k)	埋土		45	32	
30	414	A	住居跡 I (ⅢD11k)	埋土		45	32	
31	415	A	住居跡 I (ⅢD11k)	埋土		45	32	
32	421	A	住居跡 I (ⅢD11k)	埋土中位		45	32	
33	422	A	住居跡 I (ⅢD11k)	埋土		45	-	
34	462	A	住居跡 I (ⅢD12k)	埋土中位		45	-	
35	433	A	住居跡 I (ⅢD12k)	埋土中位		45	-	
36	434	A	住居跡 I (ⅢD12k)	埋土中位		45	-	
37	435	A	住居跡 I (ⅢD12k)	埋土中位		45	-	
38	436	A	住居跡 I (ⅢD12k)	埋土中位		45	-	
39	437	A	住居跡 I (ⅢD12k)	埋土中位		45	-	
40	438	A	住居跡 I (ⅢD12k)	埋土中位		45	-	
41	439	A	住居跡 I (ⅢD12k)	埋土中位		45	-	
42	440	A	住居跡 I (ⅢD12k)	埋土中位		45	-	
43	443	A	住居跡 I (ⅢD12k)	埋土中位		45	-	
44	444	A	住居跡 I (ⅢD12k)	埋土中位		45	-	
45	445	A	住居跡 I (ⅢD12k)	埋土		45	-	
46	446	A	住居跡 I (ⅢD12k)	埋土		45	-	
47	447	A	住居跡 I (ⅢD12k)	埋土		45	32	
48	448	A	住居跡 I (ⅢD12k)	埋土		45	-	
49	419	A	住居跡 I (ⅢD12k)	埋土		45	-	
50	461	A	住居跡 I (ⅢD12k)	埋土		46	-	
51	462	A	住居跡 I (ⅢD12k)	埋土		46	32	
52	453	A	住居跡 I (ⅢD12k)	埋土		46	-	
53	454	A	住居跡 I (ⅢD12k)	埋土		46	32	
54	455	A	住居跡 I (ⅢD12k)	埋土		46	32	
55	456	A	住居跡 I (ⅢD12k)	埋土		46	-	
56	457	A	住居跡 I (ⅢD12k)	埋土		46	32	
57	459	A	住居跡 I (ⅢD12k)	埋土		46	-	
58	489	A	住居跡 I (ⅢD13k)	埋土中位		46	-	
59	490	A	住居跡 I (ⅢD13k)	埋土		46	-	
60	491	A	住居跡 I (ⅢD13k)	埋土		46	32	
61	492	A	住居跡 I (ⅢD13k)	埋土		46	32	
62	493	A	住居跡 I (ⅢD13k)	埋土		46	-	
63	494	A	住居跡 I (ⅢD13k)	埋土		46	-	
64	495	A	住居跡 I (ⅢD13k)	埋土		46	32	
65	496	A	住居跡 I (ⅢD13k)	埋土		46	32	
66	497	A	住居跡 I (ⅢD13k)	埋土		46	-	
67	498	A	住居跡 I (ⅢD15k)	埋土		46	-	
68	499	A	住居跡 I (ⅢD15k)	埋土		46	-	
69	501	A	住居跡 I (ⅢD13k)	埋土		46	-	
70	502	A	住居跡 I (ⅢD13k)	埋土中位		46	32	
71	500	A	住居跡 I (ⅢD13k)	埋土		46	-	

標號 番号	假號 番号	区	出土地点・遺構名	層位等	測量事項等	四版 番号	写真圖 版番号	備考
72	503	A	在路1 (Ⅲ D15 1)	埋土中位		46	-	
73	507	A	Ⅲ D12 h	埋土		47	33	
74	531	A	Ⅲ D12~13 b	黑色土		47	33	
75	540	A	Ⅲ D15 b	黑色土		47	33	
76	530	A	Ⅲ D12 b			47	33	
77	537	A	Ⅲ D13 c			-	33	
78	538	A	Ⅲ D13 e			-	33	
79	539	A	Ⅲ D13 e			-	33	
80	551	A	Ⅲ D13 e	黑色土		-	33	
81	549	A	Ⅲ D14 c	黑色土上部		-	33	
82	550	A	Ⅲ D14 e	黑色土上部		-	33	
83	552	A	Ⅲ D14 e	黑色土		-	33	
84	536	A	Ⅲ D13 b			-	33	
85	691	A	Ⅲ D13 c	黑色土		-	33	
86	692	A	Ⅲ D13 c	黑色土		-	33	
87	693	A	Ⅲ D13 c	黑色土		-	33	
88	553	A	Ⅲ D17 a	黑色土		48	33	
89	554	A	Ⅲ D17 a	黑色土		48	33	
90	580	A	Ⅲ D18 a	黑色土		48	34	
91	582	A	Ⅲ D18 a	黑色土		48	34	
92	584	A	Ⅲ D18 a	黑色土		48	34	
93	585	A	Ⅲ D18 a	黑色土		48	34	
94	583	A	Ⅲ D18 a	黑色土		48	34	
95	581	A	Ⅲ D18 a	黑色土		48	34	
96	585	A	Ⅲ D18 a	黑色土		49	35	
97	596	A	Ⅲ D18 t	黑色土		49	35	
98	612	A	Ⅲ D19 s	黑色土		49	-	
99	618	A	Ⅲ D19 s	黑色土		49	-	
100	630	A	Ⅲ D19 t	黑色土		49	35	
101	631	A	Ⅲ D19 t	黑色土		49	-	
102	632	A	Ⅲ D19 t	黑色土		49	-	
103	637	A	Ⅲ D19 t	黑色土		50	36	
104	641	A	Ⅲ D19 t	黑色土		50	36	
105	638	A	Ⅲ D19 t	黑色土		50	36	
106	639	A	Ⅲ D19 t	黑色土		50	36	
107	666	A	Ⅲ D19 c	黑色土		50	36	
108	669	A	Ⅲ D19 c	黑色土		50	37	
109	671	A	Ⅲ D19 c	黑色土		50	37	
110	683	A	Ⅲ D20 c	黑色土		51	37	
111	684	A	Ⅲ D20 c	黑色土		51	37	
112	688	A	Ⅲ D19 t	黑色土		51	37	
113	713	A	Ⅲ D17 b	黑色土		51	37	
114	719	A	Ⅲ D17 b	黑色土		51	37	
115	720	A	Ⅲ D17 b	黑色土		51	37	
116	722	A	Ⅲ D17 c	黑色土		51	37	
117	721	A	Ⅲ D17 c	黑色土		51	37	
118	731	A	Ⅲ D17 c	黑色土		51	-	
119	722	A	Ⅲ D17 t	黑色土		51	37	
120	748	A	Ⅲ D18 c	黑色土		51	-	
121	134	A	土坑01			52	38	
122	369	A	+50/01			52	38	
123	773	A	+50/01			52	-	
124	774	A	+50/01			52	-	
125	139	A	+50/01	ベルト		52	-	
126	152	A	+50/01	ベルト		52	38	
127	175	A	土坑01			53	38	
128	170	A	+50/01			53	38	
129	158	A	+50/01			53	39	
130	156	A	土坑01			53	39	
131	155	A	土坑01			53	39	
132	142	A	土坑01			53	39	
133	140	A	土坑01			53	39	
134	153	A	土坑01			53	39	
135	370	A	土坑01			54	-	
136	141	A	土坑01			54	39	
137	149	A	土坑01			54	--	
138	147	A	土坑01			54	-	
139	775	A	+50/01			54	-	
140	150	A	土坑01			54	-	
141	371	A	土坑01			54	-	
142	151	A	土坑01			54	-	
143	372	A	土坑01			54	-	
144	136	A	+50/01			54	-	
145	138	A	+50/01			54	-	

埋藏番号	假番号	区	出土地点・遺構名	層位等	観察事項等	回復番号	写真回数番号	備考
146	137	A	土坑01			54		
147	270	A	十坑02	層土(上～中)		54	-	
148	274	A	下坑02	層土(上～中)		54	-	
149	267	A	土坑02	層土(上～中)		54	-	
150	283	A	土坑02	層土(上～中)		54	39	
151	273	A	十坑02	層土(上～中)		54	39	
152	261	A	土坑02	底面直土, 残土(上～中)		54	39	
153	266	A	土坑02	底面直土, 残土(上～中)		55	39	
154	258	A	十坑02	底面直土		55	-	
155	259	A	土坑02	底面直土		55	39	
156	328	A	土坑02	底面直土		55	40	
157	288	A	土坑02	底面直土		55	-	
158	265	A	十坑02	底面直土		55	-	
159	275	A	下坑02	底面直土		55	40	
160	268	A	土坑02	底面直土		55	40	
161	265	A	十坑02	底面直土		55	-	
162	260	A	下坑02	底面直土		55	-	
163	281	A	土坑02	底面直土		56	40	
164	263	A	土坑02	底面直土		56	40	
165	277	A	十坑02	底面直土		56	-	
166	271	A	土坑02			56	40	
167	257	A	土坑03	底面直土		56	41	
168	31	A	十坑03			56	41	
169	33	A	下坑03			56	41	
170	32	A	土坑03			56	41	
171	35	A	土坑03			56	41	
172	40	A	十坑03			56	41	
173	28	A	土坑03			56	41	
174	28	N	十坑03			56	-	
175	26	A	下坑05			57	41	
176	15	A	下坑05			57	-	
177	23	A	土坑05			57	41	
178	17	A	十坑05			57	-	
179	16	A	下坑05			57	41	
180	14	A	土坑05			57	-	
181	19	A	土坑05			57	-	
182	12	A	十坑05			57	-	
183	10	A	下坑05	埋土7層		57	41	
184	21	A	土坑05			57	-	
185	9	A	十坑05			57	41	
186	13	A	下坑05			57	-	
187	20	A	土坑05			57	-	
188	22	A	十坑05			57	-	
189	7	A	下坑05	層土7層		57	-	
190	8	A	土坑05			57	-	
191	4	A	土坑05			57	41	
192	5	A	十坑05			57	-	
193	6	A	土坑05			57	-	
194	3	A	土坑05			57	-	
195	2	A	十坑05			57	41	
196	123	A	下坑05, 下层07			58	41	
197	11	A	土坑05, 上层07			58	-	
198	103	A	下坑06	埋土上～中部		58	42	
199	104	A	下坑06			58	42	
200	101	A	土坑06	埋土中～下部		58	42	
201	100	A	十坑06	埋土上～中部		58	-	
202	98	A	下坑06	埋土中部		58	-	
203	99	A	土坑06	埋土上～中部		58	-	
204	132	A	十坑07			59	42	
205	124	A	下坑07			59	42	
206	125	A	土坑07			59	42	
207	128	A	十坑07			59	-	
208	127	A	下坑07			59	42	
209	130	A	土坑07			59	-	
210	122	A	土坑07	埋土上部		59	-	
211	287	A	十坑08西壁際	底面直土		59	42	
212	111	A	土坑08			59	-	
213	116	A	土坑08			59	42	
214	115	A	十坑08			59	42	
215	112	A	下坑08			59	42	
216	114	A	土坑08			59	42	
217	117	A	土坑08			59	-	
218	234	A	土坑09			59	42	
219	235	A	土坑09			59	-	

標號 番号	組No. 区	出土地點・遺構名	層位等	觀察事項等	因版 番号	写真圖 版番号	備考
220	284	A 土坑10	埋土4層		60	43	
221	238	A 十坑10			60	-	
222	239	A 土坑10			60	-	
223	236	A 土坑10			60	43	
224	346	A 十坑11			60	43	
225	347	A 土坑11			60	43	
226	350	A 土坑11			60	-	
227	349	A 土坑11			60	-	
228	331	A 土坑11			60	-	
229	355	A 土坑11			60	43	
230	354	A 土坑11			60	43	
231	353	A 土坑11			61	-	
232	285	A 十坑10	埋土4層		61	-	
233	352	A 土坑11			61	-	
234	361	A 土坑12			61	43	
235	365	A 土坑12			61	-	
236	366	A 土坑12			61	-	
237	289	A 土坑13	底面直上		62	44	
238	380	A 土坑13			62	44	
239	378	A 土坑13			62	-	
240	379	A 土坑13			62	-	
241	376	A 土坑13			62	-	
242	326	A 土坑13			62	44	
243	381	A 土坑13			62	-	
244	369	A 土坑16			62	44	
245	771	A 土坑16			62	44	
246	74	A 土坑16	7層上面		63	44	
247	78	A 土坑16	4層上面埋土上部		63	44	
248	76	A 土坑16	7層上面埋土上部		63	44	
249	81	A 土坑16	埋土上部		63	45	
250	772	A 土坑16			63	-	
251	83	A 土坑16	埋土上部		63	-	
252	770	A 土坑16			63	-	
253	95	A 土坑16	6a層上面埋土上部		63	-	
254	86	A 土坑16	埋土中位		63	-	
255	91	A 土坑16	埋土中位		63	-	
256	89	A 土坑16	4層上面		63	-	
257	96	A 土坑16			63	-	
258	90	A 土坑16	埋土中位		63	-	
259	84	A 土坑16	埋土上部		63	-	
260	88	A 土坑16	12層上面		63	-	
261	94	A 土坑16	埋土上部		63	-	
262	85	A 土坑16	埋土上部		63	-	
263	87	A 土坑16	埋土上部		63	-	
264	82	A 土坑16	埋土中位		63	-	
265	97	A 土坑16	埋土上部		63	-	
266	44	A 土坑17-土坑16	p202埋土上部-p201.3層上面		63	45	
267	77	A 土坑16	埋土上部		64	-	327と同一個位
268	327	A 土坑16	埋土上部		64	-	
269	45	A 土坑17			64	45	
270	42	A 土坑17			64	45	
271	49	A 土坑17			64	-	
272	43	A 土坑17			64	-	
273	467	A 土坑18	埋土		64	45	
274	468	A 土坑18			64	-	
275	469	A 土坑18			64	-	
276	464	A 土坑18	埋土		64	45	
277	465	A 土坑18	埋土		64	45	
278	471	A 土坑18	埋土		64	45	
279	476	A 土坑18	埋土		64	45	
280	478	A 土坑18	埋土		64	45	
281	480	A 土坑18	埋土		64	-	
282	477	A 土坑18	埋土		65	45	
283	473	A 土坑18	埋土		65	45	
284	474	A 土坑18	埋土		65	-	
285	479	A 土坑18	埋土		65	-	
286	475	A 土坑18	埋土		65	45	
287	472	A 土坑18	埋土		65	-	
288	470	A 土坑18	埋土		65	-	
289	481	A 土坑18	埋土		65	45	
290	496	A 土坑19	底面直上		65	46	
291	498	A 土坑19			65	46	
292	173	A 土坑19	底面直上		65	46	
293	167	A 土坑19			66	47	

測量番号	假No	区	出土地点・遺構名	部位等	調査事項等	国版番号	写真図版番号	備考
291	172	A	土坑19			66	46	
295	174	A	土坑19			66	47	
296	196	A	土坑19			66	-	
297	168	A	土坑19			67	47	
298	169	A	土坑19			67	48	
299	165	A	土坑19			67	48	
300	193	A	土坑19			67	48	
301	171	A	土坑19			68	48	
302	162	A	土坑19			68	-	
303	164	A	土坑19			68	48	
304	166	A	土坑19			68	48	
305	160	A	土坑19			68	-	
306	194	A	土坑19			68	-	
307	204	A	土坑19			68	-	
308	179	A	土坑19			68	-	
309	203	A	土坑19			68	-	
310	177	A	土坑19			68	-	
311	185	A	土坑19			68	-	
312	184	A	土坑19			68	-	
313	187	A	土坑19			68	-	
314	189	A	土坑19			68	-	
315	190	A	土坑19			68	-	
316	186	A	土坑19			68	-	
317	181	A	土坑19			69	-	
318	176	A	土坑19			69	-	
319	180	A	土坑19			69	-	
320	158	A	土坑19			69	-	
321	178	A	土坑19			69	-	
322	1	A	縫穴03			70	49	
323	314	A	縫穴23			70	49	
324	313	A	縫穴24			70	49	
325	311	A	縫穴27			70	49	
326	312	A	縫穴27			70	49	
327	229	A	縫穴31			70	49	
328	335	A	縫穴35			70	49	

表7 A区土器品

測量番号	假No	機種	部位	区	出土地点	層位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	備考	国版番号	写真図版番号
401	A01	上巣	頭~頸	A	土坑3	7層	(9.0)	(10.1)	1.2		71	50
402	A02	下巣	頭~頸	A	土坑9	縫上	(4.7)	(5.8)	1.2		71	50
403	A03	土巣	頭~頸	A	作成跡1	床土上5cm	(5.2)	(5.5)	0.9		71	50
404	A04	土巣	頭~頸	A	土坑17d	黑色土	(5.0)	(2.7)	0.7		71	50
405	A05	土巣	頭~頸	A	土坑13h	黑色土集中面	(3.6)	(3.9)	1.7		71	50
406	A06	土巣	頭~頸	A	土坑19	黑色土	(4.4)	(4.0)	1.4		71	50
407	A07	土巣	頭~頸	A	作成跡1(Ⅲ D13)1	縫土	(2.7)	(4.5)	1.0		71	50
408	A08	土巣	頭~頸	A	土坑17b	黑色土	(10.6)	(0.4)	1.4		71	50
409	A09	土巣	頭~頸	A	土坑20b	黑色土	(8.4)	6.8	1.5	縫穴35との重複形で出土	72	50
410	A10	土巣	頭~頸	A	土坑17d	黑色土	(7.7)	(4.2)	1.3		72	50
411	A11	上巣	頭	A	土坑18a	黑色土	(4.0)	(5.2)	1.4		72	50
412	A12	上巣	頭	A	土坑9	縫上	(4.0)	(4.8)	2.0		72	50
413	A13	土巣	頭	A	土坑17b	黑色土	(2.5)	(2.3)	1.3		72	50
414	A14	土巣	頭	A	土坑13c	黑色土集中面	(5.6)	(6.2)	1.4		72	50
415	A15	土巣	頭	A	土坑18h	縫面	(5.0)	(4.3)	1.6		72	50
416	A16	土巣	頭	A	土坑19t	黑色土	(5.5)	(5.3)	2.5		72	50
417	A17	土巣	頭	A	土坑17	黑色土	(3.8)	(5.0)	1.0		72	50
418	A18	下巣	頭	A	土坑18	縫土	(4.4)	(3.8)	1.3		72	50
419	A19	下巣	頭	A	作成跡1(Ⅲ D11k)	縫土	(5.0)	(3.8)	1.0		72	51
420	A20	土巣	頭	A	土坑16d	黑色土	(4.0)	(4.0)	1.1		73	51
421	A21	土巣	頭	A	土坑18g	黒色土	(6.2)	(5.5)	2.0		73	51
422	A22	下巣	頭	A	土坑17d	黒色土	(2.6)	(3.5)	1.3		73	51
423	A23	土巣?	不明	C	p0015	縫土	(3.0)	(2.4)	2.1		73	51
424	A24	土巣	肩	A	土坑13h	黑色土集中面	(2.8)	(2.9)	1.6		73	51
425	A25	土巣	肩	A	土坑19t	黒色土	(4.9)	(3.7)	1.1		73	51
426	A26	土巣	肩	A	土坑5	縫土	(4.2)	(6.4)	1.5		73	51
427	A27	青龍り形?		A	土坑3	黒土	12.4	6.1	1.9		73	51
428	A28	不明?		A	土坑19d	黒色土	(4.6)	(5.7)	(1.0)		73	51
429	A29	不明?		A	p0319	縫土	2.2	(3.4)	1.5		73	51
430	A30	不明(土縛?)		A	土坑15h	黒色土	(2.5)	1.3	1.3		73	51
431	A31	不明?		A	土坑1	縫土	(4.6)	1.1	1.1		73	51
432	A32	不明?		A	土坑1	縫土	(2.4)	0.7	0.7		73	51
433	A33	円盤状		A	作成跡1(Ⅲ D13k)	縫土	3.8	3.8	1.2		73	51
434	A34	円盤状		A	土坑5	縫土	3.0	3.0	1.1		73	51
435	A35	燒成黏土塊		A	D19a	黒色土	12.0	7.3	3.0		74	51
436	A36	燒成粘土塊		A	D17d	黒色土	4.6	4.2	(2.6)		74	51

表8 石 砂

地質番号	名	区	所十地名	層位	大頭部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	容積(cm ³)	重さ(g)	石質	風化	備考
501	a02 石頭	無	西	A 生岩頭(ⅢD1)k	泥土	~	~	~	~	~	~	~	少風化
502	a12 石頭	無	西	A 生岩頭(ⅢD1)k	木頭風土	~	~	~	~	~	~	~	少風化
503	a26 石頭	無	西	A 生岩頭(ⅢD1)k	木頭風土	~	~	~	~	~	~	~	少風化
504	a13 石頭	無	西	A 生岩頭(ⅢD1)k	木頭風土	~	~	~	~	~	~	~	少風化
505	a22 石頭	無	西	A 生岩頭(ⅢD1)k	木頭風土	~	~	~	~	~	~	~	少風化
506	a01 石頭	無	西	A 生岩頭(ⅢD1)k	木頭風土	~	~	~	~	~	~	~	少風化
507	a11 石頭	無	西	A 生岩頭(ⅢD1)k	木頭風土	~	~	~	~	~	~	~	少風化
508	a27 石頭	無	西	A 生岩頭(ⅢD1)k	木頭風土	~	~	~	~	~	~	~	少風化
509	a05 石頭	無	西	A 生岩頭(ⅢD1)k	木頭風土	~	~	~	~	~	~	~	少風化
510	a17 石頭	無	西	A 生岩頭(ⅢD1)k	木頭風土	~	~	~	~	~	~	~	少風化
511	a20 石頭	無	西	A 生岩頭(ⅢD1)k	木頭風土	~	~	~	~	~	~	~	少風化
a07	a18 石頭	無	西	A D18	黑色土	~	~	~	~	~	~	~	少風化
a34	a19 石頭	無	西	A D19	黑色土	~	~	~	~	~	~	~	少風化
522	a26 石頭	無	西	A D12~13 b	黑色土+中風土	~	~	~	~	~	~	~	少風化
a26	a17 石頭	無	西	A D17	黑色土	~	~	~	~	~	~	~	少風化
a31	a18 石頭	無	西	A D18 c	黑色土	~	~	~	~	~	~	~	少風化
a23	a19 石頭	無	西	A D19	黑色土	~	~	~	~	~	~	~	少風化
a29	a20 石頭	無	西	A D17 h	黑色土	~	~	~	~	~	~	~	少風化
a45	a26 石頭	無	西	A D17 b	黑色土	~	~	~	~	~	~	~	少風化
a41	a25 石頭	無	西	A D18 a	黑色土	~	~	~	~	~	~	~	少風化
a26	a16 石頭	無	西	A D18 b	黑色土	~	~	~	~	~	~	~	少風化
519	a16 石頭	無	西	A D18 a	黑色土	~	~	~	~	~	~	~	少風化
a20	a16 石頭	無	西	A D16	檢出風土	~	~	~	~	~	~	~	少風化
a38	a18 石頭	無	西	A D18	檢出風土	~	~	~	~	~	~	~	少風化
a39	a16 石頭	無	西	A D16	檢出風土	~	~	~	~	~	~	~	少風化
a18	a16 石頭	無	西	A D16	檢出風土	~	~	~	~	~	~	~	少風化
523	a23 石頭	無	西	A D052	土上	~	~	~	~	~	~	~	少風化
a08	a16 石頭	無	西	A D16	土上	~	~	~	~	~	~	~	少風化
521	a21 石頭	無	西	A D16	土上	~	~	~	~	~	~	~	少風化
a06	a16 石頭	無	西	A D16	土上	~	~	~	~	~	~	~	少風化
516	a16 石頭	無	西	A D16	土上	~	~	~	~	~	~	~	少風化
a25	a16 石頭	無	西	A D16	土上	~	~	~	~	~	~	~	少風化
a15	a26 石頭	無	西	A D16	土上	~	~	~	~	~	~	~	少風化
a11	a16 石頭	無	西	A D16	土上	~	~	~	~	~	~	~	少風化
a03	a16 石頭	無	西	A D16	土上	~	~	~	~	~	~	~	少風化
a40	a16 石頭	無	西	A D16	土上	~	~	~	~	~	~	~	少風化
a42	a16 石頭	無	西	A D16	土上	~	~	~	~	~	~	~	少風化
a41	a16 石頭	無	西	A D16	土上	~	~	~	~	~	~	~	少風化
a37	a16 石頭	無	西	A D16	土上	~	~	~	~	~	~	~	少風化
a43	a16 石頭	無	西	A D16	土上	~	~	~	~	~	~	~	少風化
a32	a16 石頭	無	西	A D16	土上	~	~	~	~	~	~	~	少風化
a10	a16 石頭	無	西	A D16	土上	~	~	~	~	~	~	~	少風化

表9 石

標識番号	No.	分類	細分	区分	出土十地点	層位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(㌘)	石質	产地	種類	写真回数
512	b63	石器	a	A	Ⅲ D1c	黑色上部中面 板状	3.1	8.4	1.3	32.9	肉質	北上山地?	刀	32
513	b67	石器	a	A	Ⅲ D1c	黑色	3.8	6.0	1.0	14.0	肉質	北上山地?	刀	32
514	b69	石器	a	A	+ D1a	黑色	3.8	5.7	0.9	21.6	H75	北上山地?	刀	32
515	b19	石器	b	A	+ D1a	黑色	4.1	3.3	0.6	9.6	肉質	北上山地?	刀	32
516	b24	石器	b	A	+ D1a	黑色	3.9	2.9	0.7	10.6	肉質	北上山地?	刀	32
517	b66	石器	c	A	Ⅲ D1c	黑色	(5.1)	—	—	—	肉質	北上山地?	刀	32
518	b68	石器	c	A	Ⅲ D1c	黑色	3.6	6.1	1.1	11.6	肉質	北上山地?	刀	32
519	b69	石器	a	A	Ⅲ D1c	黑色	3.5	7.3	1.2	23.6	テイサイト	北上山地?	刀	32
520	b11	石器	a	A	Ⅲ D12a ~ 13b	黑色	3.9	3.1	1.1	14.9	肉質	北上山地?	刀	32
521	b12	石器	a	A	Ⅲ D12a ~ 13b	黑色	3.8	3.2	0.8	6.5	肉質	北上山地?	刀	32
522	b13	石器	a	A	Ⅲ D12a ~ 13b	黑色	6.5	3.7	0.6	19.2	肉質	北上山地?	刀	32
523	b14	石器	a	A	+ D1a	黑色	3.1	4.2	0.6	6.0	肉質	北上山地?	刀	32
524	b15	石器	a	A	Ⅲ D1c	黑色	4.0	5.7	0.2	10.5	肉質岩	北上山地?	刀	32
525	b17	石器	a	A	+ D1a	黑色	4.1	4.9	0.6	16.7	肉質	北上山地?	刀	32
526	b24	石器	a	A	+ D87	黑色	2.4	4.0	0.6	3.1	～ 3.5	秀羽山灰岩	刀	32
527	b22	石器	a	A	Ⅲ D12b	黑色	3.8	5.6	0.6	12.1	肉質	北上山地?	刀	32
528	b23	石器	a	A	Ⅲ D12b	黑色	3.6	4.6	0.9	10.0	肉質	北上山地?	刀	32
529	b24	石器	a	A	Ⅲ D12b	黑色	3.0	3.4	0.6	5.9	肉質	北上山地?	刀	32
530	b29	石器	b	A	Ⅲ D12a	黑色	4.4	3.2	0.9	9.1	肉質	北上山地?	刀	32
531	b30	石器	b	A	Ⅲ D12a	黑色	2.5	2.2	0.5	2.5	肉質岩	北上山地?	刀	32
532	b30	石器	c	A	Ⅲ D12b	黑色	(4.4)	2.9	0.7	7.8	肉質	北上山地?	刀	32
533	b30	石器	c	A	Ⅲ D12b	黑色	2.5	7.5	0.7	11.4	肉質	北上山地?	刀	32
534	b30	石器	c	A	Ⅲ D12b	黑色	3.8	(1.9)	0.9	7.9	肉質	北上山地?	刀	32
535	b36	石器	c	A	Ⅲ D12a	黑色	3.5	5.5	0.6	24.7	H42	北上山地?	刀	32

表10 石

標識番号	No.	分類	細分	区分	出土十地点	層位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(㌘)	石質	产地	種類	写真回数
521	c2	石器	a	A	Ⅲ D13a	黑色	2.0	1.2	0.6	14.8	肉質	北上山地?	刀	52
522	c3	石器	a	A	Ⅲ D13a	黑色	2.0	1.2	0.6	19.3	肉質	北上山地?	刀	52
523	c6	石器	a	A	Ⅲ D13a	黑色	18.3	2.9	1.4	38.5	奥羽山脈の帶狀侵入岩	北上山地?	刀	52
524	c7	石器	a	A	Ⅲ D13a	黑色	10.2	2.1	0.8	16.0	赤色頁岩	奥羽山脈の帶狀侵入岩	刀	52
525	c1	石器	a	A	Ⅲ D13a	黑色	5.6	2.5	0.8	23.8	肉質岩	北上山地?	刀	52
526	d8	石器	a	A	Ⅲ D13a	黑色	(4.0)	1.9	0.9	6.1	肉質	北上山地?	刀	52
527	d3	石器	a	A	Ⅲ D13a	黑色	5.3	2.6	1.2	35.4	肉質	北上山地?	刀	52
528	d4	石器	a	A	Ⅲ D13a	黑色	7.8	3.2	1.8	41.8	肉質	北上山地?	刀	52

表11 石

標識番号	No.	分類	細分	区分	出土十地点	層位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(㌘)	石質	产地	種類	写真回数
521	d6	塊状石器	a	A	Ⅲ D13a	黑色	3.8	2.6	0.9	14.8	肉質	北上山地?	刀	52
522	d5	塊状石器	a	A	Ⅲ D13a	黑色	7.0	2.1	1.2	19.3	肉質	北上山地?	刀	52
523	d6	塊状石器	a	A	Ⅲ D13a	黑色	18.3	2.9	1.4	38.5	奥羽山脈の帶狀侵入岩	北上山地?	刀	52
524	d7	塊状石器	a	A	Ⅲ D13a	黑色	10.2	2.1	0.8	16.0	赤色頁岩	奥羽山脈の帶狀侵入岩	刀	52
525	c3	石器	a	A	Ⅲ D13a	黑色	5.6	2.5	0.8	23.8	肉質岩	北上山地?	刀	52
526	d8	石器	a	A	Ⅲ D13a	黑色	(4.0)	1.9	0.9	6.1	肉質	北上山地?	刀	52
527	d3	石器	a	A	Ⅲ D13a	黑色	5.3	2.6	1.2	35.4	肉質	北上山地?	刀	52
528	d4	石器	a	A	Ⅲ D13a	黑色	7.8	3.2	1.8	41.8	肉質	北上山地?	刀	52

表12 尖頭状石器

地質番号	No.	器種	種分	K	出土 地点	層位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石質	備考	参考文献
525	Q1	尖頭状石器		A	D29f	海出層	14.9	4.3	0.3	83.4	板岩	尖頭状の可能性大	北上山地?
525	e2	尖頭状石器		A	I-168	鷹巣土	(5.9)	2.1	1.5	19.5	頁岩		北上山地?
525	e3	尖頭状石器		A	E03d	鷹巣土	(3.9)	2.1	1.0	8.3	頁岩		北上山地?
525	e4	尖頭状石器		A	D17c	鷹巣土	(3.2)	2.3	0.7	5.0	頁岩		北上山地?

表13 刃器

地質番号	No.	器種	種分	K	出土 地点	層位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石質	備考	参考文献
527	f1	揚子器		A	D13b	黑色+白色	—	—	—	122.7	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?
528	f2	揚子器		A	D19c	黑色+	—	—	—	68.3	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?
529	f3	揚子器		A	I-179	黑色土	—	—	—	59.3	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?
530	f7	揚子器		A	I-18	黑色土	—	—	—	18.9	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?
530	f13	揚子器		A	E03d	黑色土	—	—	—	13.9	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?
530	f16	揚子器		A	D12b	黑色土+雨	—	—	—	5.4	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?
530	f17	揚子器		A	D12j	黑色土	—	—	—	44.1	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?
531	f1	揚子器		A	D13b	黑色土	—	—	—	7.8	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?
531	f3	揚子器		A	D13c	黑色土+黑色	—	—	—	26.5	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?
531	f9	揚子器		A	D13e	黑色土	—	—	—	46.9	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?
531	f14	揚子器		A	D17b	黑色土	—	—	—	34.0	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?
531	f12	揚子器		A	D17c	黑色土	—	—	—	10.7	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?
532	f22	揚子器		A	D18b	黑色土	—	—	—	11.4	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?
532	f5	揚子器		A	D19b	黑色土	—	—	—	18.6	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?
532	f20	揚子器		A	D19c	黑色土	—	—	—	21.1	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?
532	f19	揚子器		A	D19c	黑色土+雨	—	—	—	39.4	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?
531	f21	揚子器		A	I-18	黑色土	—	—	—	52.8	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?
531	f10	揚子器		A	I-16	黑色土	—	—	—	28.7	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?
531	f15	揚子器		A	I-16	黑色土+雨	—	—	—	19.5	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?
531	f15	揚子器		A	I-16	黑色土+雨	—	—	—	9.1	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?
531	f18	揚子器		A	I-17	黑色土	—	—	—	25.6	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?
531	f4	揚子器		A	I-18	黑色土	—	—	—	6.8	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?

表14 兩面鋒整の石器

地質番号	No.	器種	種分	K	出土 地点	層位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石質	備考	参考文献
531	E2	兩面鋒整の石器		A	I-16	6cm+雨	6.2	3.2	1.5	27.1	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?
532	E3	兩面鋒整の石器		A	E03d	黑色土+雨	8.3	2.6	1.0	40.6	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?
531	E1	兩面鋒整の石器		A	D12h	黑色土+雨	7.5	3.7	1.2	29.4	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?
531	E3	兩面鋒整の石器		A	E03d	黑色土+雨	(4.4)	1.5	1.1	7.8	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?
				A	E03d	黑色土+雨	(3.8)	2.1	1.2	9.5	頁岩	要羽山の可能性大	北上山地?

表15 石鍛

標識番号	No.	岩種	区	出土地点	層位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石質	地質	備考	写真面版
533	11	砂岩	A	住吉野(III D12k)	上層部上 海柏下				1,657	赤岩	奥羽山脈		53
534	12	砂岩	A	住吉野北側海柏層	海柏下				98.2	チトサハト	奥羽山脈		53
535	13	砂岩	A	住吉野北側海柏層	海柏下				139.1	白	奥羽山脈		53
536	14	砂岩	A	住吉野北側海柏層	海柏下				139.0	白	奥羽山脈		53
537	15	砂岩	A	F358(III D12k)	海柏下				235.9	白	奥羽山脈		53
538	16	砂岩	A	D20d	海柏下				244.4	カキツバタクル久	奥羽山脈		53

表17 磨製石斧

標識番号	No.	岩種	区	出土地点	層位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石質	地質	備考	写真面版
539	k1	石塊?	A	住吉野(III D12k)	海柏下	298.9	ホウノツルヌクス	北上山脈					53
540	k2	石塊?	A	E01f	海柏下	154.7	ホウノツルヌクス	北上山脈					53

表18 磨石

標識番号	No.	岩種	区	出土地点	層位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石質	地質	備考	写真面版
543	r33	砂岩	A	住吉野(III D11k)	海柏上	111	92	49	47.0	赤岩	奥羽山脈		53
544	r32	砂岩	A	住吉野(III D12k)	海柏上	80	81	46	427.0	赤岩	奥羽山脈		53
545	r149	砂岩	A	住吉野(III D12k)	海柏上	105	82	47	380.0	赤岩	奥羽山脈		54
546	r15	砂岩	A	住吉野(III D12k)	海柏上	68	54	13	45.0	鶴來岩	奥羽山脈		51
r122	砂岩	A	住吉野(III D11k)	海柏上	128	68	58	674.0	チトサハト	奥羽山脈			
r26	海石	A	III D13b	海柏上	88	76	39	381.0	赤岩	奥羽山脈			
r33	海石	A	III D17b	海柏上	9.5	89	44	516.0	赤岩	奥羽山脈			
r25	海石	A	III D17f	海柏上	7.9	80	52	420.0	赤岩	奥羽山脈			
r23	海石	A	III D18d	海柏上	11.4	70	39	249.0	赤岩	奥羽山脈			
r24	海石	A	III D18d	海柏上	12.0	68	57	545.0	赤岩	奥羽山脈			
r27	海石	A	III D19c	海柏上	11.4	85	42	540.0	チトサハト	奥羽山脈			
r141	海石	A	III D20b	海柏上	11.4	79	48	665.0	赤岩	奥羽山脈			
r38	海石	A	P202	海柏上	109	91	17	557.0	チトサハト	奥羽山脈			
r39	海石	A	P203	海柏上	93.0	85	48	534.0	チトサハト	奥羽山脈			
r56	海石	A	P2015	海柏上	11.6	88	40	458.0	チトサハト	奥羽山脈			
r29	海石	A	住吉野(III D11k)	海柏上	6.5	83	50	569.0	赤岩	奥羽山脈			
r34	海石	A	住吉野(III D11k)	海柏上	10.6	69.0	48	532.0	赤岩	奥羽山脈			
r28	海石	A	十方1	海柏上	5.0	89	56	320.0	チトサハト	奥羽山脈			
r31	海石	A	海生帶物	海柏上	7.4	59	37	216.0	チトサハト	奥羽山脈			
r35	海石	A	海生帶物	海柏上	8.9	87	39	480.0	赤岩	奥羽山脈			

表19 スリ石

地質番号	No.	岩種	層分	山土地質	点	層位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	累積厚(cm)	石質	長/幅	備考
547	rD3	スリ石	Ia	A 生息層1 (III D1)k	底十小部	154	90	5.6	1081	17	毛板状岩	54	
548	rD3	スリ石	Ia	A 住居跡1 (III D1)k	底十	132	74	2.0	344	22	砂岩	54	
549	rD3	スリ石	Ib	A 住居跡1 (III D1)k	底十	162	74	2.0	692	18	毛板状岩	54	
550	rD4	スリ石	Ib	A 住居跡1 (III D3)	底十中部	188	70	4.1	821	2.7	砂岩	54	
551	rD6	スリ石	Ib	A 住居跡1 (III D3)	底十中部	177	51	4.1	615	3.5	砾岩	54	
552	rD8	スリ石	Ic	A 住居跡1 (III D3)	底十中部	135	49	1.6	144	2.8	砾岩	54	
553	rD2	スリ石	Ic	A 住居跡1 (III D3)	底十中部	153	70	2.4	311	2.2	砾岩	54	
554	rD6	スリ石	Ic	A 住居跡1 (III D3)	底十中部	166	71	3.3	551	2.3	角閃岩	54	
555	rD7	スリ石	Ic	A 住居跡1 (III D3)	底十中部	168	67	3.5	600	2.3	砂岩	54	
556	rD5	スリ石	Ia	A 生息層1 (III D1)k	底十中部	113	65	3.8	297	0.7	砾岩	54	
557	rD6	スリ石	Ia	A 生息層1 (III D1)k	底十中部	184	59	4.1	593	3.1	砂岩	54	
558	rD3	スリ石	Ia	A 生息層1 (III D2)k	底十中部	120	65	5.0	495	1.8	毛板状岩	54	
559	rD6	スリ石	Ia	A 生息層1 (III D2)k	底十中部	105	65	5.0	362	2.2	砾岩	54	
560	rD9	スリ石	Ia	A pD29	底十	1112	49	2.3	347	2.3	砾岩	54	
561	rD3	スリ石	Ia	A pD323	底十	196	46	3.4	388	4.3	片岩	54	片岩
562	rD2	スリ石	Ia	A pD278	層土	145	59	4.8	604	2.5	片岩	54	片岩
563	rD3	スリ石	Ia	A 生息層1 (III D1)k	底十中部	138	68	5.0	611	2.0	玄武岩	54	玄武岩
564	rD3	スリ石	Ia	A 住居跡1 (III D1)k	底十中部	122	77	6.1	768	1.6	砂岩	54	砂岩
565	rD9	スリ石	Ia	A pD280	底十	173	80	5.9	1049	2.2	砂岩	54	砂岩
566	rD2	スリ石	Ia	A pD84	層土	160	87	6.0	842	1.8	砂岩	54	砂岩
567	rD2	スリ石	Ia	A pD278	層土	138	61	3.1	445	2.3	テライト	54	テライト
568	rD6	スリ石	Ia	A pD19	層土	197	67	5.1	151	2.3	流紋岩	54	流紋岩
569	rD8	スリ石	Ia	A pD25	層土	137	67	4.1	495	2.0	片岩	54	片岩
570	rD3	スリ石	Ia	A 生息層1 (III D1)k	底十中部	122	62	6.2	354	2.0	流紋岩	54	流紋岩
571	rD3	スリ石	Ia	A 住居跡1 (III D1)k	底十中部	158	76	3.8	590	2.1	片岩	54	片岩
572	rD3	スリ石	Ia	A pD280	底十	153	74	4.1	592	1.6	ホルンフェルス	54	ホルンフェルス
573	rD9	スリ石	Ia	A pD17	底十	175	65	7.7	177	2.3	玄武岩	54	玄武岩
574	rD5	スリ石	Ia	A pD314	層土	165	67	3.8	645	2.3	玄武岩	54	玄武岩
575	rD3	スリ石	Ia	A pD14e	底十	177	67	3.8	1392	2.1	テライト	54	テライト
576	rD3	スリ石	Ia	A pD13c	底十中部	139	67	2.7	454	2.1	安山岩	54	安山岩
577	rD8	スリ石	Ia	A pD278	層土	154	85	5.0	899	1.8	流紋岩	54	流紋岩
578	rD6	スリ石	Ia	A pD97	底十	112	53	2.4	192	2.1	テライト	54	テライト
579	rD8	スリ石	Ia	A pD98	底十	158	76	3.8	590	2.1	片岩	54	片岩
580	rD5	スリ石	Ia	A pD18	底十	153	74	4.1	592	1.6	ホルンフェルス	54	ホルンフェルス
581	rD9	スリ石	Ia	A pD17	底十	175	65	7.7	177	2.3	玄武岩	54	玄武岩
582	rD5	スリ石	Ia	A pD19	底十	165	67	3.8	645	2.3	玄武岩	54	玄武岩
583	rD6	スリ石	Ia	A pD14e	底十中部	177	67	3.8	1392	2.1	テライト	54	テライト
584	rD7	スリ石	Ia	A pD278	層土	154	85	5.0	899	1.8	流紋岩	54	流紋岩
585	rD8	スリ石	Ia	A pD13f	底十中部	154	66	5.0	484	2.0	玄武岩	54	玄武岩
586	rD7	スリ石	Ia	A pD13b	底十中部	160	70	4.2	656	2.3	玄武岩	54	玄武岩
587	rD5	スリ石	Ia	A pD18	底十	174	72	4.1	967	1.0	玄武岩	54	玄武岩
588	rD6	スリ石	Ia	A pD28	層土	151	69	5.1	746	2.2	安山岩	54	安山岩
589	rD8	スリ石	Ia	A pD278	層土	176	65	3.9	646	2.1	小火成岩	54	小火成岩
590	rD6	スリ石	Ia	A pD13f	底十中部	154	55	3.8	581	2.0	ホルンフェルス	54	ホルンフェルス
591	rD7	スリ石	Ia	A pD13c	底十中部	154	79	3.9	745	1.6	テライト	54	テライト
592	rD8	スリ石	Ia	A pD19	底十	142	70	3.9	723	2.0	玄武岩	54	玄武岩
593	rD6	スリ石	Ia	A pD18	底十	150	77	2.1	585	1.9	玄武岩	54	玄武岩
594	rD8	スリ石	Ia	A pD19c	底十	173	64	4.1	695	2.7	玄武岩	54	玄武岩
595	rD9	スリ石	Ia	A pD20b	底十	124	76	3.1	332	1.6	角閃岩	54	角閃岩

No.	部	種	細分	区	地	地	地	層	高(cm)	幅(cm)	延面積(cm ²)	長(cm)	幅(cm)	石質	地	地	地	地
r090	2	リ	石	Ia	A	D17f		黑色土	136	94	65	798	74	安山岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r092	2	リ	石	Ia	A	D19c		黑色土	109	74	4.2	290	(1.6)	安山岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r093	2	リ	石	Ia	A	D19c		黑色土	151	74	3.7	621	2.0	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r094	2	リ	石	Ia	A	D19a		黑色土	109	5.5	2.2	133	(2.0)	安山岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r097	2	リ	石	Ia	A	D20b		黑色土	164	6.7	4.3	760	(2.4)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r098	2	リ	石	Ia	A	D17b		黑色土	168	6.7	4.9	610	(2.5)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r095	2	リ	石	Ia	A	D19t		黑色土	130	5.8	3.7	279	(2.2)	花崗岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r096	2	リ	石	Ia	A	D19t		黑色土	172	5.4	3.9	57.3	(3.2)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r097	2	リ	石	Ia	A	D18a		黑色土	123	8.0	4.8	386	(1.5)	安山岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r098	2	リ	石	Ia	A	D18a		黑色土	146	6.6	4.5	610	(1.9)	安山岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r109	2	リ	石	Ia	A	D17i		黑色土	148	5.6	3.4	274	(2.6)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r114	2	リ	石	Ia	A	D17d		黑色土	29.5	90	6.5	153	3.3	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r115	2	リ	石	Ia	A	D17d		黑色土	113	56	4.8	455	(1.7)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r117	2	リ	石	Ia	A	D19b		黑色土	123	7.3	6.8	702	(1.8)	安山岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r118	2	リ	石	Ia	A	D19b		黑色土	170	8.6	4.3	858	(2.0)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r119	2	リ	石	Ib	A	D19b		黑色土	185	7.8	4.1	845	(2.4)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r120	2	リ	石	Ib	A	D17i		黑色腐泥帶土	125	6.6	3.4	382	(3.0)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r013	2	リ	石	Ib	A	D17i		黑色土	184	6.4	3.4	193	(1.3)	安山岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r014	2	リ	石	Ib	A	D17i		黑色土	152	67	3.8	547	(2.3)	安山岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r017	2	リ	石	Ib	A	D17i		黑色土	117	69	3.2	430	(1.7)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r022	2	リ	石	Ib	A	D17i		黑色土	189	82	3.9	946	(2.4)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r027	2	リ	石	Ib	A	D17i		黑色土	175	7.0	3.4	435	(2.1)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r028	2	リ	石	Ib	A	D17i		黑色土	124	6.0	4.2	349	(2.1)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r029	2	リ	石	Ib	A	p020		黑色土	187	6.8	2.2	357	(2.8)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r037	2	リ	石	Ib	A	p020		黑色土	177	8.7	5.9	1047	(2.0)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r038	2	リ	石	Ib	A	p020		黑色土	154	8.1	4.7	281	1.9	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r052	2	リ	石	Ib	A	D17i		黑色土	124	22	2.4	241	(1.7)	安山岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r055	2	リ	石	Ib	A	D17i		黑色土	167	7.9	2.3	408	(2.4)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r049	2	リ	石	Ib	A	p020		黑色土	184	52	4.0	606	(1.7)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r053	2	リ	石	Ib	A	D17i		黑色土	130	6.4	2.7	310	2.0	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r057	2	リ	石	Ib	A	p015		黑色土	187	8.7	4.2	812	(2.1)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r059	2	リ	石	Ib	A	D17i		黑色土	129	7.7	3.4	462	(1.7)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r073	2	リ	石	Ib	A	D13h		黑色土	184	59	2.8	392	(3.1)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r074	2	リ	石	Ib	A	D13c		黑色土	189	77	2.1	420	2.5	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r080	2	リ	石	Ib	A	D13c		黑色土	96	70	3.6	336	(1.4)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r085	2	リ	石	Ib	A	D19b		黑色土	169	84	3.7	676	(1.9)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r091	2	リ	石	Ib	A	D17c		黑色土	154	109	2.1	306	1.2	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r095	2	リ	石	Ib	A	D17d		黑色土	191	84	2.4	626	(2.3)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r096	2	リ	石	Ib	A	D20d		黑色土	105	4.1	2.6	163	(2.6)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r099	2	リ	石	Ib	A	D17i		黑色土	185	87	3.6	778	(2.1)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r108	2	リ	石	Ib	A	D19c		黑色土	202	8.7	2.3	780	(2.3)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r116	2	リ	石	Ib	A	D17d		黑色土	174	89	2.9	607	3.1	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r120	2	リ	石	Ic	A	D19b		黑色土	195	62	3.1	518	(1.4)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地
r018	2	リ	石	Ic	A	D16b		黑色土	164	90	3.6	518	(1.8)	砂岩	奥羽山脈	北上山地	北上山地	北上山地

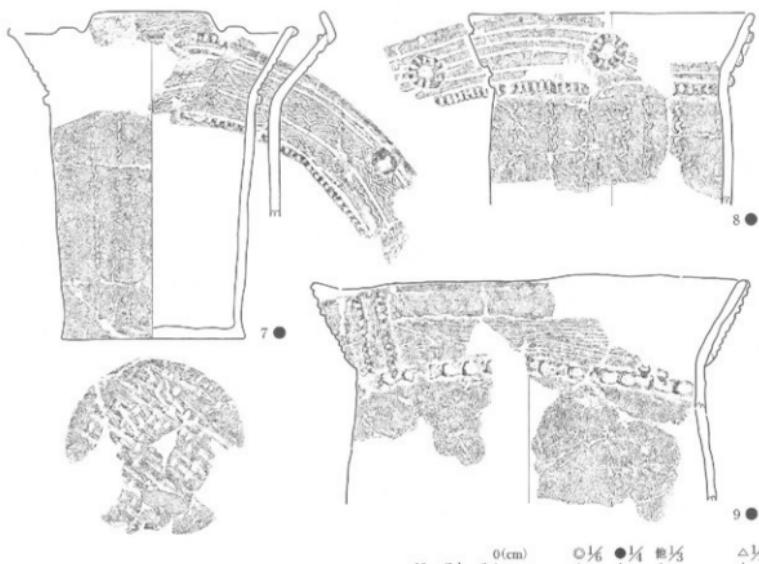
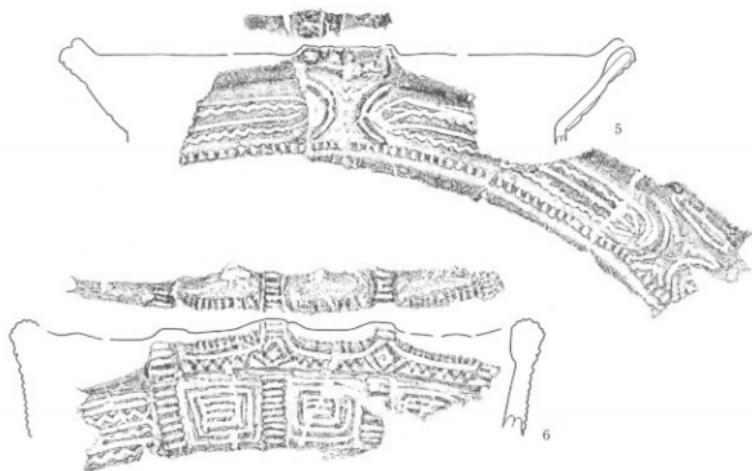
捕獲番号	No.	性	種	年分	区	出上地 A	西面	位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	長/幅	石質	地質	地質
r019	アリカ	♂	A	住吉路1	黒色面無斑+	(100)	4.9	3.2	201	26	2.5	701	26.0	デイサイト	新羽原	新羽原
r022	アリカ	♂	A	十周19	黒色+	(125)	8.5	7.4	9.7	2.5	1.3	92	7.4	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r024	アリカ	♂	A	アリカ	黒色+	(135)	8.5	7.4	9.7	2.5	1.3	92	7.4	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r033	アリカ	♂	A	p0000	黒色+	(135)	8.5	7.4	9.7	2.5	1.3	92	7.4	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r041	アリカ	♂	A	p0261	黒色+	(135)	8.5	7.4	9.7	2.5	1.3	92	7.4	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r047	アリカ	♂	A	アリカ17	黒色+	(135)	8.5	7.4	9.7	2.5	1.3	92	7.4	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r059	アリカ	♂	A	アリカ9	黒色+	(135)	8.5	7.4	9.7	2.5	1.3	92	7.4	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r067	アリカ	♂	A	アリカ14	黒色面無斑+	(135)	8.5	7.4	9.7	2.5	1.3	92	7.4	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r068	アリカ	♂	A	p013b	黒色面無斑+	(135)	8.5	7.4	9.7	2.5	1.3	92	7.4	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r079	アリカ	♂	A	p013f	黒色上	(165)	9.1	3.9	456	3.8	0.8	82	24.8	砂岩	北上山地	北上山地
r084	アリカ	♂	A	p018a	黒色土	(231)	11.3	3.8	128	3.0	0.8	82	32.0	デイサイト	新羽原	新羽原
r085	アリカ	♂	A	p020c	黒色土	(106)	6.5	2.9	197	1.6	0.8	82	24.0	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r086	アリカ	♂	A	p020b	黒色土	(106)	5.7	1.6	147	1.9	0.8	82	24.0	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r088	アリカ	♂	A	p017f	黒色土	(106)	6.7	2.0	460	1.9	0.8	82	24.0	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r111	アリカ	♂	A	p018s	黒色土	(106)	6.7	2.0	460	1.9	0.8	82	24.0	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r112	アリカ	♂	A	p013j	黒色土	(106)	6.7	2.0	460	1.9	0.8	82	24.0	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r016	アリカ	♂	A	アリカ6	黒色面無斑+	(D121)	7.0	4.1	495	2.1	0.8	82	24.0	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r100	アリカ	♂	A	p016d	黒色上	(92)	8.1	3.9	206	1.1	0.8	82	24.0	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r101	アリカ	♂	A	p013e	黒色土	(92)	6.4	2.9	206	1.1	0.8	82	24.0	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r102	アリカ	♂	A	p013e	黒色土	(92)	6.4	2.9	252	2.5	0.8	82	24.0	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r067	アリカ	♂	A	p013a	黒色土	(115)	5.6	3.5	254	2.1	0.8	82	24.0	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r113	アリカ	♂	A	p013b	黒色土	(115)	5.6	3.5	254	2.1	0.8	82	24.0	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r001	アリカ	♂	A	p019d	黒色土	(227)	9.6	5.0	1265	2.4	0.8	82	24.0	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r021	アリカ	♂	A	p018k	黒色面無斑+	(D12k)	7.2	3.6	1348	2.1	0.8	82	24.0	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r026	アリカ	♂	A	p011l	黒色土	(165)	5.7	3.4	365	2.4	0.8	82	24.0	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r034	アリカ	♂	A	p011l	黒色土	(165)	5.7	3.4	365	2.4	0.8	82	24.0	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r056	アリカ	♂	A	p0119	黒色土	(181)	8.8	2.9	642	2.1	0.8	82	24.0	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r058	アリカ	♂	A	p019a	黒色土	(138)	6.1	2.9	156	2.1	0.8	82	24.0	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r065	アリカ	♂	A	p019a	黒色土	(177)	7.2	3.3	925	2.5	0.8	82	24.0	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r071	アリカ	♂	A	p012b	黒色土	(141)	6.5	2.2	295	2.2	0.8	82	24.0	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r121	アリカ	♂	A	p019a	黒色土	(133)	8.0	2.3	338	1.7	0.8	82	24.0	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
r050	アリカ	♂	A	p0915	黒色土	(192)	4.4	1.9	221	2.2	0.8	82	24.0	カルンフェニクス	北上山地	北上山地
						(131)	5.4	3.4	694	2.4	0.8	82	24.0	カルンフェニクス	北上山地	北上山地

表20 石製品

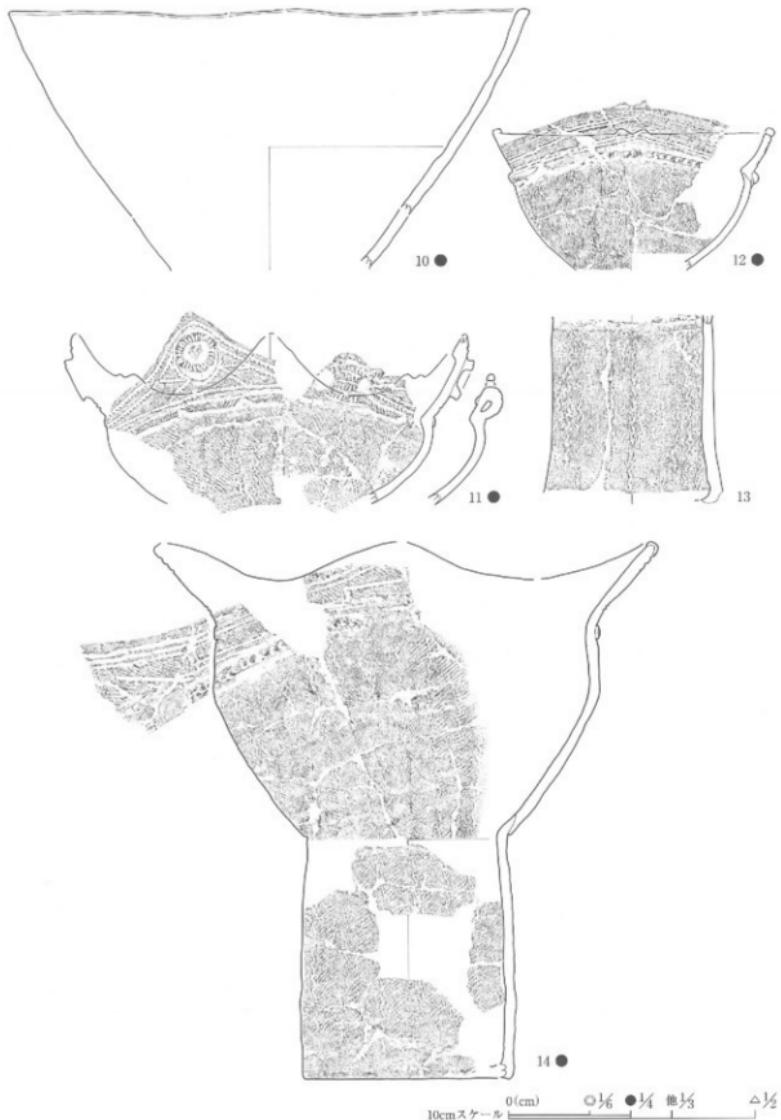
採集番号	No.	写	標	出	土	地	A	W	色	層	位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	高(cm)	重(g)	G	質	所	地	標	名	地	標	名
556	m1	火状砂岩	A	D18.c	黑色土	層上		56	(21)	0.6	10.5	3.5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	北	上山地			76	55		
557	m2	火状砂岩	A	p6031	黑色土	層上		(33)	(20)	0.5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	北	上山地			76	55		
558	m3	砂岩	A	p6215	黑色土	層上		(54)	1.1	0.5	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	北	上山地			76	55		
559	m4	砂岩	A	+H.8	黑色土	層上		(46)	0.7	0.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	北	上山地			76	55		
560	m5	泥岩	A	D19.1	黑色土	層上		(44)	1.0	0.6	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	北	上山地			76	55		
561	m6	泥岩	A	p6030	黑色土	層上	(D11.k)	29	2.9	0.2	9.6	9.6	9.6	9.6	9.6	9.6	9.6	北	上山地			76	55		
382	m7	砂岩	A	+H.1	黑色土	層上		4.0	4.2	0.5	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	北	上山地			76	55		
383	m8	砂岩	A	L.17	黑色土	層上		4.3	3.9	0.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	北	上山地			76	55		
561	m9	砂岩	A	p6118	黑色土	層上		3.4	3.2	1.1	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	北	上山地			76	55		
565	m10	砂岩	A	+H.18	黑色土	層上		1.5	2.2	0.6	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	北	上山地			76	55		
566	m11	斧形石器	A	L.14	黑色土	層上		3.0	2.4	0.5	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	北	上山地			76	55		
567	m12	石棒	A	D16.i	褐色土	層中		100	3.3	(21)	71.4	71.4	71.4	71.4	71.4	71.4	71.4	北	上山地			76	55		
568	m13	石棒	A	D12.h	褐色土	層中		(17.2)	12.2	10.6	30.13.8	30.13.8	30.13.8	30.13.8	30.13.8	30.13.8	30.13.8	北	上山地			76	55		
569	m14	石劍	A	D12.l	褐色土	層中		26.7	3.5	1.3	153.3	153.3	153.3	153.3	153.3	153.3	153.3	北	上山地			76	55		
570	m15	石劍	A	p6834	褐色土	層上		22.5	2.5	0.8	88.9	88.9	88.9	88.9	88.9	88.9	88.9	北	上山地			77	55		
571	m16	石劍	A	L.27	褐色土	層中		9.8	2.7	2.7	28.3	28.3	28.3	28.3	28.3	28.3	28.3	北	上山地			77	55		
572	m17	石劍	A	L.27	褐色土	層中		12.9	2.4	0.6	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	39.2	北	上山地			77	55		
573	m18	石柄	A	D19.3	褐色土	層上		5.1	4.0	0.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	北	上山地			77	55		
574	m19	刀體及刀頭	A	A15.-柄	褐色土	層上		4.0	3.7	1.6	31.9	31.9	31.9	31.9	31.9	31.9	31.9	北	上山地			77	55		
575	m20	石刀頭	A	p6031	褐色土	層上	(D21.k)	3.0	2.8	2.8	23.0	23.0	23.0	23.0	23.0	23.0	23.0	北	上山地			77	55		
576	m21	石刀頭	A	H.19.t	褐色土	層上		2.7	3.2	2.4	20.4	20.4	20.4	20.4	20.4	20.4	20.4	北	上山地			77	55		
577	m22	石刀頭	A	E.安1	褐色土	層中	(D12.k)	8.4	5.1	1.5	140.7	140.7	140.7	140.7	140.7	140.7	140.7	北	上山地			77	55		
578	m23	石刀頭	A	E.03.c	褐色土	層上		8.2	4.8	2.8	140.6	140.6	140.6	140.6	140.6	140.6	140.6	北	上山地			77	55		
	m22	燒結陶石	A	L.灰15	黑色土	層上												小明			-	-	-		



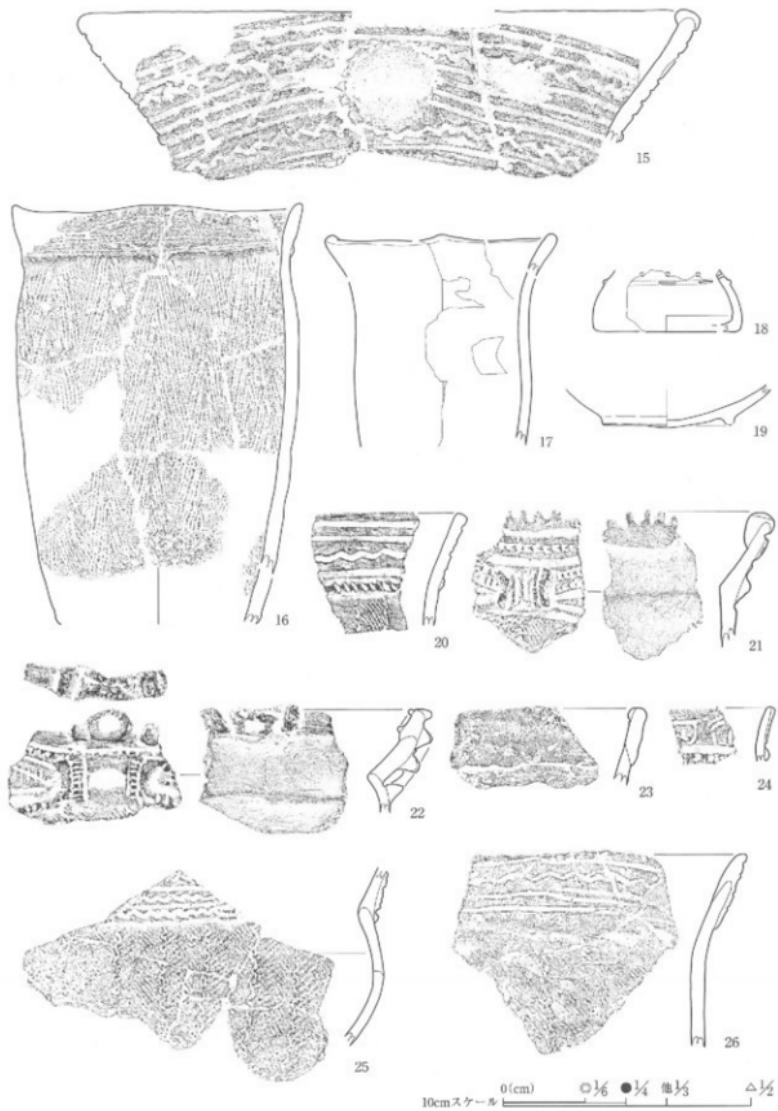
第41図 A区住居跡1出土土器(1)



第42図 A区住居跡1出土土器 (2)



第43図 A区住居跡1出土土器 (3)



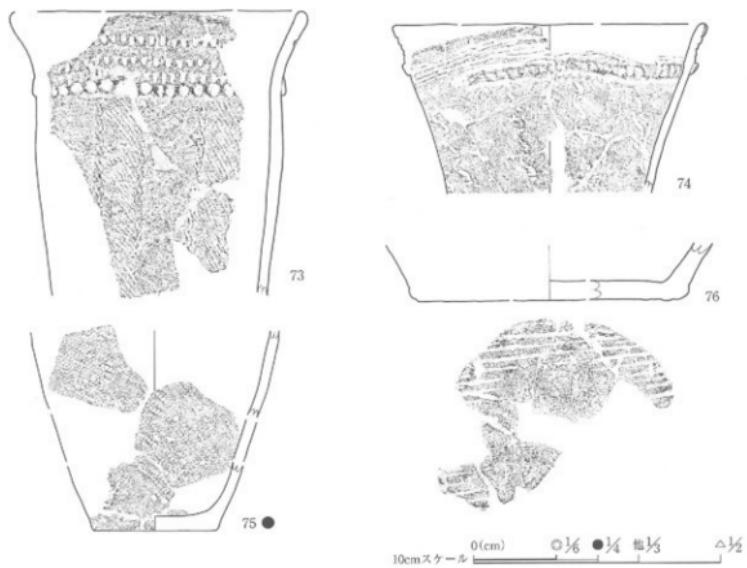
第44図 A区住居跡1出土土器(4)



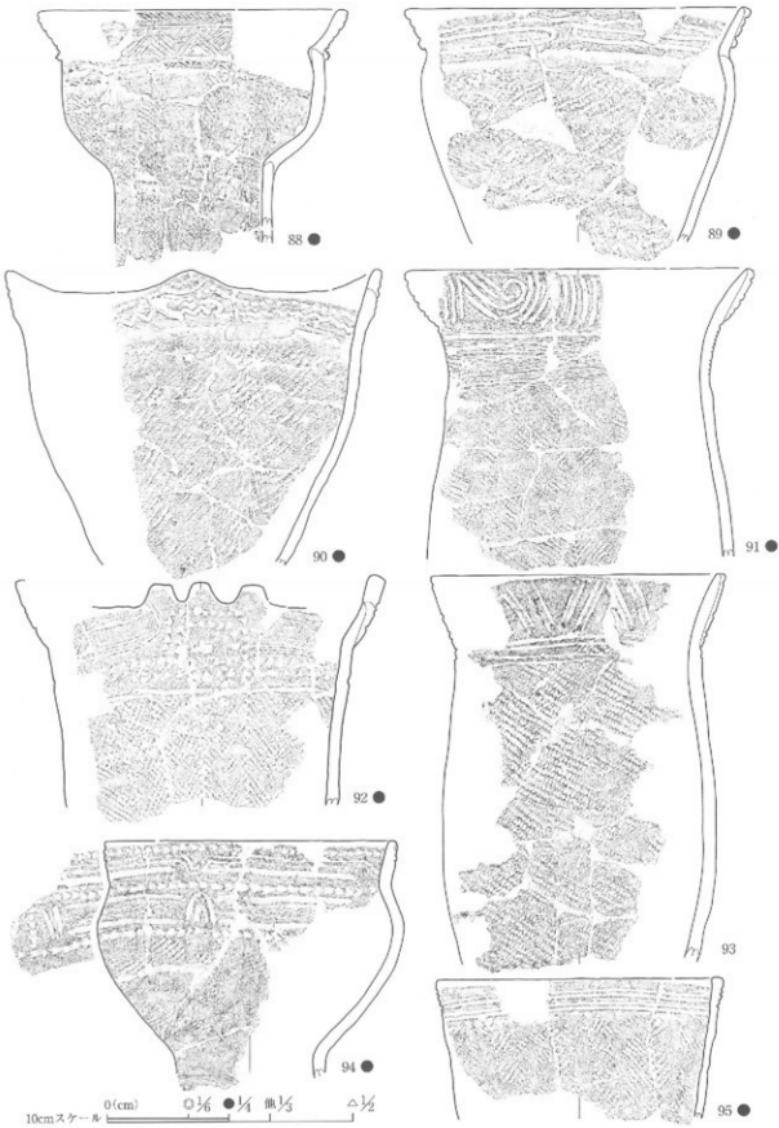
第45図 A区住居跡1出土土器 (5)



第46図 A区住居跡1出土土器 (6)



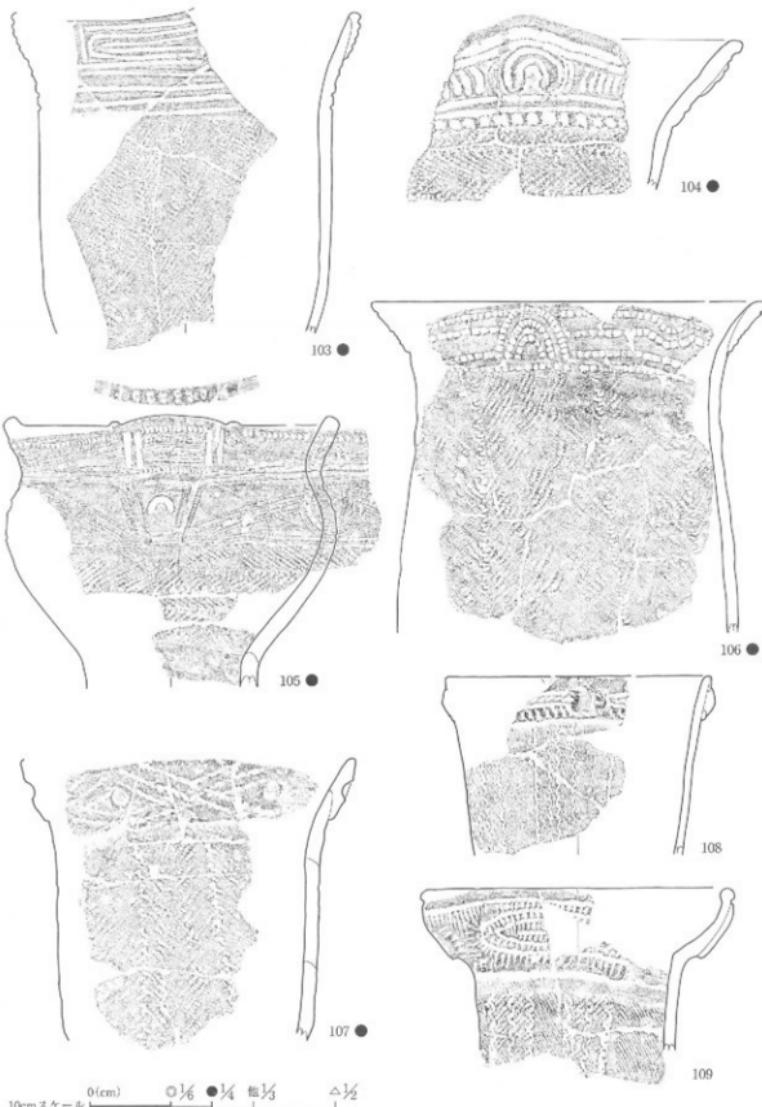
第47図 A区炉跡周辺出土土器（1）



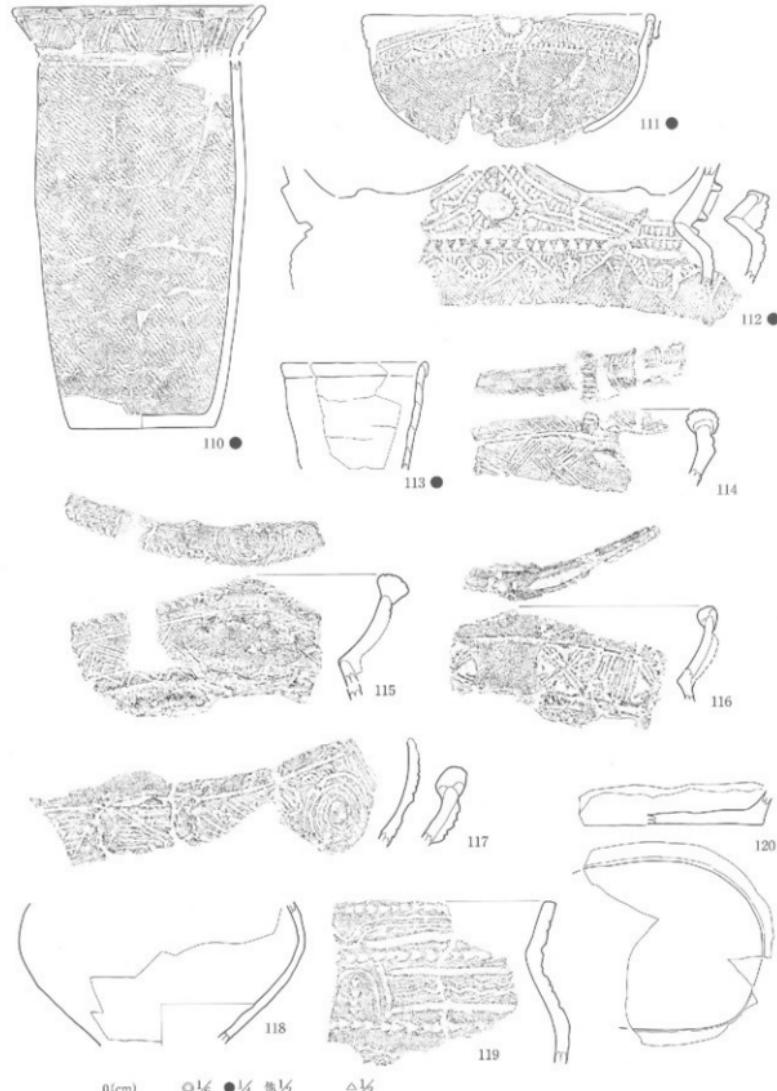
第48図 A区伊跡周辺出土土器 (2)



第49図 A区炉跡周辺出土土器 (3)

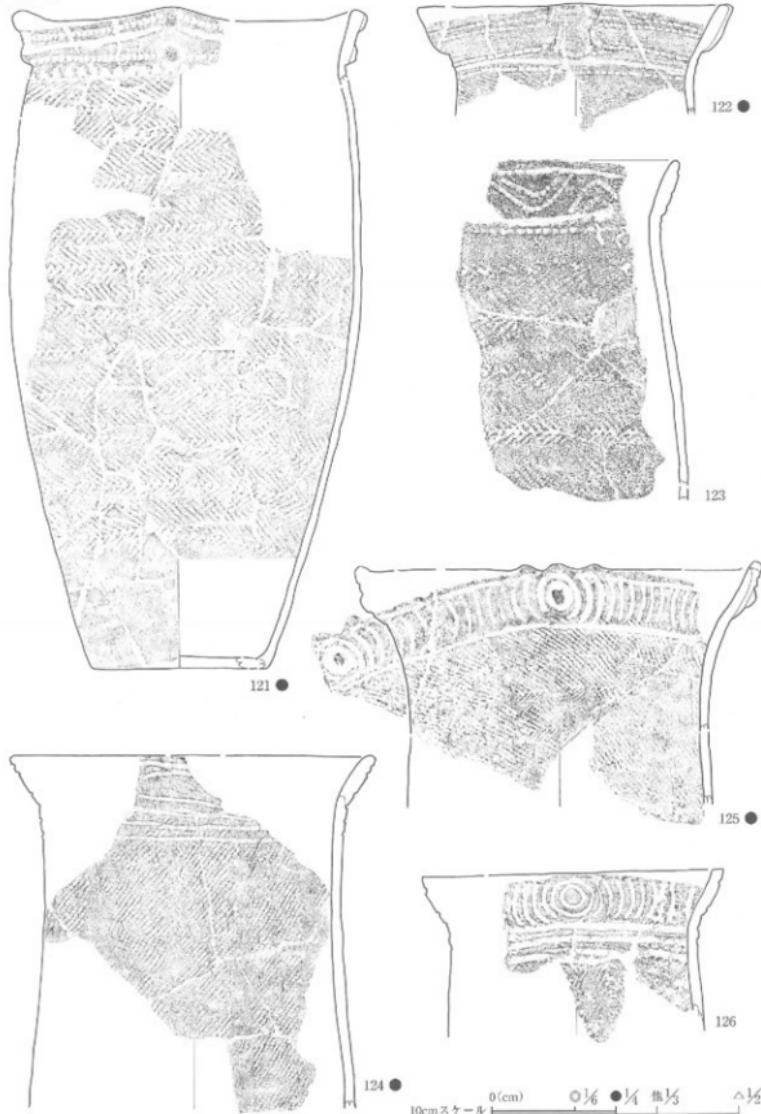


第50図 A区炉跡周辺出土土器 (4)



第51図 A区炉跡周辺出土土器（5）

土坑1>>



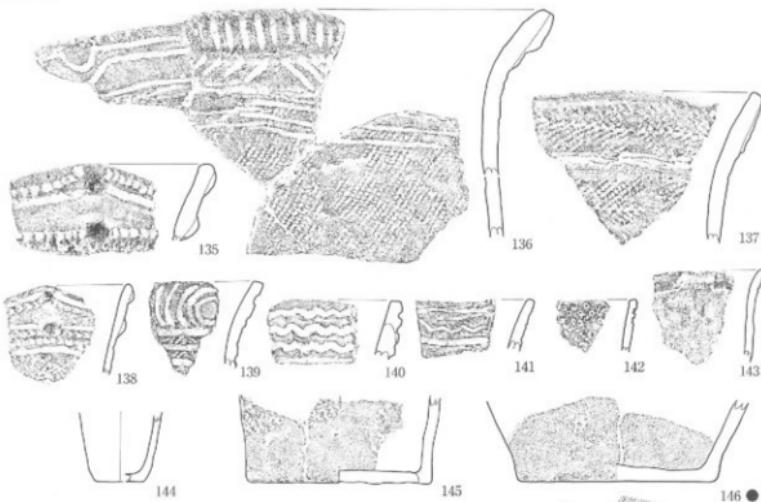
第52図 A区土坑出土土器 (1)

>>土坑1>>

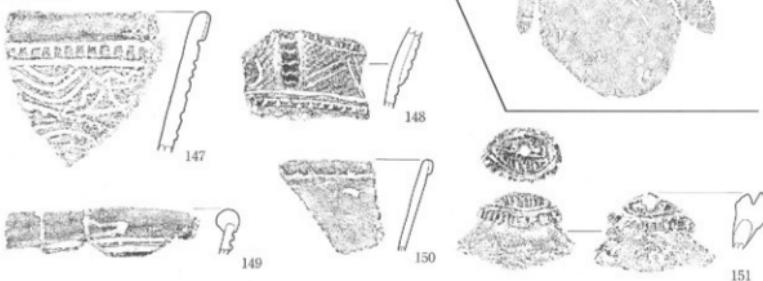


第53図 A区土坑出土土器 (2)

>>土坑1



土坑2>>



10cmスケール 0(cm) ○ $\frac{1}{6}$ ● $\frac{1}{4}$ ▲ $\frac{1}{3}$ △ $\frac{1}{2}$

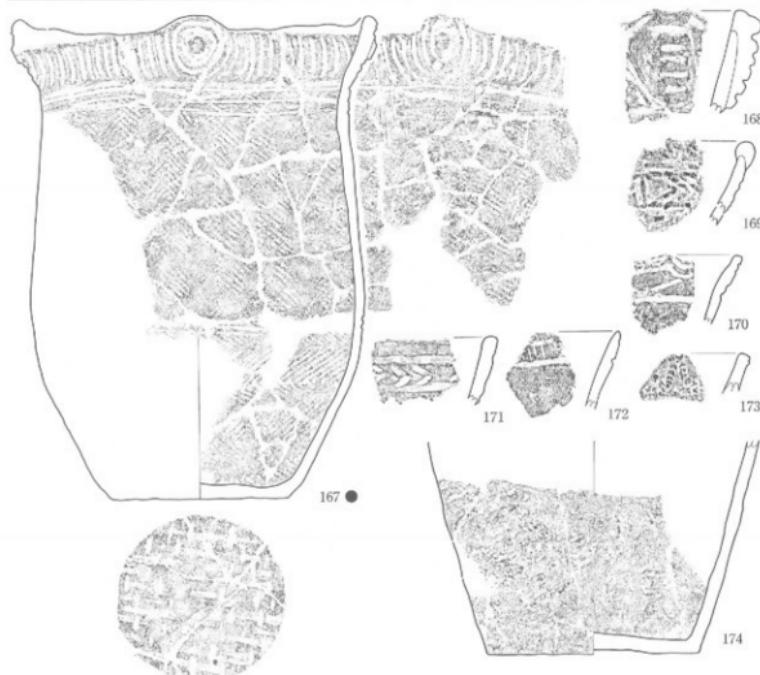
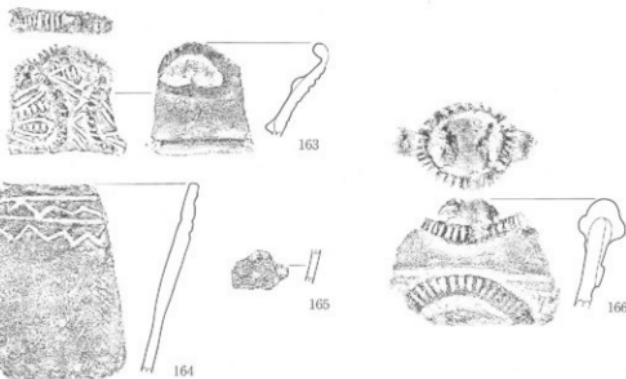
第54図 A区土坑出土土器(3)

>>土坑2>>



第55図 A区土坑出土土器 (4)

>>土坑2



土坑3

第56図 A区土坑出土土器 (5)

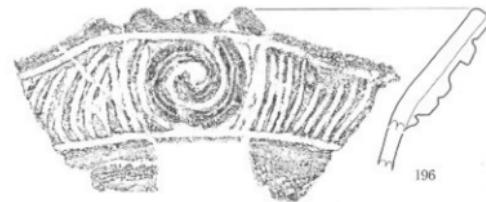
10cmスケール

土坑5>>

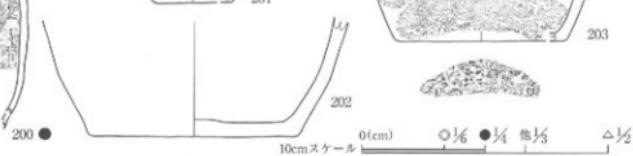
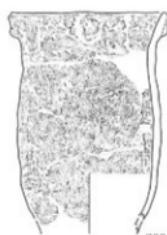
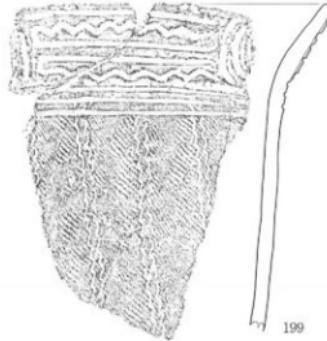
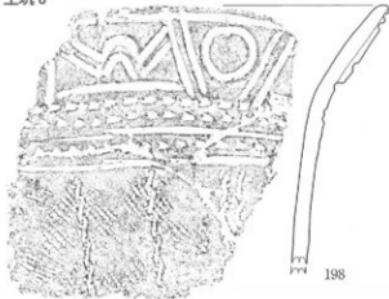


第57図 A区土坑出土土器(5)

》》土坑 5



土坑 6

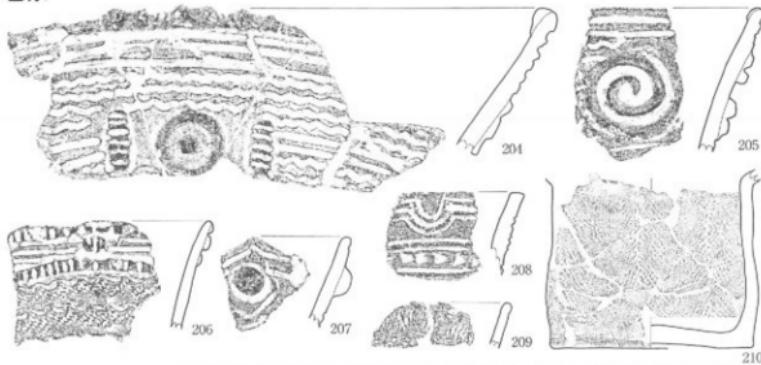


10cm スケール

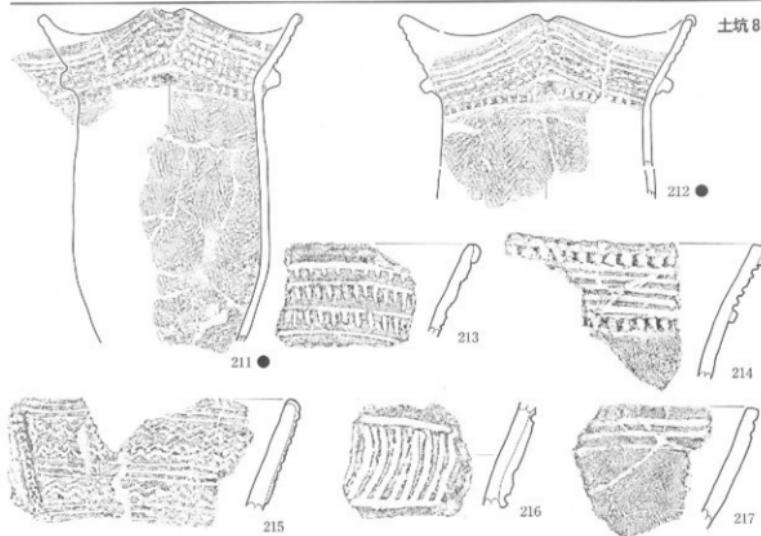


第58図 A区土坑出土土器 (7)

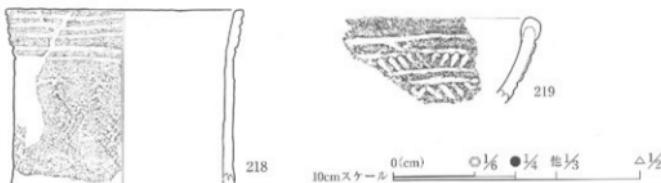
土坑7



土坑8

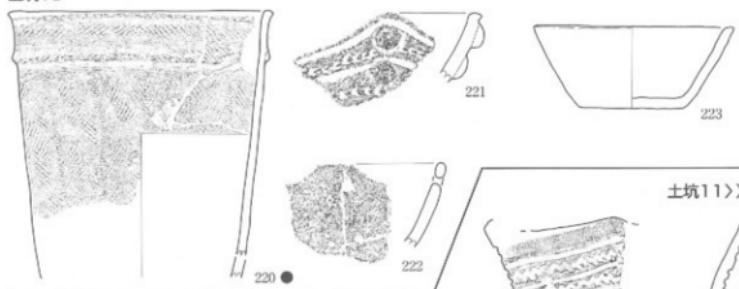


土坑9

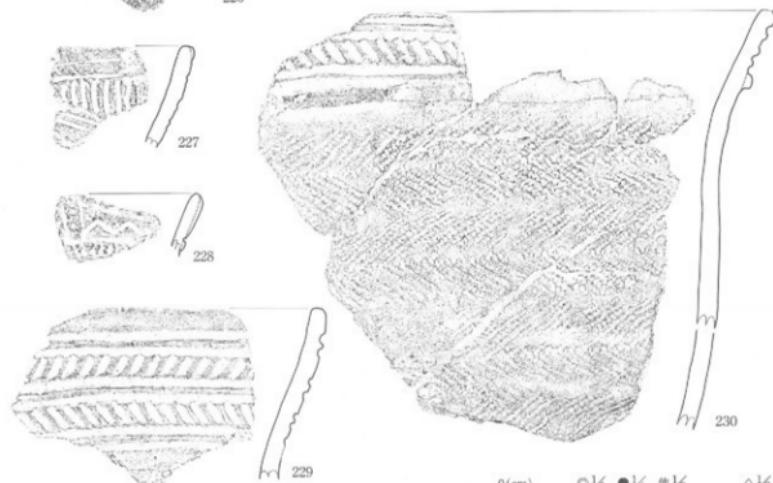
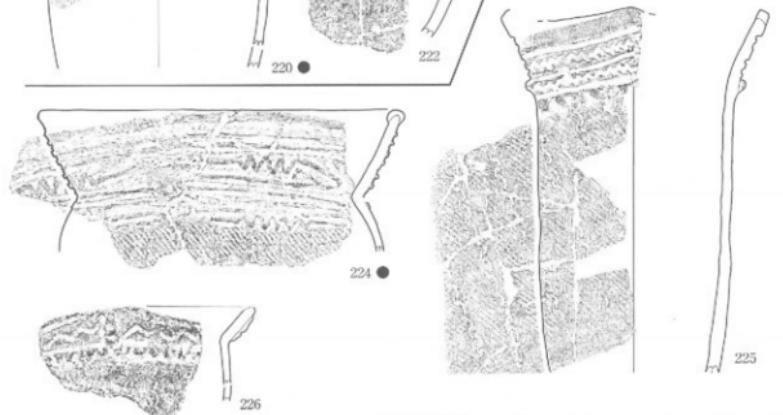


第59図 A区土坑出土土器(8)

土坑10



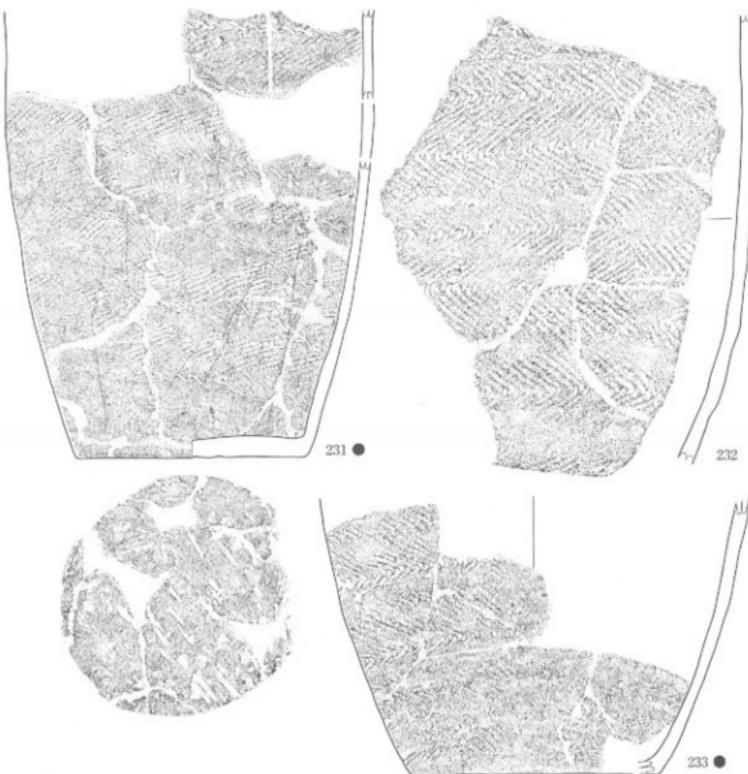
土坑11



10cmスケール 0(cm) ○1/6 ●1/4 ▲1/3 △1/2

第60図 A区土坑出土土器(9)

» 土坑11

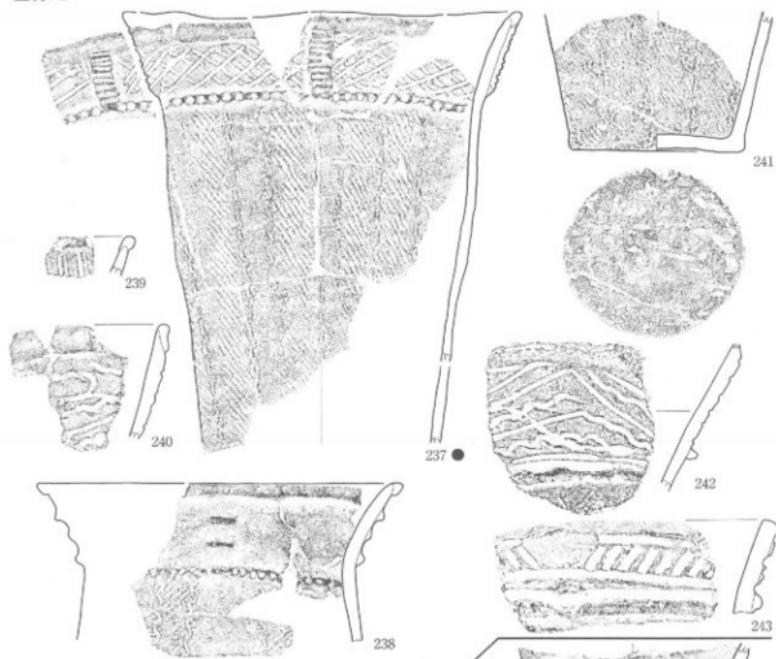


土坑12

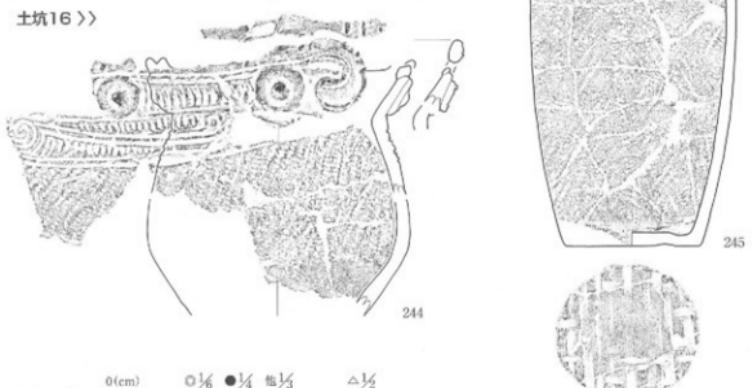


第61図 A区土坑出土土器 (10)

土坑13



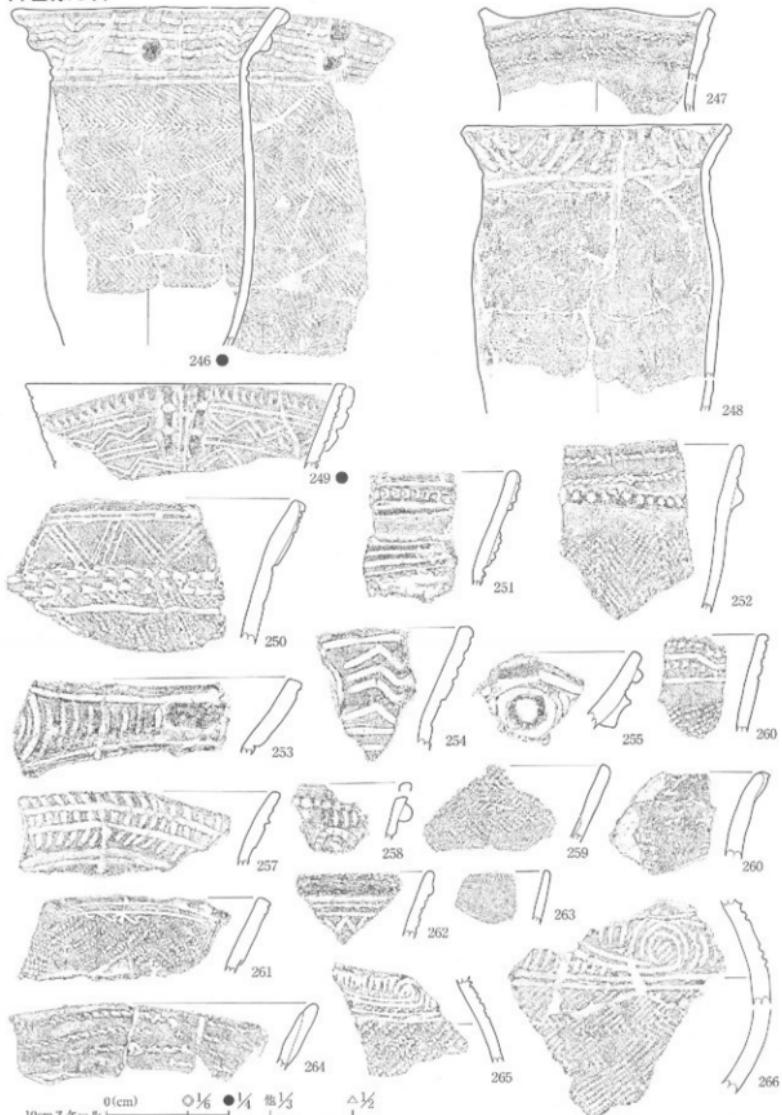
土坑16 >>



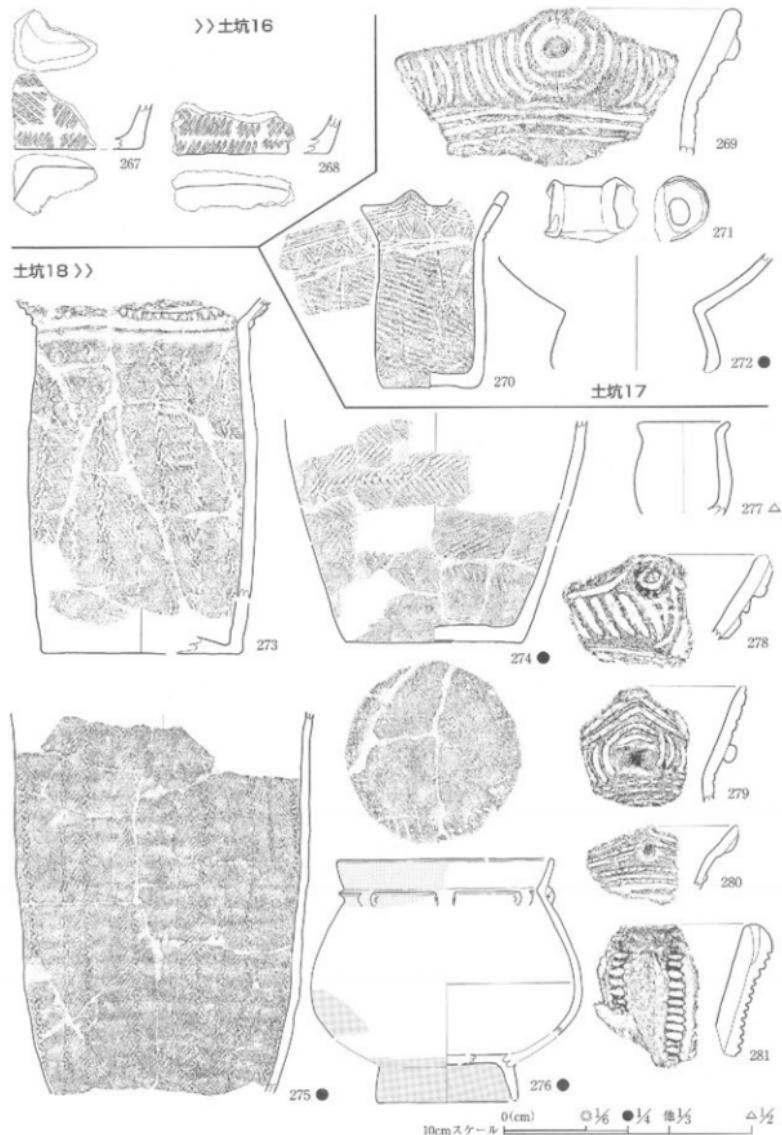
10cmスケール 0(cm) ○1/6 ●1/4 ▲1/3 △1/2

第62図 A区土坑出土土器 (11)

>>土坑16>>

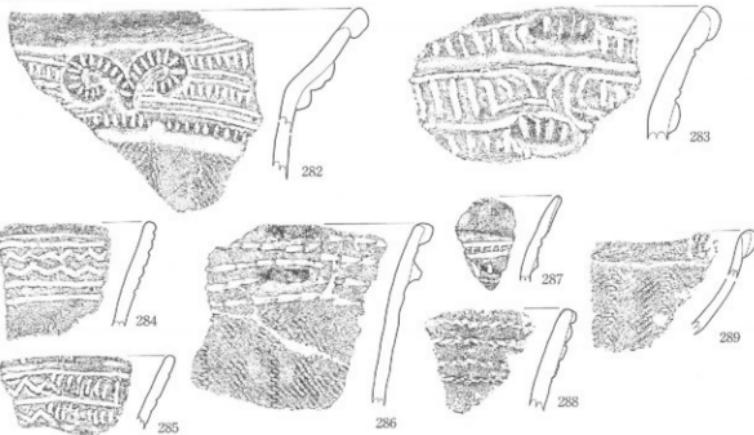


第63図 A区土坑出土土器 (12)

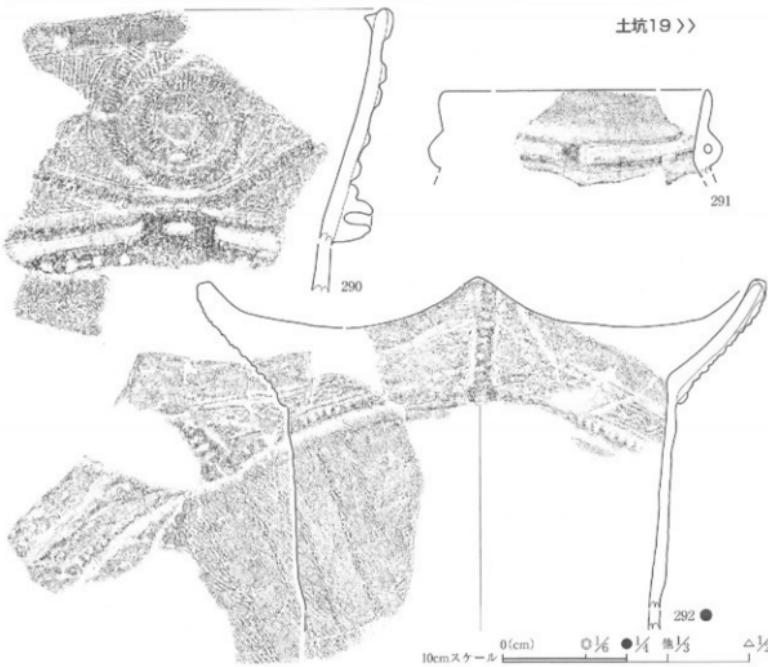


第64図 A区土坑出土土器 (13)

»土坑18

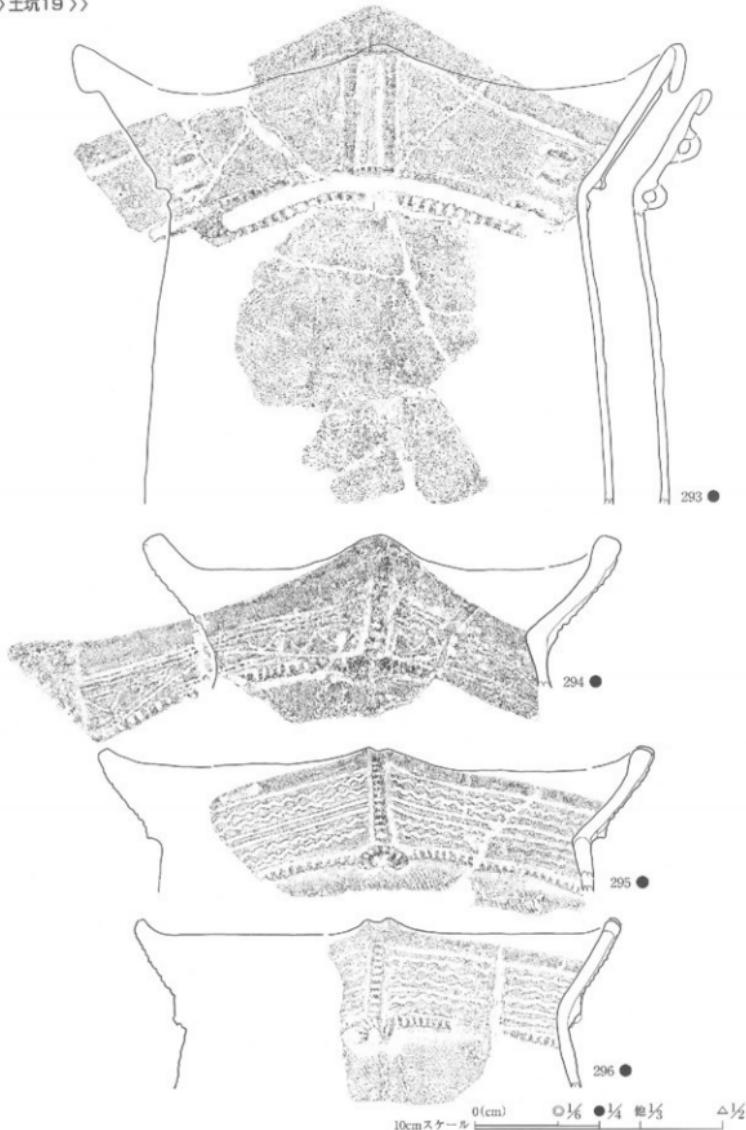


土坑19 »



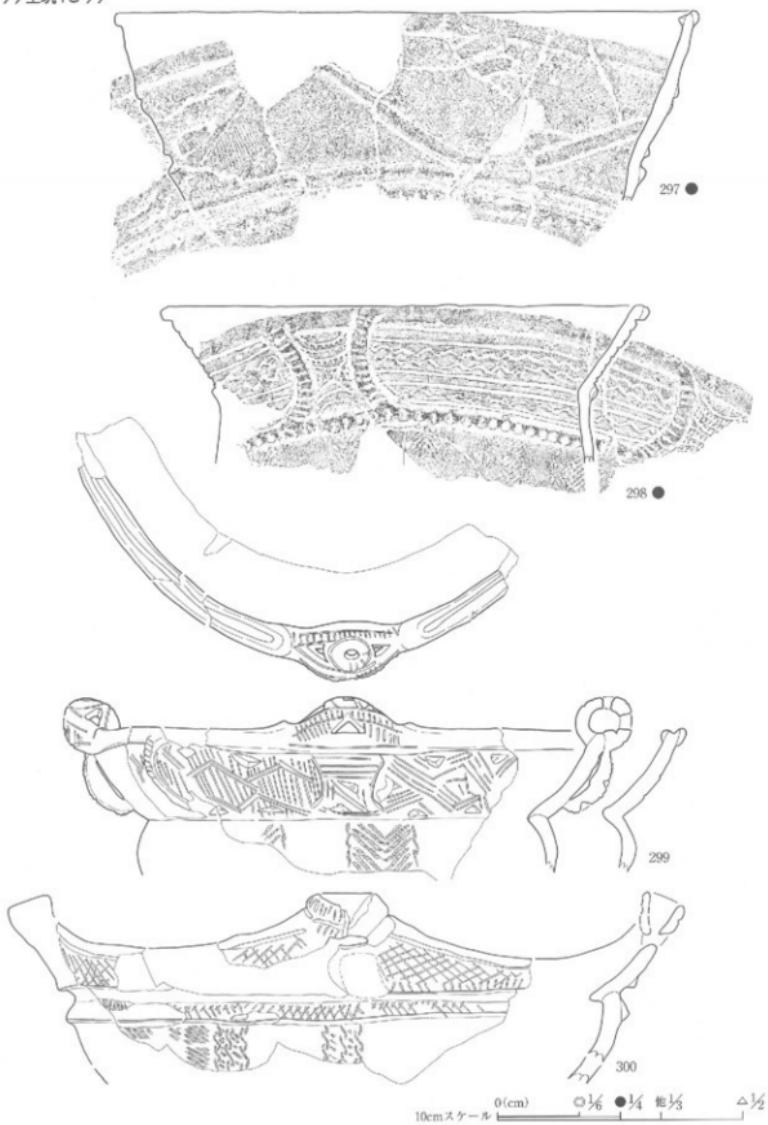
第65図 A区土坑出土土器 (14)

>>土坑19 >>



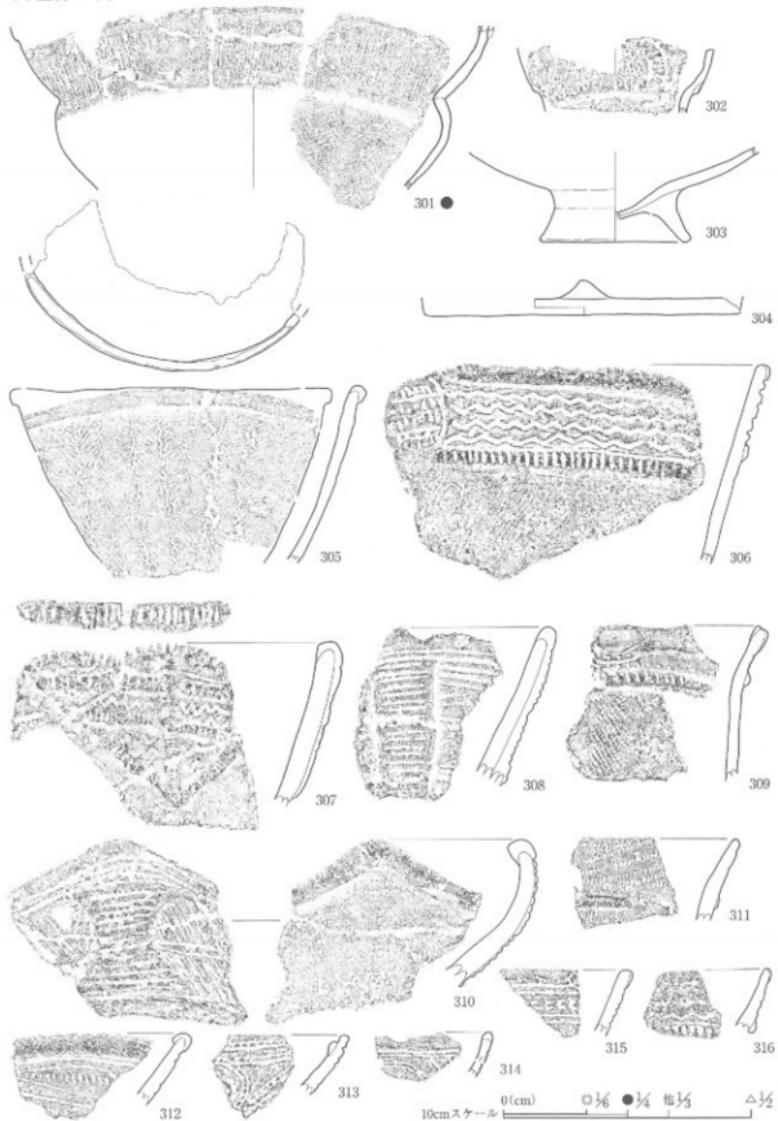
第66図 A区土坑出土土器 (15)

>>土坑19>>



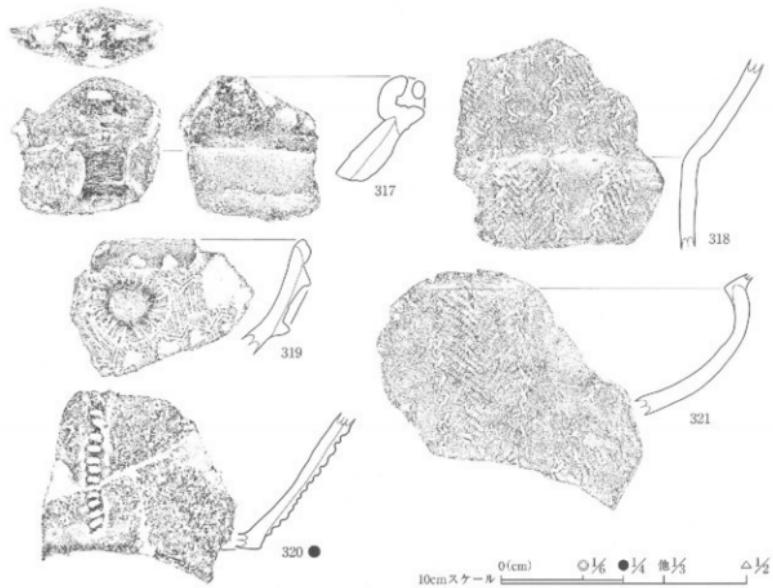
第67図 A区土坑出土土器 (16)

>>土坑19 >>

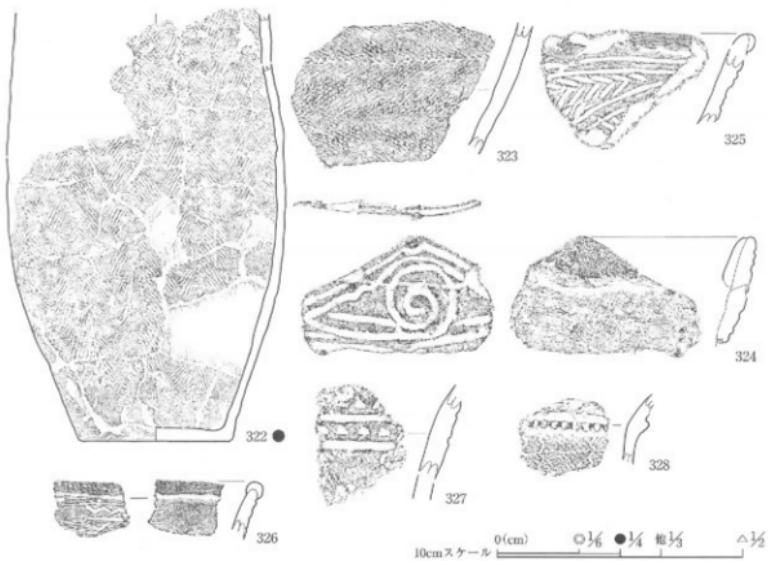


第68図 A区土坑出土土器 (17)

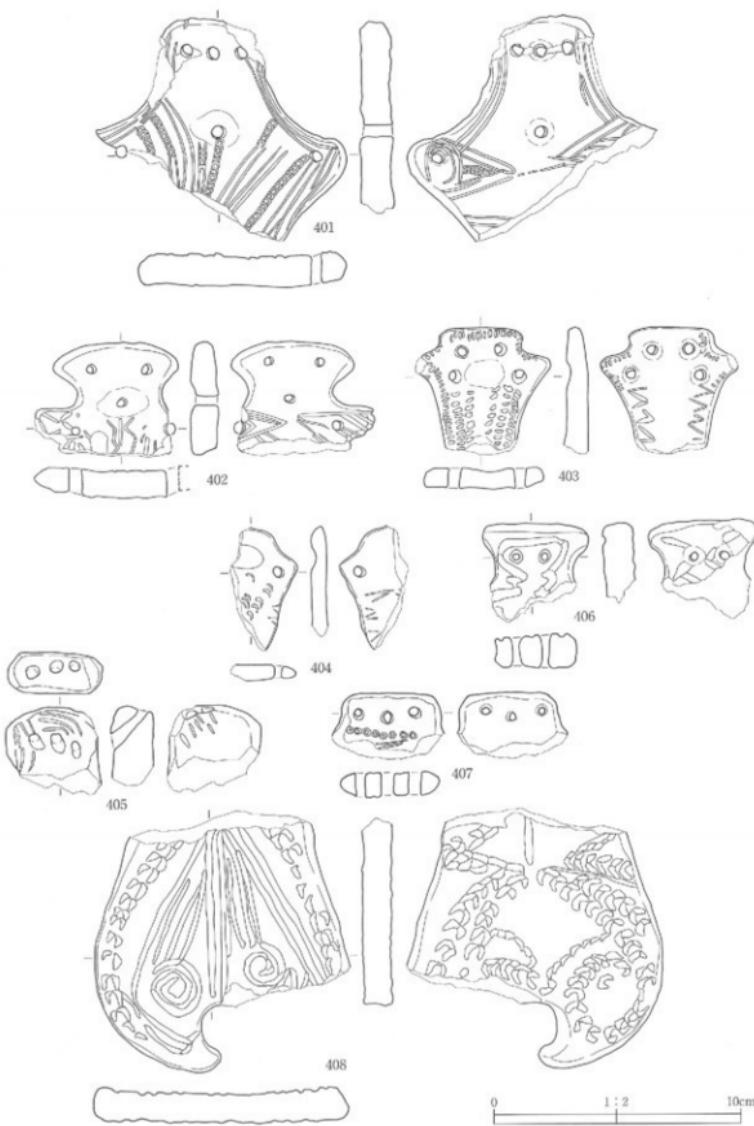
>>土坑19



第69図 A区土坑出土土器 (18)



第70図 A区陥し穴状遺構出土土器



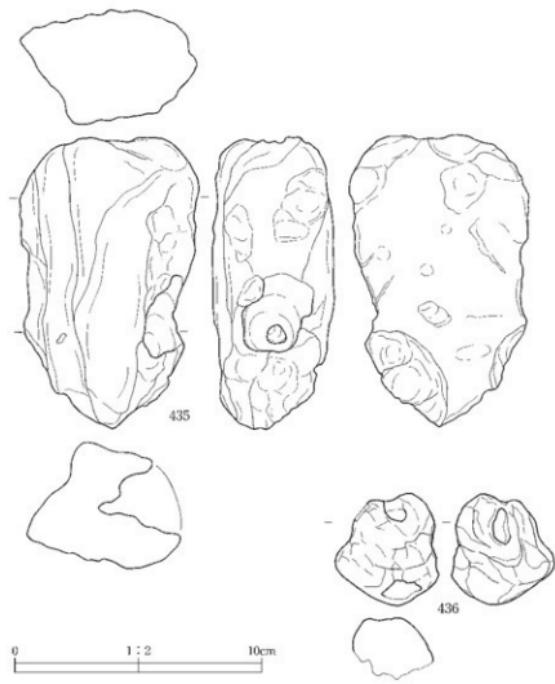
第71図 A区土製品(1)



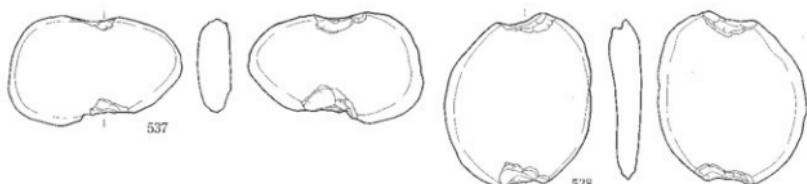
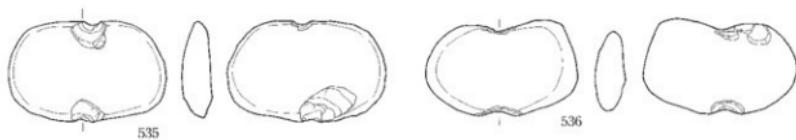
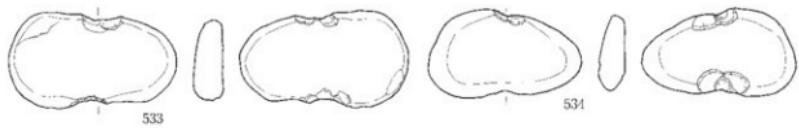
第72図 A区土製品 (2)



第73図 A区土製品 (3)

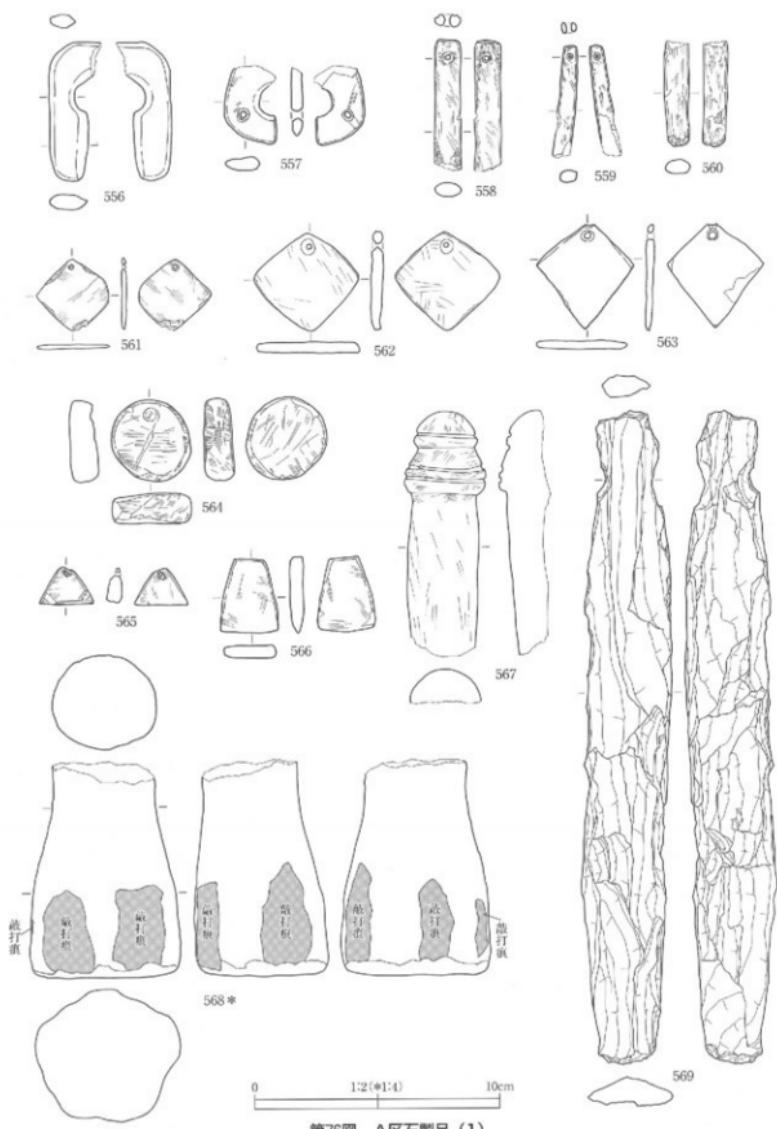


第74図 A区土製品 (4)

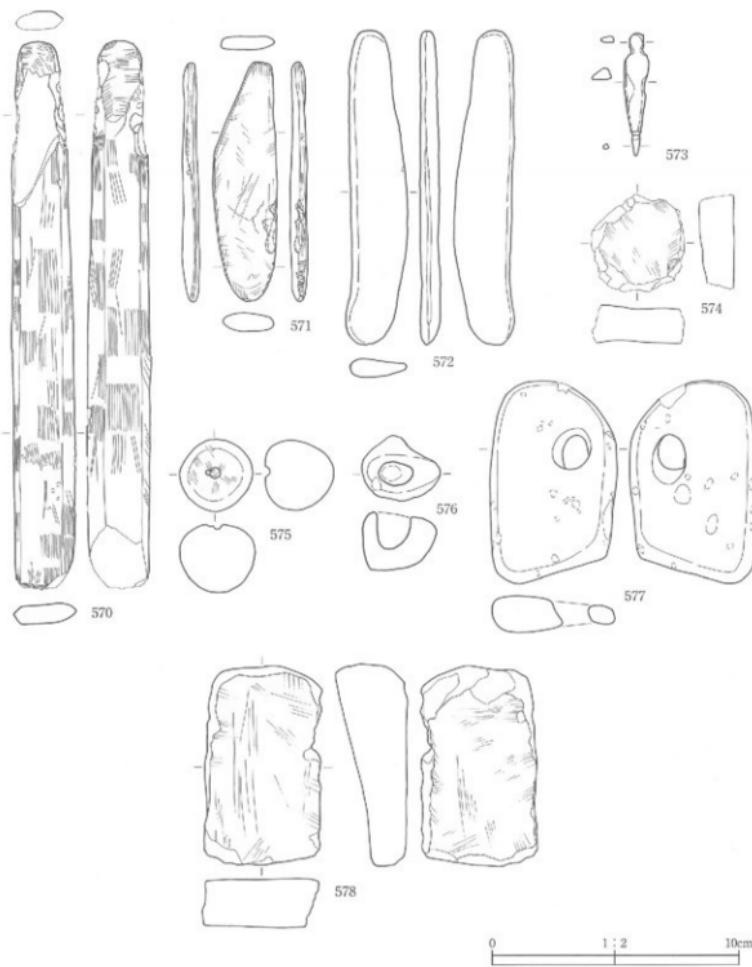


0 1 : 3 10cm

第75圖 石 鐘



第76図 A区石製品(1)



第77図 A区石製品 (2)

3. B 区 (第78・79図・写真図版56・57)

(1) 時期不明

①建物跡

建物跡 1 (第79図・写真図版57)

【位置・検出状況】 IV B 13 f ~ 14 f グリッド付近に位置する。地山構成層である砂礫層 (Ⅷ層以下に相当) 上面で検出された。

【柱穴配置と規模】 周辺で検出された柱穴状ピットは13基 (p 2~14) で、このうち建物跡を構成すると思われるものはp 2・3・5・6・7・10・11・13の8基である。桁行5.8m×梁行4.6mの長方形プラン (1×3間) を構成している。柱穴の直径は35~50cm、検出面からの深さは20~50cmほどで、底面レベルにはややばらつきがある。

【炉跡状施設】 建物跡の中央部からは65×60cmの楕円形の掘り込みが検出され、検出面ではプランの中央部に円形の焼土が認められた。精査の結果、同様の焼土は掘り込みの底面でも確認され、計2面の焼成面を有する炉跡状の遺構であると判断した。2時期の焼成面の間に黒褐色砂質シルトの薄層を挟み、下位の焼成面直上では炭化物粒と薄い灰層が観察された。

【重複・出土遺物・帰属時期】 本遺構と重複する他の遺構はなく、柱穴埋土からも遺物は出土しなかった。したがって、本遺構の帰属する年代は不明である。

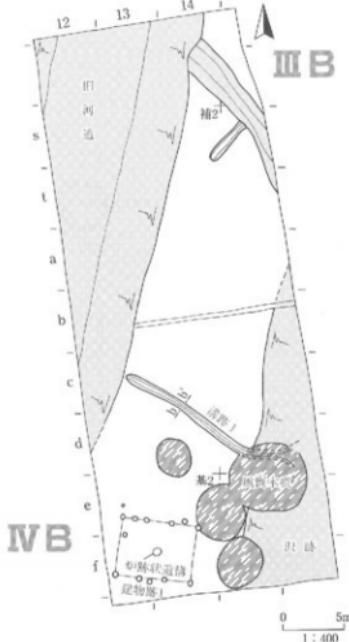
②溝跡

溝跡 1 (第79図・写真図版57)

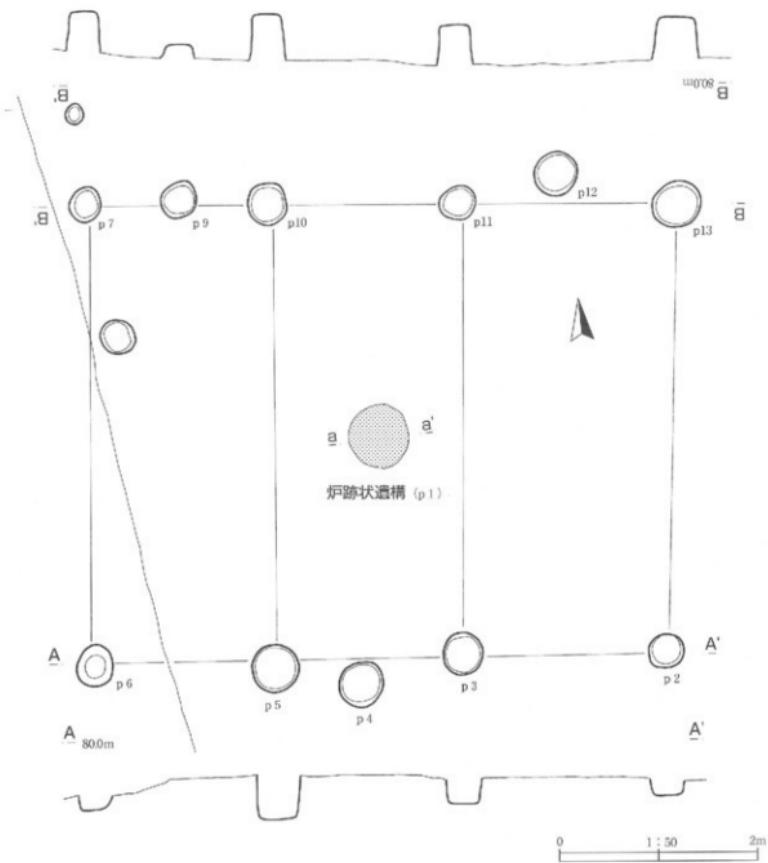
【位置・検出状況】 IV B 13 c ~ IV B 15 d グリッド付近に位置する。地山構成層である砂礫層 (Ⅷ層以下に相当) 上面で検出された。

【規模・形状】 全長約12m、幅50~60cmで、西北西~東南東方向には直線的に走行する。東端は調査区南東部の沢跡に、西端は調査区北西部の旧河道に接する。

【堆積状況・出土遺物・帰属時期】 埋土の主体は黒色~黒褐色シルトで、流水による自然堆積の様相を示す。東端部では風倒木痕に重複してこれを切り、調査区南東部の沢跡埋土上部へと自然に連続して、この付近でプランが不明瞭となる。風倒木痕及び沢跡に重複・連続する付近の埋土からは縄文時代晚期~弥生時代初頭に位置づけられる土器片が出土している。ただしこの遺物が本遺構の構築時期を示すものとは断定できず、そのほかの出土遺物もないことから帰属年代の詳細は不明である。



第78図 B区遺構配置図



【炉跡状遺構】

1. 10YR3/4 暗褐色シルト(洗土), 上面焼成面, 下部はほどこ窓である。
 2. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト,
 3. 10YR3/4 暗褐色シルト(洗土), 上面に灰・炭化物厚層,
- ※建物跡に伴う炉跡? 焼成面が2面認められる。

【溝跡 1】

1. 10YR2/1 黒色シルト,

a-a'	0	1:20	50cm
b-b'	0	1:40	1m

第79図 B区建物跡1・溝跡1

4. C 区

(1) 縄文時代

①堅穴住居跡

堅穴住居跡 1 (第81図、写真図版58)

【位置・検出状況】 IV C 3 h ~ 3 i グリッド付近の V 層上面で検出された。昭和49年度の調査で確認された堅穴住居跡群の西側に近接する位置に相当する。付近は現代の水田により著しく削平を受けていた。

【規模・形状・埋土】 床面以下まで削平を受けており住居跡本体の埋土は残存していない。検出されたのは直径25~38cmの柱穴6基 (p 1~6) と、本住居跡に付属したと思われる炉跡1基である。炉跡の位置から住居の主軸はほぼ東西方向と推定される。炉跡を挟んで南北に位置する柱穴 p 1 - p 6 間の距離は約3.5mである。昭和49年の調査で確認された堅穴住居跡とほぼ同規模で、主軸方向も類似する。

【炉跡】 調査区東側境界に重複して検出された。柱穴配置から想定される住居跡プランの東壁側に設置されていたものと判断される。疊の配置により複数の機能部に区分されており、いわゆる複式かの形態を示しているが、上部を著しく攪乱されており痕跡的な残存状況であった。

【時期・出土遺物】 柱穴・炉跡内からは時期を示す遺物は出土していないが、柱穴の配置・炉跡の形態等から縄文時代中期末葉の堅穴住居跡であると判断される。

②土 坑 (第82図、写真図版59~61)

土坑 1

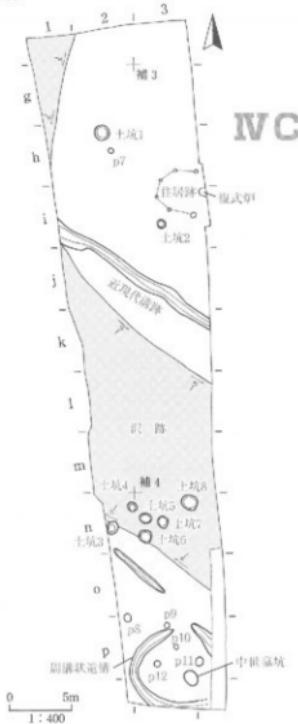
【位置・検出状況】 IV C 2 h グリッドの V 層上面で検出された。

【規模・形状】 平面形は直径110cmの不整円形で深さは24cm。壁はやや外傾しながら直線的に立ち上がる。底面は平坦で中央部に小ピット（径25cm）1基を有する。
【埋土と堆積状況】 底面直上に流入土と思われる黒褐色砂質シルトがほぼ水平に堆積した後、壁崩落土（3層）がこれを覆い、その後漸次埋没したものと思われる。
【遺構の時期】 埋土から縄文時代に属するものと判断されるが詳細な時期は不明である。
【出土遺物】 縄文土器細片。

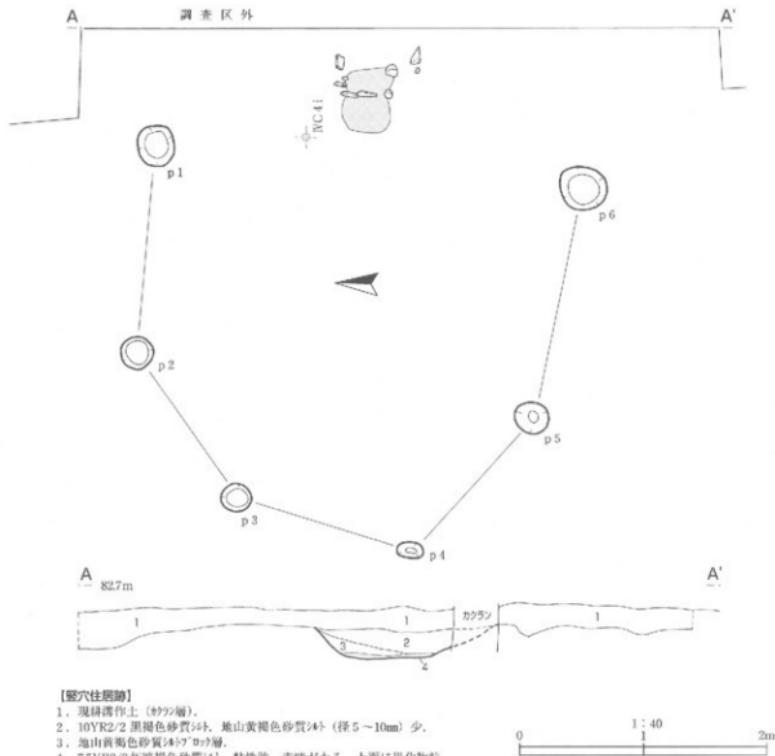
土坑 2

【位置・検出状況】 IV C 3 i グリッドの V 層上面で検出された。

【規模・形状】 平面形は直径65cmの円形を呈すると思われるが東部が攪乱を受け本来の壁が失われている。深さは20cm。断面形は皿状を呈する。
【埋土と堆積状況】 底面に壁から流出したと思われる暗褐色砂が堆積した後、漸次上方からの流入土により埋没したものと思われる。
【遺構の時期】 埋土から縄文時代に属するものと判断されるが詳細な時期は不明である。
【出土遺物】 縄文土器片。



第80図 C区遺構配置図



柱穴状ピット 底面標高

p 1	p 2	p 3	p 4	p 5	p 6
81.785	81.928	81.961	81.907	81.844	81.752

第81図 C区堅穴住跡 1

土坑 3

【位置・検出状況】IV C 2 n グリッドのV層上面で検出された。 【規模・形状】平面形は95×85cmの不規則形で深さは22cm。断面形は皿状を呈する。 【埋土と堆積状況】埋土の主体は黒褐色シルトで、底面から壁際には地山粘土ブロックを含む。人為的に埋められた可能性がある。 【遺構の時期】埋土から縄文時代に属するものと判断されるが詳細な時期は不明である。 【出土遺物】縄文土器片（写真図版62：701）。

土坑 4

【位置・検出状況】IV C 2 n グリッドのV層上面で検出された。 【規模・形状】平面形は直径68cmの円形で深さは24cm。壁はほぼ直立して立ち上がるが部分的に外傾または内傾する。底面は平坦に整っている。 【埋土と堆積状況】埋土の主体は黒褐色シルトで、下部で地山粘土ブロックをやや多く含む。人為的に埋められた可能性がある。 【遺構の時期】埋土から縄文時代に属するものと判断されるが詳細な時期は不明である。 【出土遺物】縄文土器細片。

土坑 5

【位置・検出状況】IV C 3 n グリッドのV層上面で検出された。 【規模・形状】平面形は直径90cmの不規則形で深さは32cm。壁はやや外傾しながら直線的に立ち上がるが、北壁側はやや抉れてオーバーハングしている。底面は平坦に整っている。 【埋土と堆積状況】埋土最下部4層は地山粘土ブロックをやや多く含み人為的な堆積層である可能性がある。その上位には自然の流入土と思われる黒褐色シルト（3層）が検出面まで堆積している。開口部付近の壁際では壁の崩落層（2層）が観察される。 【遺構の時期】埋土から縄文時代に属するものと判断されるが詳細な時期は不明である。 【出土遺物】縄文土器片（写真図版62：702・703）。

土坑 6

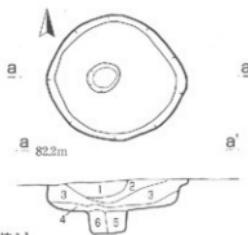
【位置・検出状況】IV C 3 n グリッドのV層上面で検出された。 【規模・形状】平面形は直径105cmの円形で深さは26cm。壁はやや外傾しながら直線的に立ち上がる。底面は平坦に整っている。 【埋土と堆積状況】埋土下半の3層は地山粘土ブロックをやや多く含み人為的な堆積層である可能性がある。その上位には自然の流入土と思われる黒褐色シルト（2層）が検出面まで堆積している。1層は擾乱層である。 【遺構の時期】埋土から縄文時代に属するものと判断されるが詳細な時期は不明である。 【出土遺物】縄文土器細片。

土坑 7

【位置・検出状況】IV C 3 n グリッドのV層上面で検出された。 【規模・形状】平面形は直径90cmの不規則形で深さは13cm。壁はやや外傾して立ち上がる。底面はほぼ平坦だが部分的に凹凸がある。 【埋土と堆積状況】埋土の主体は黒褐色シルトで地山粘土ブロックをわずかに含む。 【遺構の時期】埋土から縄文時代に属するものと判断されるが詳細な時期は不明である。 【出土遺物】縄文土器片（写真図版62：704）。

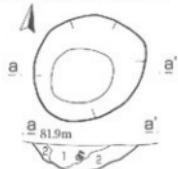
土坑 8

【位置・検出状況】IV C 3 n グリッドのV層上面で検出された。 【規模・形状】平面形は直径124cmの円

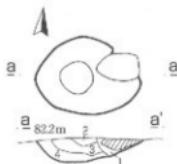


[土坑1]

1. 10YR2/2 黒褐色シト。やや砂質。
2. 10YR2/1 黒褐色シト。炭（径2~5mm）発見。1より黒味。
3. 10YR2/1 黒褐色シト。
4. 10YR2/3 黑褐色砂質シト。
5. 10YR2/3 黑褐色砂質シト。4に似るがやや暗い。柱根？。
6. 10YR3/3 單褐色細砂。細粒埋土。



[土坑2]

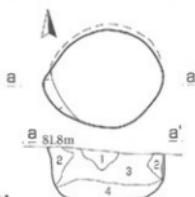


[土坑2]

1. 2・3層の粘土、塊状層。
2. 10YR2/2 黒褐色砂質シト。
3. 10YR2/1 黒褐色シト。
4. 10YR3/3 單褐色細砂。

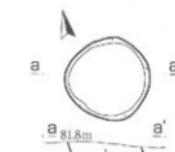
[土坑3]

1. 10YR2/2 黑褐色シト。土器片含。
2. 10YR2/2 黑褐色シト。地山黄褐色粘土プロック少。



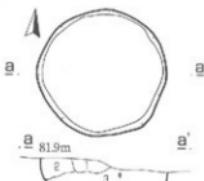
[土坑4]

1. 10YR2/2 黑褐色シト。根状茎により地山粘土プロック少含。
2. 10YR2/2 黑褐色シト。全体に地山小アロウタや多（人為埋土？）。



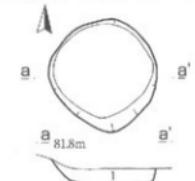
[土坑4]

1. 10YR2/2 黑褐色シト。根状茎により地山粘土プロック少含。
2. 10YR2/2 黑褐色シト。全体に地山小アロウタや多（人為埋土？）。



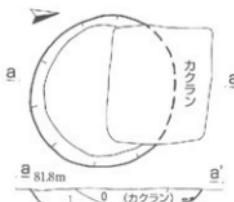
[土坑5]

1. 10YR2/3 黑褐色シト。カクラン？
2. 地山黄褐色粘土プロック層。壁崩落層。
3. 10YR2/2 黑褐色シト。
4. 10YR2/2 黑褐色シト。全体に地山アロウタや多（人為埋土？）。



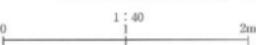
[土坑6]

1. 10YR2/2 黑褐色シト。10YR6/4 にぶい黄橙色粘土アロウタ入。
2. 10YR2/2 黑褐色シト。
3. 10YR2/2 黑褐色シト。全体に地山小アロウタ少含（人為埋土？）。



[土坑7]

- 0
- 1
- 2m



[土坑8]

0. 重機（試験時）の搅乱層。
1. 10YR2/2 黑褐色シト。縁・土器片含。

第82図 C区土坑

形を呈するものと思われるが、北縁側で搅乱を受けプランは乱されている。検出面からの深さは18cm。断面形は直状を呈する。【埋土と堆積状況】埋土の主体は黒褐色シルトで小礫・土器片を含む。【遺構の時期】理上・出土遺物から縄文時代に属するものと判断されるが詳細な時期は不明である。【出土遺物】縄文土器細片。

(2) 中世

①中世墓坑及び周溝状遺構（第83図・写真図版60・61）

中世墓坑

IV C 3 p グリッドの南東隅に位置する。V層上面で検出された。平面形は北西～南東方向に長軸を持つ116×98cmの不整形円形で、検出面からの深さは8cmである。構成の搅乱により上部を著しく削平されているものと思われる。埋土は黒褐色砂質シルトと地山黄褐色砂質シルトの混土層で、明らかに人为的堆積層の様相を示している。

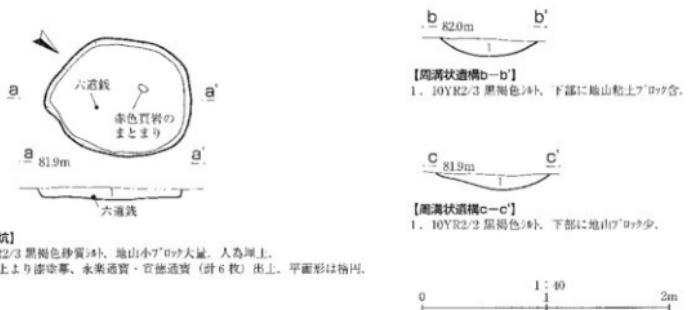
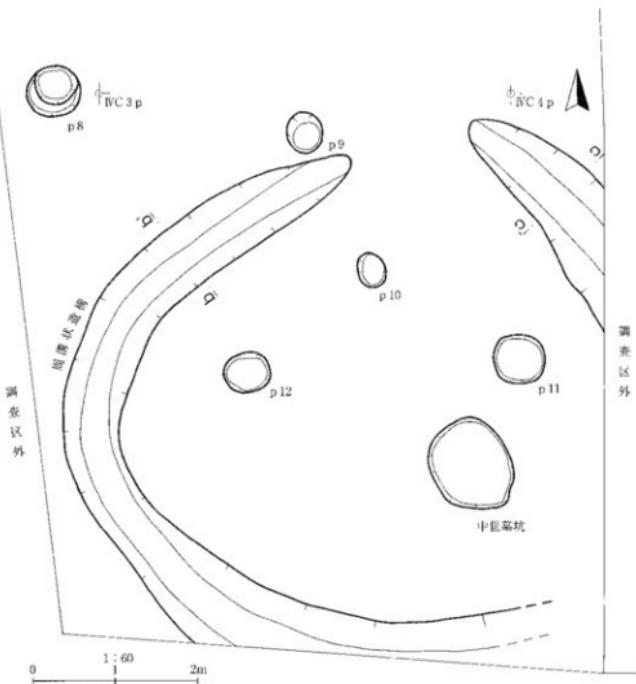
やや南東寄りの底面直上からは六道錢と思われる銭貨がまとまった状態で出土した。永楽通寶・宣德通寶ほか計6枚からなる。また、やや北西寄りの底面直上からは径2cm程度の赤色頁岩複数がまとまり8×6cmほどの鶏卵型の塊となった状態で出土した。何らかの容器に容れられていたものが固結したように思われる。このほか底面中央付近には赤色の塗装膜片が散在しているのが確認された。

周溝状遺構

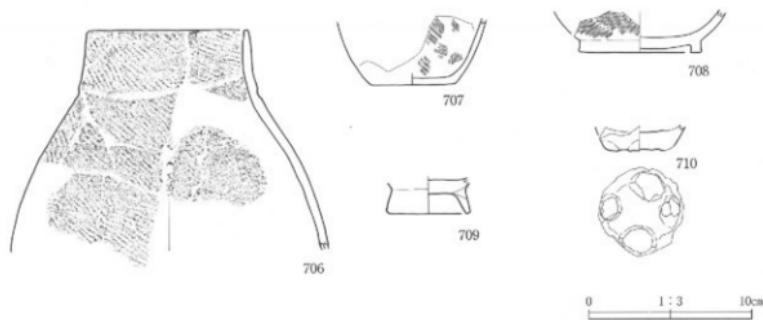
IV C 3 p～3 q グリッド付近に位置する。V層上面で検出された。南東部が柵柵区外へと延びているため詳細は不明であるが、おおむね径4.5～5.0mほどの円形あるいは隅丸方形を呈するものと思われる。溝の幅は90cm前後、検出面からの深さは12～20cmである。埋土は黒褐色シルト主体で底面付近に地山土のブロックを含み、自然堆積の様相を呈する。北端部には幅約1.5mの開口部を持ち、これに向かって徐々に浅くなっている。周溝内部の中央部やや南東寄りには上掲の中世墓坑が位置しており、周溝の形状を隅丸方形とみれば互いの輪線はほぼ一致している。これらのことから本遺構は墓坑に伴う施設である可能性が高いと判断した。

(3) 沢跡

当区中央部を横断する沢跡の埋土上部からは縄文時代中期末葉・後期～晩期の土器が出土している。遺物はIV C 2 j～2 l付近に集中している。当区は昭和49年度の調査で確認された縄文時代中期末葉の集落の西縁部に相当しており、集落中心部から廃棄された土器等が集積していたものと思われる。後・晩期の遺構は調査区内からは確認されていないが、付近に該期の遺構が存在する可能性は高いと思われる。



第83図 C区中世墓坑・周溝状遺構



第84圖 C区出土土器

表21 B·C区出土土器一覽

揭露 番号	假No	区	出土地点・遺構名	層位等	観察事項等	図版 番号	写真図版 番号	備考
601	788	B	IV B16 d	黒色土(Ⅲ層相当)			62	
602	789	B	IV B16 d	黒色土(Ⅲ層相当)			62	
603	792	B	IV B16 d	黒色土(Ⅲ層相当)			62	
604	790	B	IV B16 d	黒色土(Ⅲ層相当)			62	
701	821	C	土坑3	埋土			62	
702	819	C	土坑5	埋土			62	
703	822	C	土坑5	埋土			62	
704	818	C	土坑7	埋土			62	
705	823	C	調査区中央断面溝跡	埋土			62	
706	793	C	IV C02 k	黒色土(Ⅲ層相当)		83	62	
707	794	C	IV C02 j	黒色土(Ⅲ層相当)		83	62	
708	795	C	IV C02 j	黒色土(Ⅲ層相当)		83	62	
709	796	C	IV C02 k	黒色土(Ⅲ層相当)		83	62	
710	797	C	IV C02 k	黒色土(Ⅲ層相当)		83	62	
711	803	C	IV C02 k	黒色土(Ⅲ層相当)			62	
712	817	C	IV C03 h	黒色土(Ⅲ層相当)			62	
713	813	C	西端溝跡	黒色土(Ⅲ層相当)			62	
714	804	C	IV C02 k	黒色土(Ⅲ層相当)			62	
715	807	C	IV C02 l	黒色土(Ⅲ層相当)			62	
716	799	C	IV C02 j	黒色土(Ⅲ層相当)			62	
717	801	C	IV C02 j	黒色土(Ⅲ層相当)			62	
718	798	C	IV C02 j	黒色土(Ⅲ層相当)			62	
719	800	C	IV C02 j	黒色土(Ⅲ層相当)			62	
720	805	C	IV C02 k	黒色土(Ⅲ層相当)			62	
721	811	C	西端溝跡	黒色土(Ⅲ層相当)			62	

V. まとめ

1. A 区

A区では、縄文時代前期末葉～中期初頭の大形の住居跡とそれに類似・関連すると思われる炉跡及び柱穴配置が確認され、当区が当時の居住域の一部であったことが判明した。復元案として示した柱穴配置が正しいとすれば、住居跡1をはじめ複数の住居が沢跡を取り囲むように配置されていたと見ることができる。

ところで、住居跡1の本来の全形が現存形状とはほぼ変わらない長方形であった見た場合、炉跡が一方の壁側に偏る現象が不自然に見えることは先に述べた。だが、復元案に示した柱穴配置と各炉跡の位置関係に目をやると、住居跡1と同様に炉跡が一方の壁側に偏っているものが含まれている。今回の調査で検出されたこれらの住居跡を、一方に偏った炉を持つ住居跡の明らかな事例とすることは控えねばならないが、今後類例の増加によって本例の解釈も可能となるであろう。

次に土坑について。当区で検出された土坑は沢跡の西岸に集中して分布している。このうち特に楕円形で底面の長軸両端及び底面中央に小穴を伴うものが目を引く。これらの土坑の性格は不明であるが、小穴から土坑開口部まで連続する柱状の痕跡が確認されていることから、何らかの上部構造（上屋）を伴うものであった可能性が高いといえよう。また半埋没の円地となった廃絶後の土坑内部で、火を用いた何らかの行為が行われたことを示す痕跡が多く土坑で確認されたことも注目される。重複関係からこれらの土坑は住居跡よりもやや新しい存在であると判断され、居住域であった当区が土坑を集中して配置する区域へと性格をかえた可能性がある。

一方、陥し穴状遺構のうち楕円形のそれは住居跡よりやや古い存在である。本遺構が「陥し穴」の機能を有していたと仮定すれば、居住域となる直前の当区は、定形的なこれらの遺構を規則的に配列し計画的に狩猟を行った場所であったと解釈されよう。

以上のように、当区は縄文時代前期末葉から中期初頭を中心とした時期にその性格を変えながら継続的（断続的？）に集落の一部として利用されてきたことが今回の調査で明らかとなった。

2. B・C区

B区は3地点のうち最も北上川に近く標高が低い調査区である。時期は不明であるが、沢跡と旧河道に挟まれたわずかな高まりに建物跡が検出された。

C区は過去に東北新幹線開通の調査で縄文時代中期末葉の集落が確認された調査区に隣接しており、今回の調査では同一の集落を構成していたと思われる住居跡が確認されている。また調査区南端部では中世の墓坑とこれに付属する可能性がある周溝状遺構が確認された。

また両区で検出された沢跡埋土には縄文時代中期～晩期の土器片が含まれており、周辺に後・晩期の集落が存在する可能性を示唆している。

3. おわりに

今回の調査は広い遺跡範囲のうちの3地点を対象とし、結果、それぞれの調査区で時期の異なる遺構・遺物が検出された。これらのこととは、人々が環境の変化に伴って適地を選択し、断続的にこの付近の土地を利用してきたことを示しているといえよう。調査成果についての検討が極めて不十分となつたことをここであらためて深くお詫びし、今回の発掘調査の報告を終えたい。

附編 高畠遺跡出土の炭化種実同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

高畠遺跡（岩手県稗貫郡石鳥谷町五大堂所在）では、縄文時代前期末葉～中期初頭の堅穴住居跡内石圓炉の焼土上面から、炭化種実がまとまって出土した。今回は、種実同定を実施することによって炭化種実の種類を明らかにし、食糧などへの植物資源の利用状況に関する情報を得る。

1. 試料

試料は、「A区 炉跡2」と記された2点である。いずれも多量の炭化種実片がみられる。これらは大きさで分類されているが、本来同一試料であることから、今回は一括して扱った。

2. 分析方法

試料を双眼光学顕微鏡下で観察し、泥が付着した個体については面相筆を用いてクリーニングする。種実遺体の形態的特徴と当社所有の現生標本との比較から種類を同定し、乾燥重量を求め、写真撮影を行う。同定後の種実遺体は、乾燥剤とともに種類毎にビン詰めをおこなう。

3. 結果

結果を表1に示す。炭化種実とされた試料の殆どは、クルミ科クルミ属オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *Sieboldiana* (Maxim.) Kitamura) の核の破片と同定された。全個体とも完全に炭化しており、黒色。大きなもので10mm程度だが、5mm以下の個体が多い。多量で、乾燥重量は15.03g程度。完形ならば広卵形で先端部分がやや尖り、1本の明瞭な縫合線がある。内部には子葉が入る2つの大きな窪みと隔壁がある。核皮は硬く、表面には縫方向に滑状の浅い影紋が走り、ごつごつしている。試料は、表面に溝状の浅い影紋がある点と、内部の隔壁の一部が残る点を同定根拠とした。その他に、炭化材の破片が2点(0.1g)検出された。

表1 炭化種実同定結果

試料名	種類名	部位	乾燥重量(g)
A区 炉跡2	オニグルミ	核	15.03
		材	0.1

4. 考察

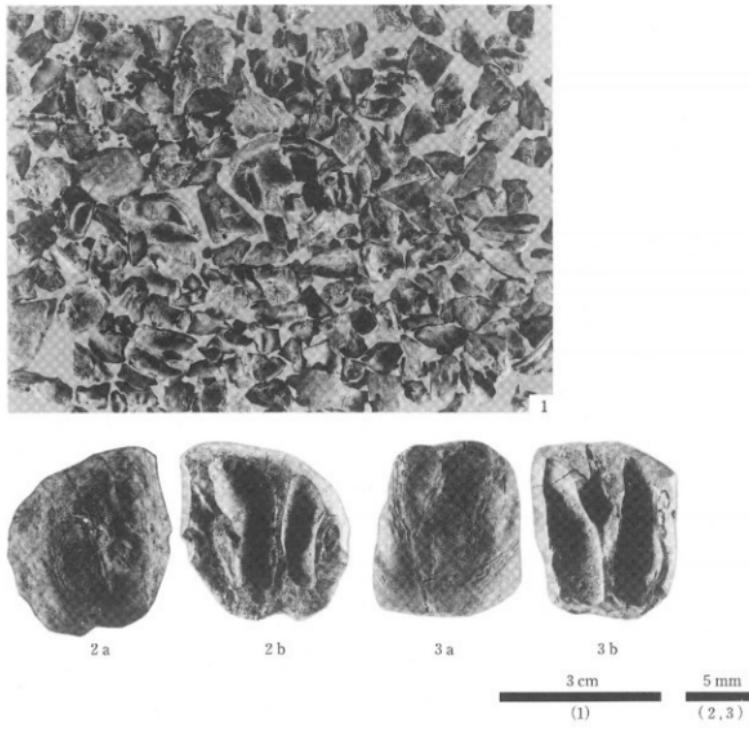
炉跡2の焼土上面からまとめて出土した炭化種実は、オニグルミの炭化核片であった。オニグルミは、種実がアク抜きをせずに生食・長期保存が可能で収量も多いため、古くから里山で保護、採取されてきた有用植物である。また、オニグルミは、川沿いなどの湿った場所に野生する落葉高木で、宮脇編著(1989)の現存植生図や潜在自然植生図によると、現在も本遺跡周辺の山地で普通にみられる種類である。

以上のことから、オニグルミは本遺跡周辺で入手しやすい種実であったと考えられ、住居内に持ち込まれ、食用に利用されていたことが推定される。また、オニグルミの炭化破片が石囲炉の焼土上面から密集した状態で検出されたことを考慮すると、食用の残渣を燃料材として用いた可能性がある。オニグルミは、縄文時代遺跡からの出土例が非常に多い種類の一つであり、東北地方でも多くの出土例が知られている（渡辺、1984）。

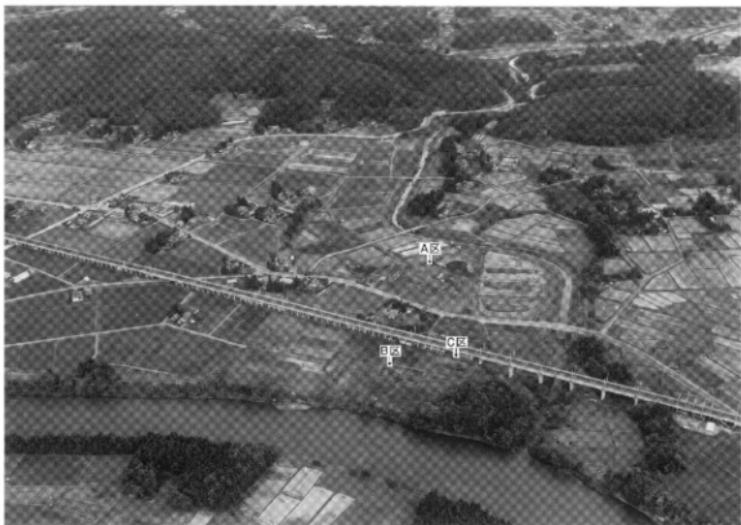
【引用文献】

- 宮脇 昭編（1989）「日本植生誌 東北」。605p., 至文堂。
渡辺 誠（1984）増補 縄文時代の植物食。247p., 雄山閣。

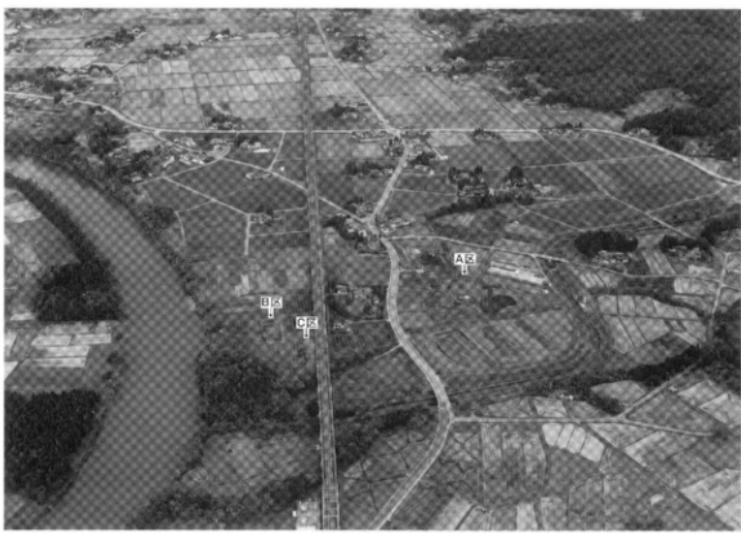
図版1 炭化種実



写 真 図 版



遺跡全景（西→）



遺跡全景（南→）

写真図版1 空中写真（1）



A 区



B・C区

写真図版2 空中写真(2)

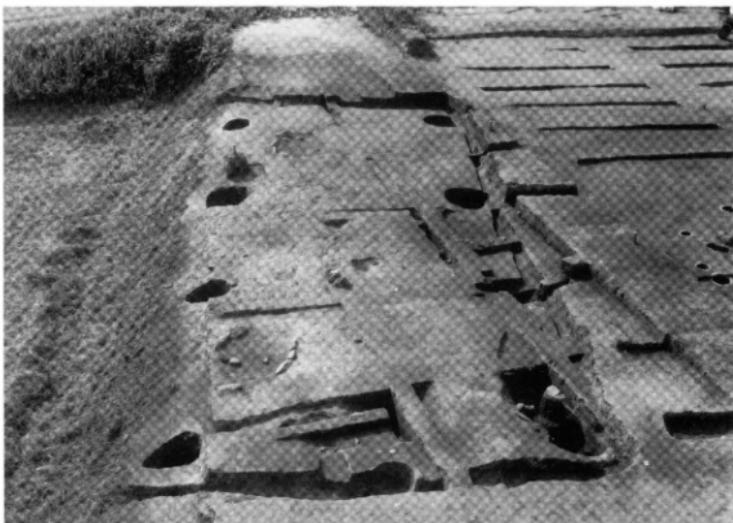


A区 北半部（北東→）



A区 南半部（北西→）

写真図版3 調査着手時の状況（A区）

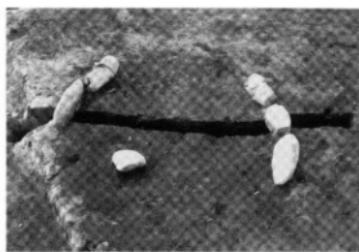


全 景 (東→)

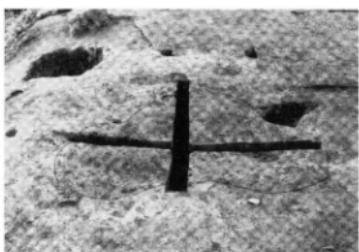


埋土断面 (東→)

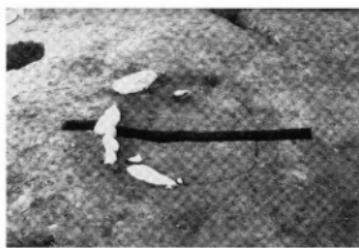
写真図版4 A区住居跡1 (1)



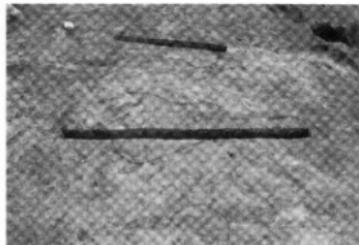
炉a (東→)



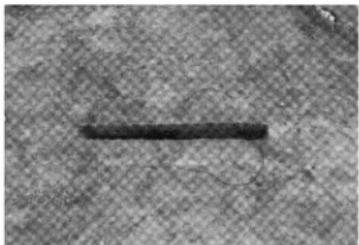
炉b (東→)



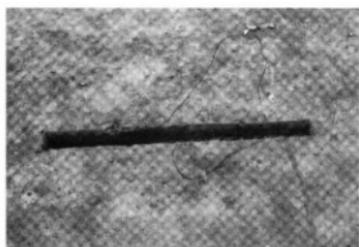
炉c (東→)



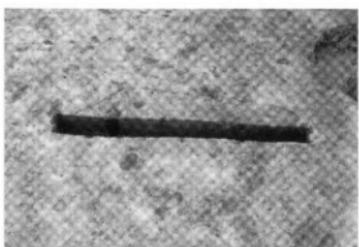
床面 被熱痕 (d-d')



床面 被熱痕 (e-e')



床面 被熱痕 (f-f')

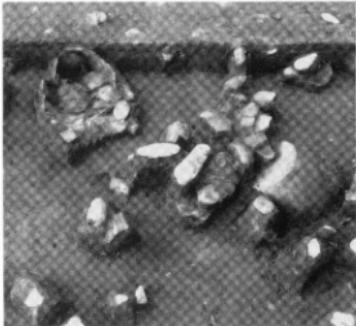


床面 被熱痕 (g-g')

写真図版5 A区住居跡1 (2)



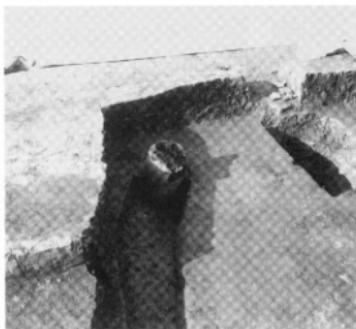
検出段階の出土状況（東→）



出土状況（炉c付近床面）



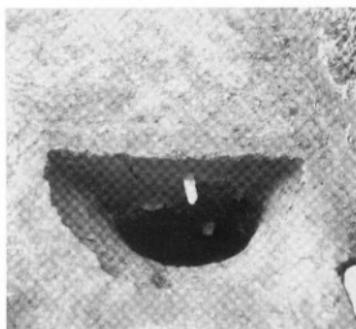
東壁原 埋設土器（南→）



西壁原 周溝内土器（南→）

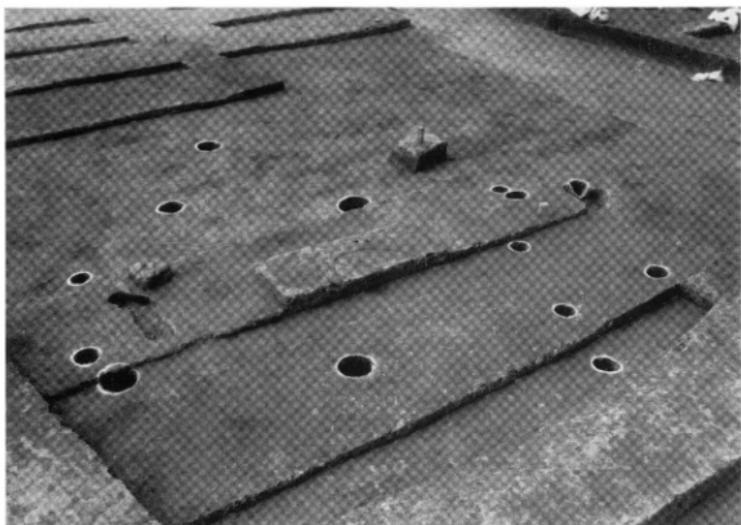


主柱穴p317断面（東→）

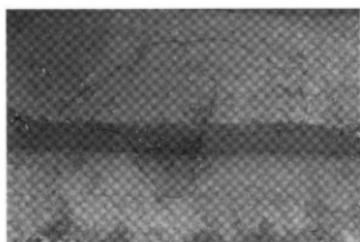


主柱穴p318断面（東→）

写真図版 6 A区住居跡1 (3)



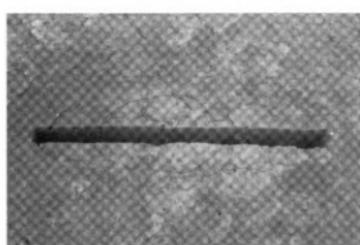
炉跡 1周辺（南東→）



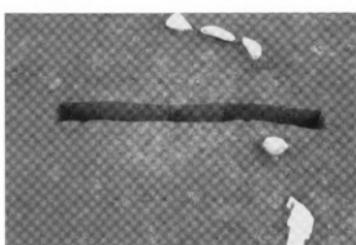
炉跡 1（東→）



炉跡 5（南→）



炉跡 6（南→）

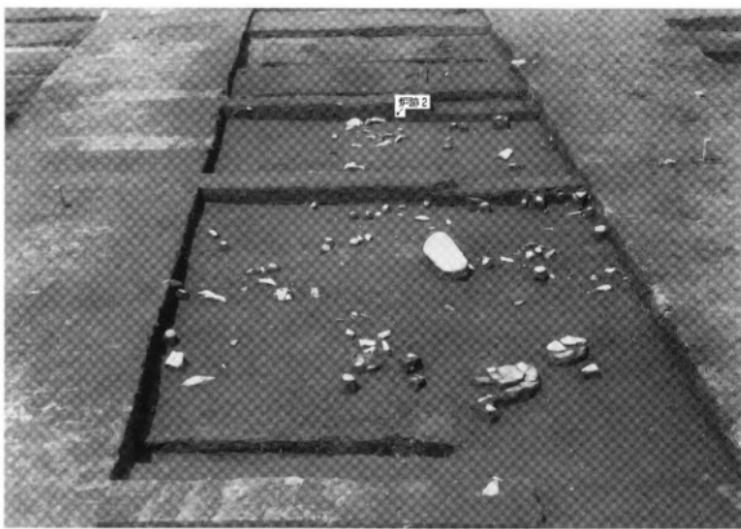


炉跡 9（南→）

写真図版 7 炉跡とその周辺（1）

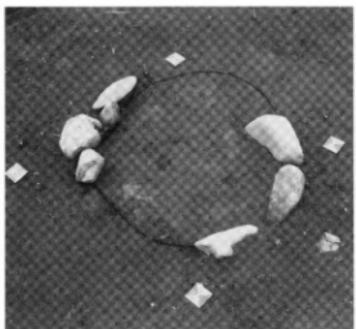


炉跡 2周辺の出土状況（南西→）

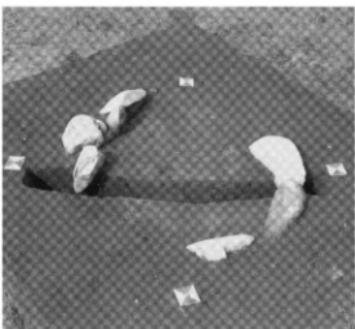


炉跡 2周辺の出土状況（東→）

写真図版 8 炉跡とその周辺（2）



炉跡 2



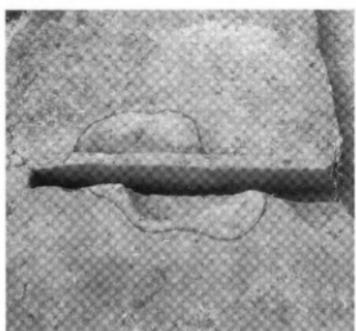
炉跡 2 断面（南東→）



炉跡 2 オニグルミ出土状況



オニグルミ近影



炉跡 2 付近 烧土ブロック断面



炉跡 2 周辺 堆積状況・柱穴群

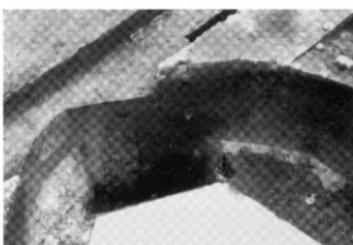
写真図版 9 炉跡とその周辺 (3)



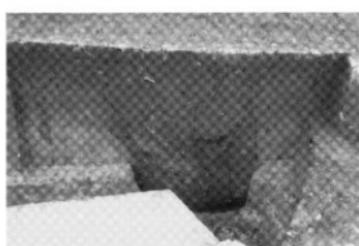
炉跡3・4周辺の出土状況（南東→）



炉跡4



柱穴断面（p221）



柱穴断面（p222）

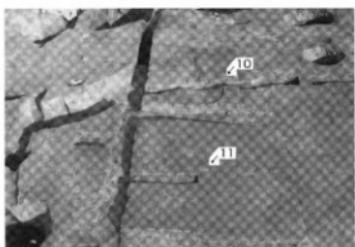


柱穴p222の炭化柱材

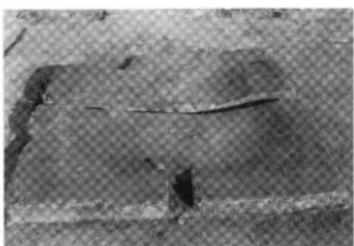
写真図版10 炉跡とその周辺（4）



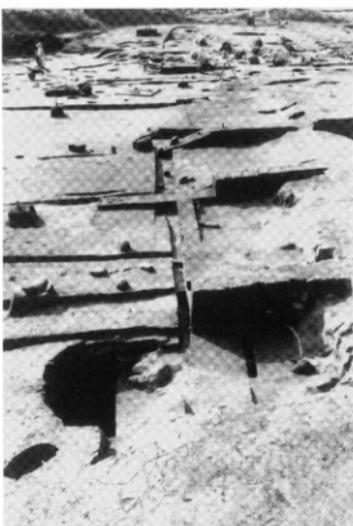
炉跡10・11・12周辺（南→）



炉跡10・11



炉跡12



炉跡10・11・12付近 精査段階（北→）

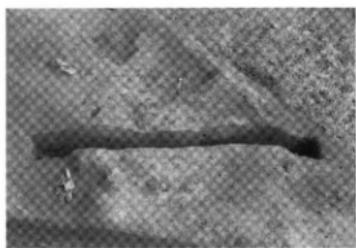
写真図版11 炉跡とその周辺（5）



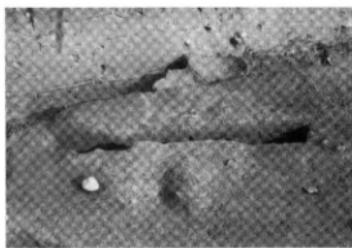
炉跡10・11・12周辺の堆積状況（北→）



同 上 (東→)



炉跡 7



炉跡 8

写真図版12 炉跡とその周辺 (6)



炉跡7・8周辺 (II D18t~19t) 堆積状況 (北→)



炉跡7・8周辺 (II D18t~19t) 堆積状況 (北東→)

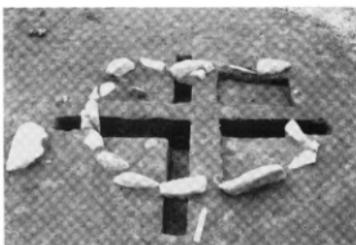
写真図版13 炉跡とその周辺 (7)



炉跡13・14・15・16周辺（南→）



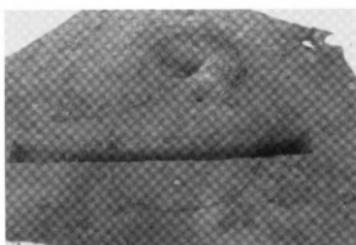
炉跡13



炉跡15



炉跡16

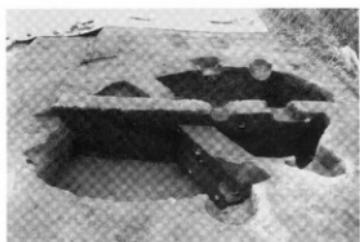


炉跡14

写真図版14 炉跡とその周辺（8）



土坑1（南東→）



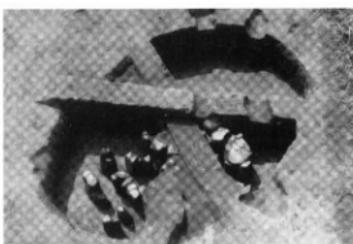
土坑1 断面（北→）



同左（東→）

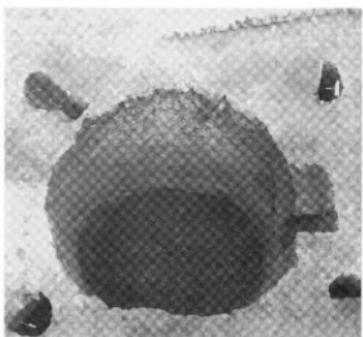


土坑1 出土状况（上部）

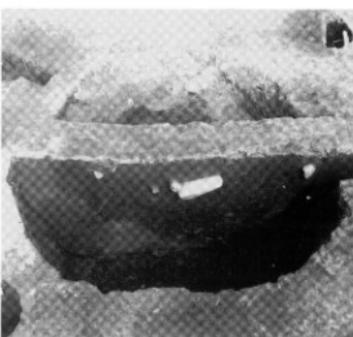


同左（中部）

写真図版15 A区土坑（1）



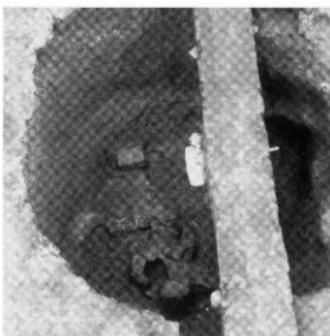
土坑 2



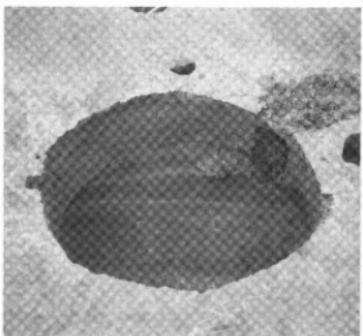
土坑 2 断面 (南西→)



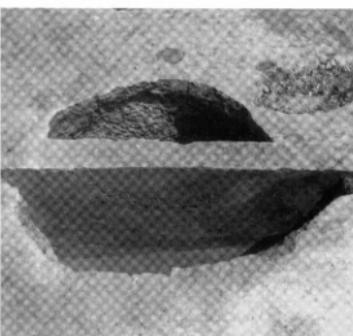
土坑 2 出土状况



土坑 2 底面出土状况

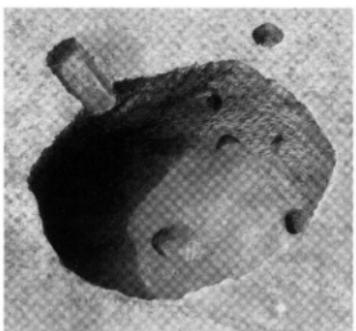


土坑 3



土坑 3 断面

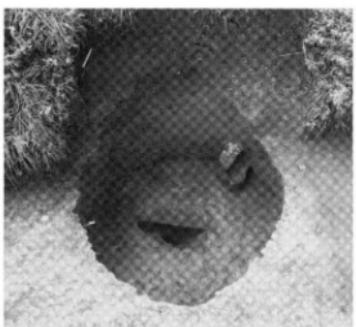
写真図版16 A区土坑 (2)



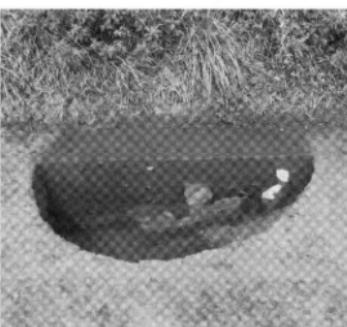
土坑 5



土坑 5 断面



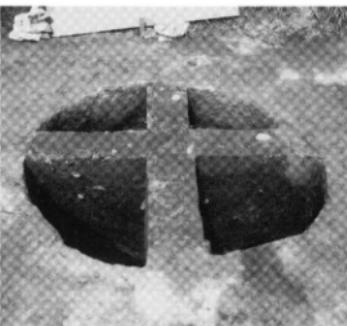
土坑 6



土坑 6 断面

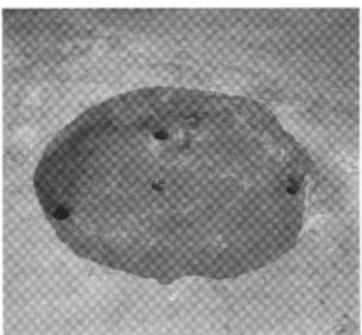


土坑 7

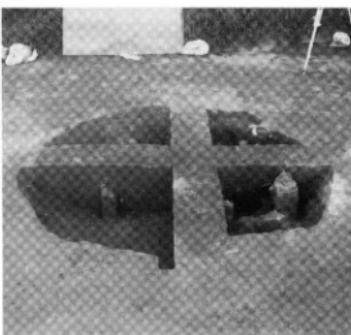


土坑 7 断面 (東→)

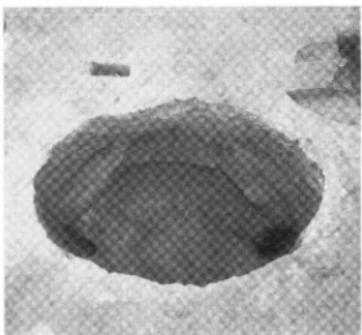
写真図版17 A区土坑 (3)



土坑 8



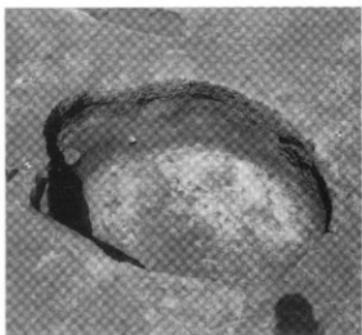
土坑 8 断面



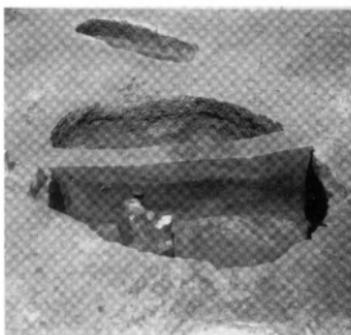
土坑 9



土坑 9 断面

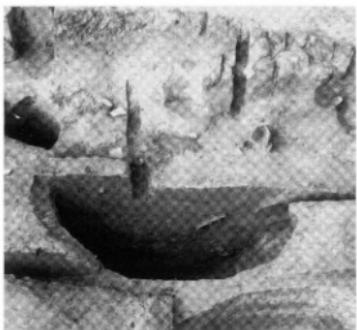


土坑 10



土坑 10 断面

写真図版18 A区土坑 (4)



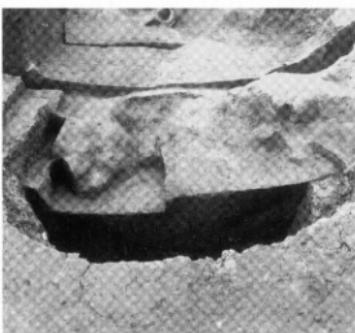
土坑11



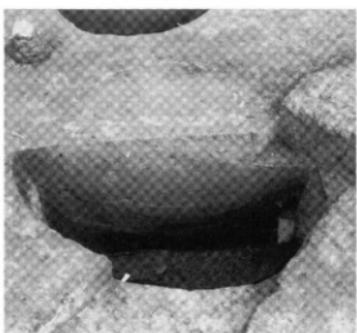
土坑12



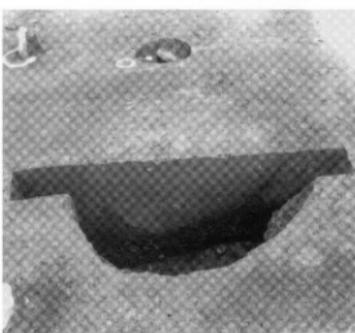
土坑13



土坑13 埋土中燒土

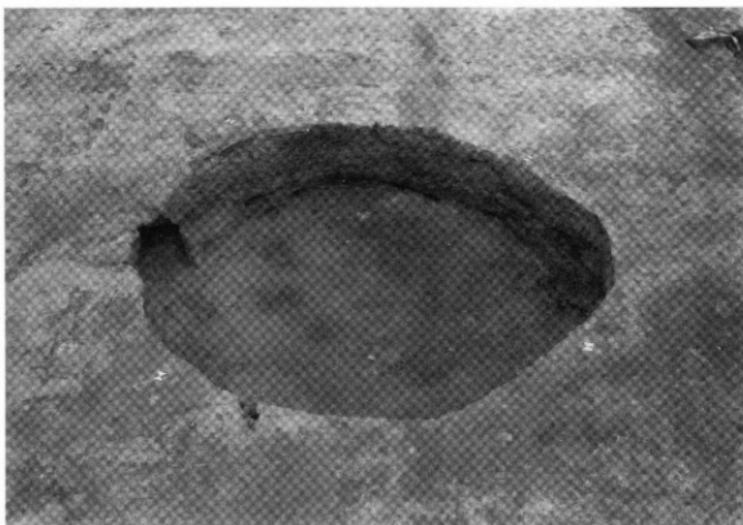


土坑14 斷面

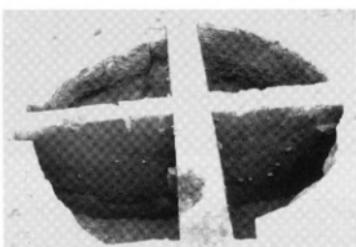


土坑15 斷面

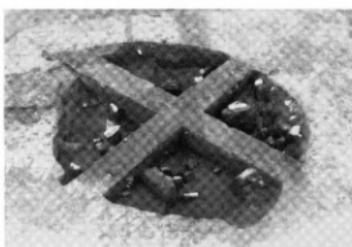
写真図版19 A区土坑 (5)



土坑16



土坑16 断面（南→）



土坑16 出土状况（南→）

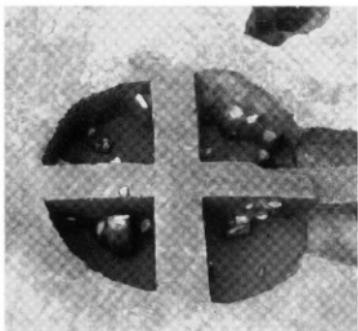


土坑16 出土状况近影



土坑16 剥片集中出土状况

写真図版20 A区土坑 (6)



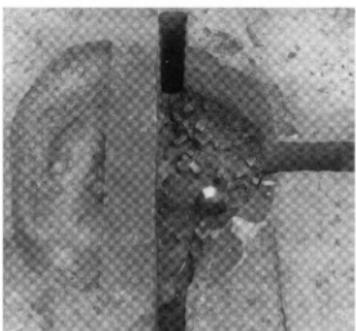
土坑17 出土状況



土坑18 断面



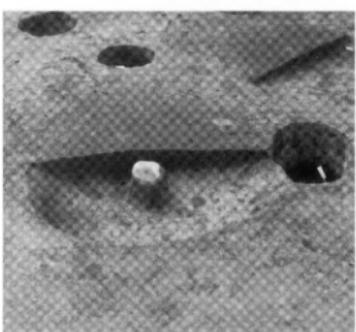
土坑19 断面（南→）



土坑19 出土状況（西→）



土坑20

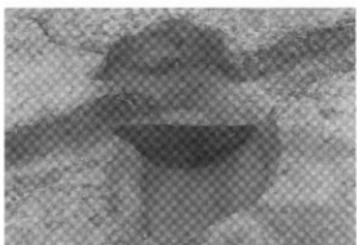


土坑21

写真図版21 A区土坑 (7)



A区北部（墓1付近）陥穴状遺構検出状況



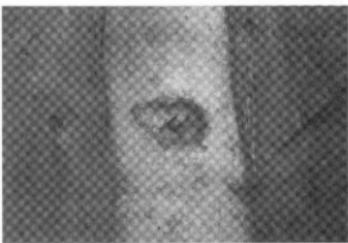
陥穴1



陥穴2

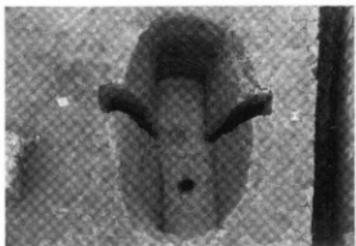


陥穴4

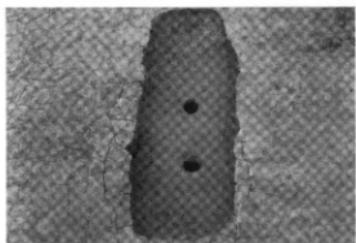


陥穴4 底面小穴内の表

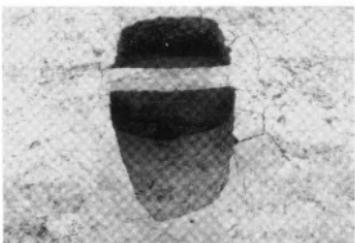
写真図版22 A区陥し穴状遺構（1）



陷穴 5



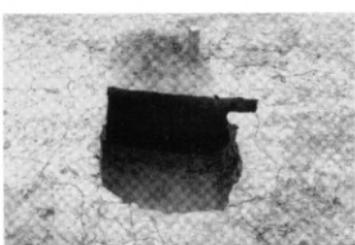
陷穴 7



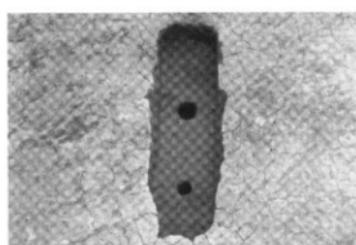
同左 断面



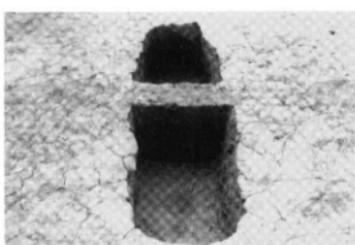
陷穴 8



同左 断面

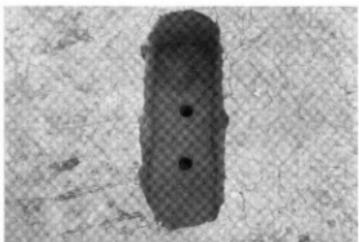


陷穴 9

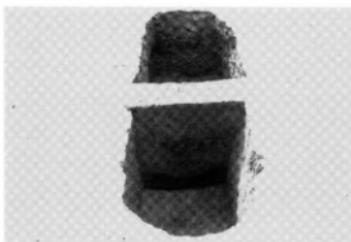


同左 断面

写真図版23 A区陥し穴状遺構 (2)



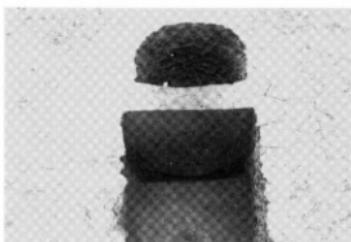
陥穴10



同左 断面



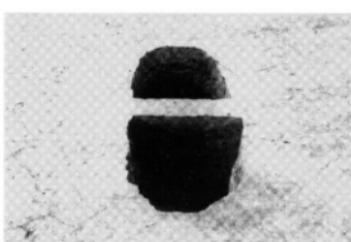
陥穴11



同左 断面



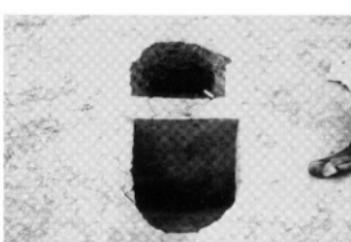
陥穴12



同左 断面

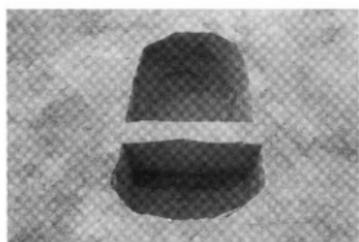


陥穴13



同左 断面

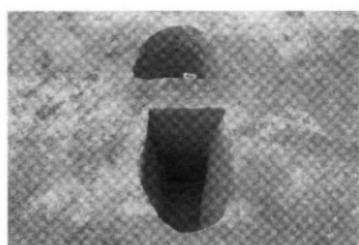
写真図版24 A区陥し穴状造構 (3)



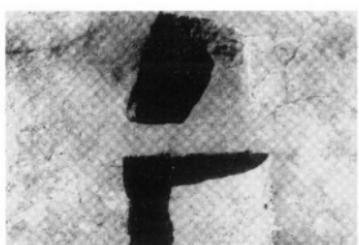
陥穴14



陥穴16



陥穴17



陥穴20



陥穴24



陥穴25



陥穴26

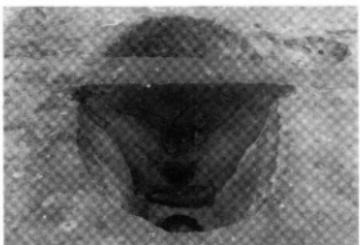


陥穴27

写真図版25 A区陥し穴状遺構 (4)



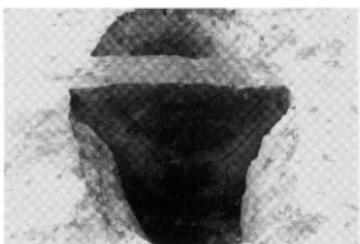
陷穴28



陷穴29



陷穴30



陷穴31

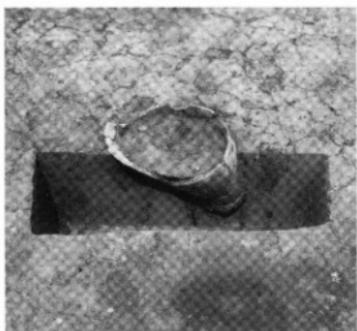


陷穴34

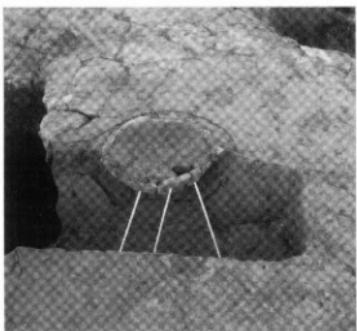


陷穴35

写真図版26 A区陥し穴状造構 (5)



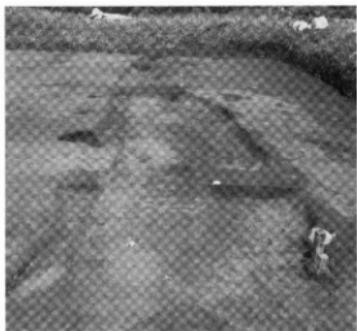
土器埋設遺構 1



土器埋設遺構 2



土器埋設遺構 3



溝跡 1・2 断面



溝跡 1・2 断面

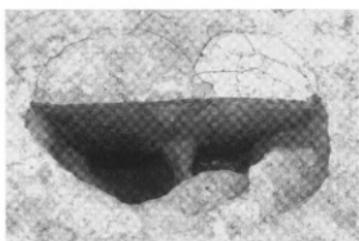


溝跡 1・2 断面

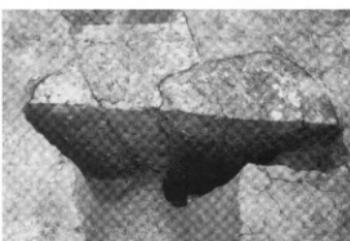
写真図版27 A区土器埋設遺構・溝跡



建物跡 4



断面 (a-a')



断面 (c-c')

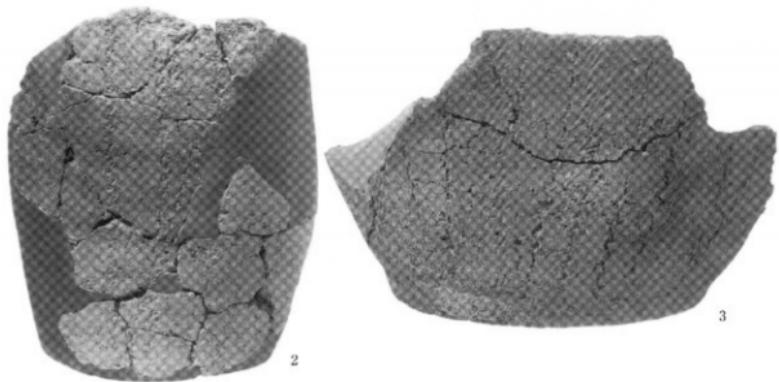


断面 (d-d')



断面 (e-e')

写真図版28 A区中～近世建物跡



写真図版29 A区住居跡1出土土器 (1)



5



6



7

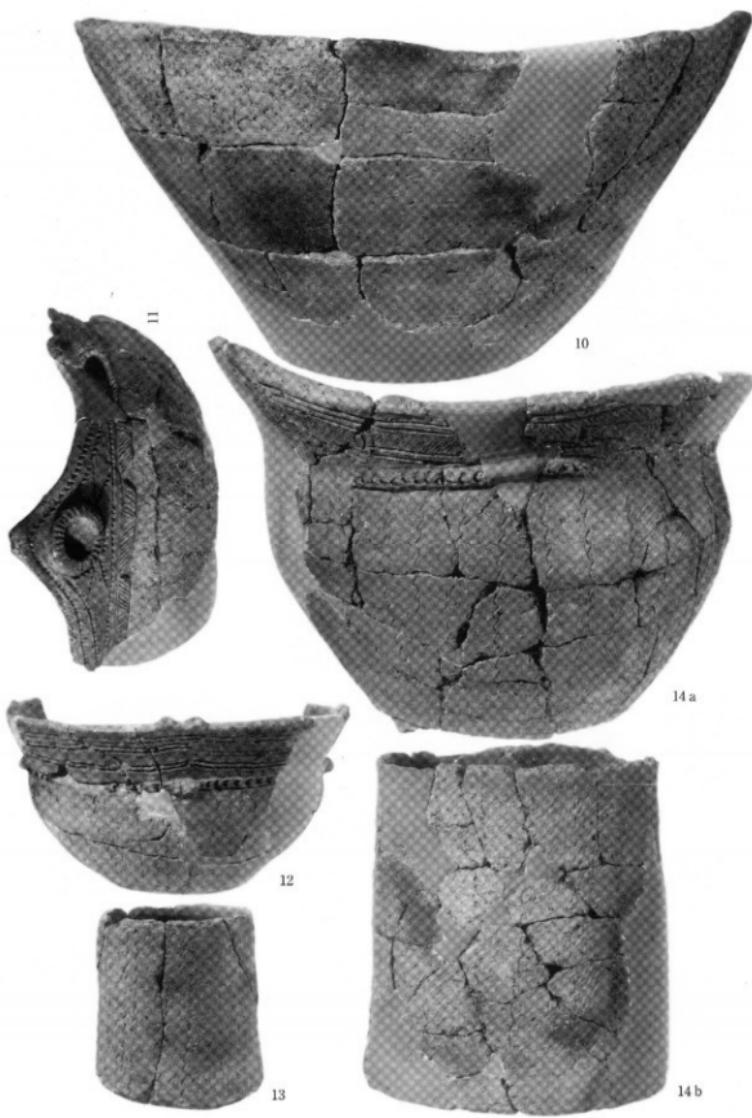


8



9

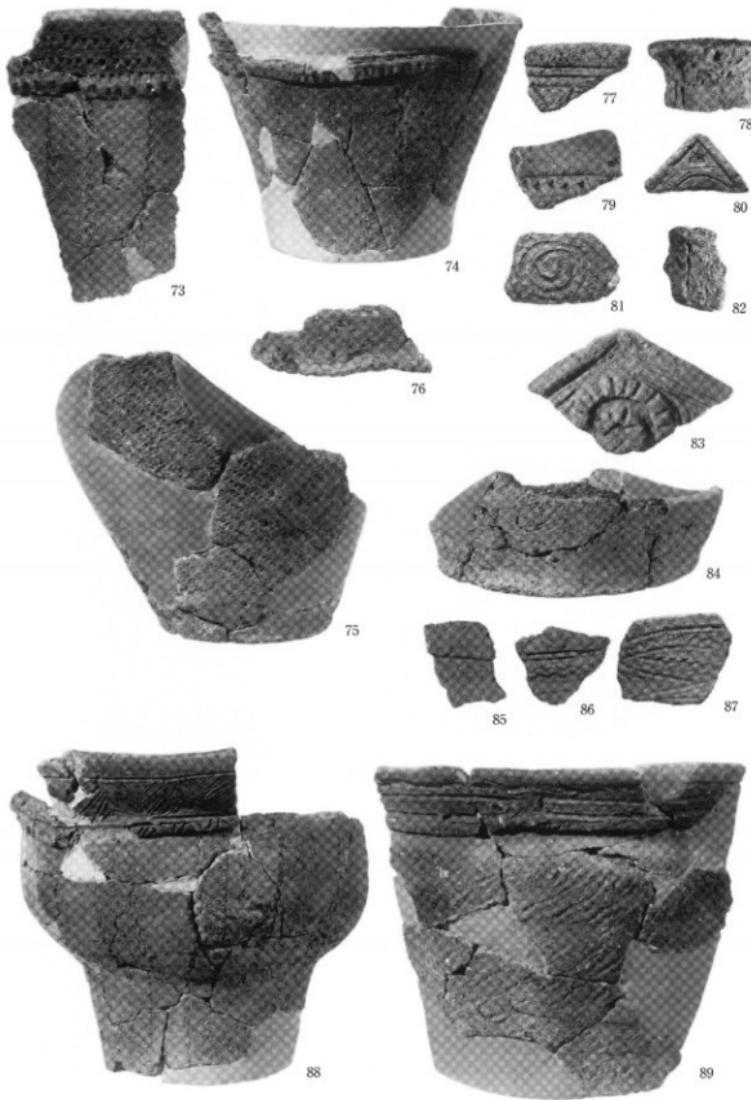
写真図版30 A区住居跡1出土土器 (2)



写真図版31 A区住居跡1出土土器 (3)



写真図版32 A区住居跡1出土土器(4)



写真図版33 A区炉跡周辺出土土器 (1)



90



91



92



93



94



95

写真図版34 A区炉跡周辺出土土器 (2)

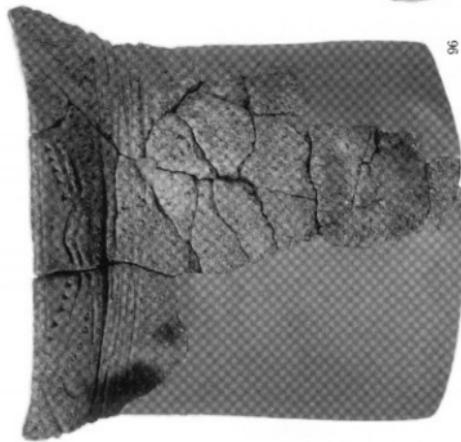
100



97



96



写真図版35 A区炉跡周辺出土土器（3）



103



104



105

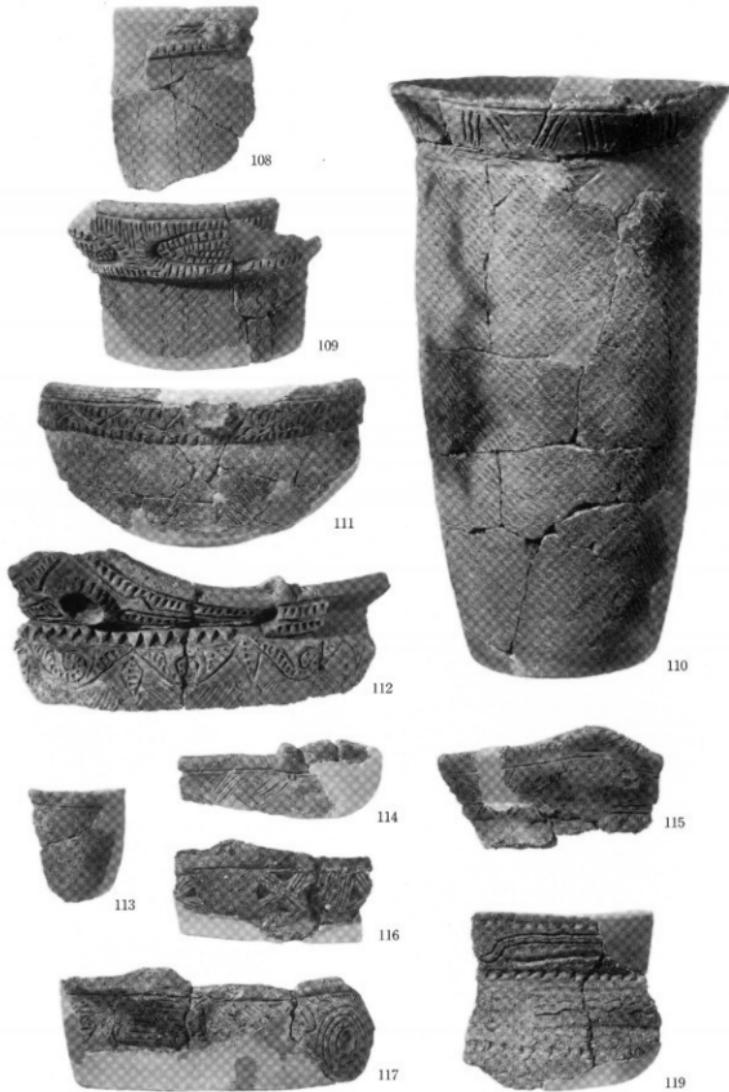


106



107

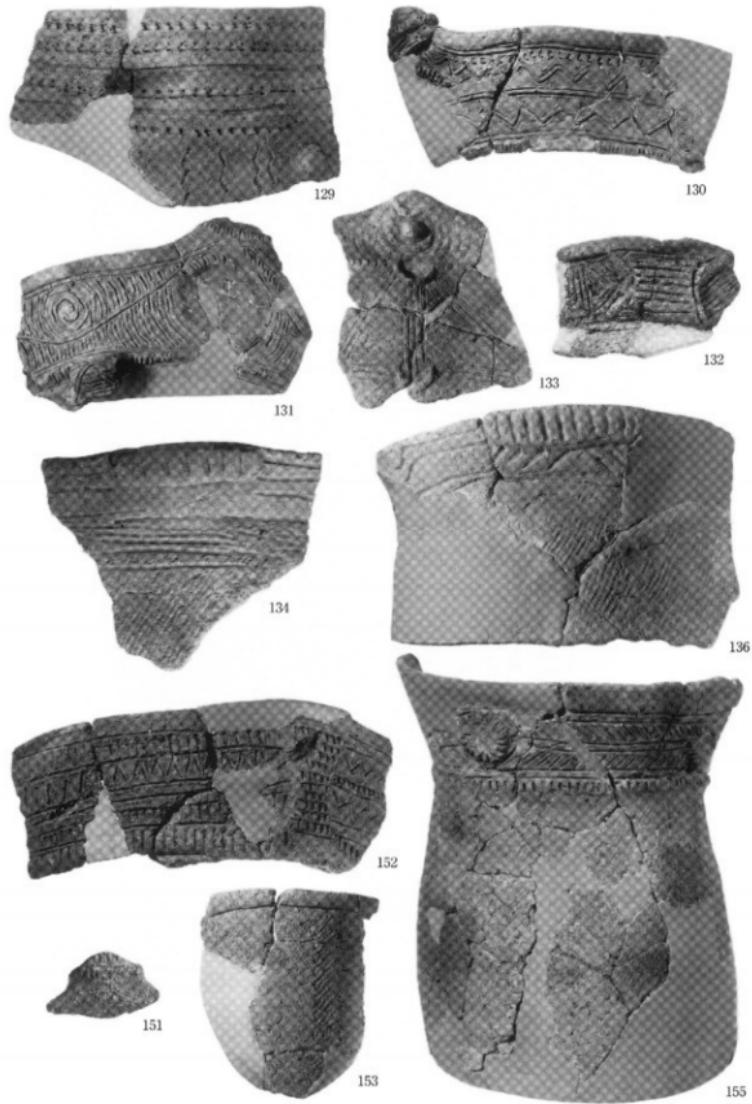
写真図版36 A区炉跡周辺出土土器 (4)



写真図版37 A区炉跡周辺出土土器 (5)



写真図版38 A区土坑出土土器（1）



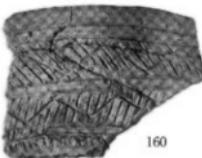
写真図版39 A区土坑出土土器 (2)



156



159



160



164



163

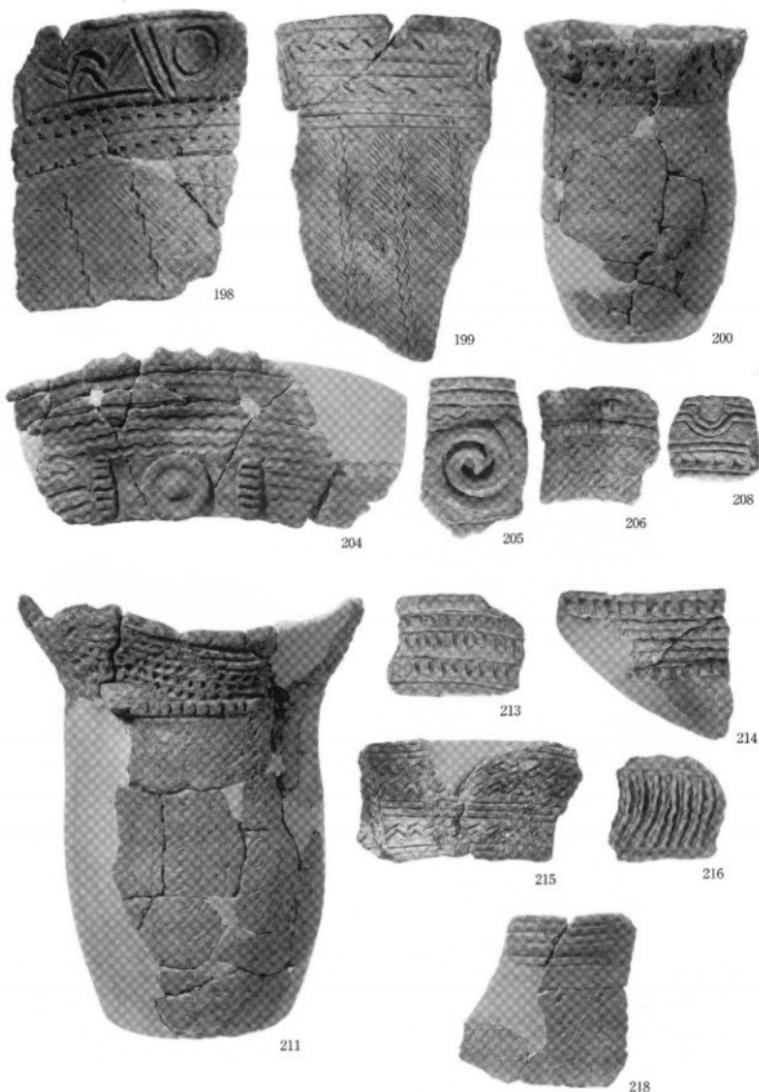


166

写真図版40 A区土坑出土土器 (3)



写真図版41 A区土坑出土土器 (4)



写真図版42 A区土坑出土土器 (5)



220



223



224



225



230

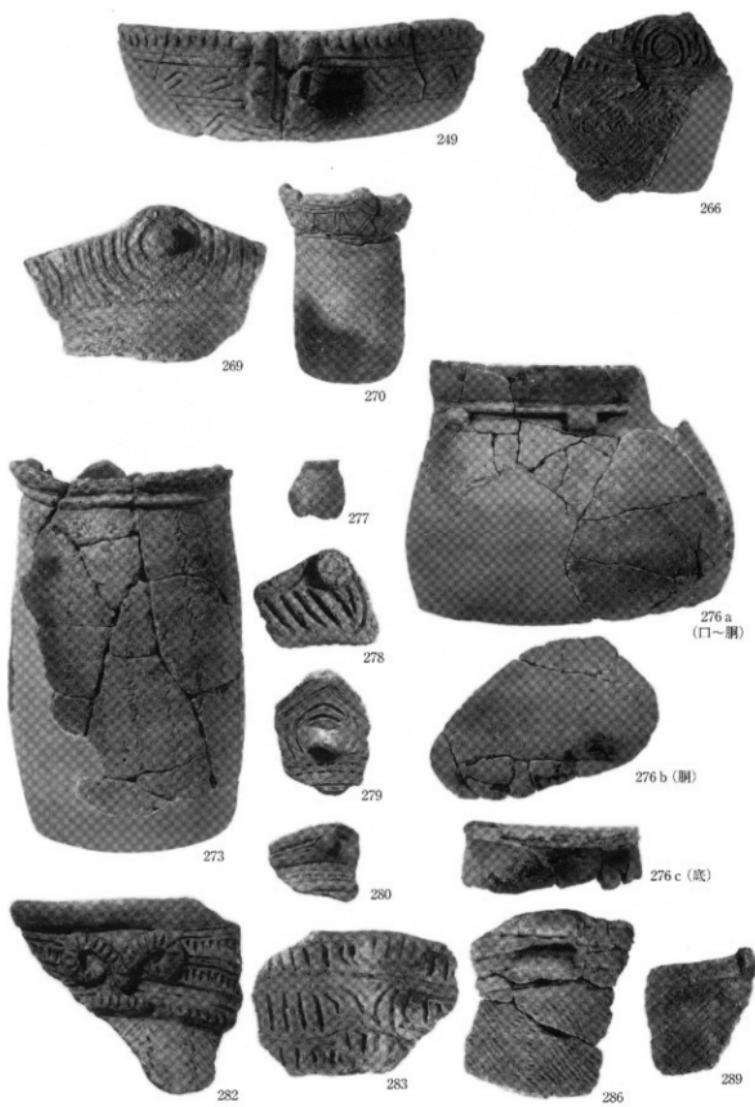


234

写真図版43 A区土坑出土土器 (6)



写真図版44 A区土坑出土土器 (7)



写真図版45 A区土坑出土土器 (8)



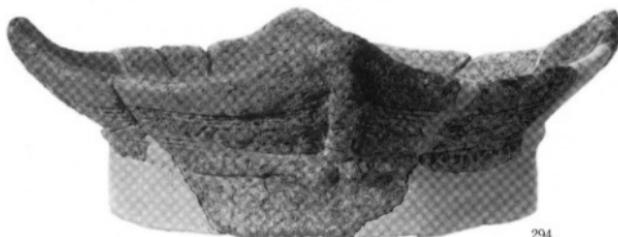
290



291



292



294

写真図版46 A区土坑出土土器 (9)



293



295



297

写真図版47 A区土坑出土土器 (10)



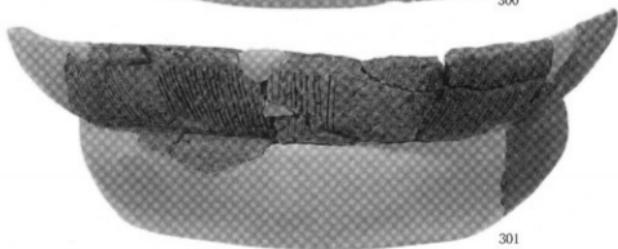
298



299



300



301

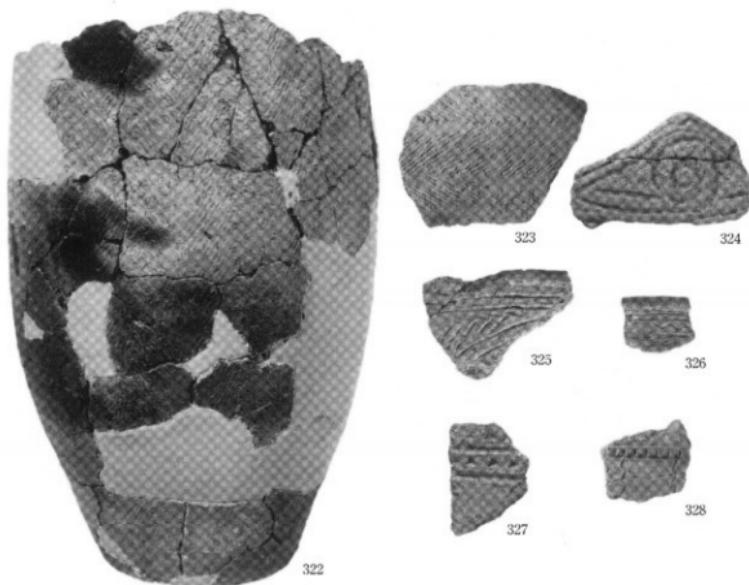


303

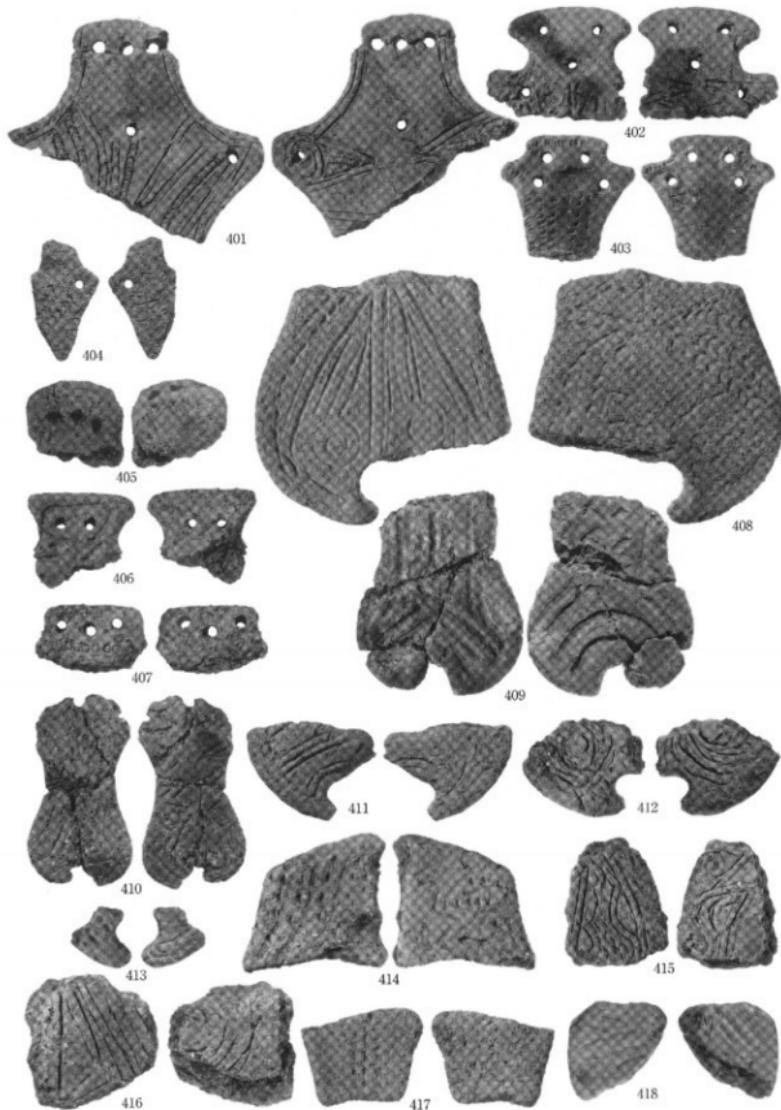


304

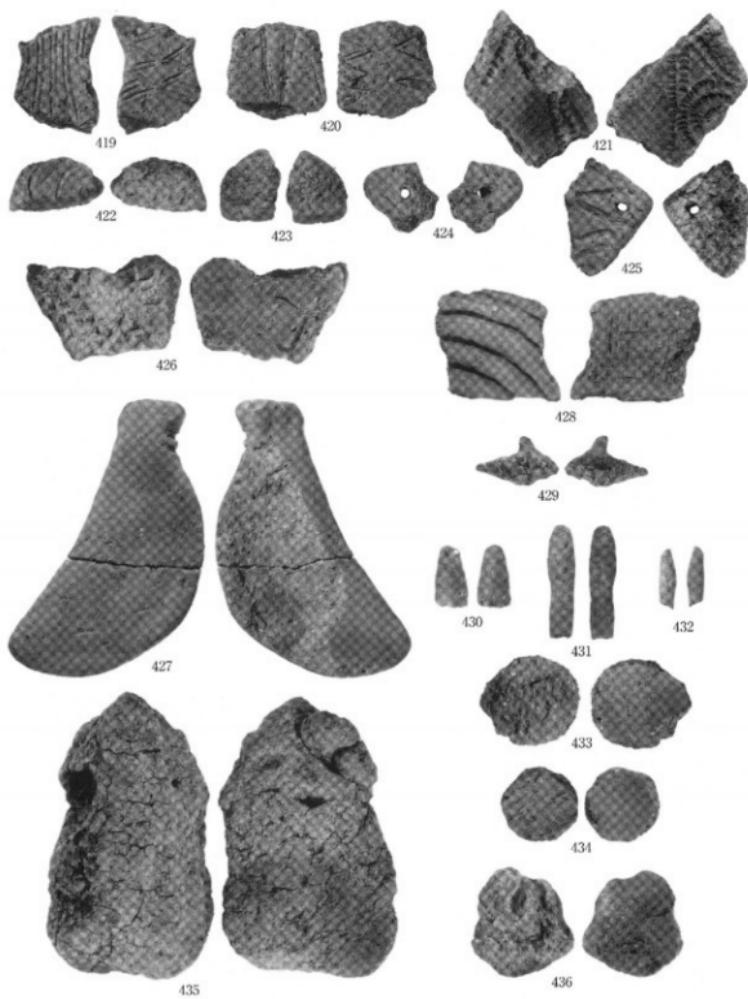
写真図版48 A区土坑出土土器 (11)



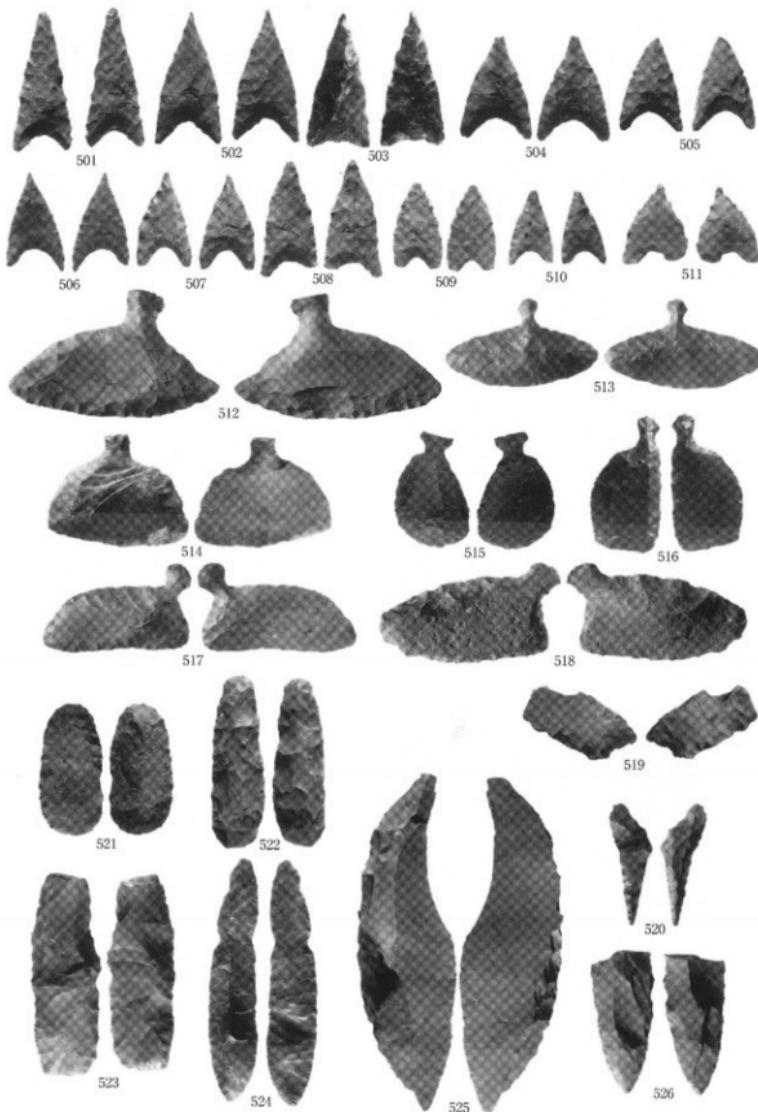
写真図版49 A区陥し穴状遺構出土土器



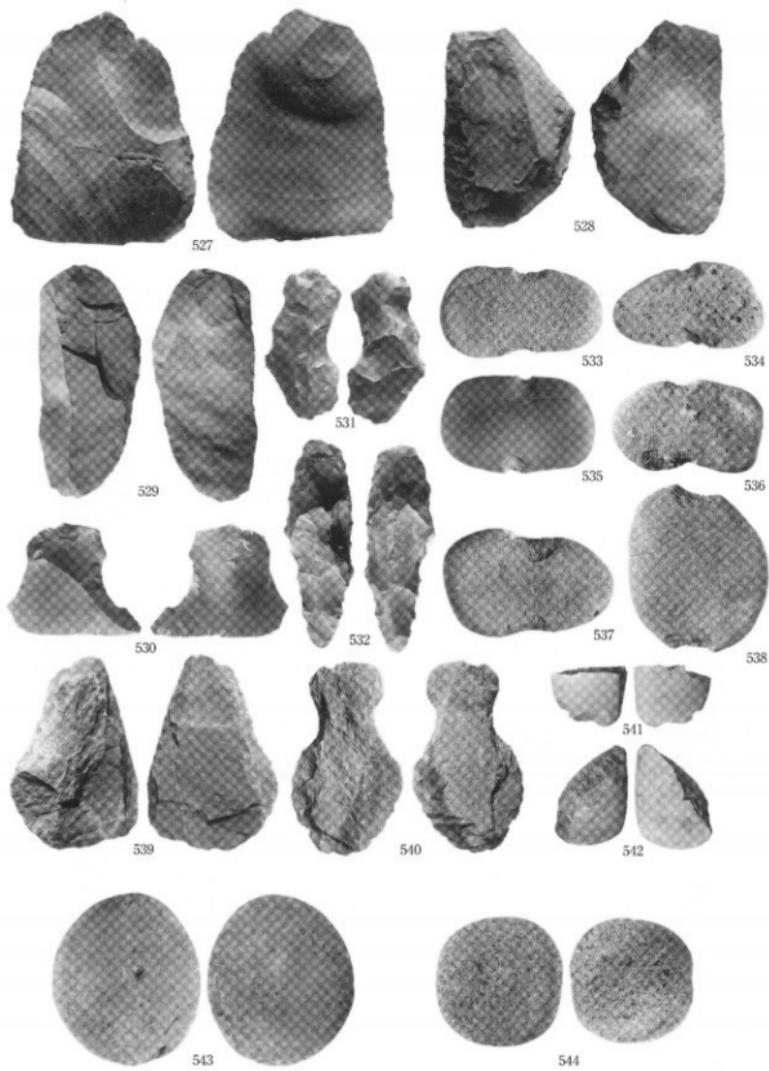
写真図版50 A区土製品（1）



写真図版51 A区土製品（2）



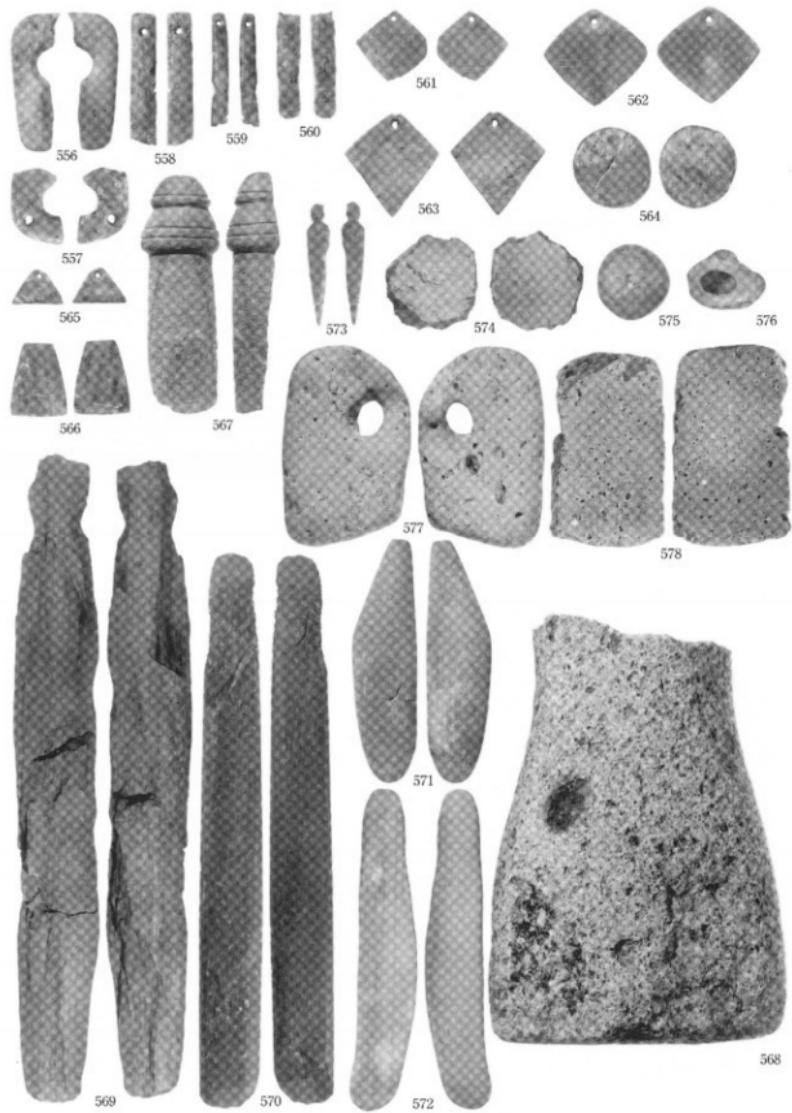
写真図版52 A区石器 (1)



写真図版53 A区石器 (2)



写真図版54 A区石器 (3)



写真図版55 A区石製品



B区 全景(北→)



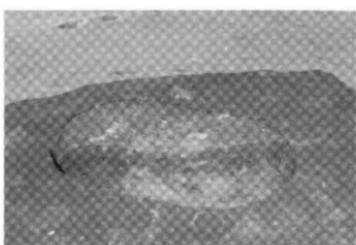
B区 南部(東→)
写真図版56 B区(1)



B区 建物跡 1 (西→)



炉跡状造構模出状況



同左 断面



溝跡 1



旧河道 (南→)

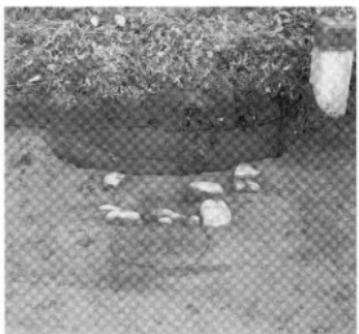
写真図版57 B区 (2)



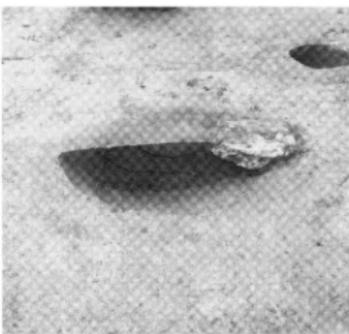
C区 全景(北→)



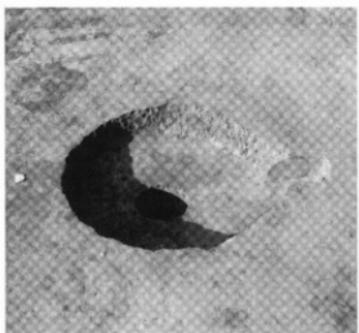
住居跡 1
写真図版58 C区(1)



住居窯



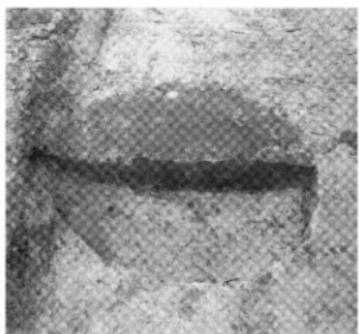
土坑 2



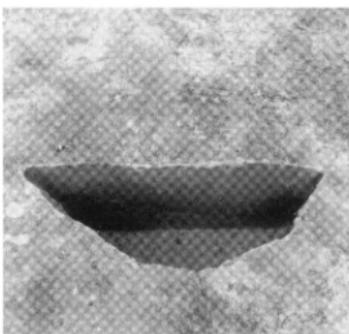
土坑 1



同左 断面

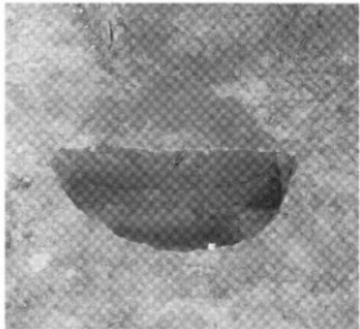


土坑 7 断面

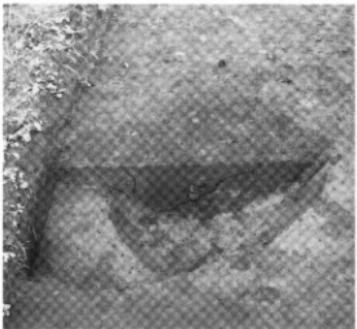


土坑 5 断面

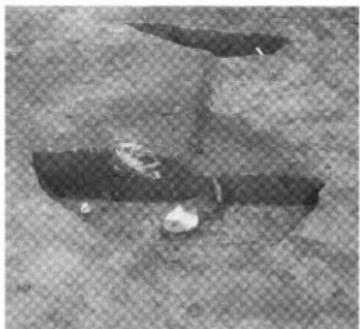
写真図版59 C区(2)



土坑 4 断面



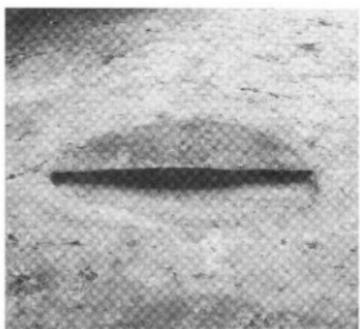
土坑 3 断面



土坑 5 断面



土坑 8 断面



中世墓坑



中世墓坑 副葬赤裸群

写真図版60 C区 (3)



縄文時代土坑群

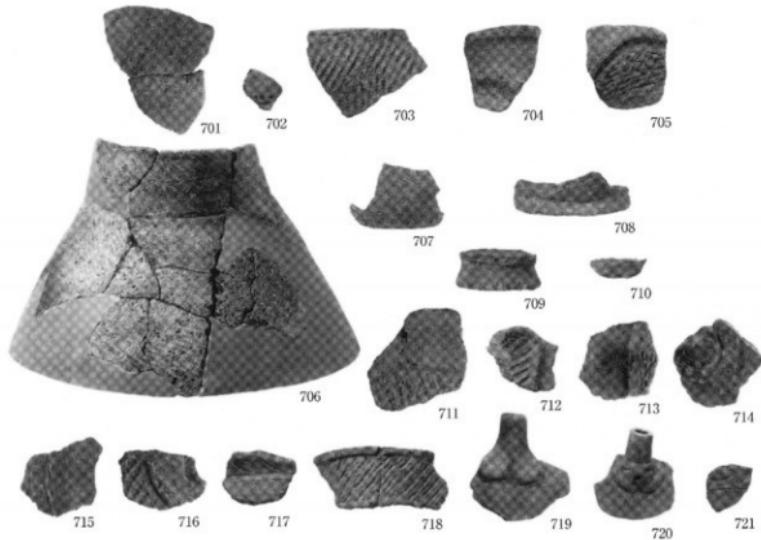


周溝状遺構と中世墓坑周辺

写真図版61 C区(4)



B区出土土器



C区出土土器

報告書抄録

ふりがな	たかばたけいせきはくつちょうさほうこくしょ						
書名	高畠遺跡発掘調査報告書						
副書名	ほ場整備事業（扱い手育成区画整理型）八重畠開闢調査						
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第439集						
編著者名	村上 拓						
編集機関	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター						
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185 TEL 019-638-9001						
発行年月日	西暦2004年3月8日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東経 °' "	調査期間 ~	調査面積 m ²	調査原因
高畠遺跡	岩手県柳貫郡 石鳥谷町字九 大堂第16地割 123番地ほか	ME17- 0178	39° 25' 26"	141° 10' 58"	2002.4.16 ~11.22	4,800m ²	ほ場整備事業 八重畠に伴う 緊急発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
高畠遺跡	集落跡	A区 繩文時代 中・近世 時期不明	住居跡1棟 炉跡16基 土坑21基 土器埋設遺構3基 陥し穴状遺構35基 掘立柱建物跡18棟 溝跡2条	縄文時代土器 上製品 石器 石製品	縄文時代前期末葉 から中期初頭の集 落跡である。		
		B区 時期不明	掘立柱建物跡1棟 溝跡1条	縄文時代後・晚期 上器			
	集落跡	C区 繩文時代 中世	竪穴住居跡1棟 土坑8基 墓坑1基 周溝状遺構1基	縄文時代中期末~ 晚期土器 永楽通寶・宣德通 寶	縄文時代中期末葉 の集落跡である。		

平成15年度(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

所長 木村 昇

副所長 半野 充苗

(管理課)

課長 菊沢 正吾
課長補佐 山岸直美
主査 中嶋賢一
主事 猪橋幸子

嘱託 タ
高橋照雄
湯沢邦子
沼田テル子
伊藤滋子

(調査第一課)

課長 佐々木 勝
課長補佐 佐々木 清文
文化財専門員 金子昭彦
文化財調査員 吉田充
タ 亀 大二郎
タ 野中真盛
タ 新妻伸也
タ 阿部勝利
タ 杉沢昭太郎
タ 西澤正晴
タ 村木敬

文化財調査員 北村忠昭
八木勝浩
丸山山田
北島原弘
坂部恵弘
小林大志
藤原大彦
小針太田代
新井田えり子

期限付調査員

(調査第二課)

課長 三浦謙一
課長補佐 中川重紀
タ 高橋義介
文化財専門員 小山内透
タ 金子佐知子
文化財調査員 演田宏
赤石登
阿部眞澄
木上明
阿部憲淳
早坂淳也
小松則也
阿部徳伸
窓岩也
龟澤幸吾
飯坂行重
鎗木裕
林熟明
阿部孝人
羽柴直人

文化財調査員 星雅之
佐藤淳一
星李文
溜浩二郎
本多一郎
丸山美和
福島正寛
米田拓
須中寛
中原和美
村又晋
村田拓
(村上)
期限付調査員 斎藤紀子
石崎臣和
古高里
立花裕
江藤智
駒木野寛

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書第439集

高畠遺跡発掘調査報告書

は場整備事業（担い手育成区画整理型）八重畠関連調査

印刷 平成16年3月7日

発行 平成16年3月8日

発 行 御岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 盛岡市下飯岡11地割185

T E L (019) 638-9001

F A X (019) 638-8563

印 刷 (有)ジロー印刷企画

〒020-0066 盛岡市上田二丁目17番4号

T E L (019) 651-6644

F A X (019) 652-2610

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 第439集

たか ばたけ

高畠遺跡発掘調査報告書

ほ場整備事業(担い手育成区画整理型)八重畠関連調査

折込図版（1枚）

